カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　牧山美好
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

1月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

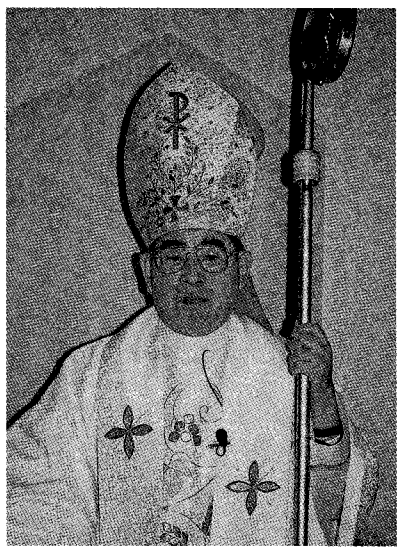
【一般の意向】　中東の平和
【布教の意向】　宣教地の聖なる寛大な使徒
【日本の教会の意向】　世界の平和を祈る

福岡教区２００５年テーマ

ご聖体の「いのち」を生きる

教区長
新年メッセージ

新年明けましておめでとうございます。新しく始まったこの一年がお恵み豊かな年であるように心からお祈りいたします。



一、まずこの、新しい年がお恵みの年であるようにと、心を込めてお祈りいたします。

そしてこのお恵みの時を築くために、私たちも価値のある貢献ができるようにお祈りいたします。神のみ心に従うこの世を築く力となるよう熱心に願うものであります。

新しい時が与えられたことを喜ぶとともに、それがより美しく、より豊かなお恵みの時ともなるよう私たちも働きたいものであります。私たちも与えられた時を良い機会として、それを真に生きるよう努めたいものであります。

二、今年はパパ様のご制定により「聖体の年」と定められています。パパ様はご聖体をキリストが教会に残された最大の宝物と教え、ご聖体を大切にするように特に勧められました。私たちもパパ様のお心に答えて単純な信仰を持ってご聖体を大切にするよう心掛けて参りましょう。

パパ様は今年で二十五年間余りの長い期間、パパ様の務めにあたられました。これは二千年に及ぶ教会の歴史の中でも、例外的とも言えるほどの長期間です。そしてこの、長期間のお務めの後に、特に信者の私たちにお話になりたいと思われたのは、このことを私たちは特に心に掛けねばならないと思います。

ご聖体の神秘は、いけにえ、現存、会食による交わり、と教えられています。私たちは、キリストが十字架の犠牲によって人類を救われたことを思い起こし、そのキリストがパンとぶどう酒で示されるご聖体の中に現存しておられることを礼拝し、ご聖体をともに受けることで親しい交わりを実現するようにしなければなりません。どれだけご聖体に近づく習慣を身につけるかということこそ、ご聖体の年をいかに祝うかの基準といえましょう。

三、新しい年を迎え、お恵みの時をいただいたことを思うとき、この新しい時をマリア様のみ手に委ね、お任せすることを忘れないようにいたしましょう。

未来は未定です。何が起こるか、何が私たちを待っているかを私たちは確かに知ることはできません。私たちの母であるマリア様に全てをお任せし、護っていただくことが一番良いことです。

与えられた時を十分活用して、教会のために、人類のために、また自分の家族のためによく働かなければなりません。神のみ心が行われる世界を打ち立てるために、世界平和のために良き働き手となるように心掛けましょう。

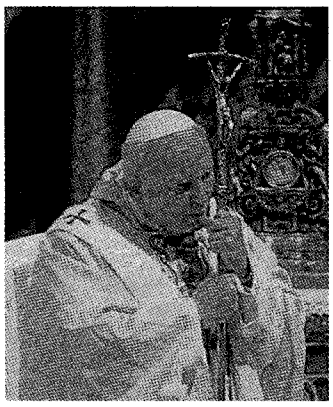
また、私たちの人生が良いものであるためには、この一年が良いものでなければなりません。私たちがキリスト信者として良き一生を築くためにも私たちに与えられたこの時を忠実に用いるよう心掛けるべきです。そのためにはマリア様のお護りを節にお願いする必要があります。

新しい時は始まりました。お恵みの時、お恵みの実りの時とするよう、心を込めてお祈りし、努力するようにいたしましょう。

２００５年元旦
福岡教区の皆様へ

福岡教区長　松永久次郎

1月1日
神の母聖マリアの祝日



悪に負けることなく
善をもって悪に勝ちなさい
（ローマの信徒への手紙12章21節）

世界平和の日教皇メッセージ

時の話題

旅井　瑞代

新しい年を迎えて

新しい年を迎えると私にはいつも思い出す言葉がある。「過ぎ去ったものには…ありがとう。来たろうとするものには…よし！」ダグ・ハマーショルドの心の日記、「道しるべ」にあった言葉である。

昔、その魂に憧れを持って読んだ本、その頃の思いは遠い記憶の彼方だが、せめて年の初めにはこの言葉を素直に味わってみたいと思う。

年をとるにつれ、健康、仕事、社会環境と不安材料が多くなり、それなりの試練が与えられる。それでも、この言葉を子どものように素直に言えるようでありたい。

日々「キリスト、信頼します。」と祈りながらも、不安や焦燥感からなかなか逃れられない私だが、年頭には、新たにされる喜びと希望を持って、感謝と運命を受け入れる覚悟を持ちたい。

昨年11月23日に、思いもよらず聖体奉仕者および集会祭儀司式者任命を受けた。3年間の任期。任命されたといっても実際にはわたしにどのような奉仕が出来るのか見当もつかないのだが、これから新たにされていくような予感、もっと祈りなさい、もっと学びなさいと促されるような、身の引き締まる思いがある。素直に受け、喜び、感謝したいと思っている。

「熊本カトリックいのちを大切にする会」で、小さな命を守る運動をしている。すればするほど、驚かされることも多く、課題山積だが、仲間がいる喜び、人の温かさに触れる喜びもあり、前向きに取り組んで生きたいと思っている。

２００５年が和解と平和の年になりますように！
小さないのちに優しい社会になりますように！

武蔵ヶ丘教会信徒

キリスト教一致祈祷週間
（1月18日～25日）

テーマ
教会の
土台であるキリスト
（Ⅰコリント３：１～23）

キリスト教一致祈祷会

日時：1月23日(日)
19：00～20：00
場所：大名町カトリック教会
主催：福岡キリスト教一致祈祷会実行委員会
＊自由に参加できます。キリスト者の一致を願って祈りましょう

カテドラルでの
キリスト教一致祈祷会
に参加しましょう

開設10周年を祝う

美野島司牧センター

12月12日（日）美野島司牧センター（代表：コース・マルセル神父）ではセンター開設10周年を記念し、教区長松永久次郎司教公式訪問ミサと初聖体・堅信式が行われた。

美野島司牧センターは１９９５年に外国人の支援を目的として開設され、現在、路上生活者、薬物依存者の支援（ダルク）にも力を注いでいる。ミサの中で１人に初聖体、13人に堅信の秘跡が授けられた。ミサはラテンアメリカの方々のためにスペイン語の朗読や聖歌、解説も加えられて、国際的な雰囲気に包まれ、聖堂いっぱいに大きな喜びがあふれた。

松永司教は説教の中で「美野島司牧センターにはたくさんの外国から来ている方々がいます。皆さんは仕事のために日本に来られていますが、皆さんは同時にカトリック信者の少ない日本の宣教のために遣わされています。皆さんがキリスト者として、日本のキリストを知らない人々のためによき模範となって、キリストを証ししてください」と励ました。

ミサ後、ホールで開かれた祝賀会では、滞日外国人、路上生活者、ダルクのメンバー、センターのスタッフ、そして司牧センターの活動を支えるボランティアなど、大勢が集まり、それぞれが手作りした料理が供され、各グループの活動報告と出し物が次々と行われた。会場はたくさんの人々の笑顔に包まれ、終始なごやかな雰囲気にみちていた。

みちくさ

そういえば、あの時…。過去において語られた言葉が思い返されることがある。以前はこうした思いに浸ることは少なかった。心に届いた言葉が、時折、その存在を知らせようとして際だつ瞬間なのか▼グローバル化が一層進展した時代。知らぬ間に、自分もそのうねりに巻き込まれている。一人ひとりは世界という舞台に立つ主人公であるはず。だが社会の現況はそのことを見えにくくしている。人は意志を持つ主体としての自分に気付くことなく、何処かに得体の知れない時代の主人公的な存在を思い描いて、ゆらゆらと恋い慕ってゆく▼言葉はコミュニケーションの手段である。グローバル社会においては、言葉を共有すること、すなわち共通の言葉を持っていることの利便性が指摘される。しかし、共有することばという時、それとはまた違った意味合いがある。言葉が思い返される時、それを語ってくれた存在が浮かんでくる。厚みをおびた、ぬくもりを持った、存在をあらわす言葉。それは語られた時、存在を込められた言葉であるにちがいない▼神が人となって、わたしたちの間に宿られた時、語りかけてくれたことばがあった。神は言のうちに命があることを教えてくれた。わたしたちも生きた言葉、相手を生かす言葉を語る者になりたい。

（F）

世界平和の日教皇メッセージ（要約）

教皇ヨハネ・パウロ二世は世界平和の日に宛てて「悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい」と題するメッセージを発表した。以下はその要約である。

今年のテーマは、使徒パウロのローマの信徒への手紙からとられています。教皇ヨハネ・パウロ二世は、世界に平和を打ち立てる必要を認めている国家の指導者たち、そしてすべての善意ある人々に語りかけます。「悪は悪によっては決して打ち負かされない。」と。

使徒パウロは、平和とは、悪が善によって打ち負かされる時にのみ勝利をおさめる、長く厳しい闘いを経て行き着くものであるととらえています。暴力的紛争の悲劇、またそれらが引き起こす言い知れぬ苦しみや権利の侵害について十分に思いめぐらすなら、聖パウロがすすめる「悪から離れ、善を堅く保つ」という、ただ一つの真に建設的な選択があることに気付くのです。平和は善をもって促進される善です。悪によって悪に報いる循環から離れるための一つの道は、聖パウロの「悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい」（ローマ12・21）、この言葉を受け入れることであると教皇は述べます。

次に教皇は、悪は人間の自由の結果であると述べ、さらに悪は愛の要求を拒絶することであると指摘します。

キリスト者の愛の内的論理は、福音の中に倫理的善の源泉として見いだされ、「あなたの敵が飢えていたら食べさせ、渇いていたら飲ませよ」（ローマ12・20）という、敵に対する愛にさえ導くものです。

しかし世界の現状を見れば、無政府や戦争による社会的混乱、また殺人と力の不正といった悪の広がりによって妨げられていることに気付かされます。そこで教皇は、善と悪の相容れない主張の舵を取ります。

キリスト者は、キリストご自身の死と復活によって、悪は勝つことができないという確実性に基づいて、キリスト者に正義と平和を促進する努力を続ける無敵の希望を育てます。キリスト者は善の勝利に協力することができます。善のたたかいは、愛の武器でのみ有効に戦うことができます。愛が広がるところで、平和は広がります。

結びに教皇は「聖体の秘跡、愛の最高の秘跡のうちに、すべての交わりの泉を見いだすことができる」と述べています。私たちはキリストが授けてくださった新しいいのちを通して、言語、国籍および文化の違いにもかかわらず、互いを兄弟、姉妹と認めることができるのです。一つのパン、一つの杯を共有することによって、私たちは自分たちが「神の家族」であり、正義と自由そして平和という価値に基づいた世界の構築に有効な貢献をすることができることを悟るのです。

文責…編集部

教会について考える（9）

パウロは一コリント書の中で、教会を「キリストのからだ」と表現しました。

彼は、私たちの体全体とそれぞれの部分が、分かつことなく有機的に結びつき、あらゆることを共有している点に着目しました。からだには、全体のための様々な働きがあり、それぞれがみな一致して働く時、はじめてひとつのいのちが機能します。部分は体全体のために、それぞれ固有の働きを要求されるわけです。

さらに「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶのです。」（12：26）とも言われ、個々の部分が、互いに苦しみも喜びも共有すると指摘します。

私たちはご聖体を受けるとき、「キリストのからだ」という司祭のことばに対して「アーメン」と答えて拝領しますが、この「キリストのからだ」は、「聖体」と、拝領することによって私たちが築くべき「教会共同体」の両方を意味します。つまり、キリストご自身に対する信仰宣言としての「はい」と、主を頂くことによって主の精神に生き、その集いの建設のために働きますという「はい」の二つを意味します。であれば、聖体を頂いても隣人、ことに苦しみや悲しみの中にある方々、孤独のうちにいる人のことを省みないとすれば、それは本当の意味で聖体を頂いたことにならないわけです。

聖体拝領のための行列に連なるとき、今日、あるいはこの1週間、自分が関わるべき人々、特に援助が必要な方を心に思い浮かべながら行列に加わるようにいたしましょう。

キリストが、最後の晩餐において聖体の秘跡を制定されたとき、それは、「渡される夜＝裏切られる夜」（1コリント11：23）でした。つまり、それは、大切な弟子たちから裏切られ、人々から誤解され、あるいは、侮辱され、傷つけられることの始まりだったわけです。であれば、私たちが聖体を受けるに最もふさわしい時、それはイエスと同じような状況にある時、と言えるでしょう。

聖体＝「キリストの体」というとき、それはキリストが全生涯を通じてご自分を与え続けられたことを表しています。特にイエス様は、病気の人、孤独な人、社会からのけ者にされている人、そのような人のために生涯を捧げつくされたことのしるしです。

私たちもイエスに倣って、教会共同体を築く中心である聖体について今一度、黙想いたしましょう。

森山信三神父（戸畑教会主任）

2005年度 福岡教区行事予定

＊司祭新年の集い
2005年1月11日(火) 浄水通教会11時
2006年1月10日(火)

＊司祭評議会
2005年2月1日(火) 司祭館別館10時30分
9月13日(火)
2006年2月7日(火)
9月12日(火)

＊松永司教霊名の祝い
2005年3月8日(火) 浄水通教会11時
2006年3月7日(火)

＊聖香油ミサ
2005年3月22日(聖火曜日) カテドラル15時

＊教区合同堅信式（聖霊降臨）
2005年5月15日(日) カテドラル14時

＊教区全司祭研修会
2005年6月21日(火)～23日(木)

＊平和を祈る集い
2005年8月7日(日) カテドラル13時

＊教区墓地ミサ
2005年8月15日(日) 和田墓地14時
2005年11月13日(日)

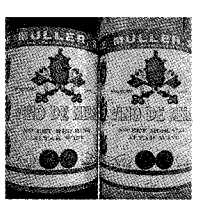
＊邦人司祭黙想会
2005年10月17日(月)～21日(金) 黙想の家

主の降誕と新年のお慶びを申し上げます

教区長　松永 久次郎　司教

［福岡地区］
司教館　中浜 一男
松井 忠之
寺浜 亮司
召命の家　山頭 原太郎
糸島　櫻井 尚明
今村　岩永 義人
大楠　堤 敏雄
大牟田・荒尾　A・スカットロン
小郡　牧山 勝美
久留米　浦川 務
三村 邦明
古賀　E・ウイリアム
J・マホニ
笹丘　T・ドワイヤー
今田 昌樹
大名町　青木 悟
牧山 美好
高宮　小池 如安
片岡 哲夫
茶山　山田 成章
西新　下町 豊重
箱崎　M・L・ジアール
光丘　G・ブルーニ
二日市　川上 惣一
本郷　畠山 七郎
吉塚　硫黄 隆二
老司　浦口 均
大神学院　大山 悟
山脇 守
牧山 強美
白浜 満
聖パウロ会　湯淺 俊治
イエズス会　永富 久雄
R・キエサ
曽根 忠明
塩谷 恵策
萱場 基
増井 啓
美野島司牧センター　M・コース
皿山伝道所　S・ライル
御受難会宗像修道院　鈴木 忠一
B・ガブリエル
久留米信愛女学院短期大学　高木 善行
聖マリア病院　R・マグリン
パストラルケア研究所　W・キッペス
［北九州地区］
飯塚　山下 正
黒崎　L・ベリオン
小倉　平田 敬
田中 重治
竹森 勇
森山 信三
新田原　杉原 寛信
戸畑　F・ハーン
直方・田川　伊東 成晃
湯川 浦 俊雄
水巻　F・P・カロール
門司　W・カリー
深堀 敏 司教
湯川　H・オッカロール
E・ホーガン
武蔵ケ丘・菊池　F・マッケイ
M・モロイ
F・ソットコルノラ
［海外］
アメリカ　渡辺 隆義
行橋　山元 眞
若松　鵜野 泰年
パリ外国宣教会九州支部　J・ガイヤール
M・ラバルタ
門司港（管理者）　牧山 重光
聖母訪問会新田原修道院　平田 三郎 司教
［佐賀地区］
伊万里　C・ガッザルディ
鹿島・武雄　L・マネルバ
唐津　V・チェリッザ
佐賀　深堀 勝人
M・ヴィッラ
多久　A・テンペリーニ
鳥栖　平田 三好
馬渡島　田川 清美
呼子　中村 信哉
ロザリオの園　A・アレグリーニ
［熊本地区］
帯山　川添 猛
健軍　中村 彰
崎津・大江・本渡　川原 拓也
島崎・玉名

第6回土曜公開講座
ヨーロッパの中世思想…ザビエルの生きた時代…
［日時］2月12日(土) 15時～17時
［講師］稲垣良典(九州大学名誉教授)　＊入場無料
PRAYER GROVE MUNAKATA
カトリック福岡黙想の家
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056 Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ　青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

第2回福岡教区宣教司牧評議会開催

第2回福岡教区宣教司牧評議会が、12月5日（日）司教館別館会議室で開催された。

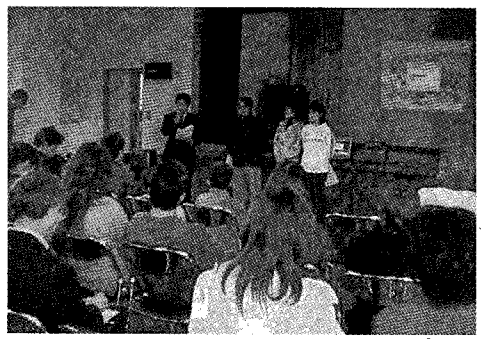
このたび、評議員に変動があったことから、会議ではまず浜鶴松氏（黒崎教会）、吉武貞雄氏（門司教会）の2人が紹介された。吉武氏は前任の徳富幸治氏の転勤により、新副議長として選出された。また青年代表として薬真寺健臣氏（光丘教会）、川原順平氏（笹丘教会）が出席した。

今回の会議では、教区全体の状況を把握し、教区レベルで物事を諮るために、各地区の評議員が地区の現状を述べた。これらは各地区・小教区の実情を知るうえで有意義な内容であった。また修道女連盟と青年代表はこれまで行ってきた活動について報告した。

その後、先に行われた報告に基づいて情報交換を行った。今回、共有された情報に基づいて、次回以降、より具体的に討議していくことになった。

第3回宣教司牧評議会は、2月に開催される予定。

青年が海外ボランティア体験報告会



11月28日（日）、光丘教会にてタイ・フィリピン・ネパールでの海外ボランティア報告会が行なわれた。

タイへはソロモン友の会から4人の青年たちがHIV感染者の施設に3週間派遣され、施設の患者やエイズ孤児達との出会いを通して感じた事や、タイのエイズ問題の現状を報告した。フィリピンへはDBVG（ドンボスコボランティアグループ）九州支部会から4名が現地のユースセンターへ20日間派遣され、地域の子どもや青年との触れ合いの中で感じた事を思い思いに話した。

ネパールへは光丘教会青年の薬真寺綾乃さんがシスター川岡（福音の光修道会）の設けたスラム街の子ども達を対象にした保育園での2ヶ月の体験を、内紛などネパールの厳しい現実の話も交えながら語った。

報告会には約30名が集まり、青年達の報告に耳を傾けた。「環境や情勢が日本とは全く違う所に住む人々も私達と同じように『生きている』ということを伝えたい」と派遣された青年たち。

報告会を訪れた60代男性は「報告の中で青年達は『キリスト』という言葉は全く使わなかったが、彼らの体験した出会いの中に『キリスト』を強く感じ、未来に光が差してくるように感じた」と感想を述べた。

それぞれの青年が、言葉も文化も、時には宗教すら全く違う見知らぬ土地で得て帰ってきたものは、彼らがこれから生きて行く中で出会う沢山の人々と、形や色を変えながら分かち合っていく大きな、そして限りなく暖かな糧となるだろう。

聖体奉仕者・集会祭儀司式奉仕者任命式　熊本

11月23日（水）手取教会で熊本地区聖体奉仕者と集会祭儀司式者の任命式が松永久次郎司教司式のもと行われた。

このたび聖体奉仕者任命式に臨んだのは総勢76人（奉仕職任期更新者を含む）。熊本地区神学講座第三期までを受講し、集会祭儀司式者・聖体奉仕者の所定の単位を満たした人たちである。彼らは昨年夏に、第三期神学講座の一環として、集会司式、聖体奉仕者の心得と実践についての講座に参加し、集会祭儀の形式、役割の分担、教話、服装について、また病者の聖体拝領の奉仕における留意事項などについて指導を受けた。

聖体奉仕者のうち61人には、集会祭儀司式者としての任命も併せて行われた。

ミサの説教で松永司教は「パパ様は2005年10月までを聖体の年と定められました。今日任命を受けた皆さんは、ご聖体を特に大切にし、与えられた奉仕職を忠実に果たしてください」と励ました。

10年になった「聖書を読む会」　佐賀

佐賀カトリック教会の掲示板に「永遠のベストセラーといわれる聖書を一緒に読んでみませんか」ということばが掲げられている。

佐賀教会の「聖書を読む会」。アレグリーニ神父（ミラノ宣教会）の発案で誕生した。開始から10年、現在は同宣教会のマルコ・ヴィッラ神父が担当している。毎月第1木曜日午前と午後の2回、25人ほどの方が参加し、マルコ神父の解説を聞きながら、少しずつ聖書を読み進めている。

「家族だけで聖書を読もうとすると片寄って解釈しがちになることがいま解ります。洗礼式の時「信じます」と言えたのは、勉強の結果ではなかったと言うことです。

イエス様に「あなたは人の子を誰というのか」と問われたペテロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えることが出来たのは、ペテロの勉強の結果ではなかったのと同じです。イエスは「シモン・バルヨナ、あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ。」とお答えになりました。

半世紀前の聖夜に洗礼を受けたのは中学三年の仲間二四人と二人の母親（その一人は私の母）でした。同じ年の復活祭にも二四人の同級生が受洗しており、卒業の時点では学年の半数以上（たしか六九人）がカトリック信者として巣立っていきました。その中の何人かはすでに天に召され、三人が司祭として働いています。現在の教会の「少数精鋭」に比べ、いささか「粗製濫造」の傾きがあったのかもしれません。宣教の成果は洗礼の数で測るべきものではないことも事実です。

同時に教会の活性化、若いリーダーや召命の増加を願うならば、洗礼をとおして仲間に加わる人が多く出ることも大切なことになります。

この一年間に一人の信者がもう一人をカトリック要理講座に導けたら、そしてやがては洗礼にまで進めるように同伴できたらどんなに素晴らしいことでしょう。

「信じます」と言えるようになるには、勉強にもまして神の恵みが必要ですので、ひたすらその恵みを祈り求めましょう。

（イエズス会司祭）

木かげ

塩谷恵策神父

洗礼のお恵みを頂いたのは中学三年、1954年のクリスマスの晩でした。

半世紀経つのに、洗礼式とそれに続く夜半のミサのことは鮮明に憶えています。「信じますか?」と三度聞かれて、「信じます」と三度答えました。

目には見えない聖父と聖子と聖霊を「信じます」となぜ言えたのか不思議です。

信じます

中学生ではありましたが、あの晩、こころを込めて言った「信じます」は、いまの私の「信じます」と全く変わりません。

あれから哲学や神学を勉強し、すこし知識は増えてきましたが、「信じる」のは、頭より心、理性より意志の問題であることがいま解ります。洗礼式の時「信じます」と言えたのは、勉強の結果ではなかったのと同じです。イエスは「シモン・バルヨナ、あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ。」とお答えになりました。

半世紀前の聖夜に洗礼を受けたのは中学三年の仲間二四人と二人の母親（その一人は私の母）でした。同じ年の復活祭にも二四人の同級生が受洗しており、卒業の時点では学年の半数以上（たしか六九人）がカトリック信者として巣立っていきました。その中の何人かはすでに天に召され、三人が司祭として働いています。現在の教会の「少数精鋭」に比べ、いささか「粗製濫造」の傾きがあったのかもしれません。宣教の成果は洗礼の数で測るべきものではないことも事実です。

同時に教会の活性化、若いリーダーや召命の増加を願うならば、洗礼をとおして仲間に加わる人が多く出ることも大切なことになります。

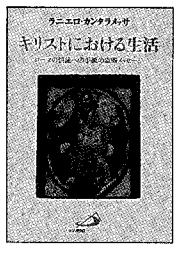
この一年間に一人の信者がもう一人をカトリック要理講座に導けたら、そしてやがては洗礼にまで進めるように同伴できたらどんなに素晴らしいことでしょう。

「信じます」と言えるようになるには、勉強にもまして神の恵みが必要ですので、ひたすらその恵みを祈り求めましょう。

（イエズス会司祭）

BOOK 読みは専科

★キリストにおける生活
ラニエロ・カンタラメッサ著
庄司篤訳



ローマ書は、新しい福音宣教を考えるための理想的な道具であり、宣教、黙想、霊操コースなどのための最高の青写真です。事実、この手紙は、一連の啓示された真理を重要なものとして次から次へと静的に提示するだけでなく、一つの歩みを概説します。

サンパウロ
税込価格　2730円

◇◇◇

★赤いくつ
アンデルセン童話
H・C・アンデルセン原作
文・岩崎京子
絵・降矢なな

赤いくつをはいた少女はいつまでもいつまでも踊りつづけるのです・・・「赤いくつ」はいろいろなとり方をされていますが、カーレンの姿に、本当のものを見失いがちな現代の人々の姿が重なって、読者に迫ってくるのではないでしょうか。

女子パウロ会　発行
税込価格　1365円

セント・ポールのお知らせ
12月29日(水)～1月5日(水)まで
休業いたします。

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

ご聖体の「いのち」を生きる

カトリック教会のカテキズム

日　時：2005年１月23日(日) 15：00
場　所：カテドラル大名町教会
講　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参加費：１回　５００円
主　催：福岡教区信仰教育委員会

熊本　神学講座・聖書講座のご案内

◆第四期神学講座
③2005年１月16日(日) 13：30～16：30
「啓示憲章」　牧山　美好　神父
④２月20日(日) 13：30～16：30
「ナイスⅠ・Ⅱをへて福音宣教」
橋本　勲　神父

♣聖書講座
⑲１月15日(土) ／ ⑳２月５日(土)
「ヨハネによる福音書」を引続き読みます。
＊原則、第１・第３土曜日　14時～16時
＊2005年９月17日まで全15回
講　師：全回通して中村彰神父（健軍教会主任）
場　所：手取カトリック教会
主　催：熊本地区信徒使徒職協議会神学講座実行委員会
問合先：手取教会　☎ 096-352-3030

北九州地区聖書講座

北九州地区聖書講座
第六回：2005年１月16日(日) 14時～16時半
テーマ：現代に向けて
場　所：戸畑教会
講　師：森山信三神父（戸畑教会主任）
費　用：１回５００円

2004年度 典礼を学ぶ集い

日　時：2005年１月30日(日) 14時から16時
テーマ：典礼暦（年間と聖母・聖人の祝祭日）
場　所：カテドラル大名町教会
講　師：白浜満神父（サン・スルピス大神学院）
参加費：１回　５００円
（テキスト代２００円別途）
問合せ・申込先：☎ 0940-33-8122　井上元之

第38回典礼聖歌研修会

日　時：2005年２月11日(金・祝日)
９時30分受付　15時30分終了
場　所：笹丘カトリック教会（福岡市中央区）
テーマ：四旬節・聖週間・復活節の典礼聖歌、ミサについて（「ローマ・ミサ典礼書総則」2000年暫定訳から）
講　師：深堀純氏（大名町カトリック教会）
参加費：感謝献金
昼　食：受付時申込み
問合先：☎ 092-541-3730　松山敦子
※どなたでも、ご参加頂けます。

案内版　会合と催し　１月のこよみ

福岡黙想の家ご案内　１月

◇３日(月)～７日(金)　休館
◇８日(土)～10日(月)　総合人間学セミナー
◇16日(日)～17日(月)　オブレート会・福岡
◇17日(月)～25日(火)　援助修道会黙想
◇22日(土)～23日(日)　Fr.塩谷恵策結婚講座
◇27日(木)　ユリアナの会14時から
※『祈りの日』は１月11日(火) より始めます。
※２００５年もどうぞよろしくお願い致します。
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

年間テーマ：ご聖体の秘儀を深めて
※祈りの集い（毎月第2木曜日）・１月13日(木) 10時～15時
テーマ：ご聖体と受肉の神秘
指　導：Sr.マリアとFr.フランコ

真命山の霊性
自　然：神はすべてを造り、人の手に委ねられた
祈　り：陽の昇るところから陽の沈むところまで
静けさ：沈黙の中に神の言葉を聞こう
交わり：信仰体験を分かつ
問合先：真命山諸宗教対話・霊性交流センター
☎ 0968・85・3100
FAX 0968・85・3186
E-mail shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時：１月15日・２月５日　10時～12時（第１、第３土）
場所：カテドラル大名町カトリック教会小聖堂
※基本的に第１・第３土曜。変更になる場合もあります。

ユリアナ会お知らせ

日　時：１月27日(木) 14時から16時
内　容：統合失調症(1)
場　所：福岡黙想の家２階会議室
講　師：小宮豊医師（小宮クリニック院長）
参加費：無　料
主　催：ユリアナの会
問合先：☎0940・38・8915（11時～16時／月～土）
☎0940・32・3222（黙想の家）
世話係：☎0940・33・2731吉永

１月の活動予定
13日(木) 絵手紙で遊ぼう　13時～
17日(月) ミニ喫茶　11時～16時
＊専門カウンセラーによる相談コーナー（有料１回1000円）要予約

教会建設のためのチャリティーコンサートにご協力を！

♡ギターとソプラノによるなつかしい歌のかずかず！
日　時：２月13日(日) 11：15～
場　所：笹丘カトリック教会
入場料：カンパ（教会建設のために）
問合せ：☎ 092-761-4504

福岡

■第35回福岡ホスピスの会

［日時］１月９日（日）14時から16時［場所］大名町カトリック教会［内容］熊本みこころホスピスの歩みを通して［講師］井田栄一先生（みこころホスピス医師）［参加費］７００円［問合せ］☎０９２・８７４・６３２１事務所
※ホスピスやボランティアに関心のある方、新年の抱負として、病気の人々に奉仕しようと思われている方、是非ご参加ください。

■召命祈願ミサ

［日時］１月13日（木）19時15分聖歌の練習から始めます［場所］サン・スルピス大神学院聖堂［指導］本田靖彦神父（長崎教区三浦町教会助任）［主催］大神学院・召命を共に祈る会合同

■在世フランシスコ会集会

［日時］１月23日（日）14時～16時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎０９２・８４３・５８３１岩崎

■キリスト教一致祈祷会

［日時］１月23日（日）19時から［場所］大名町カトリック教会大聖堂［主催］カトリック・プロテスタント合同実行委員会

■生と老い死を見つめる会

［日時］２月20日（日）14時から16時［場所］大名町カトリック教会［講師］川口貞親先生（九州大学保健学科講師）［内容］心の健康（うつ病について［参加費］７００円［問合先］☎０９２・７１３・５２３大山／６０７・６９９２村尾

佐賀

■佐賀祈りの集い

［日時］１月12日（水）10時～11時半［場所］佐賀カトリック会館［内容］共に祈る［次回］１月26日（水）10時～12時はミサと祈り：毎月第２水と第４水曜日。どうぞご参加下さい。［問合先］☎０９５２・７２・７５３６吉田

■聖書を読む会

［日時］毎月第１木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時※１月は休みです［場所］佐賀カトリック会館［内容］ルカ福音を読む［講師］マルコ・ヴィッラ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］☎０９５２・２３・４７５４　ヴィッラ神父

北九州

■小倉カトリック祈りの集い

［日時］１月21日（金）13時～15時［指導］ガブリエル神父［場所］小倉教会信徒会館２階［内容］「みことば」をあじわう・賛美と感謝の祈り［連絡先］☎０７０・５５３８・６１８６安藤

熊本

ニューイヤーチャリティーコンサート

♥「小さないのちを守る運動」支援のコンサートです
日　時：１月10日(成人の日) 13時半～
場　所：熊本市総合女性センター
主　催：オカロルファミリーバンド
入場料：自由寄付
問合先：手取教会　☎096-352-3030

若者の集い「星の巡礼～キリストを目指して～」

日時：１月９日（日）13時半
会場：長崎大司教館（橋口町）
※ ワールドユースデーを知っている人も知らない人も、２００５年のケルン大会に参加する人も参加しない人も、みんなで「わたしたちはイエスを拝みにきたのです（マタイ２：２）」と集い、司教さんと一緒に、巡礼について、教会について、キリストについて、自分達について感じたり、考えたりしてみませんか？

編集後記

明けましておめでとうございます。新しい一年が始まりました。松永司教様は２００５年福岡教区のテーマを「ご聖体の『いのち』を生きる」とされました。このテーマのもと私たちも一致して歩んでいきましょう。本年も引き続き教区報にご協力よろしくお願いします。小教区での様々な行事や出来事などございましたらぜひ教区報編集部までお知らせください。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川３丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（1F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（2F）十字架、ロザリオ、ご像、CD、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後６時　定休日：木曜日
〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-14-26
電話　092-721-2032　FAX　092-739-3930

1月のこよみ

1日(土)　神の母聖マリア／世界平和の日（カテドラル10時）
†C．バスチ［2002年黒崎教会］　元旦
2日(日)　主の公現　†J.ドノフ［1985年菊池教会］
†ヨゼフ牧山藤房［1993年西新教会］
4日(火)　†E.モーゼ［1998年門司港教会］
9日(日)　主の洗礼
10日(月)　成人の日
11日(火)　司祭新年の集い（浄水通教会11時）
13日(木)　召命祈願ミサ　（大神学院19時15分）
15日(土)　松永司教福岡教区着座記念日
16日(日)　年間第２主日
18日(火)　キリスト教一致祈祷週間（25日まで）
†J.Mマルタン［1975年大牟田教会］
19日(水)　†Jツルデル［1999年大神学院］
†Lガルニエ［1941年大江教会］
21日(金)　聖アグネスおとめ殉教者
22日(土)　佐賀カトリック幼稚園園舎祝別・落成式　11時
23日(日)　年間第3主日
福岡地区カテキズム講座（カテドラル15時）
25日(火)　聖パウロの回心
26日(水)　聖テモテ・聖テトス司教
30日(日)　年間第4主日　カトリック児童福祉の日（献金日）

２月
1日(火)　司祭評議会　（司教館10時半）
3日(木)　召命祈願ミサ（大神学院19時15分）
6日(日)　年間第５主日　二日市教会司教公式訪問・堅信式
ゴチックは司教日程

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　牧山美好
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

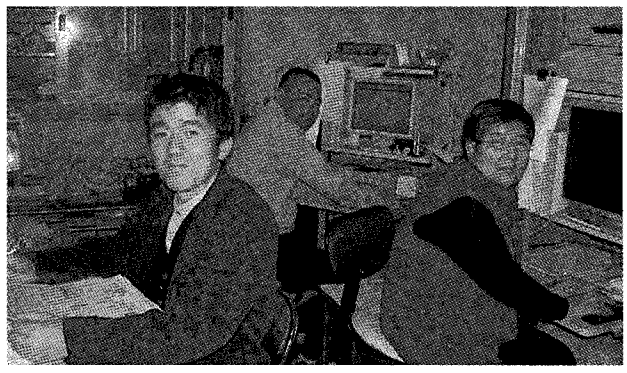
カトリック福岡教区報創刊から50年

教区民の歴史を刻んだ半世紀

多くの協力者と読者に支えられ572号

本紙『カトリック福岡教区報』は今年、創刊50年を迎えた。福岡司教区の機関紙として1955年2月に創刊され、以来半世紀にわたって、教区の動きを見つめ、記録してきた。教区長松永久次郎司教は教区報の50年の歩みを「福岡における神の国の美しい歴史」と称し、この節目を「神の限りない恵みに感謝し、先輩の活動をたたえ、新しい時代への決意を新たにする時」とするよう、励ましを込めて祝辞を寄せられた。また本紙創刊に尽力し、創刊以来22年間編集長をつとめた深堀敏司教（前高松教区長・手取教会在住）に、当時をふり返っていただいた。

（関連記事2面）



現在の編集スタッフ

司教館広報室に一つ灯」となるように、と願い収蔵されている創刊号を見ると、当時の教区長深堀仙右衛門司教は創刊の辞の中で「本紙はたとえからし種のように小さなものであろうとも、神の導きのもと、司祭・修道者・信徒の一致協力によって、すべての人の心を照ら

を込めて語っている。創刊時、本紙の名称は『カトリック』であった。その後、現在の『カトリック福岡教区報』になった。

21世紀をむかえ、教区報は教区における教会共同体の成員相互の一致と交わりの場となることをめざした創刊時の理念を、今ここにあらためて自覚したいと願う。価値観の多様化した、激動の時代を生きる人々に向かって、教区報はキリストの福音を証しする大切な使命を果たしてゆかねばならない。

時はまさにインターネット時代。教区の広報紙としての

『福岡教区報』創刊50周年を祝して

福岡教区長　ヨセフ　松永久次郎司教

今年が『福岡教区報』の創刊50周年にあたるということである。おめでたい、また記念すべき年である。思えば50年前、深堀仙右衛門司教様のご指導のもと、当時の深堀敏神父様を中心にして、教区の中で「地の塩・世の光」としての使命を果たすために創刊されたのであった。それ以来50年多くの司祭の誕生と教区の数多くの活動を伝え、福岡における神の国の美しい歴史となっている。神様の限りないお恵みに感謝するとともに数多くの先輩の活動をたたえ、新しい時代への決意を新たにしなければならないと思う。

今私たちの教区は輝かしい未来を目指して生気あふれる活動をしているであろうか。

福岡教区もかつて、迫害の時代を経験しそれを相応しく耐えた。今、自由の時代、お恵みを活用して、それに相応しい稔をあげているだろうか。

今の社会で、隣人愛の実践によって福音の美しい証しとなっているであろうか。

全てをキリスト教的に造り変えることはできない。しかし、そのための一歩は進み出されているべきなのである。

今私たちは、福音のための第一歩を力強く踏み出さねばならない。

スマトラ地震及び大規模津波被害支援募金について

救援募金はカリタスジャパンを通じて募集中。振込先は下記の通り。
郵便振替　00170－5－95979
加入者名　カリタスジャパン
通信欄に「スマトラ地震及び大規模津波被害支援」と明記してください。

2月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】貧しい人々のための医療
【布教の意向】キリストへの熱愛
【日本の教会の意向】病める人々、苦しみにある人々とともに

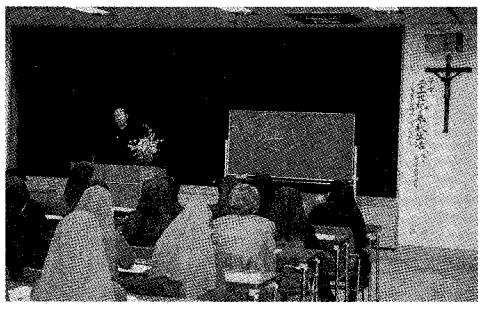
ご聖体の「いのち」を生きる司祭として

八代教会に着任したモロイ神父（左2人目）を囲んで

今年も司祭新年の集いが1月11日（火）に開催された。浄水通教会で教区長松永久次郎司教司式のミサが行われ、集まった司祭・信徒とともに新しい一年の祝福を願って祈りを捧げた。松永司教は説教の中で「今年の教区の年間テーマは『ご聖体のいのちを生きる』です。福岡教区の各小教区においても、今まで以上にご聖体を意識して、そのお恵みのうちに相応しく歩んでいくことができるように、特

姿勢を保ちながら、時のしるしを賢明に読み取り、コミュニケーション手段の変化に対応していくことが課題となっている。本紙における最新の内容をホームページでも、閲覧できる方向にこれから検討していきたい。

「21世紀の奉献生活」をテーマに修女連研修



宮原司教の話に聞き入るシスターたち

福岡教区修道女連盟の一日研修会が1月10日、カテドラルで開催された。講師は大分教区長宮原良治司教。94人が参加し、「21世紀の奉献生活…キリストへの情熱、人への情熱…」をテーマに研修した。

宮原司教は「修道者の使命、それはキリストの福音の価値観とは全く異なる今の社会の中で生活と存在自体で神の国の価値、神の国がここにあることを証しすることである」と述べ、神の国を証しするために、交わりの霊性を生きること、この証しの根元である三位の神の愛の交わりを瞑想することの重要性を説いた。

さらに「御父から遣わされたキリストへの情熱は、聖霊の力によって人々への情熱となり、人々との連帯、共感、分かち合い、いたわり合いを本物とする。こうして修道者は全人類の和解のしるし、神の国の証しとなり得るのでは」と語った。

人神父が「松永司教様を中心に教区のために力を合わせて頑張りましょう」と挨拶し、ともに新年への決意を新たにした。横浜から水俣教会主任として赴任したM・モロイ神父、スルピス会に入会のため、大神学院に滞在しているP・Q・ベルナルド神父の2人が紹介された。

フランシスコ 佐藤敬一司教帰天

訃報

前新潟教区教区長でフランシスコ修道会日本管区長を務めた佐藤敬一司教が、1月2日心不全のため、静養先の札幌市で帰天した。享年76歳。佐藤司教は、1928（昭和3）年4月11日、北海道上川郡生まれ。18歳で受洗。北海道大学工学部を卒業後、フランシスコ修道会に入り、1962年、34歳で司祭に叙階。1977年、フランシスコ会日本管区の創立に伴い、初代管区長に選任。1985年、57歳で司教叙階、2004年5月までの19年間、新潟教区長を務め、司教協議会の司祭生涯養成委員会委員長、エキュメニズム部門担当司教などを歴任、教会一致運動にも尽力した。祈りに満ちた温厚な人がらで敬愛された。

研修会は聖霊の暖かさに満たされ、参加者がそれぞれの立場で新たな宣教への熱意、信仰、希望、勇気を奮い起こされ、新しい年のスタートに相応しい研修会となった。

時の話題

山川敦子

福岡教区で20年間籍をおいていた小教区の婦人会が、バザーの収益金など多額を新潟県中越地震被災者に寄付をしたと聞き、とても嬉しくなって感謝の気持ちでペンを執った。

昨年春、震源地から60キロの下越地方に転居した。ここの震度は4強だった。ちょうど夕食準備中でそのまま庭に逃げた。気にしがみつき立っていられずにしゃがみこむ。10秒の揺れが長く感じられて、やはり飛びだしてきた夫と恐怖におののいた。古家がミシミシギシと音を立てて、自然の脅威になすすべもない。やっと収まり家には行ったとたんに余震があり脱兎のごとくスリッパのまま飛び出した。それからはお風呂もトイレも怖くて入れない。

新潟県中越地震

何を食べても、いつ余震が来るかと心配で、おいしくなかった。船酔いのように常に揺れている感じが続き、余震の恐怖が2週間以上続いた。そんな中で電気が通ると情報が入り、何より明かりがあることの有り難さを身にしみて感じた。毎日温かな食事にお風呂。そして布団があるだけでどんなに幸せなことかとつくづく思った。当たり前と思っていた日常がいかに大切で貴重なものであるかと。一瞬のうちに何もかも失った人たちが、せめて生きる希望を失わず、困難を乗り越えていくには、私たちが継続して心を寄せることだと思う。

今までの暮らしが大きく崩れて、ただ生かされていることの有り難さにこうべを垂れている人々を、忘れずに祈りつづけていきたい。

（新潟県新発田教会信徒）

ちくさ

『友達』が大きく変わっている。『友達』と言えば、以前は知らない相手とおそるおそる話し、意気投合し仲良くなって、いつの間にか『友達』になるものだと思っていた。首都圏にいる友人に聞いた話だが、今の『友達』は以前のように会ってから話を始めるのではなく、ネットを利用し、「いついつ一緒に……に行こう」と相手を探したり、「……を一緒にしませんか？」などの呼びかけに応え、一緒に行動する。自分と同じ趣味やニーズに合った相手が見つかった時点で、その人はすでに『友達』らしい。あとは、当日その『友達』と行動する。随分と手軽で簡単な出会いである▲たとえ事前に知り合っていたとしても、初めて会った相手を『友達』と思えるだろうか。18歳で初めて田舎から都会に出たが、その時は本当にビクビクしながら出会った相手と話した記憶がある。もちろん昔から手紙や無線を使った交流があり、会ったことのない相手と『友達』になることはあった。しかし、その時は『……友達』や『……仲間』と言って友達のカテゴリー分けをしていたはずである。しかし、今は一緒にどこかに行く、何かをする、ただそれだけで『友達』であり、友達のカテゴリー分けはなくなったようだ。皆がボーダレスに『友達』である。▲イエス様は私たちを『友』と呼んでくださった。しかし、それは少なくともイエス様の方は私たちのことを十分知っておられるからだと思ったが、いつの間にか時代に取り残されていたようだ。

（P）

第13回世界病者の日教皇メッセージ
アフリカの希望、キリスト
2月11日

世界病者の日（2月11日・ルルドの聖母の記念日）にあたり、教皇ヨハネ・パウロ2世が発表したメッセージには「アフリカの希望、キリスト」という見出しが添えられています。教皇はアフリカの人々と連帯するよう呼びかけています。

教皇は使徒的勧告『アフリカにおける教会』の中で、現代のアフリカをルカ福音書「善きサマリア人のたとえ」に登場する追いはぎに襲われた旅人にたとえて述べています。「アフリカ大陸には…子どもたち、若者たちが道端で病み、傷つき…見捨てられた状態で横たわっています。彼らは、善きサマリア人を緊急に必要としているのです」。

教皇は「健康という概念のもっとも深い意味は、人間が自己と調和し、まわりの世界とも調和している状態にあること」と述べ、アフリカでは、不幸にもこの調和が、今日大きくかき乱されていると指摘します。数多くの病気がアフリカ大陸に荒廃をもたらし、その中でもとくにエイズは人々の苦しみの大きな原因となっています。また紛争と戦争は、病気の予防や治療を困難にしています。難民キャンプでは、人が生きていくための最低限の食糧さえも不足しています。教皇は権力ある人々に対し、このような悲惨な出来事を終わらせるために、引き続き全力を尽くすよう求めています。

教皇は、特に大きな問題であるエイズについて、それが「精神的な病理」の症状を呈していることから、真剣にエイズと闘うために、教育を通してその防止にますます努力しなければならないと述べています。その教育とは、いのちの尊厳を教えること、正しい性教育を行うことです。

「誰もがエイズとの闘いに参加しようという気持ちを持つべきである」と教皇は呼びかけます。この問題において国際組織が率先して活動していくことを奨励しています。

教皇は、この病者の日に医療司牧の重要性をすべての人がよりよく理解することを望んでいます。今という時は、人間のいのちに関する究極的な問いに適切な答えを見つけ出す必要に迫られている時代。痛み、苦しみとは、そして死とは何かという問いを、直面することが困難な謎としてだけでなく、キリストが私たちのいのちを自ら負い、新しい、完全な、永遠のいのちの誕生へと導く神秘としても考えてみなければならないと説いています。人は身体的、精神的に健全でありたいと望むだけでなく、神との、さらに自己および人類との完全な調和を熱望しています。教皇は「人はキリストの受難と死と復活によってのみ、この目的に到達することができる」と教えています。マリアは、無原罪の宿りと被昇天の秘義を通して、私たちにこの終末論的な現実が始まったことを力強く語っています。教皇は自ら「私たちの喜びの源」であるマリアに向かって祈りをささげ、メッセージを結んでいます。

（文責＝編集部）

医療や科学的研究・新薬の開発には財源が必要ですが、エイズのように緊急な治療を要する状況では、何よりもまず人のいのちを守ることが最優先にされるべきです。

教皇は司牧に携わっている人々に、エイズに冒されている兄弟姉妹に可能な限りの物質的、道義的、精神的慰めを与えることを求め、世界の科学者、政治指導者に対しては、愛と尊敬によって可能な限りの手段を講じ、この苦難に終わりをもたらすようにと訴えています。

教皇は世界各国の司教たちにも、アフリカの司牧者と心を合わせてエイズの問題や他の緊急課題について取り組むよう願っています。教会は苦しんでいる一人ひとりの中にキリストのみ顔を見ます。教会は信仰によって病人に全力を尽くして献身し、困難に遭遇しながらも、希望によってこの使命をやり通すことができます。また愛によって、異なる状況の中で一人ひとりの特性を感知し、それぞれに的確な対処の方法を教えられるのです。

教会について考える（10）

寅さんが元気だった頃、お正月には「男はつらいよ」シリーズが封切られて楽しみに待っていたものでした。ウチを出て旅の途上で出会う様々な人々との人間模様、いつも決まって寅さんは出会った人々にとって大切な存在となります。彼らを力づけ、安心させ、生きる勇気や希望を与えていく、そんな不思議な力のある人です。

ところで、教皇様の聴罪司祭であるカンタラメッサ師はその著「ミサと聖体」で、「小教区」という言葉の語源は「さすらいの身、仮住まいの身」であるとし、この小教区の本来の意味が失われていると指摘しています。「パロクス」という言葉は本来、巡礼者、寄留者の意味ですが、現代では教区の下位区分つまり地方教会の行政単位を意味するだけとなり、小教区の管理者＝主任司祭を意味する言葉になってしまったことを嘆いておられます。実際新約では、「あなたがたは、人それぞれの行いに応じて公平に裁かれる方を「父」と呼びかけているのですから、この地上に仮住まいする間、その方を畏れて生活すべきです。」（1ペトロ1：17）とか、「あなたがたはいわば旅人であり、仮住まいの身なのですから、魂に戦いを挑む肉の欲を避けなさい。」（同2：11）と言われています。さらにパウロは「わたしたちの本国（国籍）は天にあります。」（フィリピ9：20）とも言って、私たちキリスト者は世にありながらもこの世に属している者ではないことを明らかにしています。

つまり、師が指摘するとおり、この世が必要としているのは、巡礼と喜びの場所である教会であって、あらゆる種類の奉仕と活動、もてなしを提供するセンターではない。はじめて小教区に近づく者が、「ここはよそとは違う」と感じることができる場であり、神の現存を感じさせる場でなければならないと思います。

ユダヤの古い信仰告白は以下のようなものでした。「私の先祖はさすらう一アラム人でありましたが、わずかな人たちを伴ってエジプトに下り、そこに寄留しました。」（申命記26：5）先祖同様、私たちも天の都を求めて旅をしているという意味で、さすらいの身と言えるでしょう。小教区はそのような身である私たちの仮住まいの場です。

教会の原点がそこにあるとするならば、教会を固定的に考える、例えば建物や組織を中心に考えるのではなく、よりダイナミックに絶えず動きつつある存在としてとらえるべきでしょう。

戸畑教会　森山 信三 神父

『福岡教区報』創刊50周年によせて

「カトリック」創刊号の一面

福岡教区報が創刊されて50年を迎える。この半世紀の間に福岡教区がどのように成長してきたのか、どのような教会共同体になってきたのか。編集室で50年分の新聞をめくると若々しく、懐かしい司祭、信徒の顔や記事に出会った。

創刊号を見ると、1面のトップ記事は世界中のカトリック信者の心配事だった当事の教皇ピオ十二世の健康のことが言及されている。その記事の中にちょうどローマで聖会法の研究で留学中だった浦口均神父（現老司教会主任）の通信として「教皇聖下は快方に向かわれている。」と伝えられたことが記されている。

3面にはカテドラル大名町教会の歴史の一面を物語る記事があった。

『福岡大名町カトリック工事着手』という見出しの記事である。全文を掲載しよう。

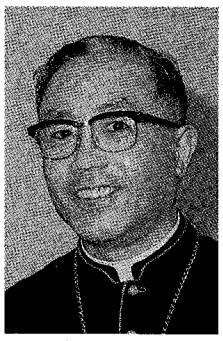
一般紙で既に報ぜられたように1月12日福岡大名町司教座教会では西鉄電車に面していたれんがべいの移転工事を開始した。教会正面のS字型道路を都市計画によつて直線道路にすることに決定した為教会側の譲歩となつたもの数年前よりの懸案であつたこの工事が今迄遅れたのは、市当局より提供されていた教会敷地裏側の土地が家屋移転の問題で容易に入手できなかつた為。

この工事の完成の暁には教会前面敷地が益々狭くなりその為信者集会等に不自由を感ずる様になるであろう。然し直線道路の実現によつて今迄「魔のカーブ」と呼ばれていた万町交叉点の交通が少しでも安全になれば信者の忍ぶべき不自由な犠牲とさるべきであろう。

すでに当時の面影を残すものはないが懐かしさがある。

あれから五十年

深堀 敏 司教



本紙創刊に尽力し、長年編集に携わった深堀敏司教（前高松教区長）に、当時の思い出を寄せていただいた。

それは、1955年の年が明けたばかりのときでした。ある求道者が一つの提案をもってきました。「福岡教区の小さな新聞を出しませんか？」その人は間もなくルポルタージュの見本原稿を書いて見せに来ましたました。当時の司教様に「こんなことをやってみないかと言う人がいるのですが…」。半ば冗談のつもりでした。すると「まあいいでしょう」。名前はどうしましょうかと訊ねると、一言「カトリックです」。命名されたというのは「生まれた」ということです。わたしはもう後には引けなくなって走り出しました。定期刊行物を続ける能力はあるのか。編集方針はどうするのか、座って考えてみることもせず、走り出してからよく考えればいいだろうぐらいの軽率さでした。ただタブロイド版4ページ、月刊でいこうとだけきめて出発ベルを鳴らしました。でもともかく編集責任者らしい一文を加えることは忘れませんでした。寄せ集めの原稿をつなぎ合わせて創刊号を出したのは2月1日、各教会に何の知らせもしないまま適当な部数をそれぞれに送り届けました。さあそのあと大変でした。線路を一本一本つぎ足しながら電車を走らせるようなもの。多くの方が見るに見かねてアドバイスをくださり、寄稿者の顔ぶれもかたまり、ある人には新聞記事の書き方、他の人には現地取材のまとめ方を教わるなど、またある時には西日本新聞社の文化欄担当者から紙面づくりの基本も指導してもらいました。しかし毎月締め切りに追われるなかで習ったことを生かす余裕はありませんでした。締め切り間際には徹夜することもありました。

新聞づくりはわたしが高松教区に移るまでの22年間続きました。今福岡教区報の編集発行に携わっておられる方々に「ご苦労」と申し上げたい。教区報は福岡にあるキリストの教会の生々しい歴史を固い石に刻み込むようなものです。

（手取教会在任）

第6回土曜公開講座
ヨーロッパの中世思想…ザビエルの生きた時代…
［日時］2月12日(土) 15時～17時
［講師］稲垣良典(九州大学名誉教授)　＊入場無料
PRAYER GROVE MUNAKATA
カトリック福岡黙想の家
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056 Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

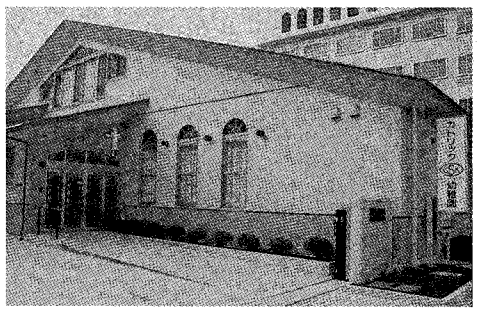
ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ　青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

佐賀カトリック幼稚園に新園舎

人と環境にやさしい園舎完成


新築されたバリアフリーの佐賀カトリック幼稚園

1月22日（土）佐賀カトリック幼稚園（園長：佐賀教会主任深堀勝人神父）において、新園舎の祝福・落成式が行われた。まず、教区長松永久次郎司教が新園舎を祝福し、つづいてホールにおいて落成式・祝賀会が行われた。集まった人々は新しい園舎で子どもたちが豊かに成長できるよう祈りを捧げ、完成の喜びを分かち合った。

佐賀カトリック幼稚園は1959年（昭和28）4月15日に設立され、今年で創立51年目を迎えた。佐賀市の中心に位置し、当地での布教に重要な役割を果たしている。

園長の深堀勝人神父は、「こどもに安全でやさしい保育環境を目指し、神様に愛されている大きなひとつの家族として園児たちが過し、遊びことを願い、設計・施行にあたっていただきました。そのため部屋の明るさ、温かさ、空気の清浄のため24時間換気、きれいな水のため遠赤外線・磁気活水器を使用、人への思いやりを考慮してバリアフリーなど配慮しました」と記している。

75周年を迎える新田原教会元旦の成人式

心も体も成人になってください

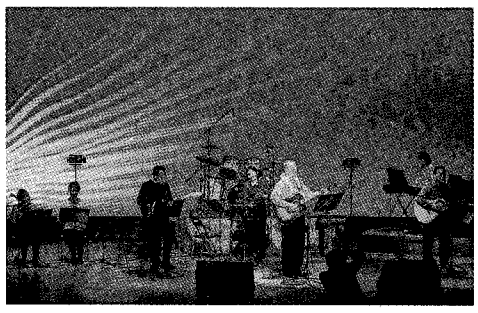
新田原教会は、今年で創立75周年を迎える。

1月1日元旦・10時のミサを、『創立、75周年記念の年』開幕ミサとし、この一年間の全ての小教区行事を75周年を記念しての感謝の年とすべく、神の母聖マリアの祭日を盛大にお祝いして、新しい一年をスタートした。

また、今年も正月の帰省者を含めて、元旦・10時のミサで小教区成人の祝いと祝福式を行った。当日は、14人の新成人とベトナムからのカリタス修道会志願者で信徒の家にホームステイしている1名と合わせて、15人の新成人を迎えての盛大なミサとなった。ミサの終わりに、主任司祭の祝福のあと、新成人への記念品贈呈に続いて、一人ひとりが自己紹介をし、彼らの大いなる飛躍を願っての派遣の祝福をもって終了した。なお、

オカロールファミリーバンドがチャリティーコンサート

熊本


熱唱するオカロール神父とバンド仲間

1月10日（月）成人の日に、熊本市の総合女性センターでニューイヤーチャリティーコンサートが行われた。このコンサートの主催はオカロール神父（人吉教会主任）率いるオカロールファミリーバンド。

バンドの演奏とオカロール神父の歌声に会場は終始和やかであたたかい雰囲気に包まれていた。

このコンサートは幼児虐待、新生児の遺棄、人工中絶など見慣れないわたしにパニックになっている子豚たちに「ごめん、ごめん」といいながら、聖水を振りかけているうちに、不思議と楽しい気分になってきました。そして、こんなところにも司祭としての喜びがあるということに、今更ながら気づかされました。

この豚舎の持ち主である信徒の方がこの出来事を忘れず、祈りのうちに仕事ができれば、司祭にとってこれほどうれしいことはありません。願わくは、わたしが祝福した豚たちが病気にならないことを祈るばかりです。

（崎津・大江・本渡教会主任）

木かげ

川原拓也神父

豚舎の清め！

受話器の向こうから「神父様、今日よかですか？」。わたしが「えっ？」というと「豚舎の清めば」という返事。どうやら飲んだ席での約束をころっと忘れていたみたいです。すぐに「はい、いいですよ」といってはみたものの、「さて、豚小屋の清めってどうすればいいんだろうか？」ひとり、しばらく考え込んでしまいました。とりあえず札幌教区が出している『祝福の祈り』という本を開き、「家畜の祝福」という祈りを見つけました。「家畜や小屋を祝福しようとしているのがわたしだけではない。間違いではない」と安心しましたし、参考にできる祈りを見つけて、「豚小屋の清めの式」のめどが立ちました。「さすが、北海道」と感心しながら、迎えにきてくれた軽トラックに乗り込んだ次第です。

車の中はほのかに豚のにおいがしましたが、「この車で、毎日頑張って豚の世話をしてるんだな」と思うと、その信徒の方の苦労や仕事に対する誇りが少しだけわかるような気がしました。

天草に赴任して六年、大江にはたくさんの豚舎があることは知っていました。でも、実際に行ってみて、その規模に驚きました。大きな豚舎が六棟、約千頭の豚の世話をしているということでした。六年もいて、まだまだ、全然知らないと痛感させられました。豚たちは、成長の度合いや役割などによってそれぞれの豚舎に分けられています。今にも、柵を乗り越えてきそうなぐらいに身を乗り出している巨大な豚に向かって、おそるおそる祈りをし、あるいは、突然現れた

キリスト教一致祈祷集会カテドラルで

一致を祈り共に賛美を歌う諸教会の人々

『土台であるキリスト』をテーマに今年のキリスト教一致祈祷週間。1月23日（日）にカテドラルで諸教会から約90人が参加し、心を一つにしてキリストの教会の一致と平和の実現のために祈りをささげた。

今回、祈祷会の司式は櫻井尚明神父（糸島教会主任）、説教を踊一郎牧師（日本バプテスト連盟）が担当。踊師は「一つの教派、一人の教師によってキリスト教の宣教が行われてきた訳ではない、同じキリストを信じるそれぞれの教派に特徴があり、そうした私たちを離れがたく結びつける存在こそ土台であるイエス・キリストである」と語り、「私たちが愛によって平和につながる働きをすることが出来るように」と祈りを捧げた。

その後、ニケア・コンスタンティノープル信条を参加者全員で宣言し、諸教会の代表とともに心を合わせて祈りを捧げた。キリストによって結ばれた兄弟姉妹が集い、共にてキリストの教会の一致と平和の実現のために祈りをささげることを通して、土台であるキリストのぬくもりがはっきりと感じられるひとときであった。

今回のチャリティーコンサートは入場無料で、参加者による自由献金が行われ、総額は220、563円にのぼった。この献金はすべて熊本県いのちの懇談会に寄付された。

参加者からは「女性の話を聞いて、いのちの尊さを学び力をもらった」、「感動した。特に神父様が歌った『君の瞳は10000ボルト』はよかった！」、「自分も一緒に歌った。ステージで踊りたかった！」といった声が聞かれた。

創立75周年記念式典は、10月2日（日）に松永司教を迎えて執り行われる。

2月9日（灰の水曜日）から四旬節が始まります！

四旬節は復活祭をふさわしく迎えるための準備期間です。

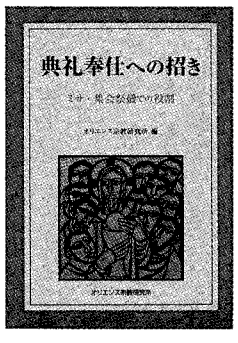
〈教会が行う断食について〉

【大斎】…灰の水曜日と聖金曜日。1日に1回だけ十分な食事をとり、そのほかに朝ともう1回わずかな食事をとることができます。満14歳以上の人が守ります。各自の判断で償いの他の形式、愛徳の業、信心業、節制の実行をもって替えることができます。

【小斎】…灰の水曜日と、一年を通じ毎金曜日（祭日を除く）。肉類を食べないことです。満14歳以上の人が守ります。各自の判断で償いの他の形式、愛徳の業、信心業、節制の実行をもって替えることができます。

※大斎・小斎は病気や妊娠などの理由がある人は免除されます。

BOOK 読みは専科



★典礼奉仕への招き
ミサ・集会祭儀での役割
オリエンス宗教研究所　編

本書は現代日本のカトリック教会のニーズに応え、第2バチカン公会議後のカトリック教会の典礼について解説し、ミサの意味とあり方、ふさわしい準備と各奉仕者の役割を詳しく説明している。またミサ以外の典礼での様々な奉仕の実践なども、それぞれを具体的に解説している。

オリエンス宗教研究所発行
税込価格　1470円

◇◇◇

★すわって　ふっと
ふりかえる
新しい教会像にむかって
比企　潔　著

日本のカトリック教会は、教会刷新の波のなかで、「現実」のほうから、具体的に教会のあり方の刷新を迫られています。まずともに、教会のなかで身近なことから見直していき、真の「教会」となるための糸口を見い出していきましょう。

女子パウロ会　発行
税込価格　600円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター
ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

ご聖体の「いのち」を生きる

カトリック教会のカテキズム

日　時：2005年2月27日(日) 15：00
場　所：カテドラル大名町教会
講　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参加費：1回　500円
主　催：福岡教区信仰教育委員会
＊テキストに「カトリック教会のカテキズム」を用い2003年4月から続けています。第1編「信仰宣言」から、その第2部「キリスト教の信仰宣言」に入り、現在「父である神」から「神のひとり子イエス・キリスト」を勉強中です。次の「聖霊」の箇所で第1編を終ります。「三位一体の神」を、より深く、もっと身近に受け入れることができるやさしい学びです。

熊本　神学講座・聖書講座のご案内

◆第四期神学講座
④2月20日(日) 13：30～16：30
「ナイスⅠ・Ⅱをへて福音宣教」
橋本　勲 神父（長崎教区）
⑤5月22日(日) 13：30～16：30
「聖書を知る旅」
高見 三明 大司教（長崎教区長）
⑥6月19日(日) 13：30～16：30
「宗教改革」
石井 健吾 神父（フランシスコ会）
⑦7月17日(日) 13：30～16：30
「人間の生命尊重と責任」
松本 信愛 神父（大阪教区）
⑧9月18日(日) 13：30～16：30
「キリスト者の祈り」
川添　猛 神父（帯山教会）

♣聖書講座
2月5日(土) / 2月19日(土)
「ヨハネによる福音書」を引続き読みます。
＊原則、第1・第3土曜日　14時～16時
＊2005年9月17日まで全15回
講　師：全回通して中村彰神父(健軍教会主任)
場　所：手取カトリック教会
主　催：熊本地区信徒使徒職協議会神学講座実行委員会
問合せ先：手取教会　☎096-352-3030

平和を共に考える 2月11日佐賀の集い

日　時：2月11日(金・祝日) 14時～16時
会　場：佐賀カトリック教会幼稚園ホール
テーマ：「私たちが、21世紀の初頭の今、考えなければならないこと」
講　師：本島　等（前長崎市長）氏
参加費：無　料
主　催：佐賀カトリック正義と平和協議会
問合せ先：☎0952-30-9015　森内慎一郎

案内版　会合と催し　2月のこよみ

福岡黙想の家ご案内　2月

◇7日(月)～8日(火)　サン・スルピス大神学校助祭研修
◇9日(水)　ミカエル会
◇11日(金)～12日(土)　聖母カテキスタ会黙想
◇13日(日)～14日(月)　オブレート会・福岡黙想
★15日(火)　祈りの日/四旬節黙想のための講話(10時～)
◇14日(月)～15日(火)　召命を共に祈る会黙想
◇18日(金)　むなかた和善の聖書
◇19日(土)～20日(日)　山口・島根信徒養成研修会
◇21日(月)～22日(火)　泰星・聖書研究グループ黙想会
★22日(火)　祈りの日/四旬節黙想のための講話(10時～)
◇24日(木)～25日(金)　日本カトリック児童施設九州ブロック職員研修会
◇26日(土)～27日(日)　第3回メメント・モリ・セミナー
[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

年間テーマ：ご聖体の秘儀を深めて
※祈りの集い（毎月第2木曜日）
2月10日(木) 10時～15時
テーマ：ご聖体とキリストの隠れた生活
指　導：Sr.マリアとFr.フランコ
問合せ先：真命山諸宗教対話・霊性交流センター
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186
E-mail shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時：2月19日・3月5日　10時～12時（第1、第3土）
場所：カテドラル大名町カトリック教会小聖堂
※基本的に第1・第3土曜。変更になる場合もあります。

会合と催し　2月のこよみ

1日(火)　司祭評議会　（司教館10時半）
2日(水)　主の奉献
†マテオ山川辰幸［2002年二日市教会］
3日(木)　召命祈願ミサ　（大神学院19時15分）
6日(日)　年間第5主日　二日市教会司教公式訪問・堅信式
9日(水)　灰の水曜日［大斎・小斎］
†J.コール［1911年手取教会］
11日(金)　ルルドの聖母（世界病者の日）　建国記念日
13日(日)　四旬節第1主日
宣教司牧評議会［司教館別館14：30］
14日(月)　†J.オマラ［1974年荒尾教会］
16日(水)　†J.ボア［1957年黒崎教会］
20日(日)　四旬節第2主日
22日(火)　聖ペトロ使徒座
†F.ベルトラン［1940年門司港教会］
23日(水)　†パウロ糸永武男［1992年今村教会］
26日(土)　今村信徒発見記念日（137年）
†F.ドルエ［1983年八王寺教会］
†G.オーブリ［1985年大神学院院長］
27日(日)　四旬節第3主日　カテキズム勉強会
戸畑教会　聖堂・司祭信徒会館祝福式
28日(月)　†マルチノ青木保［1997年浄水通教会］
3月
1日(火)　熊本信愛女学院体育館落成式
†O.ドノー［1965年水俣教会］
2日(水)　†M.ルッチ［1987年鹿島教会］
†J.オブライエン［1990年手取教会］
19日(土)　井手公平神学生祭壇奉仕者選任式［佐賀教会11時］
ゴチックは司教日程

◆福岡

大名町熱いスープの会

野宿生活者への炊出し支援
今年も2月4日(金)から支援を始めています。3月11日(金)までの毎週金曜日の14時から大名町カトリック教会の厨房でおにぎり作りをします。頒布は21時出発です。皆様のご協力をお待ちしています。

■第38回典礼・聖歌研修会
［日時］2月11日（金・祝日）9時30分受付　15時30分終了
［場所］笹丘カトリック教会（福岡市中央区）［テーマ］四旬節・聖週間・復活節の典礼聖歌・ミサについて（ローマ・ミサ典礼書総則（2000年・暫定訳）［講師］深堀純（大名町カトリック教会）氏［参加費］感謝献金（昼食＝受付時申込み）［問合せ先］☎092・541・3730松山敦子※どなたでも、ご参加頂けます。

■生と老い死を見つめる会
［日時］2月20日（日）14時から16時［場所］大名町カトリック教会［講師］川口貞親先生（九州大学保健学科講師）［内容］心の健康（うつ病について［参加費］700円［問合先］☎092・523・6072村尾

■ユリアナ会
［日時］2月24日（木）14時から16時［内容］統合失調症(2)［場所］福岡黙想の家［講師］小宮豊医師（小宮クリニック院長）［参加費］無料［主催］ユリアナの会［問合せ先］☎0940・38・8915（11時～16時／月～土）☎0940・32・3222（黙想の家）世話係☎0940・33・2731吉永

■在世フランシスコ会集会
［日時］2月27日（日）14時～16時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎09

◆北九州

■テーゼ祈りの集い
［日時］3月11日（金）19時半より［場所］戸畑カトリック教会［問合せ先］☎093・871・3019※ともに歌い、静かに祈りましょう。どなたでも自由に参加できます。

◆佐賀

■佐賀祈りの集い

教会建設のためのチャリティーコンサートにご協力を！

♡ギターとソプラノによるなつかしい歌のかずかず！
日　時：2月13日(日) 11：15～
場　所：笹丘カトリック教会
入場料：カンパ（教会建設のために）
問合せ：☎092-761-4504

ワールドユースデー ケルン大会募集要項

日　程：8月9日(火) ～25日(木)
団　長：岡田武夫大司教（東京教区長）
申込金：10,000円〈概算旅行代金25万円〉
募集締切日：2月末日
福岡教区申込先：中村彰神父（健軍教会）
☎096-368-2825
詳　細：中央協議会のホームページ［www.cbcj.catholic.jp/］をご覧ください。

1月9日に長崎で開かれたケルン大会の説明会風景

■第36回福岡ホスピスの会
［日時］3月13日（日）14時から16時［場所］大名町カトリック教会［内容］スピリテュアルペインそしてケア［講師］田畑正久先生（宇佐市佐藤第2病院）［参加費］700円［問合せ］☎092・843・5831岩崎
☎092・874・6321事務所

■聖書を読む会
［日時］毎月第1木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］ルカ福音を読む［講師］マルコ・ヴィッラ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］☎0952・23・4754ヴィッラ神父
［日時］2月9日（水）10時～11時半［場所］佐賀カトリック会館［内容］共に祈る［次回］2月23日（水）10時～12時はミサと祈り：毎月第2水曜日と第4水曜日。どうぞご参加下さい。［問合先］☎0952・72・7536吉田

編集後記

教区報を支えたもの、それは毎月の発行を心待ちに読んでくださった皆さんであることは言うまでもありません。教区報50年の歩みの中には、いつも心強い協力者の姿がありました。歴代の教区長の指導。取材・編集に関わってくださる修道者や信徒そして司祭たち、また発送の作業に従事してくださる人々。こうした方々の、地道で献身的奉仕に支えられて今日に至っています。この場を通して、心からの感謝をささげます。この1年を通して、教区報が伝えてきた教区の歩みを随時紹介していきたいと思います。また4月からは新企画も始まる予定です。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（1F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（2F）十字架、ロザリオ、ご像、CD、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後6時　定休日：木曜日
〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-14-26
電話　092-721-2032　FAX　092-739-3930

カトリック
福岡教区報

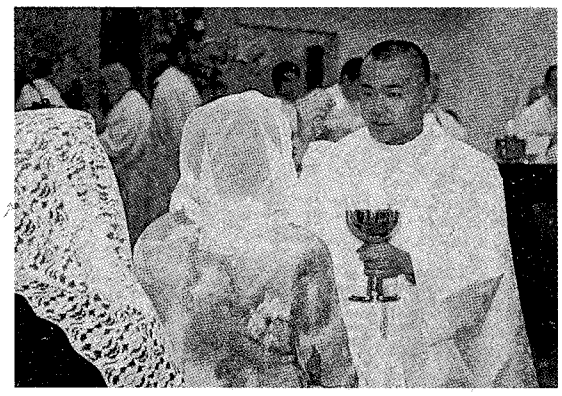
松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　牧山美好
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

2005年四旬節

教区長『ご聖体』についての教書を発表

2005年の四旬節にあたり、この年がご聖体の年と定められていることを思い、ご聖体について、黙想することにいたしましょう。

「ご聖体の神秘は、いけにえ、現存、会食による交わりです」とパパ様は回勅で教えられています。そしてこの神秘を単純化したり、勝手にしたりすることは許されないと念を押しておられます。そこで私たちは、この三つの点を考えて行きたいと思います。


聖体拝領　キリストとの一致

一　いけにえ

「主イエスは、引き渡される夜」（Ⅰコリント11・23）、ご自分の体と血によるご聖体の秘跡を制定されました。ご聖体には、主の受難と死という出来事が永久に刻みこまれています。罪人である私たちの救いはこの神秘に懸かっています。このことをよく考えてキリストに感謝を捧げるのは私たちの当然の務めです。

ご聖体は、そしてそのご聖体を現存させるミサの祭りは、罪の赦しのための犠牲の記念です。私たちも心を込めて御父に罪の赦しをお願いし、キリストに感謝を表さねばなりません。神の御子が十字架の死を通して、御父に罪の赦しを願ってくださったからです。

私たちはこの罪の赦しの神の神秘を十分には理解できませんが、それがご聖体の中に隠されていることを思い、礼拝と深い感謝を捧げるべきです。キリストの十字架を通して人間の救いが全っとうされたのです。キリストの全存在がいわば凝縮されている、この秘跡を何時も大切にしなければなりません。

二　現存

ご聖体の秘跡の特徴はキリストがそこに現存しておられることです。私たちはときどきキリストと同時代の人々は幸運だったと思います。キリストにお会いし、そのお話を直接聞くためなら、どんな長い旅行でもしたいと思います。ところでその本物のキリストがご聖体の中におられるのです。姿・形は違いますが、確かに現実に、キリストはご聖体の中におられるのです。私たちはそれを信じてカトリック者として生きているのです。

キリストはかつて、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる（マタイ28・20）」と言われましたが、いまキリストはご聖体の秘跡の形で、まことに私たちのそばにいてくださるのです。私たちは何時でもそばに行き、私たちのお願いを申し上げ、心の平和を戴くことができます。ご聖体の形で、救い主キリストはご聖体の秘跡の形で、まことに私たちのそばにいてくださるのです。

もちろん、キリストは秘跡的な形でおられます。私たちの姿を肉眼で見たり、私たちの声を耳で聴いたりはなさいません。でも、私たちの全てをご存知です。全てを配慮してくださいます。私たちのそばに共にいてくださるキリストを与えられていることは、私たちの大きな宝であり喜びです。

三　会食による交わり

ご聖体は会食の形で制定されています。食事は一人ですることはなく、仲間と共にするものです。仲間と喜びを共にし、力を蓄えるべきなのです。私たちはご聖体を拝領を大切にすること、また状況に応じて聖体行列などの信心行で、外面的にご聖体に対する敬意を表すことなどを心掛けるようにしたいものです。パパ様がこれらのことをのご聖体拝領仲間の交わりを大切にし、神の国のための働きを共にすることを忘れてはなりません。

食事の場は楽しいものであるはずです。ですから聖体拝領の場も楽しいものにするよう努めましょう。議論したり何か意気込んで気勢をあげると云ったものでなく、安らかな気持ちで力を養い、明日の活動に備えるものにいたしましょう。キリストの御体と御血を受け、それを安らかに受け止めて、明日の働きに備える心が大切です。

そして、今度の公会議で明らかにされた教えの一つは、教会が交わりであるということです。ご聖体によってキリストの命に与かり、その力をいただいた者はキリストの国の建設のため全力を挙げて働かねばなりません。そのためにこそ、ご聖体からいただいた力を活用すべきなのです。隣人愛の実践こそご聖体のこころと云うことができますので、隣人愛の実践のために全力を捧げるべきなのです。ご聖体拝領により、キリストの力に与かった者は、キリストの働きをこの地上で続けて行く者としての姿を見せねばならないのです。

ご聖体について語るべきことは、まだまだ沢山あります。しかしここに全てを語ることは出来ません。ただ、ご聖体拝領を大切にすること、また状況に応じて聖体行列などの信心行で、外面的にご聖体に対する敬意を表すことなどを心掛けるようにしたいものです。パパ様がこれらのことを勧められたことを思いましょう。

パパ様はご聖体こそ教会にキリストが委ねられた勝れた宝と云っておられます。この宝物を私たちも大切にして参りましょう。素晴らしいお恵みを沢山いただくことが出来るに違いありません。このお恵みによって、神の御心に適った地上の世界を建設するよう努力してまいりましょう。

福岡教区の皆様の上に神さまの豊かな祝福をお祈りいたします。

福岡教区長
ヨセフ　松永久次郎　司教

3月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】貧しい人、被疎外者、被抑圧者のための開発計画
【布教の意向】新福音宣教のための聖なるキリスト者
【日本の教会の意向】新しいいのちの躍動

井手公平神学生の祭壇奉仕者選任式

日　時：3月19日（土）11時
場　所：佐賀カトリック教会
※祭壇奉仕者は、教会の特別な役割を含む信者と共に聖体を授けます。

時の話題

河井田 研朗

しばらく前から子どもを持つ信者の家庭の悩みの一つに、子どもをカトリックの学校に入れたいのに、なかなか入試に通らないと言うのがあった。各カトリック校はよい教育を施すことに務め、時間が経つにつれ評判が上がり、その結果入学希望者が増え、入学が困難になると言う因果関係である。もっとも今後は、少子化により小中高各校のいずれにおいても年々入学者が減少するようになるので、このような信者家庭の悩みも、かなり緩和されていくように思われる。

カトリック学校にカトリック信者の先生を

これに対して現在静かに進行しているカトリック学校の問題点に、信者の先生の減少化の傾向があると思う。その第一の原因は、修道者への召命の減少にある。このため、幾多の小中高校で修道者の先生が殆どいなくなったり、或いは少数の高齢者のみになって、一般教科においても、出来るだけ宗教基盤を持つ教師による知識の伝達が望ましい。その意味での召命の減少対策はひとまず措くとして、一般信者の教員の確保と増大とはこれを積極的に図り、そのための知恵をめぐらせる必要があろう。例えば修道者の場合、必要であれば、修道会の枠を超えて互いに有資格者を融通しあうことが考えられるであろう。また一般教員の場合、定年退職者を見込んで、若い教員志望者に数年先を予約しておくとか、成年の社会人の信者の有資格者を採用するなどの工夫がほしいと思う。

（茶山教会信徒）

『聖体の年』の取組を検討

司祭評

2月8日（火）、司祭評議会が司教館で開催され教区長を含む14人の評議員が参加した。

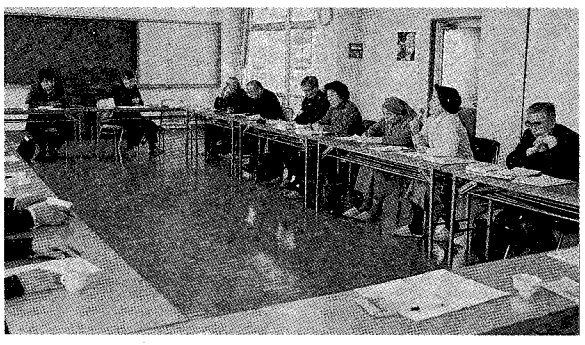
今回の評議会では、「聖体の年」にあたり、教皇様の意向に沿って教区内でも聖体に対する信心をより充実していくための行事・具体的取り組みが検討された。

加えて司祭・修道者、特に教区司祭の召命を促進するために各地区や各小教区で実際に行われている取り組みが報告され、新しい提案も出された。今後、宣教・司牧評議会と連携し、教区が一致して進めていくことになった。

第3回宣教・司牧評議会開催される

2月13日（日）、司教館で第3回福岡教区宣教・司牧評議会が開催された。

評議会ではまず、教区内におけるこれからの信徒の養成のあり方について検討した。



各評議員から各地区・各小教区で行われている事例を踏まえた意見や現状が報告され、さらに今後の活動のための要望や意見が出された。

また、先の2月11日の司祭評議会から提案された「聖体の年」の行事について、現在実施されている聖体奉仕者養成を軸にして計画していくことになった。

同じく、司祭・修道者の召命促進のためには、様々な案が出され、今後、より具体的に取り組んでいくことになった。

みちくさ

「神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それは極めて良かった。夕べがあり、朝があった」（創世記1章31節）。いのちを育む星、かけがえのない地球。今日も人類をはじめ、数多くの生きものたちの生命の営みを抱いている▼地球の大気中の二酸化炭素濃度が増加し、気温が少しずつ上昇している。現在四季の変化に富んでいる日本だが、このまま温暖化が進めば、冬がなくなり三季になるといわれている。専門家たちは、これ以外にも地球規模で起こる様々な現象を危惧している▼京都議定書が発効した。二酸化炭素排出量削減へ向けて、批准各国での具体的な取り組みがいよいよ本格化する。目標達成は到底不可能という声も聞かれる。しかし、一人一人ができることを、今、始めなくてはならない▼人類は自然を克服し、利用することで文明を発展させた。今日に見る人類の繁栄は、どこかバランスを欠いている。人類をはじめ多くの生き物たちの生命活動そのものに伴う二酸化炭素の排出は通常問題とならない。人間がこの世界で優位に立っていること、それをふりかざした横暴な振る舞い、自然界との調和を無視した活動を行ったことに対する代償を払うことをいま求められている。「神の似姿」として造られた人間が、その「真の姿」を取り戻すことが何よりも必要なことだと思う。征服するのではなく、調和しつつ共に生きていくことをめざしたい▼美しい地球、この星をみんなで守りたい。そして、この星の未来を見つめてゆきたい。

（F）

四旬節教皇メッセージ
主を愛し、御声を聞き、主に従いなさい

教皇ヨハネ・パウロ二世は全世界のカトリック信者に宛てて四旬節メッセージを発表しました。（以下はその要約）

1．今年のテーマは、申命記の一節、「あなたの神、主を愛し、御声を聞き、主に付き従う」（申命記30・19―20）によって表されています。これはモーセがイスラエルの民に向かって語った言葉です。教皇はメッセージの中で「長生きは神の特別な贈り物」と言います。聖書的な理解によれば、老齢に達することは、いと高き方の恵みあふれる慈しみのしるしです。

今日、科学と医学の進歩によって、人の寿命は長くなり、結果として高齢者人口が増加しています。こうした状況において、「高齢」社会への踏み込んだ配慮が要求されています。そこで、教皇は今日的テーマを掲げて、高齢者が社会や教会で果たすよう期待されている役割への気づきを深めるよう促しています。

2．教皇は、人の命は貴い賜物として愛され、そのすべての段階において守られるべきであると述べます。「殺してはならない」という掟は、その始まりから自然な終わりまで、人命の尊重と擁護を常に要求しています。この掟は、病気や身体的な弱さによって、自らに頼むこともできないほど能力が衰えてしまった場合にも当てはまります。教皇は「年老いていくことを、その避けられない健康状態と共に、信仰の光のうちに穏やかに受け入れれば、人間としての存在に豊かな意味を与える十字架の秘義を、より良く理解するための計り知れない機会にすることができる」と述べています。

この観点から、高齢者を理解し、援助する必要があります。教皇は、こうした必要のために自らをささげている人々に感謝を表し、また他の人々にも、四旬節の機会に個人的な貢献をするように願っています。こうすることで、多くの高齢者たちが自分たちを共同体の、そして時には自らの家族にとっても重荷だとさえ考えることがないようにし、寂しい生活を送り、孤立したり希望を失ってしまう傾きに陥らないようにすることができるからです。教皇は世論の中に、高齢者はどんな場合でも価値ある人的資源であることへの気づきをもたらす必要があると述べます。

3．高齢者が持つまとまった自由時間は、根本的な問題と向き合う機会です。教皇は高齢者が人生の最終目標が近いことを知ることによって、本質的なことに集中し、年月の経過によっても損なわれないそうしたことに重要性を見出すようになると指摘します。まさにこのことによって高齢者が社会でその役割を果たすことができるのです。教皇は「人が先人の遺した伝統によって生き、その未来が最終的に、民族の文化的価値がどう伝えられてきたかにかかっているとしたら、高齢者の知恵と経験は、よりいっそう完全な形態の文明に向けた進歩への道を明るく照らし出すことができる」と述べます。大切なことは、違った世代が互いを豊かにできることを再発見することです。

4．教皇は、四旬節の間に、神のことばに助けられて、各共同体が年老いていく人々に、愛情豊かな理解とともに寄り添うことがいかに大切なことか省みるよう、呼びかけています。さらには「死の神秘について確信をもって考えることに慣れていく必要がある」と述べています。神との最終的出会いを、内面的な平安のうちに迎えることができるようになるためです。最後に、教皇は四旬節の旅路に伴ってくださるマリアが、すべての信者を、特に高齢者を、死んで復活されたキリストについて、私たちの存在の究極的な理由として、よりいっそう深く知るよう導いてくださる、と述べています。（文責＝編集部）

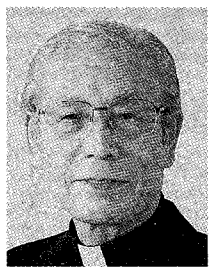
教会について考える（完）

堅信準備の勉強会に出席する中学生に次のようなことを尋ねたことがありました。「教会近くにあるコンビニが無くなるのと教会が無くなるのはどっちが困る？」中学生「もちろんコンビニ」「どうして？」「だって教会が無くなったら教会に来なくていいもん」そんな答えが返ってきました。子どもたちにとって教会の存在意義がこのようなものであるとするならば、教会は何のためにまた、誰のためにあるのだろうかと考えさせられました。教会は自己主張する場でもなければ、営利を追及する場でもありません。であれば、もし教会の中で自分の考えが、たとえ通らないことがあったとしても、全体の一致を乱すことなく、協力すべきでしょう。しかし、残念なことに自分の思いが教会のなかで通らなかったりすると教会から離れたり、あるいは自分の思いを通そうとするばかりに教会の中で人を傷つけ、その方が教会を離れるといったことは、しばしば耳にし、目にすることです。パウロはコリントの信徒に次のように書き送りました。「わたしは、人々にとってはつまずきでしかなかったこの十字架につけられた方を宣べ伝えています。ユダヤ人にとっては躓かせるもの、異邦人にとっては愚かなものですが、ユダヤ人であれギリシア人であれ、召された人にとっては、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えています。」（コリント書1章）

すなわちキリストが福音書の中で築こうとされた状態、父なる神のみ旨の実現だったと思います。教会は誰のためにあるのか、また地域の中でどんな意味を持っているのか、ともに問い続けていきたいと思います。

戸畑教会主任　森山信三神父

教区報創刊50周年
第2代編集長から



山田成章神父

教区報は、生々しい教区の歴史の記録であると云われるが、その内容には悲喜こもごもの人生の歩みがみえる。その中で、悲しい出来事の最たるものは訃報であろう。これに対して、司祭叙階式や小教区の創立記念行事などのめでたい記事に接すると、神への感謝で心は軽くなる。ある国の首相が国会の答弁で、「人生いろいろ」と云って話題をまいたが、教区報の記事もいろいろである。

ところで、独断と偏見かもしれないが、教区報の存在価値は、教区の民の交わりの記録にもあるのではと思う。たとえ辛口批判であっても、信徒・修道者の声がどの程度、司祭・司教の耳に届いているのだろうか。教区活性化の一助として、小さな二つの提案をしてみたい。

一、声（投書）の欄の設置について

昨今、多様性の価値観の社会の渦に生きる教区民の中には、満たされた平安な心で過ごしている人もいる反面、欲求不満のとげとげしい心で隣人に接する者がいても不思議ではあるまい。自分の（意見）、判断こそ正しいと思っている者が投書による他の意見にふれたとき、一歩退いて反省することも出てくるのではないだろうか。信徒相互の、また信徒と司祭間の意見交換も恵みの因になる。

二、カテキズムの紙上解説について

教会司牧の任務を果たす時に、信徒のカテキズムの理解不足によく出会う。一例をあげると、病者の塗油の秘跡についての実話である。かなり重症だったが、本人はそれほど自覚のない入院中の信徒がいた。身内を介して病者の秘跡をすすめたが、本人は頑固に拒んでいた。その理由として、病者の秘跡は最後の秘跡で、余命いくばくもない死に臨んだ者だけが受けるもので、自分にはまだ関係ないと言っていたらしい。しかし、一週間後にはその秘跡を受けることなく神に召されていった。

カテキズムの講座がカテドラルで開かれているが、皆が参加できる訳ではない。小教区司祭の責任を感じるが、教区報の少しの紙面を割いて、定期的に平易な要理解説欄を設けていただくとありがたい。

（茶山教会主任）

聖体の年に与えられる免償に関する教皇庁内赦院教令（要約）

教皇ヨハネ・パウロ二世は、教会への配慮と聖体の秘跡に対する公私にわたる信心の奨励のために2004年10月7日付けの使徒的書簡『主よ、一緒にお泊まりください』によって全教会が「聖体の年」と呼ばれる特別な年を祝うように定められました。

さらにこの一年を通じて、信者が神聖な「信仰の神秘」へのより深い知識、いっそう大きな熱愛と霊的実りを得るよう奨励するため、教皇は12月17日の謁見において、次に記す聖体への特別な礼拝行為に対して免償を与えることをお望みになりました。

免償を受けるために必要な要件

1　通常の要件（罪の傾きから完全に離れようとの意思のもとでの、ゆるしの秘跡、聖体拝領、教皇の意向のための祈り）のもとで、荘厳に掲示されるか聖櫃に納められた聖体への礼拝を行う聖なる典礼または敬虔な儀式に、積極的な意向をもってあずかるたびごとに、信者全体と個々の信者に全免償が与えられる。

2　聖職者、奉献生活と使徒的生活の会、「教会の祈り」による典礼の朗誦義務を負う信者たち、さらに「教会の祈り」を敬虔な信心をもって祈ることを習慣としている信徒に対し、次の要件で全免償が与えられる。公的または私的な礼拝行為に果たす決意をもって、あわれみの神に自分の病と困難な生活をささげること。

なお、「聖体の年」は今年の10月2日から29日にバチカンで開催される第11回シノドスで閉幕する。

（文責＝編集部）

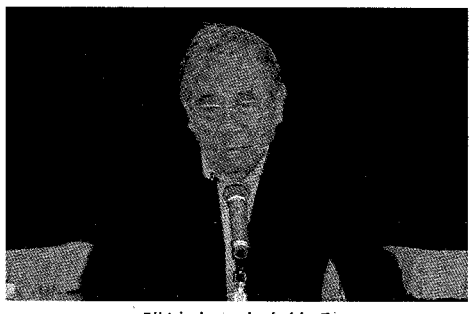
聖なる三日間の典礼と主の復活を祝う
3月24日聖木曜日20:00～　／25日聖金曜日15:00～
26日聖土曜日・復活徹夜祭23:00～／イースター11:00～
PRAYER GROVE MUNAKATA
カトリック福岡黙想の家
聖堂／洋個室（洗面トイレ付）／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056　Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ　青木 彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

平和を共に考える2月11日佐賀の集い


講演中の本島等氏

平和を共に考える佐賀の集い（主催＝佐賀カトリック正義と平和協議会）が、2月11日、佐賀カトリック幼稚園ホールで開かれ、70人が参加した。

講師に、前長崎市長本島等氏（長崎教区中町教会信徒）を招き、「私たちが、21世紀の初頭の今、考えなければならないこと」をテーマに行なわれた。

講演の中で、本島氏は戦争の悲惨さを訴え、「国は国民一人ひとりを大切にしてほしい」と語った。「権力者が考える愛国心を作り上げ、それをあおることは戦争へと向かう予兆」と述べ、今日、世論を一つの方向へ導こうとする流れが押し寄せていると指摘した。そこで本島氏は、「愛国心とは、ふるさとや親兄弟、芸術や文化を愛することであり、いざというときに銃を取ることではない」と説いた。

さらに、日本に課せられた大きな問題は、太平洋戦争とその前後のことを韓国、北朝鮮、中国、台湾の人々にどのように謝罪するかであるとも述べた。

最後に、本島氏は「今、平和の実現のために、国民一人ひとりに相手を助ける精神があるかどうかが試されている」と問題を提起した。戦争・被爆体験者である本島氏の言葉は、一言一言が重みがあり、聴衆の心を強く打つものだった。

600人におにぎり　野宿者支援

今年も大名町カトリック教会を拠点として、2月と3月半ばまでの毎週金曜日の夜、野宿者への炊き出しが行われている。この活動が大名町教会有志によって始められたのは、1987年のこと。今年で19回目を迎える。最初の年には60名余りだった野宿者も年々増え続け、今年は約600名の野宿者が対象である。

「2月の熱いスープの会」の炊き出しは、調理と配布とに作業が分担されている。まず、金曜日の午後におにぎりや豚汁、ゆで卵などが人数分調理される。これは大名町教会マリア会や地区婦人会の全面的な協力によって行われている。毎回多くの方が協力してくださり、心のこもった食事が用意されている。

夜になると、今度は配布のためのボランティアが集合してくる。ボランティアには福岡近辺の小教区からも多くの方が参加して下さっている。また、5年ほど前から泰星学園の聖書研究会のメンバーが定期的に参加しているほか、大牟田の明光学園からも、毎年生徒たちが参加している。

さらに2年ほど前から、美野島司牧センターを拠点に活動をしているNPO法人「福岡おにぎりの会」と共同配布を行っている。それによって、従来配布してきた天神、博多駅、中州周辺だけでなく、これまでカバーできなかった地域をも訪れることができるようになった。野宿者の環境が特に厳しくなるこの時期に、共同で活動することにより、野宿を強いられている方々をひとりでも多く支援できるように、これからも連携を強めていきたい。

600食の豚汁とおにぎりを作る婦人たち

さらに最近の活動の特徴として、活動協力のエキュメニカルな広がりがあげられる。「福岡おにぎりの会」もそうだが、カトリックだけでなくバプテスト教会や聖公会、日本キリスト教団などから、配布ボランティアやおにぎりの差し入れなど、教派を越えて多くの協力が実現している。野宿をよぎなくされている方々への支援を通して、このような暖かい協力の環境が広がっていることに、いつも力づけられながら活動をおこなっている。

「炊き出し」と言っても、ただ単に食事を配るだけが目的ではない。野宿を強いられている環境で最も不足しているのは、心と心との交わりである。わたしたちはこれからも、おにぎりという手土産と共に、わたしたちの心を届けていきたいと思う。

「今日、キリストは、いらないと思われている人、雇ってもらえない人、愛してもらえない人、餓え、裸で、家のない人のなかにおられます」（マザー・テレサ）

宣教の在り方を考える会を開催

2月11日、カテドラルで「第2回宣教の在り方を考える集い」を開いた。これは昨年の1月森一弘司教の呼びかけで行われた「宣教のあり方を考える集い」に福岡教区から参加した有志によって主催され60余人の信徒、修道者、司祭が集った。

事前に出されていた課題「あなたにとって『教会』とは何ですか?」、「あなたは何によって元気になりますか?」の2つについてパネラーの話し合いが行われた。

「あなたにとって教会とは」の質問に「神との出会いの場」、「癒されに行くところ」、などの声と共に、「何によって元気になるか」に対しては、「人が喜んでいるのを見て、元気になります」といった若者の意見もあり『旅する教会』を感じる集いだった。

熱心に分かち合う参加者

木かげ

畠山七郎神父

主よ、帰ってきてください、いつまで捨てておかれるのですか。

あなたの僕らを力づけてください。

朝にはあなたの慈しみに満ち足らせ、生涯、喜び歌い、喜び祝わせてください。

あなたが私たちを苦しめられた日々と、苦難に遭わされた年月を思って、私たちに喜びを返してください。（詩篇90／13―15）

神様のお恵みと皆様のおかげで司祭叙階金祝を迎えることができたことを先ず感謝したいと思います。

司祭叙階50年を迎えて

西暦2000年それは、遥か彼方の未来でした。それが、今2005年なのです。「過ぎ去った年月は永いものでしたか」と時々尋ねられます。30年前、40年前、50年前、私が働いた10箇所の思い出のつまらない話をすれば、それは長いものに思われますが、話し終われば、まさに「昨日が今日へと移る夜のひと時に過ぎません」（詩篇90―4）

先日、私の叙階記念の御絵を持って、尋ねてきた人がいましたが、御絵の裏の御言葉が読めないと言いますので、見てみますとラゲ訳の文語文をしようとの決意を持っていたのです。もし今、金祝記念の御絵を作るとすれば「夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした」（ルカ5―5）と書こうと思っていますし、書かなければならないでしょう。

それでも、50年前イエス様は「わたしについてきなさい」（マタイ4―19）とわたしをお呼びくださいました。ためらいはありましたが、悔やむことなく従いました。

ヨハネ福音書によると「私に従いなさい」（ヨハネ21―22）これがイエス様がペトロに言われた最後の言葉です。

ペトロが最初に呼ばれたとき（マタイ4―19）イエス様に従うということが自分にどういうかかわりを持つことになるか、はっきり分かっていなかったと思います。イエス様の御受難の後、自分の裏切りの後でその言葉の意味を以前よりもっと分かるようになったのではないでしょうか。それでもその意味が完全に分かるのは彼の殉教の時でしょう。「他の人に帯を締められ・・・」（ヨハネ21―18）

人生の夕暮れ、「私に従いなさい」とイエス様は呼び続けられるのです。なんと長い間、わたしは始めましたが、また倒れました。長続きはしませんでした。それでも、イエス様はそこにおいでになりました。イエス様に従うことは、イエス様より先に行ったり、早く行くことではありません。従うことはへりくだって、後について行くことだ、と悟らせてくださいました。

イエス様が最後に「わたしに従いなさい」と呼ばれる時「はい、参ります」と喜んで従うことが出来るように、神様のお恵みと皆様のお祈りを、今年金祝を迎えるわたしとまだ1人もかけていないわたしの同級生4名の司祭のために、お願いしたいと思います。

（本郷教会主任司祭）

BOOK 読みは専科

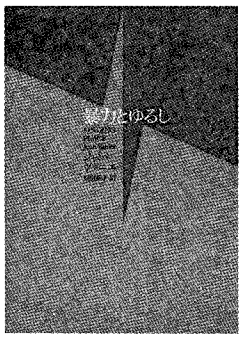
★ハルブ神父の生涯…よみがえる明治の宣教師…
廣瀬　敦子　著

今ここによみがえる百年前の宣教師、著者自らが神父の布教地の長崎、大分、臼杵、奄美大島、黒崎、天草、故郷のフランスを訪ね、実地踏査を重ねた感動の記録。

パリ外国宣教会の活動を中心とした、江戸末期から明治期にかけてのカトリック教会の歴史が、今明らかにされる。

サンパウロ　発行
税込価格　1470円

◇　◇　◇



★暴力とゆるし
ジャン・ヴァニエ著

九・一一を超えて、その彼方に著者が見すえるものとは?どうすれば真の平和が築けるのか?『テロとの戦い』が声高に叫ばれる時代、わたしたち一人ひとりに何ができるか。困難な時代にあって、著者が新たなヴィジョンを語る。

女子パウロ会　発行
税込価格　600円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服、聖器具、聖像
信心用品、ベール、
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

ご聖体の「いのち」を生きる

カトリック教会のカテキズム

日　時：2005年4月24日(日) 15：00
場　所：カテドラル大名町教会
講　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参加費：1回　500円
主　催：福岡教区信仰教育委員会

熊本　神学講座・聖書講座のご案内

◆第四期神学講座
⑤5月22日(日) 13：30～16：30
「聖書を知る旅」
高見 三明 大司教（長崎教区長）
⑥6月19日(日) 13：30～16：30
「宗教改革」
石井 健吾 神父（フランシスコ会）

♣聖書講座
3月5日(土)／4月17日(土)
「ヨハネによる福音書」を引続き読みます。
＊原則、第1・第3土曜日　14時～16時
＊2005年9月17日まで全15回
講　師：全回通して中村彰神父(健軍教会主任)
場　所：手取カトリック教会
主　催：熊本地区信徒使徒職協議会神学講座実行委員会
問合せ先：手取教会　☎096-352-3030

R.カンタラメッサ神父の特別黙想会案内

日　時：5月4日(水)～7日(土)
場　所：長崎大司教区カテドラル浦上教会
テーマ：「イエス・キリストに招かれて」
…イエスは「来なさい、そうすればわかる」と言われた…
参加費：自由献金
対象者：信徒・修道者・司祭　申込み不要
指導者：教皇聴罪司祭・教皇担当説教者
主　催：カンタラメッサ神父指導による黙想会実行委員会
問合せ：カトリックファミリーセンター
☎092-541-6207　FAX 092-552-5022

新中学一年生と保護者の集い

日　時：4月3日(日) 14時～16時
場　所：大名町カトリック教会1階講堂
対　象：小学6年生とその保護者
指　導：山頭原太郎神父（元泰星学園校長）
テーマ：「勉強と中学生としての心構え」
参加費：無料です。
問合せ先：☎092-741-3687　大名町教会

第44回クルシリヨ開催 参加者募集

日　時：5月3日(火)10時 ～ 5日(木)16時
場　所：福岡黙想の家（☎0940-32-3222）
参加費：12,000円（宿泊・食費・用品代含む）
携行品：ロザリオ・着替・寝間着・洗面具
連絡先：☎FAX 092-661-0120（大谷真造）

案内版　会合と催し

福岡黙想の家ご案内　3月

★1日(火)　祈りの日/連続講話・ヨハネによる福音③（10時～）
◇6日(日)～8日(火)　休館
★15日(火)　祈りの日/連続講話・ヨハネによる福音④（10時～）
◇19日(土)～21日(月)　聖家族会黙想
◇20日(日)　カトリック細江教会・グループ黙想会
★22日(火)　祈りの日/連続講話・ヨハネによる福音⑤（10時～）
◇23日(水)　ミカエル会
◇24日(木)～27日(日)　聖なる三日間の典礼と主の復活を祝う
◇28日(月)～4/1日(金)　オブレート会・会議
★『祈りの日』はどなたでも無料で参加できます。
多数のご参加をお待ち申し上げます。
[問合先] 御受難会福岡黙想の家
☎0940・32・3222　FAX 32・3385

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

年間テーマ：ご聖体の秘儀を深めて
※祈りの集い（毎月第2木曜日）
※3月10日(木) 10時～15時
テーマ：ご聖体とキリスト受難
指　導：Sr.マリアとFr.フランコ
問合せ先：真命山諸宗教対話・霊性交流センター
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186
E-mail shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時：3月19日・4月2日　10時～12時（第3、第1土）
場所：カテドラル大名町カトリック教会小聖堂
※基本的に第1・第3土曜。変更になる場合もあります。

3月のこよみ

2日(水)　†M.ルッチ［1987年鹿島教会］
†J.オブライエン［1990年手取教会］
6日(日)　四旬節第4主日
†H.ジョリ［1966］
7日(月)　ミカエル平田寛［2002門司教会］
8日(火)　松永司教霊名の祝い（浄水通教会11時）
12日(土)　†F.M.ヴェイヨイ［1973］
13日(日)　四旬節第5主日
16日(水)　†L.M.ベリボ［1977年箱崎教会］
19日(土)　聖ヨゼフ
井手公平神学生祭壇奉仕者選任式［佐賀教会11時］
†J.ベラス［1990年］：M.ボネ［1959年］
20日(日)　受難の主日（枝の主日）
21日(月)　春分の日
22日(火)　聖火曜日　聖香油ミサ（カテドラル15時）
24日(木)　聖木曜日　主の晩餐（カテドラル19時）
25日(金)　聖金曜日　主の受難（大斎・小斎）
聖地の為の献金日
26日(土)　聖土曜日　復活徹夜祭（カテドラル19時）
†J.ドイル［1982年荒尾教会］
†J.ムルグ［1989年小倉教会］
27日(日)　復活の主日
4月
3日(日)　復活の第2主日（神のいつくしみの主日）
花岡山殉教祭
4日(月)　神のお告げ
†ペトロ黒川博［2002年八代教会］
ゴチックは司教日程

◆福岡

スマトラ地震及び大規模津波被害支援募金について

救援募金はカリタスジャパンを通じて募集中。　振込先は下記の通り。
郵便振替　00170－5－95979
加入者名　カリタスジャパン
通信欄に「スマトラ地震及び大規模津波被害支援」と明記してください。

■第36回福岡ホスピスの会
[日時] 3月13日（日）14時から16時 [場所] 大名町カトリック教会 [内容] スピリテュアルペインそしてケア [講師] 田畑正久先生（宇佐市佐藤第2病院）[参加費] 700円 [問合せ] ☎092・874・6321事務所

■召命を共に祈る集い
[日時] 3月17日（木）14時30分 [場所] 召命の家 [指導] 浦川務神父（召命担当）

■ユリアナ会
[日時] 3月24日（木）14時から16時 [内容]「うつ病と躁うつ病」[場所] 福岡黙想の家 [講師] 小宮豊医師（小宮クリニック院長）[参加費] 無料 [主催] ユリアナの会 [問合せ先] ☎0940・38・8915（11時～16時／月～土）☎0940・32・3222（黙想の家）世話係☎0940・33・2731吉永

■在世フランシスコ会集会
[日時] 3月20日（日）14時～16時 [場所] 高宮フランシスコ会修道院在世会集会所 [内容] アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習 [指導] 小池如安神父 [問合先] ☎092・843・5831岩崎 [次回] 4月24日

■福岡結婚準備講座
[日時] 5月14日（土）から6月8日（水）毎水曜日と土曜日全8回19時～21時30分 [場所] 大名町カトリック教会 [参加費] カップルで一万四千円 [問合先] ☎092・541・6207 FAX 092・552・5022カトリック・ファミリーセンター

◆北九州

■テーゼ祈りの集い
[日時] 3月11日（金）19時半より [場所] 戸畑カトリック教会 [問合せ先] ☎093・871・3019＊ともに歌い、静かに祈りましょう。どなたでも自由に参加できます。

■小倉祈りの会
[日時] 3月18日（金）13時半から15時 [指導] ガブリエル神父（御受難会）[場所] 小倉教会信徒会館2階 [内容]「みことば」を味わう・賛美と感謝の祈り [連絡先] ☎093・921・2280安藤

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
[日時] 3月9日（水）10時～11時半 [場所] 佐賀カトリック会館 [内容] 共に祈る [次回] 3月23日（水）10時～12時はミサと祈り：毎月第2水と第4水曜日。どうぞご参加下さい。[問合先] ☎0952・23・4754ヴィッラ神父

■聖書を読む会
[日時] 毎月第1木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時 [場所] 佐賀カトリック会館 [内容] ルカ福音を読む [講師] マルコ・ヴィッラ神父 [テキスト] 聖書 [参加費] 無料 [問合先] ☎0952・23・4754ヴィッラ神父

◆熊本

■花岡山殉教祭
[日時] 4月3日（日）14時 [場所] 花岡山（熊本市春日4丁目）[問合先] 島崎教会

■熊本結婚準備講座
[日時] 5月9日（月）から5月31日（火）毎月曜日と火曜日全8回19時～21時30分 [場所] 手取カトリック教会 [参加費] カップルで一万四千円 [問合せ先] ☎096・352・3030 FAX 096・352・1515手取教会　安部

2005年度聖霊による信仰生活刷新セミナー

第1週　4月4日(月) 10時半～
「神の愛」　T.ドワイヤー師
第2週　4月11日(月)　10時半～
「救いのみわざ」　寺浜　亮司 師
第3週　4月18日(月)　10時半～
「新しい生命」　青木　悟 師
第4週　4月25日(月)　10時半～
「神の賜物の受領」　S.ライル　師
第5週　5月2日(月)　10時15分～
「みたし」　F.マッケイ 師
第6週　5月9日(月)　10時半～
「聖霊のうちでの成長」　H.オカロル 師
第7週　5月16日(月)　10時半～
「派遣ミサ」（キリストの証人）
松永司教と司祭団

会　場：大名町カトリック教会
会　費：自由献金
テキスト：新生への門出（600円）
主　催：福岡地区（福岡・北九州・佐賀）聖霊刷新セミナー実行委員会
連絡先：☎092-522-5139（Br.床島籐吾）

編集後記

二面に掲載してきました「教会について考える」は今月号が最終回です。1年間執筆してくださった森山信三神父様に心から感謝申し上げます。
また4月号からは真命山のフランコ神父様に執筆していただく予定です。
四旬節も半ばを過ぎました。主のご受難の神秘を黙想し、復活の栄光の輝きへと向かって、洗礼志願者と共に歩んで行きたいと思います。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田 清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（1F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（2F）十字架、ロザリオ、ご像、CD、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後6時　定休日：木曜日
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26
電話 092-721-2032　FAX 092-739-3930

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

4月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】　日曜日を主の日として生きる

【布教の意向】　宣教者の豊かな召し出し

【日本の教会の意向】　召命の促進

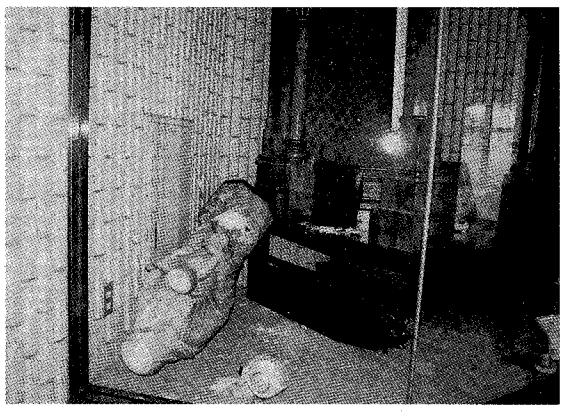
主イエス キリストは復活された。
アレルヤ！

福岡県西方沖地震

福岡教区に激震

受難の主日のミサ時間帯を襲った揺れ
教会での人的被害は最少限に留まる

3月20日（日）午前10時53分、福岡県西方沖を震源とする地震が発生、この日教会では受難の主日の典礼が行われており、多くの信者が集まっているところに激しい揺れが襲った。震度6弱を観測した福岡市中央区にあるカテドラル大名町教会では、数人が転倒し負傷者が出た。また聖堂入り口に安置されていた勝利の聖母像が落下し破損、パイプオルガンが一部破損するなどの被害が出た。



落下し破損したカテドラルの「勝利の聖母像」

この日は四旬節最後の受難の主日（枝の主日）で、地震発生時には多くの教会で黙想会やゆるしの秘跡、聖週間の典礼ための侍者の練習などが行われており、教会には多くの信者が集まっていた。

大名町教会ではミサに参加した500人の信者が、席を立って聖堂入り口付近に向かっているときだった。建物全体がぐらぐらと大きく揺らぎ、鐘楼の鐘が鳴り響いた。人々は椅子の間にしゃがみこんだり、床に伏し、柱につかまるなどして恐怖に耐えた。とっさに子どもをかばって身を伏せる母親、お年寄りのもとに駆け寄って抱きかかえる若者もいた。

揺れがおさまって、人々の泣き声、恐怖と安堵が入り交じったどよめきが起こった。「落ち着いて行動してください」という声に従い、人々は離れないように手を握り、支え合って避難した。けが人がいる、という求めに居合わせた医師が迅速に対応し、救急車の到着を待つ間応急処置をおこなった。避難する途中、落下し傷ついた勝利の聖母像を見やりながら「マリア様が私たちの身代わりになってくださった」と、涙を流す人もいた。

地震の衝撃で、教会横の塀が一部破損した。

中央区の南部に位置する笹丘教会では黙想会のミサが行われていた。大きな揺れに、主任司祭は侍者の子どもたちを守るように抱え込みながら床に伏した。

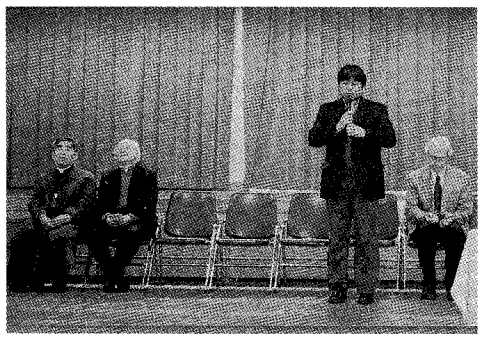
早良区城西の西新教会では聖体拝領の時に揺れに襲われた。司祭は「ご聖体が入ったチボリウムを手で覆いながら祈りました」と話している。

志摩町の糸島教会では食器や本が落下、聖母像が倒れた。

博多湾に浮かぶ西区の能古島では、信徒の住宅の屋根瓦が落ちたり、壁が落ちたり亀裂が入るなど被害が出た。島の生活道路は落石のため、一部通行止めになっている。

福岡地方では、その後も体に感じる余震が続き、人々は不安な日々を過ごしている。聖週間を主の受難に深く結ばれて過ごすことになった。家族を失った人々のため、甚大な被害の出た玄海島をはじめ、避難生活を余儀なくされている人々、この地震によって心身に傷を負った方々のために、心からの祈りと援助を行いたい。

聖香油ミサと金祝・銀祝司祭を祝う



3月24日（火）、カテドラルで松永久次郎司教司式により聖香油ミサが行われた。多くの司祭が参加できる日を、との司牧的な配慮から聖火曜日に移して捧げられ、60余人の司祭が共同司式した。

司教は説教で、司祭たちに「キリストの聖体制定のことばの意味合いをよく考えて生活するように」と諭し、キリストは聖体を通して、ご自分のすべてを与え尽くされたことを深く心にとめ、私たちも奉仕する生き方を学んでいきたいと語った。

ミサの後に、叙階50年・25年を迎えた司祭を囲んで祝賀会が催された。金祝を迎えたのは畠山七郎神父（本郷教会主任）、W・キッペス神父（パストラルケア教育研修所）、銀祝を迎えたのは山元眞神父（行橋・豊津教会主任）。

続いて、福岡教区に新しく着任する司祭の紹介が行われた。その後、今春福岡教区を離れることになった司祭たちが紹介された。イエズス会塩谷恵策神父は22年間、泰星学園で教鞭を執り、学園を通じて在校生・卒業生や保護者との交流の中にキリストの福音を告げ知らせた。フランシスコ会の小池如安神父は高宮教会で6年間主任司祭を務めた。祈りの会の指導やエキュメニカル担当司祭として、超教派の祈りの集いにも毎回参加した。天草地区の三教会で奉仕した川原拓也神父は、長崎教区に戻られる。

司祭異動

▽本渡教会主任＝浦俊雄（湯川教会主任）▽手取教会主任＝牧山勝美（小郡教会主任）▽崎津・大江教会主任＝牧山美好（大名町教会助任）▽玉名教会主任＝竹内英次（長崎教区から）▽人吉教会主任＝F・カロール（島崎教会主任）▽八代教会主任＝M・モロイ（聖コロンバン会）▽菊池教会主任＝E・モリエル（聖ザベリオ宣教会）▽島崎教会主任＝D・マルケット（聖ザベリオ宣教会）▽武蔵丘教会主任＝R・フィリッピニ（聖ザベリオ宣教会）▽飯塚教会主任／飯塚聖母幼稚園園長＝堤敏雄（大楠教会主任）▽湯川教会主任／湯川カトリック幼稚園園長＝平田三好（鳥栖教会主任）▽大楠教会主任／高宮カトリック幼稚園園長＝中村信哉（呼子教会主任）▽小倉教会及び天神町教会共同司牧司祭＝平田　敬（小倉教会主任）▽小倉教会及び天神町教会共同司牧司祭＝田中重治（小倉教会助任）▽大名町教会助任＝寺浜亮司（司教館）▽高宮教会主任＝戸村悦男（フランシスコ会）▽小郡教会主任＝H・オッカロール（人吉教会主任）▽鳥栖教会主任＝F・マッケイ（武蔵丘教会主任）▽呼子教会主任＝M・ヴィッラ（佐賀教会助任）▽教区会計兼司教秘書＝松井忠之（司教館）▽長崎教区へ＝川原拓也（本渡・崎津・大江教会主任）▽東京教区へ＝小池如安（高宮教会主任）▽東京教区へ＝塩谷恵策（イエズス会福岡修道院）

時の話題

Sr.渋谷節子

日本的精神性への回帰

未知の人から電話がかかってくることがある。召命についての問合せである。近年の特徴は年齢層が上がったことと精神的疾患に悩む人々が修道院の門を叩くことである。しかし修道生活こそ強力な精神性が必要で心身ともに健全であることが入会条件である。

こうした現象に接する時、これは氷山の一角であると思わざるを得ない。健康な人もどこかに傷を持っている。結局、社会全体が病んでいるのである。そして、この現象は一過性のものではなく、心の荒廃は下降線をたどっている。日本全体に病的な精神の風潮が蔓延してきている。カウンセリングや精神科の医療、宗教などで抜本的な解決を見出せるのだろうか？教育思想の深い根っこのところが間違っているのではないか？

岡潔という数学者がその著書の中で、次のようなことを言っていたのを思い出す。彼は仏教徒である。「佛教では我という意識を小我と大我に分ける。小我は前頭葉にあり、わたしと言うエゴの存在する部分である。大我は我を超えた真の我が存在する所である。自分がキリスト教に帰依しない理由はそれが小我を基調にして発達したヨーロッパ文化の中で形成されて人間の根本的な治癒に少しも役立たないからだ。佛教は大我を基調とする」

日本は自我を根本に据える欧米の教育思想を表面的に受け入れる事によって、他者を思う心、忠実さ、孝行などの美しい心を失ったばかりでなく病に悩む身となったのである。自我の成長ではなく自我を超える事を理想とした日本的精神性への回帰が必要であろう。

（伊万里トラピスチヌ）

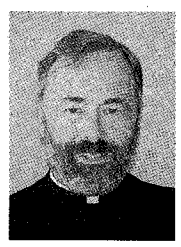
みちくさ

聖地など乾いたところから、欧州に着くと、空気自体が柔らかな気持ちを示してくれるような気がする。これはなんとなく快いものである◆今、春。朝、深呼吸をすると穏やかないのちの動きのようなものが感じられる。春と一緒に動きだす生命の動きみたいなものを感じるのである。万物は生命の働きの中で、その温もりを携えて来るのであろうか。生き物である私たちが、それを受け止めるのであろう◆暑い夏になれば状態は変わる。種々の花が咲き、果実は実り、植物は成長し、発展する。その成長の勢いを全てのものに伝えるのであるが、喧しい蝉の声もひとつの伴奏に過ぎない◆実りの秋は穏やかさを伝えて来る。夏の斗いのときは終わり、静かに喜びの稔りのときを待つのである。実りが多くても少なくても、それなりの安らかさを示していることが多い◆次の斗いに備えるのである。こうして私たちを取り巻く自然、そして自然の生命の世界はその時期を巡って行く。教えられることがあるような気がする◆ところで、神を信じ自然の中で生きる人間の私たちはどうであろうか。私たちが吐く呼吸には暖かさが感じられるであろうか。周りの人に善意の挨拶を送るような気持ちが伝わるであろうか。刺々しい冷たさのみ感じれるのだとしたら大変である。言葉にならずとも、人々をお迎えする心構えが感じられないとすれば失敗である。正しいことだけが求められるのではない。心の暖かさが欲しいのである。この人たちの仲間になりたいと思わせる何かを放出しているのであろうか。

（M）

連載

ご聖体のいのちを生きる



ソットコルノラ
フランコ　神父

イエスは、死の前夜、ご自分の一生のしめくくりとして、ご自分の死と復活を前もって表し、教えをまとめて「ご自分の記念」を残されました。この行いの中にイエスのすべてが集約され、恵みの福音と、救いの神秘と、わたしたちへの愛が含まれています。イエスは、それらを象徴的な行い、しるしとしてわたしたちに残されました。イエスは、秘跡の中で存在し働くだけではなく、しるしを通してその中にあるものと、わたしたちのために行われることを表されました。

さて、イエスはその夜、ご自分がわたしたちにとってだれであるかを語り、わたしたちに何をなさろうとしているのかを示すために「パンを取り」、割って「食べるために」与え、「みな、これをとって食べなさい」といわれました。それから、ブドウ酒が入った杯を取り、「飲むために」与え、「みな、これを取って飲みなさい」と言われました。司祭は、イエスのこの行いを、イエスのみ名と力によって繰り返しながら、イエスの存在と行為を示すだけではなく、イエスがだれであるのか、またイエスが何をするのかを「現している」のです。もしくは、その行い＝しるしと、それを介してイエスがわたしたちのためにわたしたちの中で行われることとの間には、密接な関係があります。イエスがこの行いで何をしているのかをわかりやすく言うとすれば、イエスは、パンを取り…ブドウ酒を取り、食べるために、飲むために渡しました。パンを食べ、ブドウ酒を飲む、…それは、人の生命を養い、「愉快に」する行為です。詩篇104・15に、「ぶどう酒は人の心を喜ばせ…　パンは人の心を支える」とあります。パンは体を養い、ブドウ酒は喜びをあたえます！

「わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである」（ヨハネ10・10）と、イエスは言われました。また最後の晩餐のとき、「これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである（ヨハネ15・11）、とも。ミサのときに繰り返される最後の晩餐の行によって、イエスは、まことにわたしたちの間に現存し、わたしたちの食物となり、喜びの糧となるために、ご自分をわたしたちに与えてくださいます。イエスがわたしたちの間に現存するしるしをよく考察したら、イエスが、なぜわたしたちの間に現存されるのかをよく理解できることでしょう！イエスがパンとブドウ酒のしるしの中にまことに現存していると信じるだけではたりません。その理由を知る必要があります。イエスはパンとブドウ酒をご自身がわたしたちの間に現存するしるしとして選び、次のことを言おうとされたのです。イエスは、わたしたちが、イエスご自身の生命を得、ご自身のよろこびを得るために、イエスご自身の体を食べ、血を飲むという行為によってご自分を私たちに与えてくださる。

ところで、ここに重要な考察を加える必要があります。イエスは、「自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを得る」（マタイ16・25）と、言われました。そして、まさに最後の晩餐のとき「今はあなたがたも、悲しんでいる。しかし、わたしは再びあなたがたと会い、あなたがたは心から喜ぶことになる。その喜びをあなたがたから奪い去る者はいない」（ヨハネ16・22）、とも言われました。生命とかよろこびといっても、いろいろなタイプ、いろいろなレベルがあります。イエスは、どのような生命、どのようなよろこびを指しているのでしょうか？

植物の生命もあり、動物の生命もあり、人の生命もあります。さらに、神の生命もあります！イエスは、ただ人間の生命を生きよというのではなく、神の子の生命に招いているのです。神の子の生命をわたしたちに与え、洗礼によって生まれる生命、「ご聖体のパン」で養われる生命に招いておられるのです。もしも、こう言えるとするなら、動物の喜びもあるが、ここにはもっとちがう喜び、もっと真実な人間だけの喜び…神の喜びがあります。

イエスが与える喜びとは「わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされる為である。」（ヨハネ15・11）と、いう喜びです。いのちのパン（ヨハネ6）の説教の中で、イエスははっきりと言われました、「わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる…　生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる」（ヨハネ6・51／57）。イエスで自らを養う者、もしくはイエスの霊的生命、そのみ言葉、御父への信頼、イエスの考え方、望み方、愛し方、存在の仕方…で自分の生命を養う者は、イエスご自身の生命、神ご自身の生命を生き、イエスの喜び、神のよろこびを知るでしょう！

ヨハネの福音とその書簡の中で、わたしたちのうちにあるこの神の生命は、「永遠のいのち」と呼ばれます！　わたしたちは、永遠に神とともに生き、喜びを受けるのですが、地上でもそれを受けはじめています。ご聖体は、わたしたちの中にあるこの恵みをわたしたちに知らせ、また創りだす秘跡、あるいは「有効なしるし」です。知性と信仰と愛をもってイエスが最後の晩餐で行ったことを繰り返しながら（あるいは、心でご聖体の祭儀に参加しながら）、わたしたちは徐々にイエスのようになり、わたしたちを与え、愛し、イエスのように生き、常にもっとイエスと一つになります。

ご聖体の祭儀のとき、日本でよく歌われる美しい聖歌があります。「キリストのように…」、つまり、わたしたちに考えかた、行いかた、愛しかたを教え、またご自身のいのちと喜びをわかち与えるために、ご聖体のなかにイエスは現存し、わたしたちにご自分を与えてくださるのです。これは、イエスが、わたしたちのために行い、示し、現してくださった信じがたいような贈り物であり、教会がミサ祭儀のとき、新しく繰り返しているイエスの最後の晩餐の行いです。

教区の年間テーマに沿って、フランコ神父様（真命山・諸宗教霊性交流センター代表・聖ザベリオ宣教会）に執筆していただきます。

教育基本法が取りざたされる昨今、教区内のカトリック学校がどのような立場で、どのような宗教教育を行っているかを広く教区の皆様に紹介し、教区とも連携して宣教活動に当ることができるのでは、とこのコラムを企画致しました。

この企画の学校訪問・インタビューなど、泰星学園の里見康介先生（泰星中学高等学校宗教部長）と吉竹孝介先生（同学校広報担当）にご協力をいただきました。

3月9日、最初に訪問させて頂いたのは、北九州戸畑区仙水町5にある「明治学園小・中・高等学校」（理事長＝今泉ヒナ子：小学校校長＝鶴野篤子：中・高校長＝柴山恵子）です。

明治学園の元気な生徒のみなさん。

Q　まず最初に、カトリック学校としての明治学園が目指すところはどのようなことでしょうか？

A　ひと言でいえば、隣人の必要にすばやく応えていく人を育てるということです。一人ひとりがかけがえのない大切な存在であることに気付かせ、隣人のために自分の持っている能力を惜しみなく出せる人を育てていくことです。

Q　その目的を実現させていくために、具体的にどのような試みをされていますか？

A　普段の学校生活においては、朝の祈りから1日を始めます。これは主の祈りをその都度の意向を添えて放送します。放送に耳を傾けながら、様々なことに思いを馳せ、自分のことを振り返ったり、今何をすべきかを考えるきっかけにもなっていると思います。

また、インドへのスポンサーシップに参加したり、待降節に釜ヶ崎に物を贈ったり、様々な施設への訪問や交流などを行っています。そして、できる限り実際に現地へ行って見聞し、学園に帰って報告をすることで、自分たちの行為がどのように役立っているかを意識できたらと思います。

Q　その試みがどのように生徒に伝わっているのでしょうか？

A　昔に比べて、洗礼を受けたり召命に導かれる生徒は少なくなりました。しかし、宗教教育の必要性はむしろ高まっていると思います。今の世の中は人間関係が希薄になり、生徒は安心できる居場所を失っている場合もあります。この様な状況に対して我々が生徒と積極的かつ密に関わっていくべきだろうと思います。その一方でとにかくしっかり勉強させなければならないという忙しい現実もあります。

本学園では「心の教育」と「能力の開発」の二本を柱として教育しています。特に「能力の開発」にあたる大学進学のための指導は保護者からの要求も高く、学園としてもかなり力を入れて対応しています。しかし、中学1年の時に明治学園のやり方＝キリスト教の学校であるということをしっかりと教えていくことで「心の教育」にも深く関わっていきます。つまり、人間の生き方についての宗教が、どの教科にもまして重要で、だんごの串のようにそれらを貫いているのだということを生徒たちにはしっかりと伝えていきます。

【所感】

学内が木々に囲まれており、高校が共学となって12年ということだが、もと女子校ということもあって校内に落ち着きと独特の雰囲気を感じた。また、シスター方・先生方の生徒と関わりを大切にする姿勢とともに、甘えをゆるさない厳しさも感じられた。

信者の生徒31名、教員も修道者7名、信者の教員12名と、カトリック学校の中では恵まれた環境にある。この様な宗教教育の取り組みの結果が、北九州地区トップ校としての評価や進学実績にもつながっていることがうかがわれた。

Q　これからのカトリック学校のあるべき姿として、今後の課題と考えていること、またそれに対してどのような姿勢で取り組んでいるのかを教えてください。

A　生徒たちは、人のために何かしたい、人のためになりたいと当たり前のように思うようです。中高生くらいの年ごろは、種まく時期に当たり、今は目に見える成果というものはないですが、将来の人生に対する豊かな下地を造っていると思われます。例えば、先日学園のガードマンの方が亡くなった時、お世話になったしるしとしてミサを捧げたいと、生徒たち自らが言い出したことなどは、象徴的な出来事だったと思います。

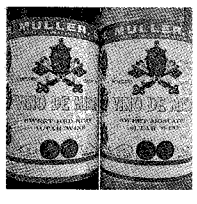
おじゃまします。学校訪問

～カトリック学校は今～

(1) 明治学園訪問記

http://homepage3.nifty.com/meijigakuen/

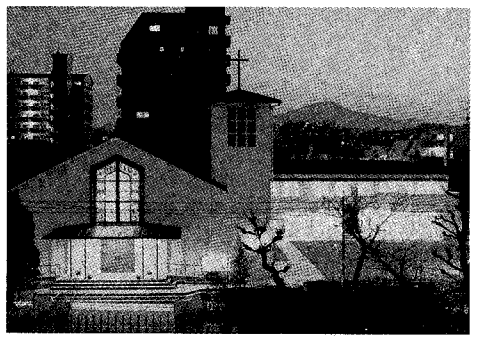
第7回土曜公開講座　めざせ建造物の再生
日　時：5月28日(土) 15：00～17：00
講　師：井上洋子（精華女子短期大学特任教授）
カトリック福岡黙想の家
聖堂／洋個室（洗面トイレ付）／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056　Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm
PRAYER GROVE MUNAKATA

ミサ用ワイン

ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

改築された聖堂と司祭・信徒会館

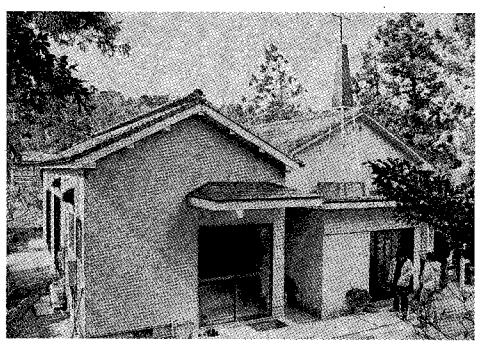
戸畑



2月27日（日）戸畑教会（主任：森山信三神父）のおいて、聖堂改築と司祭館・信徒会館新築の祝福・落成式が行なわれた。戸畑教会は1934年に創立され、70年が経ち老朽化とシロアリなどの被害が出たため、聖堂一部と司祭・信徒会館の改築に至った。落成式当日まず、新しく改築された聖堂で教区長松永久次郎司教司式のミサが執り行なわれ、戸畑教会信徒をはじめ、工事関係者、近隣の教会信徒など多くの人々がともに感謝を捧げた。司教は説教の中で「この新しくなった教会が、地域の布教に大きく貢献することができるように、皆さん一致協力して頑張ってください」と励まされ、聖堂と司祭・信徒会館を祝別した。引き続き行われた落成式・祝賀会では工事の完成を祝い、新しい建物を囲み喜びを分ち合った。また今回の工事では教会境内の入口も拡張され車の出入りも容易にできるようになった。新しくなった戸畑教会は「開かれた祈りの空間」としての決意を新たにしていた。

信徒の手で新築された信徒会館

古島
能の



能古島教会（主任＝青木悟神父）では、昨年7月から信徒会館建設ならびに教会施設の整備をすすめてきた。このほど信徒集会室が完成し、2月26日（土）、松永久次郎司教司式により感謝のミサと祝福式が行われた。旧信徒会館は移築以来30年以上経過し、老朽化が激しく、利用し続けることが困難になった。能古島の信徒は12世帯、約40人。島の教会の将来の展望を見据えながら話し合いを重ね、いま自分たちができることを精一杯やろうとの思いで、解体・改築工事に着手した。出来るかぎり信徒たちの手で作業を進めていった。

落成式当日は小雪の舞う厳しい寒さだったが、信徒、修道者、司祭が集い、小さな聖堂いっぱいに大きな喜びが溢れた。ミサの結びにおいて、司教は建物とそこに集う人々の上に豊かな恵みを願い、祝福の祈りを唱えた。

ミサの後、信徒集会室で祝賀会が開かれた。会場は家族的な和やかな雰囲気に包まれた。信徒会長の永田光義さん、木村静夫さんは「多くの方に励ましていただき、ご支援をいただいて信徒集会室を建てることができました。能古島信徒も皆さんのまごころに応えようと、一致協力してがんばりました」と感慨深げに語った。

工事は猛暑の中の作業、また雨に濡れ、厳しい寒さに耐えながらの作業もあった。困難な局面もみんなで知恵と力を出し合って乗り越えてきた。改築なった信徒集会室は46・65㎡の木造平屋建て。簡易水洗式トイレ、キッチンを備えている。能古の信徒たちは、新しい信徒会館が互いの交流を深め、心が安らぐ場となることを願っている。

ノートルダム修道会で終生誓願式

3月13日（日）、北九州市戸畑区の戸畑教会でシスターマリア高橋もと子（コングレガシオン・ド・ノートルダム＝管区長柴田香代子）の終生誓願式が松永久次郎司教司式のもと執り行われた。

同修道会では5年ぶりの終生誓願式であり、式には司祭、修道者をはじめ戸畑教会の大勢の信徒、シスター高橋が教師を務める明治学園関係者など多数が参加しシスターのために祈りを捧げ、喜びを分ち合った。

司教は説教の中で「シスターの務めは人々にとって大変重要なものです、この務めを忠実に果たし、キリストを一人でも多くの人に伝えていってください」と励ました。シスター高橋。1993年同会入会。1997年初誓願宣立。福島の桜の聖母学院を経て、現在明治学園小学校教諭。

井手神学生祭壇奉仕者に選任される

3月19日（土）11時よりマキシミリアノ・マリア・コルベ井手公平神学生の出身教会である佐賀教会（主任深堀勝人神父）で、松永久次郎司教司式の祭壇奉仕者選任式ミサが行われた。当日は司祭・修道者をはじめ佐賀地区の多くの信徒が参列し、井手神学生のために祈りを捧げた。

式後、幼稚園で祝賀会が開かれ、新しい祭壇奉仕者の誕生を喜び祝った。

祭壇奉仕者は、ミサやその他の典礼の中で司祭や助祭に協力し、祭壇特に、聖体に奉仕し、聖体拝領や病人に聖体を運ぶ任務を与えられる。

福岡教区に2人の新神学生

大窄淳一神学生

ペトロ大窄淳一神学生

【プロフィール】
1967年6月23日生まれ。
大阪府豊中教会にて受洗。
所属：湯川教会。
1991年、長崎大学水産学部水産学科卒業。東京の水産研究所を退職後、1995年、東京山谷で「山友会」の職員として路上生活者支援活動に従事。

谷口尚志神学生

アシジのフランシスコ 谷口尚志神学生

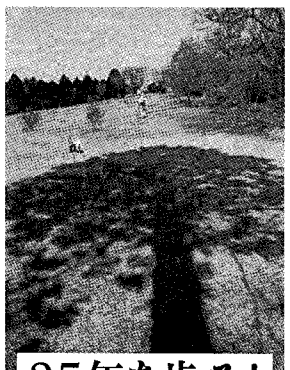
【プロフィール】
1982年5月14日生まれ。
出身教会：大名町教会。
2001年、東京聖パウロ学園高等学校卒業。
2005年、九州産業大学国際文化学部、地域文化学科卒業。

木かげ

山元眞神父

「まだ生まれたばかりで、今はただ泣くことしかできません。これからもどうぞよろしくお願いします。わたしを支えて育ててください。」司祭叙階の日の挨拶を思い出している。あれから25年が経った。

3月20日。新田原教会で平田三郎司教様を通して叙階の秘跡を受けた。快晴の朝。先の挨拶の頃から小雨が降り出した。曇天の下、教会の庭で祝賀会が催された。神学生たちがお祝いの歌を歌おうとしたとき、特設ステージが壊れて傾いたことを思い出す。「なんか先でありそうだね。大丈夫かな。」とその時会話していた相手の人に言ったのを覚えている。



25年を歩み!

3月20日には何かがある。地下鉄サリン事件。そして福岡での観測史上初めての大地震。被災した方々の一日も早い復興をお祈りする。

司祭はもちろん叙階の秘跡を受けて司祭に「なってしまう」のではない。「なり続けていく」ものだと実感している。最初は何もわかっていなかった。恥ずかしいくらいに。その後、時を経るにつれていろんな人たちや出来事に出合って、いろんなことを教えていただいた。司祭は育てられるものだとつくづく思う。今ある自分は、たくさんの皆さんが作ってくださった者です。まだ、出合ったこともないのに、陰で見守り、祈ってくださっている方もおられるでしょう。この場を借りてお礼申し上げます。まさに、おかげさまです。

叙階式の準備の黙想は伊万里のトラピスチヌ修道院でしました。だんだん自信が無くなっていく自分が見えてきました。当時の修道院付きの司祭が言ってくださいました。「それに気づいた今、あなたは自信をもっていいですよ。」

25年を振り返る黙想も伊万里でしました。上の写真はその時に撮ったものです。光と影。光があるから影ができる。影も光の中にあるのです。（行橋教会主任）

BOOK 読みは専科

★涙の理由
救われた難民と船長の再会物語
ファム・ディン・ソン 加藤隆子【共著】

死の海から73人のベトナム人難民を救助した日本人船長の涙。あれはなんだったのか？20年前17歳だったソン少年は今、神父となり、過去をたどる旅にでる。そこには心洗う人生の出会いと別れが…。

女子パウロ会　発行
税込価格　1365円

◇　◇　◇

★ルルドの癒しと奇跡
奇跡認定医が語る
日仏医学会／監修
パトリック・テリエ　著
濱田野衣・濱田裕子　共訳

一般にルルドの癒しはその起源から、カトリック教徒だけに与えられると考える方もいらっしゃるかもしれません。しかし、キリスト教徒であれ、他の宗教の人であれ、また宗教を持たない人であれ、神様はなんの分け隔てもなく自由にその癒しの手を差し伸べています。

サンパウロ　発行
税込価格　945円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

ご聖体の「いのち」を生きる

カトリック教会のカテキズム

日　時：2005年4月24日(日) 15：00
場　所：カテドラル大名町教会
講　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参加費：1回　500円
主　催：福岡教区信仰教育委員会

熊本　神学講座・聖書講座のご案内

◆第四期神学講座
⑤5月22日(日) 13：30～16：30
「聖書を知る旅」
高見 三明 大司教（長崎教区長）

♣聖書講座
4月16日(土) / 5月14日(土)
「ヨハネによる福音書」を引続き読みます。
＊原則、第1・第3土曜日　14時～16時
＊2005年9月17日まで全15回
講師：全回通して中村彰神父（健軍教会主任）
場所：手取カトリック教会
主催：熊本地区信徒使徒職協議会神学講座実行委員会
問合せ先：手取教会　☎ 096-352-3030

2005年度 北九州地区聖書講座

★年間テーマ：いのちへのまなざし
日　時：4月17日(日) 14時～16時
テーマ：聖書からのメッセージ①
場　所：新田原教会
講　師：山元　眞　神父（行橋教会主任）
参加費：500円
主　催：北九州地区信徒協・聖書部会
連絡先：☎093-293-4981　松尾
※今年度は、先に日本カトリック司教団が出した「いのちへのまなざし」を1年間かけて読むことになりました。

R.カンタラメッサ神父の特別黙想会案内

日　時：5月4日(水)～7日(土)
場　所：長崎大司教区カテドラル浦上教会
テーマ：「イエス・キリストに招かれて」
…イエスは「来なさい、そうすればわかる」と言われた…
参加費：自由献金
対象者：信徒・修道者・司祭　申込み不要
指導者：教皇聴罪司祭・教皇担当説教者
主　催：カンタラメッサ神父指導による黙想会実行委員会
問合せ：カトリックファミリーセンター
☎ 092-541-6207　FAX 092-552-5022

第44回クルシリヨ開催 参加者募集

日　時：5月3日（火）10時～5日（木）16時
場　所：福岡黙想の家（☎ 0940-32-3222）
参加費：12,000円（宿泊・食費・用品代含む）
携行品：ロザリオ・着替・寝間着・洗面具
連絡先：☎FAX 092-661-0120（大谷真造）

案内版　会合と催し　4月のこよみ

福岡黙想の家ご案内　4月

◇4日(月)　明光学園職員研修・黙想会
◇10日(日)～11日(月)　オブレート福岡黙想
◇11日(月)～13日(水)　説教者セミナー
◇28日(木)　ユリアナ会主催『心の病・学習＆相談会』
◇28日(木)～29日(金)　日本聖公会黙想
★『福岡黙想の家』は皆様のために開かれています。
小教区・グループ・個人での研修会や黙想にご利用ください。
お申し込み、お問合せはお電話、FAX、Eメールでどうぞ。
アドレスは下記のホームページからお入りください。
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm
［問合先］御受難会福岡黙想の家
☎ 0940・32・3222　FAX 32・3385

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

年間テーマ：ご聖体の秘儀を深めて
※祈りの集い（毎月第2木曜日）
※4月14日（木）10時～15時
テーマ：ご聖体とキリスト復活
指　導：Sr.マリアとFr.フランコ
※研修会［諸宗教対話。何ですか？何のためですか？］
日　時：5月13日～15日
問合せ先：真命山諸宗教対話・霊性交流センター
☎ 0968・85・3100
FAX 0968・85・3186
E-mail shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時：4月16日・5月7日　10時～12時（第1、第3土）
場所：カテドラル大名町カトリック教会小聖堂
※基本的に第1・第3土曜。変更になる場合もあります。

3日(日)　復活節第2主日［神のいつくしみの主日］
花岡山殉教祭
4日(月)　神のお告げ
†ペトロ黒川博［2002年八代教会］
5日(火)　†F.ブレンゲ［1946年佐賀教会］
7日(木)　†C.シュミッツ［1988年黙想の家］
10日(日)　復活節第3主日
司教座教会献堂記念特別献金日
11日(月)　聖スタニスラオ殉教者
12日(火)　†パウロ大野正恒［1985年泰星学園校長］
13日(水)　福岡教区司教座教会献堂記念日
聖マルチノ1世教皇殉教者
†J.P.アインシャル［1987年行橋教会］
14日(木)　†K.リンチー［1985年菊池教会］
15日(金)　†J.ドレル［1984年直方教会］
17日(日)　復活節第4主日［召命祈願日］
伊万里教会創立50周年記念
24日(日)　復活節第5主日
25日(月)　聖マルコ福音記者
†A.レウトル［新田原教会］
29日(金)　シエナの聖カタリナ
教区修道女連盟総会と研修会（カテドラル）
みどりの日

5月
1日(日)　復活節第6主日／世界広報の日（献金日）
3日(火)　クルシリヨ（～5日黙想の家）

ゴチックは司教日程

◆福岡

■福岡教区福岡地区婦人会 第22回総会ご案内
［日時］4月5日（火）10時から総会：13時から講演会［場所］カテドラル大名町教会［講師］古巣馨神父（長崎教区島原教会主任）［会費］1000円（昼食含む）

■召命祈願ミサ
［日時］4月14日（木）19時半［場所］サン・スルピス大神学院［司式］浦川務神父（久留米教会主任）［主催］福岡召命を共に祈る会・大神学校

■生と老い死を見つめる会
［日時］4月17日（日）14時から16時［場所］大名町カトリック教会［内容］2005年度総会［参加費］700円［問合せ］☎092・713・8523大山／607・6992村尾

■召命を共に祈る集い
［日時］4月21日（木）14時30分［場所］召命の家［指導］浦川務神父（召命担当）

■在世フランシスコ会集会
［日時］4月24日（日）14時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］戸村悦男神父［問合先］☎092・843・5831岩崎

■ユリアナ会
［日時］4月28日（木）14時から16時［内容］「アルコール症及びその家族（薬物依存）」［場所］福岡黙想の家［講師］小宮豊精神科医師（小宮クリニック院長）［参加費］無料［主催］ユリアナの会［問合せ先］☎0940・38・8915（11時～16時／月～土）世話係0940・33・2731吉永

■福岡教区カナの会集い
［日時］5月5日（子どもの日）9時30分受付［場所］カテドラル大名町教会［ミサ］櫻井尚明神父（糸島教会主任）［インストラクター］吉川信雄氏（光丘教会信徒）［対象］20歳以上の独身男女［参加費］2000円（昼食代含む）［申込み・問合せ先］090・4347・3319前野

■福岡結婚準備講座
［日時］5月14日（土）から6月8日（水）毎水曜日と土曜日全8回19時～21時30分［場所］大名町カトリック教会［参加費］カップルで一万四千円［問合せ先］☎092・541・6207 FAX 092・552・5022カトリック・ファミリーセンター

2005年度聖霊による信仰生活刷新セミナー

第1週　4月4日(月) 10時半～
「神の愛」　T.ドワイヤー師
第2週　4月11日(月) 10時半～
「救いのみわざ」　寺浜 亮司 師
第3週　4月18日(月) 10時半～
「新しい生命」　青木 悟 師
第4週　4月25日(月) 10時半～
「神の賜物の受領」　S.ライル 師
第5週　5月2日(月) 10時15分～
「みたし」　F.マッケイ 師
第6週　5月9日(月) 10時半～
「聖霊のうちでの成長」　H.オカロル 師
第7週　5月16日(月) 10時半～
「派遣ミサ」(キリストの証人) 松永司教と司祭団

会　場：大名町カトリック教会
会　費：自由献金
テキスト：新生への門出（600円）
主　催：福岡地区（福岡・北九州・佐賀）聖霊刷新セミナー実行委員会
連絡先：☎ 092-522-5139（Br.床島籐吾）

◆北九州

■小倉祈りの会
［日時］4月22日（金）13時半から15時［指導］ガブリエル神父（御受難会）［場所］小倉教会信徒会館2階［内容］「みことば」を味わう・賛美と感謝の祈り［連絡先］☎093・921・2280安藤

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］4月13日（水）10時～11時半［場所］佐賀カトリック会館［内容］共に祈る［次回］4月27日（水）10時～12時はミサと祈り：毎月第2水と第4水曜日。どうぞご参加下さい。［問合先］☎0952・72・7536吉田

■佐賀聖書を読む会
4月はお休みします。

◆熊本

■川添猛神父講演会
［日時］4月17日（日）14時から15時［場所］帯山カトリック教会［テーマ］神を信じる心［対象］親と教会学校担当者［問合せ先］☎096・368・2825中村彰神父

■熊本結婚準備講座
［日時］5月9日（月）から5月31日（火）毎月曜日と火曜日全8回19時～21時30分［場所］手取カトリック教会［参加費］カップルで一万四千円［問合せ先］☎096・352・3030 FAX 096・352・1515手取教会　安部

編集後記

皆様には地震での被害はありませんでしたか。また、被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。震災からの復興には、苦しみの中で、なお重い負担を抱えながら歩んでいかなければなりませんが、希望をもって乗り越えて欲しいと思います。

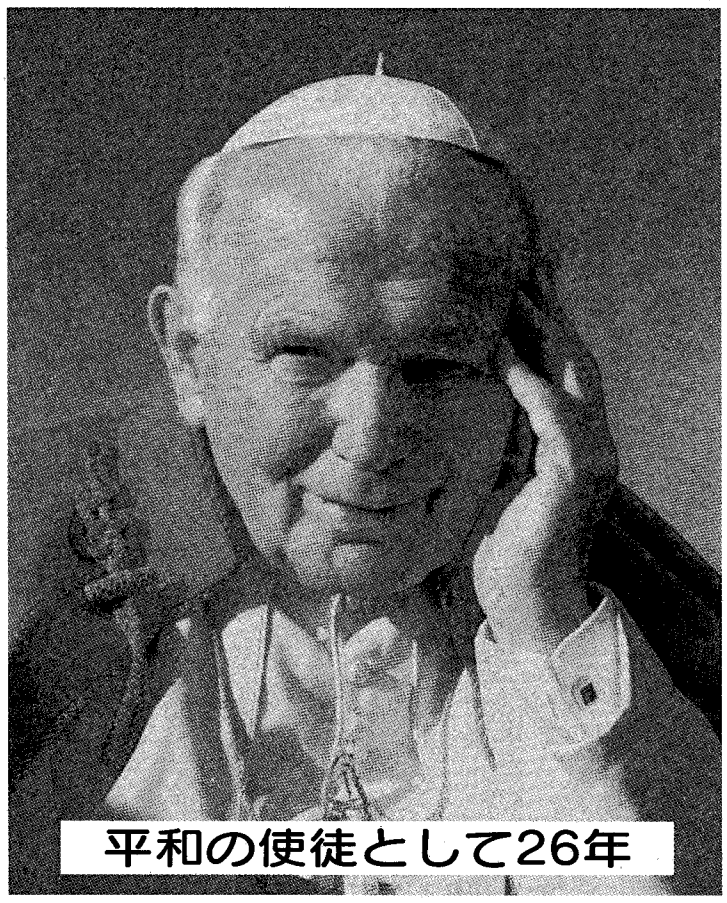
今号をもちまして編集責任者が牧山美好神父（崎津・大江教会）より下町豊重神父（西新教会）に交代します。ご協力くださいました皆様、本当にありがとうございました。4月からも引き続きよろしくお願いいたします。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

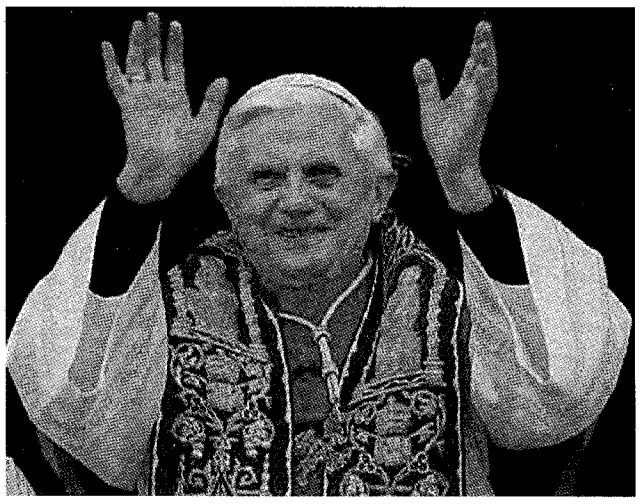
“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（1F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（2F）十字架、ロザリオ、ご像、CD、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後6時　定休日：木曜日
〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-14-26
電話　092-721-2032　FAX　092-739-3930

ありがとうございました
教皇ヨハネ・パウロ2世逝去



ベネディクト16世
新教皇誕生



ヨゼフ・ラッツィンガー枢機卿選出

新教皇は選出直後、サンピエトロ大聖堂のバルコニーから、「親愛なる兄弟姉妹の皆さん、偉大な教皇ヨハネ・パウロ二世の後に、枢機卿方は、主のぶどう畑の単純で貧しい働き手としてわたしを選ばれました。わたしは、主が不十分な道具を使って働かれるということに慰められます。何よりもわたしは皆様の祈りにより頼みます。…」と述べられ全世界に向けて最初の祝福を行われた。

新しい教皇の選出が告げられると、集った群衆から大歓声が上がった。コンクラーベ開始2日目、4回目の投票による選出であった。新教皇となったヨゼフ・ラッツィンガー枢機卿は1927年ドイツ生まれの78歳、51年に司祭叙階。77年にミュンヘン・フライジングの大司教に任命され、同年枢機卿に親任。81年から教皇庁教理省長官。2002年首席枢機卿となる。新しい教皇はベネディクト16世と名乗られ、4月24日にサンピエトロ大聖堂にて教皇就任ミサが荘厳に行われた。

ヨハネ・パウロ二世を見送る
パパ様の思い出
松永久次郎司教

ヨハネ・パウロ二世教皇は気さくな方だった。長崎を訪れた日は、雪の降る寒い日だったが、寒いことを気にもされず、それを別に嫌とも言われず、ヨーロッパに帰ってからでもそのことを思い出され、長崎は寒かったなあと繰り返し口にされておられたようである。アラスカよりもアンカレージよりも寒かったそうである。気候の寒いことが最大の印象だったとはちょっと寂しい気もするが、何だか安心もする。

長崎ではあの松山球場でのミサの他に、三ツ山の原爆老人ホーム、西坂の26聖人記念館、大浦天主堂、本河内の聖コルベ記念のご像のところを訪問された。長崎にはいろいろな山があるねーと話されたことだった。その印象をそのまま話される性格には、何かを教えられる気持ちがする。勿体ぶって話すのではなく、直接の感じを聴くようで楽しいものでもあった。

コルベ神父さまのところを訪れ、聖コルベ神父さまのことを話されてから永くたたないころ、コルベ神父さまの列聖式が行われたと記憶するが、その時はあのコルベ神父さまゆかりの家の訪問の記憶が思い出されたことではなかろうか。コルベ神父さまは私たちの聖人であるが、あの家の訪問の記念でもある。

労働者の家に生まれ、平凡な子ども時代をすごされたのではなかろうか。マリア様のロザリオなど、ありふれた信心業に親しみ深かったようである。

ヨハネ・パウロ二世と語る松永司教

食事も何度かご一緒にする機会があったが特別なご馳走ではなく、いわばありふれた内容のものだった。その質素な食事から、充分な力を保っておられたのである。

私たちは平凡な、そしてすばらしいパパ様を失った。心からお弔いの誠を捧げる者である。あの温かな心で天の国から私たちを見守っておられるに違いない。私たちの世界が少し大きく、広くなったような気がする。

パパ様の手の温もり

15年前ローマでの謁見の時、私が前の人の背中越しに何とかパパ様に触れたいと思い、一生懸命手を伸ばしている写真があります。パパ様は軽く私の手を握ってくれました。そのときのパパ様の手の温もりは今も私の信仰生活の支えとなっています。

（小郡教会信徒　井上輝正）

天国に引き上げて

1990年3月23日、夢の様な出発でした。息子のすすめと夫の理解で、私はローマへと飛んでいました。28日教皇様の謁見の間に入り偶然にも一番前の席でした教皇様がお出ましになり、そこに来ている国々の言葉でお話になり、その国の人の感激は大変なものでした。

日本の順番になり、はっきりとした日本語で話されましたが、感激のあまり「日本の皆さん」だけしか覚えていません。

皆に祝福をお与えになるとき、私たちの前に来られ、手を差し伸べたとき、私の左手の上にしっかりと教皇様の手が置かれていました。皆で撮った写真を見ると、皆満ち足りたという顔をしていました。天国に行かれたパパ様、あの時の私の手を握られた手で私も天国に引き上げてください。

（新田原教会信徒　小島登美子）

ありがとうパパ様
各地で帰天祈念ミサ

カテドラル大名町教会には500人

4月10日（日）9時30分、大名町教会では、教区長松永久次郎司教司式で、「帰天祈念ミサ」が執り行われた。信徒をはじめ約500人が参列した。ミサの終わりに教皇の日本語のメッセージが流され、その後、司祭団と信徒の各代表が遺影に献花を行い、教皇の永遠の安息を祈った。

カテドラルに設けられた記帳所

聖堂入口付近に設置された「記帳所」には大勢の人が行列をつくりパパ様との別れを惜しんでいた。

佐賀地区でのお別れ

佐賀地区では聖母の騎士聖フランコシスコ修道女会の修道院で4月6日（水）に、佐賀教会では教皇葬儀ミサ後の9日間の祈りの終わりの日である4月16日（土）に信徒120人余りが集い帰天祈念ミサを捧げた。ミサの終わりに集まった会衆は一人ひとり教皇の遺影の前に進み、感謝と永遠の安息を祈った。

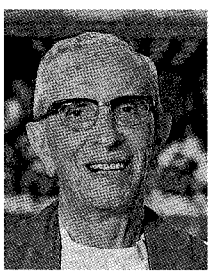
久留米教会4月17日に

久留米教会では17日の主日のミサを教皇ヨハネ・パウロ2世のために捧げ、約200人が参加した。9時のミサに引き続き、帰天祈念式を行った。式では、教皇のメッセージを聞き、参列者全員が遺影の前に進み出て、教皇のために祈りを捧げた。

司祭人事

福岡サン・スルピス大神学院の院長が2005年4月より、大山悟神父から牧山強美神父に交代。

訃報


チェリッザ神父

チェリッザ・ビルジニオ師（唐津教会主任 ミラノ外国宣教会）3月30日、唐津日赤病院で肝不全のため帰天。享年81歳。1924年1月9日ミラノ近郊のブルゲーリオに生まれる。1948年6月27日ミラノにて司祭叙階。

1952年1月来日、横浜教区で35年間司牧。1994年10月来福され、帰天されるまで、唐津教会主任と幼稚園園長を熱心に兼務された。

みちくさ

五月の頃、「新しい所での仕事は慣れたか」「さびしくないか」。励ましの言葉が舞い込んでくる。一方で新居や新任地から、「元気に頑張っているよ」という返事は安心と期待感を満たしてくれる▼信者の場合は、新しい所での信仰生活は元気なのだろうか？若い人の転居は特に気になる。今まで通りの信仰生活ができると言える人ばっかりだったらいい。でも、まだ転出証明書も持参していませんとか、教会を探してもいませんとかだったら悲しいことである。これまでどれくらい信者が迷子になってしまっているのだろうか。時が経って、いざと言う時、例えば「結婚式を教会でお願いしたい」とか、「この子も初聖体の時期なんだけど」「堅信の時期だけど」とあせっても、今までが迷子中で信仰も置き忘れしていたとなると、事は重大である。教会を守っている人にも多大なる迷惑がかかる。いざと言う時をも感じなくなれば、どうしようもない。せっかくいただいた信仰、育ててもらった信仰生活がよく維持できるように配慮しなければ、配慮してあげなければ・・・。S少年は中学卒業して都会に出た。転出証明書を持って教会を探した。しかしその一人の田舎者は神の家を探せず終いで、ミサにも与らずの生活だった。夏冬帰郷する度に泣いて告解したと言う。神学生になるまでの信仰の道はほとんど忘れられていた。もったいない・・・。あなたの場合はどうですか？あなたの親戚や知人はどうですか？心配してください・・・。

（S）

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

5月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】迫害を受けている人々に対する聖霊の力

【布教の意向】「万民のため」の宣教の生きている部分である神の民マリアの心に希望を託して

【日本の教会の意向】

教区報創刊50周年
第4代編集長から

深堀勝人神父

松永久次郎司教様が着座された年の4月から一年間渡辺隆義神父様の後を引き受けて編集長をした、というよりもさせられたという感があった。そして担当した4月は手も足も出ないで休刊したことを思い出します。

何も知らないで、割り付け、原稿の字数の調整、それよりも寄稿を願わなければ紙面が埋まらない、できあがっても初校、再校といろんな問題にぶつかり、毎日の新聞はどのようにしてできているのだろうかと不思議がったり、悪戦苦闘が続きました。「もうだめです」と司教様に泣き言をいうと、「月一回ではなく毎週一回でもいいよ」と逆に励まされました?

そして編集しているうちに福岡教区報の役割は何だろうかと思い悩んだり、どうして発刊しなければならないのかとやけになったり、あまり読んでもらえないカトリック福岡教区報などと思ったこともありました。

でも、新聞ができると不思議と愛情がわき、ひとりでも多くの人に読んでもらいたくなりました。それは寄稿してくださった人、編集を手伝ってくださった人々の労苦が伝わったからだと思います。特に、各小教区、修道院、個人購読者に送付するために、ヨゼフ会のブラザー床島藤吾様や故人となられたブラザー杉山昇様に手伝っていただく、というよりもすっかり依存して送付の段取りから教えられたような気がしています。

さらに、少しはやったという実感を得るために、編集方針、文字の拡大、カラー印刷を取り入れたり、目先の工夫をし、楽しいこともありました。

そして、これまでの教区報編集長と編集委員の方々のご苦労を知り、カトリック教区報への接し方は変わり、少しはカトリック教区報を大切にする心だけは養われたかもしれません。間つなぎ的な一年間の任でしたが「みちくさ」、「編集後記」の欄を考えることも、時を知るのによい勉強になりました。

50年を迎えた『カトリック福岡教区報』が教区、地区、修道会、小教区の活動の記録だけでなく、司祭、修道者、信徒の信仰の分かち合い、情報提供などの役割を果たし、神の民の兄弟的な歩みの一助になることをこれからも願っています。

(深堀勝人神父)

連載
ご聖体のいのちを生きる
復活されたキリストとの出会い(2)

ごミサのなかで、みことばの祭儀の終わりに教会の信仰を宣言し、「体の復活、永遠のいのちを信じます!」と述べます。ご聖体は、私たちの「体と魂」を「永遠のいのち」にあずかるように招き養う秘跡であり、感嘆すべき食物です。

イエスの弟子たちは、復活したイエスと食事したことに特別な意味を見出しました。

ペトロはコルネリオに、イエス・キリストの「福音」を宣言しながら自分と他の使徒たちを紹介して、「前もって選ばれた証人、つまり、イエスが死者の中から復活した後、ご一緒に食事をしたわたしたち」(使徒言行録10・41)と述べています。このペトロの証言は、福音が語るいろいろな出来事に関係しています。

最初の意味深い出来事は、イエスがエマオの二人の弟子とともに『パンを裂いた』(ルカ24・13―35)ことです。

イエスは歩きながら彼らに聖書を説明し・・・そして、かれらはイエスの言葉を聞いて感動しますが、『パンを裂いた』とき、はじめてキリストであることがわかりました!

種々の機会のミサの奉献文の中で、こう祈ります。「キリストの名によって集まったわたしたちの中に、主はともにいて、かつて弟子たちになさったように聖書をひもといて教え、パンを裂いてください。」

そのあと、その同じ日にイエスは、一つのところに集まった弟子たちに現れます。しかし、弟子たちは自分たちの目を疑います。そこでイエスは言われました。「わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしだ。彼らが喜びのあまりまだ信じられず、不思議がっているので、イエスは『ここに何か食べ物があるか』と言われた。そこで、焼いた魚一切れを差し出すと、イエスはそれを取って、かれらの前で食べられた」。ご聖体の祭儀を祝うたびに、復活して生きているイエスご自身が、わたしたちの間に現われてわたしたちとともに食べるのです。

ヨハネは、イエスが三度目に湖のほとりで幾人かの弟子に現われたと語ります。

その日の朝、イエスは、岸辺で火を起こし、パンと魚を準備し、食事に招きます。「イエスは来て、パンを取って弟子たちに与えられた。魚も同じようにされた。イエスが死者の中から復活した後、弟子たちに現われたのは、これでもう三度目である。」(ヨハネ21、13―14)

ペトロがコルネリオに、「イエスが死者の中から復活した後、ご一緒に食事したわたしたち」(使徒言行録10、41)と語った時、おそらくその他のことも含めて、これらのすべてのできごとがペトロの考えの中にありました。

永遠のいのちのパンをイエスと共に食べるご聖体の祭儀、特に主日の祭儀は、天の食卓の喜びを前もって味わうことであり、復活したイエスとの出会いの神秘体験です。

(真命山　F・ソットコルノラ神父)

「福岡教区・カトリック新聞・無料試読キャンペーン」

この度、カトリック新聞社では、福岡教区の皆様方に一人でも多くカトリック新聞を知っていただくため、松永司教様のご了承をいただき、無料試読キャンペーンを展開させて頂くこととなりました。

ご希望の方は、教会にお配りしてある申込表に必要事項をご記入してください。

新聞は6月5日付(三八一四号)から4週間無料で直接個人宅へお届けいたします。

お申し込み締め切り日は、5月30日(月)必着とさせていただきます。

尚、現在ご購読中の方は対象外とさせていただきますので、ご了承下さい。

おじゃまします。学校訪問
～カトリック学校は今～
(2) 明光学園訪問記

http://www.meiko.ed.jp/

第2回の学校訪問は、大牟田市倉永にある「明光学園」におじゃまいたしました。同学園はカノッサ修道女会の経営で、1952年4月に開校された女子校です。鹿児島の大口明光学園とは姉妹校になります。幼稚園(共学)(園長=宮脇寛子)、中学校、高等学校(校長=角たか子)に、600人の生徒が通っています。広々とした敷地の中で静かなたたずまいをみせる校舎には、しっとりとした落ち着きと気品が漂っていました。

Q ミッションスクールとして明光学園が目指すところはどのようなことでしょうか?

A まずは創立者、聖マダレナ・カノッサが心から目指していた「主イエスの愛を知らせること」。一人ひとりの持つタレントを十分に活かし、よき社会人として、平和をもたらす女性を育てること。固定観念に囚われず、社会における女性の役割を模索し、一個の人間として自己実現を図るための努力をサポートすることです。

Q その実現のために、具体的にどのような試みをされていますか?

A 日々の生活においては、心静かに目を閉じて、自らの姿を見つめ直す「静修」を実践しています。神との対話と今の自分を知り、静かな心で次にとるべき行動を考えます。

また、ボランティア部や委員会活動による、さまざまな施設への訪問や交流、援助をして、愛と奉仕の実践者としての意識を育てています。

学校行事として催されるクリスマスの集いは、クリスマスの本当の意味を伝えるために、合唱部、オーケストラ部、クワイヤチャイム部、演劇部、放送部、美術部などのクラブ活動や各種委員会活動が参加して、生徒たち自身の手で作り上げられます。そして、全校生徒や教職員はもちろん、地域の人々や子供たち、卒業生たちに開かれた催しとなっています。

Q そうした試みの他に、意識を高めるための進路指導に力を入れていると伺いましたが?

A はい。社会で評価される女性、自分の進むべき道を持った女性を育てるためのキャリアガイダンスを中1の頃から行っています。女の子はそこそこの大学に入ればよいという従来の意識を変え、明確な進路意識を持たせるようにしています。ただ勉強させて大学に入れて終わり、というのでは意味がない。自己実現のためにはどのような大学、学部学科を選んでいくべきかという、しっかりした進路意識を持たせる必要があります。そして、その根本には、嘘偽りのない自分を見つめ、社会のため、人のために働く人間になるという、カトリックの精神が活かされています。その結果、浪人してでも第一志望校に進む生徒や、地球工学科、土木学科など従来の女子には考えられなかった学部学科に進学する生徒も現れ始めました。一人ひとりが本当に自分のやりたいこと、社会に出て貢献していきたいことを探し求める生徒が増えつつあります。

Q これからのカトリック学校のあるべき姿として、明光学園が課題としていることはどのようなことでしょうか?

A やはり、生徒一人ひとりが、自分に与えられた使命(ミッション)を知り、実践していくことを、いかにサポートするかということだと思います。そのためにさまざまな準備をし、より多くの体験を通して自覚を高めていくことが必要だと考えています。

【所感】

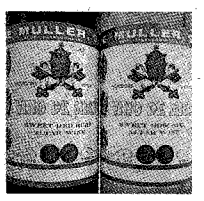
学内を歩くと、生徒たちがとても親しみ深く挨拶してきました。全校生徒が600名程度ということもあって、教師も生徒もお互いのことをよく知っており、とても家庭的な温かさを感じました。

教員一人ひとりが、創立者の精神をしっかり理解しており、学園全体がカトリックの精神を第一としてまとまっている印象を強く受けました。

遠方であるにも拘わらず、福岡市内からも通学する生徒がいるというのも頷けます。落ち着きと気品の漂う学びの園でした。

取材・執筆
泰星中学高等学校
宗教部長　里見康介
入試広報　吉竹孝介

第7回土曜公開講座　めざせ建造物の再生
日　時：5月28日(土) 15：00～17：00
講　師：井上洋子(精華女子短期大学特任教授)
カトリック福岡黙想の家
PRAYER GROVE MUNAKATA
聖堂／洋個室(洗面トイレ付)／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155　福岡県宗像市名残1056　Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

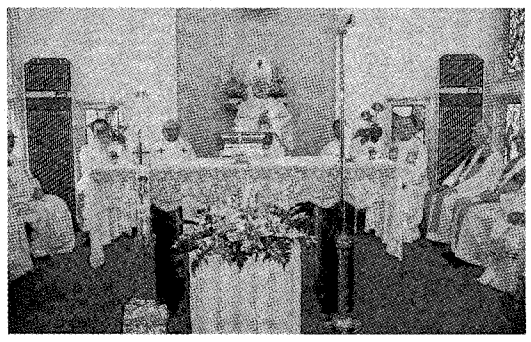
ミサ用ワイン

ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ(赤)(白)
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑(SOU-EN)
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

殉教者列福を祈願して　花岡山　熊本

熊本花岡山殉教祭が、4月3日（日）午後2時から、松永久次郎司教の司式のもと、殉教広場において挙行された。今年は春の陽光のなか、地元熊本及び教区各地から司祭、修道者、信徒約200人が集った。

まず小笠原玄也ら15人の殉教者の墓域への灌水式から始まり、次いで墓前にて、15人の殉教者たちの列福を求める祈りが、参列者一同で唱和された。司教は説教の中で「小笠原玄也をはじめとする殉教者たちが神様への信仰を死を持って証ししたことを心に留め、彼らの1日も早い列福のために祈り、また同じように私たちの信仰の模範であった教皇ヨハネ・パウロ2世の永遠の安息のために祈りましょう」と語った。奉納では、15人の殉教者一人ひとりの名を明記した十字架が、修道者・信徒たちによって敬虔に捧げられた。



「苦楽を共に」　伊万里教会創立50年　伊万里

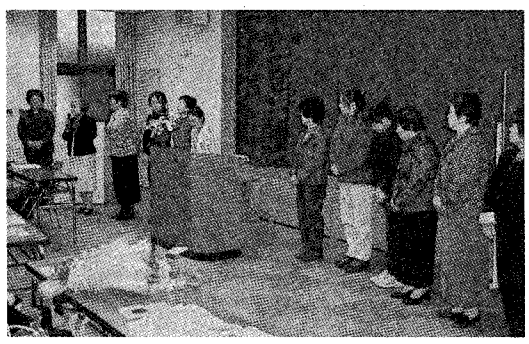
4月17日、伊万里教会（主任ガッザルディ神父）において、教会創立50周年を祝う感謝ミサと記念式典・祝賀式が行われた。

松永久次郎司教司式の感謝ミサでは、佐賀地区の司祭や近隣の教会の代表など多くの人々が感謝を捧げた。司教は説教の中で、「今まで50年間、雨の日も、晴れの日も、苦しい時も、楽しい時もあったと思いますが、立派に教会を維持してこられた事は伊万里の信者の皆さんの誇りであり、素晴らしいことだと思います。これからも皆さんが神様の声を聞き分け、忠実に従っていかれるように望んでいます」と述べた。

ミサ後の式典では、伊万里教会出身の深堀勝人神父（佐賀教会主任）が、「この信者の少ない伊万里の地に、神父様が来てくれる喜びに、みんなで河原の石を一つ一つ積み上げルルドを造りました」と当時の様子を話した。伊万里教会信徒はガッザルディ神父の「神の愛を伊万里の地に広げていく教会になるよう、ミサとご聖体を大切にしながら歩みつづけましょう」という言葉に全員信仰の決意を新たにした。

伊万里教会は1933（昭和8）年、長崎の浦上小教区より榊市松氏とその家族が移住してきたことにより始まり、その後、ミラノ外国宣教会が同地の司牧を担当し、1955年に創立された。

福岡地区婦人会が総会　福岡

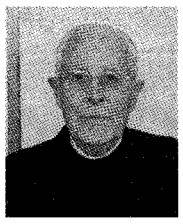


第22回福岡地区婦人会総会が4月12日、カテドラル大名町教会で開催された。総会では役員の改選が行われ、新しい会長は柿本みどり氏（古賀教会）、副会長は山添京子氏（大名町）となった。また司祭の人事異動に伴い、指導司祭が松井忠之神父（司教館）から寺浜亮司神父（大名町教会）に交代となった。その後、聖堂でミサが捧げられ、地区婦人会に神の祝福を願うとともに、逝去された教皇ヨハネ・パウロ2世のためにも祈りがささげられた。昼食後行われた講演会でも、講師の古巣馨神父（島原教会）が、教皇の思い出を交えて講話を行った。「教皇様がおっしゃった2つの言葉があります。その一つは教皇様が来日の際によくお使いになった『神に感謝』という言葉です。人生の出来事の全てを受け入れていくという意味でお使いになられていました。もう一つは『コラジオ』（さあ、元気を出して！）という言葉です。教皇様は集まった多くの信者たちにこの言葉で励まされた。教皇様自身パーキンソン病などに苦しまれても『コラジオ』という言葉を人々にかけ続けられた。教皇様は難しい専門用語は決して使わず、分かりやすい言葉、人々に宿る言葉で語られた。私にはこの教皇様の2つの言葉が宿っており、それに生きています。教皇様の言葉は今でも、多くの人に影響を与え続けています」。

「神の道具として」　召命祈願ミサ

4月14日（木）、福岡サンスルピス大神学院で召命祈願ミサが行われた。今回の司式は召命担当の浦川務神父（久留米教会主任）、浦川神父は説教の中で神学生に、「神様は人間から見れば不十分と思われる道具をお使いになります。皆さんは神様の福音宣教の道具に選ばれています。自信を持って頑張ってください」と話した。またミサの終わりに3月に叙階されたドミニコ平田直（大分教区）、ヨセフ熊谷裕司（長崎教区）の2人の新助祭、4月に入学した長崎教区のペトロ大水満神学生、福岡教区のペトロ大窄淳一神学生、ヨセフ鶴崎峻徳神学生、福岡教区のペトロ大窄淳一神学生、フランシスコ谷口尚志神学生の4人が紹介された。大神学院では今年度4月から牧山強美神父が新しい院長となり、また新しい養成者として中村倫明神父（長崎教区）が着任し、養成者5人、神学生17人となった。このミサに集まった修道者・信徒は新しい体制になった神学校のため、また新しい司祭・修道者の召命を願った。

木かげ



木陰　実　神父

昨年の3月21日に伊万里の「腰岳山」の厳律シトー会トラピスティヌ聖母修道院にチャプレンとして着任しました。あの日から福岡司教区に属していると自覚しながらも「教区報」をはじめて手にしたのはごく最近のことです。三面の「木かげ」というコラムに気づいてびっくりしました。執筆を頼まれ、ためらわずに承諾しました。軽率でしたが、それはこのコラムに対する特権を有するという一種の錯覚をおこしたからです。この精神状態は「木陰」が私の本名であることに由来します。1981年に鹿児島で日本に帰化したときに、生まれつきの氏名を日本語に訳して「木下」に当たるにもかかわらず、それを「木陰」にしたまま法務省で認められました。ところが「実（ミノル）」という名前を名字に付けてしまいました。日本の国籍が与えられたのは6月22日で暑い日でした。一人の信徒は「なぜ『涼しい』というお名前を付けなかったのですか」と尋ねました。しかし、決めてしまった「木陰」と「実」の方は、聖書にも記載されているからよかったと思います。大抵、木陰には何も実らないにしても、十字架の木の下で実りが得られると信じています。

さて、町に生まれ育ち、司祭になっても町ばかりに勤めてきた私は、昨年から82歳にして初めて田舎、しかも山の中に暮らすようになり、大自然の素晴らしさ、冬から春への目覚めを感心して目撃しているところです。

また、たくさんの木々のかげで、祈りの精神も深めていくことができることを毎日感謝し、一人でも多くの人々に同じお恵みが与えられることを神に祈ってやみません。

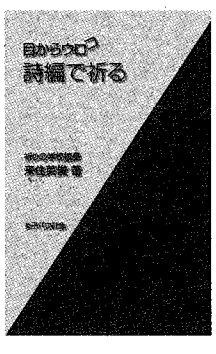
山の「木かげ」までおいでください

福音書によるとイエス・キリストは何度も山に登って、そこで、おそらく、木々の陰で、御父である神と語り合っておられたと思います。どなたでも聖霊に導かれて、彼に倣って自分に適う祈りの仕方を見出すことはすばらしいと思いませんか。

とにかく伊万里市二里町に教会の2000年以上の伝統を忠実に守ろうとしておられるシトー会のトラピスチヌシスター方は、神を中心にして、従順と山における終生の定住と善業に励み、私たちみんなに特にお祈りの模範を示し、私たちの信仰生活を支えようとしておられます。どうか、何時か山の「木かげ」までおいでください。（淳心会司祭）

BOOK　読みは専科

★目からウロコ　詩編で祈る



来住　英俊　著

目からウロコシリーズ4冊目。この本は、思いも言葉も信頼も、貧しい私たちが、詩編の言葉に乗せて、自分の思いを神に注ぎ出して祈る、という視点で書かれています。これから詩編の祈りに親しんでみようと思われる方へのやさしい手引き書です。

女子パウロ会　発行
税込価格　840円

◇　◇　◇

★泥沼の中にある福音　青少年白書

岡　宏　著

非行青少年を教会で面倒を見続けている、さいたま教区司祭、岡宏神父のエッセイ。非行少年との対話を通して、現代における福音とは何かを語りかける。現実の世界をありのままに訴える好著。

サンパウロ　発行
税込価格　945円

ジャパンスマイルか株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

ご聖体の「いのち」を生きる

カトリック教会のカテキズム

日　時：2005年５月22日（日）15：00
場　所：カテドラル大名町教会
講　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参加費：１回　５００円
主　催：福岡教区信仰教育委員会

熊本　神学講座・聖書講座のご案内

◆第四期神学講座
⑤5月22日(日) 13：30～16：30
「聖書を知る旅」
高見 三明 大司教(長崎教区長)

♣聖書講座
5月21日(土) / 6月４日(土)
「ヨハネによる福音書」を引続き読みます。
＊原則、第１・第３土曜日　14時～16時
＊2005年９月17日まで全15回

講　師：全回通して中村彰神父(健軍教会主任)
場　所：カトリック手取教会
主　催：熊本地区信徒使徒職協議会神学講座実行委員会
問合せ先：手取教会　☎ 096-352-3030

2005年度北九州地区聖書講座

★年間テーマ：いのちへのまなざし
日　時：６月26日(日) 14時～16時
テーマ：聖書からのメッセージ②
場　所：カトリック小倉教会
講　師：山元　眞　神父（行橋教会主任）
参加費：５００円
主　催：北九州地区信徒協・聖書部会
連絡先：☎ 093-293-4981　松尾
※今年度は、先に日本カトリック司教団が出した「いのちへのまなざし」を１年間かけて読むことになりました。

2005年度聖霊による信仰生活刷新セミナー

第５週　５月２日(月) 10時15分～
「みたし」　F. マッケイ　師
第６週　５月９日(月) 10時半～
「聖霊のうちでの成長」　H. オカロル　師
第７週　５月16日(月) 10時半～
「派遣ミサ」(キリストの証人)
松永司教と司祭団

会　場：カトリック大名町教会
会　費：自由献金
テキスト：新生への門出（６００円）
主　催：福岡地区（福岡・北九州・佐賀）聖霊刷新セミナー実行委員会
連 絡 先：☎ 092-522-5139（Br.床島籐吾）

古賀カトリック教会創立５０周年

日　時：５月５日(子どもの日) 10：00
場　所：カトリック古賀教会
※25年振りに鐘楼が整備され「平和の鐘」が響きます。是非ご参加ください。

案内版　会合と催し　５月のこよみ

福岡黙想の家ご案内　５月

◇３日(火)～５日(木)　第４４回クルシリヨ
◇８日(日)～９日(月)　オブレート・福岡　黙想
◇11日(水)　ミカエル会
◇13日(金)　むなかた和善の聖書
◇14日(土)～15日(日)　山口・島根信徒養成研修会
◇21日(土)　新田原日帰り黙想会
◇22日(日)　黙想の家後援会・日帰り黙想会＆総会
◇26日(木)　Dr.小宮『心の病・学習＆相談会』
◇28日(土)　第７回土曜講座『めざせ構造物の再生』

お申し込み、お問合せはお電話、ＦＡＸ、Ｅメールでどうぞ。
［問合先］御受難会福岡黙想の家
☎ 0940・32・3222　FAX 32・3385

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

年間テーマ：ご聖体の秘儀を深めて
※祈りの集い（毎月第２木曜日）
※５月12日(木) 10時～15時
テーマ：ご聖体と聖霊降臨活
指　導：Sr.マリアとFr.フランコ
※研修会［諸宗教対話。何ですか？何のためですか？］
日　時：５月13日～15日
問合せ先：真命山諸宗教対話・霊性交流センター
☎ 0968・85・3100
FAX 0968・85・3186
E-mail shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時：５月７日・５月21日　10時～12時（第１、第３土）
場所：カテドラル大名町カトリック教会小聖堂
※基本的に第１・第３土曜。変更になる場合もあります。

1日(日)　復活節第６主日／世界広報の日（献金日）
3日(火)　クルシリヨ（～５日黙想の家）／憲法記念日
5日(木)　**古賀教会創立50周年記念と堅信式**
†F.ルマリエ［1945年八代教会］／こどもの日
8日(日)　主の昇天/聖体奉仕者養成講座（カテドラル14時）
10日(火)　†F.チリ司教［1930年初代福岡教区長］
12日(木)　召命祈願ミサ（大神学院19時15分）
13日(金)　ファティマの聖母
†J.ライス［1981年老司教会］
14日(土)　聖マチア使徒
15日(日)　聖霊降臨の主日／**合同堅信式（カテドラル14時）**
†ヨハネ棚町正刀［1968年茶山教会］
18日(水)　聖ヨハネ１世教皇殉教者
助祭・司祭候補者認定式（大神学院）
22日(日)　三位一体の主日
福岡地区カテキズム勉強会（カテドラル15時）
26日(木)　聖フィリポ・ネリ司祭
29日(日)　キリストの聖体
戸畑教会公式訪問・堅信式
新田原教会聖体大会／茶山教会聖体賛美の集い
31日(火)　聖母の訪問
6月
3日(金)　イエスのみ心
†V.マテオ［2002年福岡黙想の家］
4日(土)　聖母のみ心
†ミカエル西田邦洋［1996年若松教会］
5日(日)　年間第10主日
大名町教会聖体の年黙想会・ミサと講話

ゴチックは司教日程

◆福岡

■福岡教区カナの会集い
［日時］５月５日（子どもの日）９時30分受付［場所］カテドラル大名町教会［ミサ］櫻井尚明神父（糸島教会主任）［インストラクター］吉川信雄氏（光丘教会信徒）［対象］20歳以上の独身男女［参加費］２０００円（昼食代含む）［申込み］０９０・４３４７・３３１９前野

■福岡ホスピスの会勉強会
［日時］５月８日（日）14時から16時［場所］カトリック大名町教会［内容］小児がん［講師］稲田浩子師（久留米大学病院小児科）［参加費］７００円［問合せ］☎０９２・８７４・６３２１事務所

■召命祈願ミサ
［日時］５月12日（木）19時半［場所］サン・スルピス大神学院［主催］福岡召命を共に祈る会・大神学校

■スピリチュアルケア福岡一日研修会
［日時］５月14日（土）９時半から16時半［場所］サンパウロ福岡センター（福岡市中央区赤坂）［テーマ］信教の自由とスピリチュアルケア［講師］W・キッペス神父［参加費］４０００円［問合せ先］☎０９４２・３２・４８７３井口憲一郎

■カトリック笹丘教会バザー
［日時］５月15日（日）10時ミサ後から［場所］信徒会館＊駐車場あります。雨天決行。

■召命を共に祈る集い
［日時］５月19日（木）14時30分［場所］召命の家［指導］浦川務神父（召命担当）

■在世フランシスコ会集会
［日時］５月22日（日）14時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］戸村悦夫神父［問合先］☎０９２・８４３・５８３１岩崎

■グレゴリオ聖歌を歌う
［日時］５月26日（木）11時からミサ／13時から研修［内容］聖母マリアの祝日のためのミサ曲［講師］坂田孝子氏［場所］聖クララ寮聖堂［問合せ先］☎０９６・３８０・５６８６堺敬子

■ユリアナ会
［日時］５月26日（木）14時から16時［内容］「不登校（思春期精神医学）」［場所］福岡黙想の家［講師］小宮豊精神科医師（小宮クリニック院長）［参加費］無料［問合せ先］☎０９４０・３８・８９１５（11時～16時／月～土）世話係吉永

■福岡結婚準備講座
［日時］５月９日（月）から５月31日（火）毎月曜日と火曜日全８回19時～21時30分［場所］カトリック手取教会［参加費］カップルで一万四千円［問合せ先］☎０９６・３５２・３０３０FAX０９６・３５２・１５１５手取教会　安部

◆北九州

■小倉祈りの会
［日時］５月27日（金）13時半から15時［指導］ガブリエル神父（御受難会）［場所］小倉教会信徒会館２階［内容］「みことば」を味わう・賛美と感謝の祈り［連絡先］☎０９３・９２１・２２８０安藤

■第39回福岡典礼聖歌研修会
［日時］６月12日（日）13時から［場所］カトリック大楠教会［テーマ］マリア賛歌［講師］深堀純氏［持参するもの］典礼聖歌集・カトリック聖歌集［参加費］感謝献金［問合せ先］☎０９２・５４１・３７３０松山敦子

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］５月11日（水）10時～11時半［場所］カトリック会館［内容］共に祈る「次回」５月25日（水）10時～12時はミサと祈り：毎月第２水曜と第４水曜日。どうぞご参加下さい。［問合先］☎０９５２・７２・７５３６吉田

◆熊本

■熊本結婚準備講座
［日時］５月９日（月）から５月31日（火）毎月曜日と火曜日全８回19時～21時30分［場所］カトリック手取教会［参加費］カップルで一万四千円［問合せ先］☎０９６・３５２・３０３０FAX０９６・３５２・１５１５手取教会　安部

＜福岡ユースカトリックキャンプ＞開催

＜テーマ＞『いっただっきま～す...?!』
＜日　時＞2005年7月29日(金)～7月31日(日)
＜場　所＞福岡サン・スルピス大神学院
＜対　象＞中学生・高校生
＜Ｈ　Ｐ＞http://goodshepherds.net/fycc/
＜問　合＞092-741-3687（大名町教会：寺浜神父）
＜メール＞fycc3@goodshepherds.net
＜主　催＞ＦＹＣＣ3準備委員会（福岡地区青年有志）
FYCC 3

編集後記

悲しい出来事、喜ばしい事、様々な事柄が行き交った時期に編集したスタッフとしても思い出に残る5月号となった。これからまた読者の皆さんに興味を持ってもらえる教区報にしていきたい。

味付けをしたり、飾りをつけたり、香りのするような情報誌になっていったら、と思っている。

なお、「木かげ」の連載に惜しみなく協力してくださった神父様方に感謝致します。そして皆様、新しい企画で編集していく中で、これからもご協力・ご支援くださいますよう、よろしくお願い致します。

COSMOS
スポーツ用品・ＯＡ・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木 67 － 3
ＴＥＬ　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川３丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（１Ｆ）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（２Ｆ）十字架、ロザリオ、ご像、ＣＤ、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後６時　定休日：木曜日
〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-14-26
電話　092-721-2032　FAX　092-739-3930

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

6月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】難民に対するキリスト者として、兄弟として具体的な愛

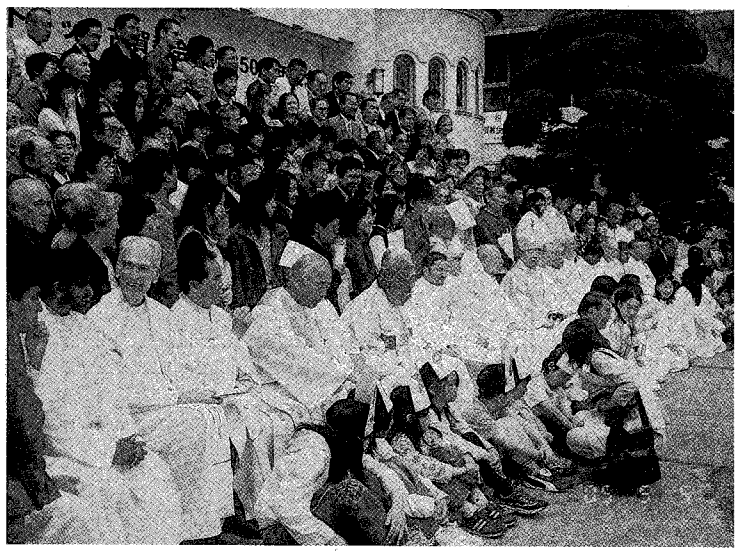
【布教の意向】感謝の祭儀：教会の命の脈打つ中心

【日本の教会の意向】祈りと実践

1954 古賀教会50周年 2005

記念祭は平和の鐘の鳴り響く中で

平和の元后マリアに捧げられた古賀教会が創立50周年を祝った。国祭日を利用しての式典に約300人が参集した。天候にも恵まれ、高らかに鳴り響く平和の鐘が集った人々の心を神への賛美と感謝に導いた。ミサの中では26人が司教より堅信の秘跡を受けた。在籍信徒は9000名を越し、隣接する暁の星幼稚園とともに福音宣教に力を注いでいる。



カトリック古賀教会（主任E・ウィリアムス神父）は5月5日（木）に松永久次郎司教を迎え50周年を記念して感謝ミサ・堅信式・祝賀会を行った。

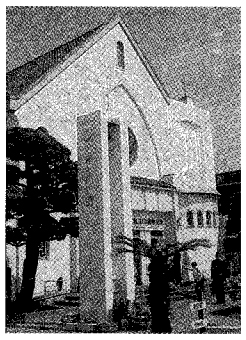
各地から信徒や修道者らが大勢参加し、テレビ中継の信徒会館も含めて300余人の盛会になった。

50周年を記念して移転新築した鐘塔から「平和の鐘」が25年ぶりに響く中で、堅信者26名、司祭団、侍者、奉仕者など総勢60人程の入堂行列が始まった。

1955年この地は、玄界灘を臨む美しい海岸の広大な松林で、その中に現在の福岡東医療センターの前身である3カ所の療養所が点在し、そこに入所している方達に奉仕する為に、神父やシスターが訪れていた。当時、療養所の副院長夫人だった福田智子氏の強い要望もあり、深堀仙右衛門司教がその頃、光丘教会を司牧していたオブレート会（汚れなきマリアの献身宣教会）に教会の建立を依頼。

アメリカからの寄付などで建設された緑の中の白い鐘楼の教会は、近くを通る汽車からも美しい景色として愛でられた。

松永司教は、「この地で聖体祭儀が50年間続いたこと、2家族12人だった教会が今は900人を超える共同体になったことは素晴しいことです」と述べ、先人達の努力に感謝の意を表した。またオブレート会日本地区長A・シアニ神父は『未来へ向かって世の光となろう』というテーマに示されたように宣教を目指して未来へ向かって新しいステップを踏み出す時です」と述べた。



一同は古賀教会共同体が次の100周年に向かって、聖体のイエスにより頼み、宣教の使命を果たすことができるようにと祈った。祝賀会では教会学校の子どもたちの劇「ルルドの少女」が披露され、婦人会の心のこもったもてなしのうちに記念の日は終了した。

創立当初から併設された暁の星幼稚園の園児数も27人から約300人に増え、モンテッソーリ教育による子どもの人間形成を通して地域の福音宣教に寄与している。

今回の記念行事として、先の3月5日（土）、6日（日）の両日、大阪教区の松浦悟郎補佐司教の指導で四旬節黙想会を行った。同時に、祈りのひとときとしてテゼの歌をギター伴奏で静かに歌い、霊性を高めイエスと共に歩む導きに感謝した。

5月8日（日）には、古賀教会の亡くなった司祭、修道者とすべての信徒の感謝のため祈念ミサを行った。また記念事業実行委員会は1年前から「創立50周年記念誌」の編纂に取り組み、今回の祝賀で集った人々に贈呈した。

46人喜びの堅信式！

聖霊降臨の主日

5月15日、聖霊降臨の主日にカテドラル大名町教会で教区行事である合同堅信式が執り行われ、主式の松永久次郎司教により受堅者に按手と聖香油の塗油が行われ堅信の秘跡が授けられた。

今年の受堅者は武雄・飯塚・直方・天神町・浄水通・茶山・二日市・光丘・笹丘・大名町の10教会の46人。ほとんどが今年の復活祭に洗礼を受けた人々である。

ミサ後の式典で、受堅者代表の中原徳人さん（大名町教会）は、「ヨハネによる福音書15章16節に『あなたが私を選んだのではない、私があなた方を選んだ。私があなた方を任命したのである』とあります。イエス・キリストから選んで頂いたのですから信仰を強め、今日の堅信の秘跡の恵みを実らせ、隣人にキリストの教えをもたらせるよう努めて行きたい』と決意と感謝を述べた。

時の話題

岡　正樹

教会で侍者があるから、ミサには出なきゃ、親に言われて、仲間がいるから…。様々な理由で次の日曜の朝も中高生は眠い目をこすりながら教会へ向かいます。

私が中高生の頃、教会での仲間との時間は学校の友人との時間とは少し違い、流れのゆったりとした大切なものでした。今思えば他愛のない話をし、あって無いような目的を掲げてハイキングやキャンプへと駆け回っていただけのようにも思います。しかし、教会の仲間と過ごした濃密な時間は両親も知らない大事な時間のように感じていました。

今、私はその当時に実行して楽しかったこと、実行できなかったことに中高生と取り組んでいます。試行錯誤の日々の中、彼らに取り組みを訊ねてみました。「皆と教会を好きになってもらえる活動」と笑顔で言われました。私は頼もしいと感じるより先に、負けてられないと思いました。

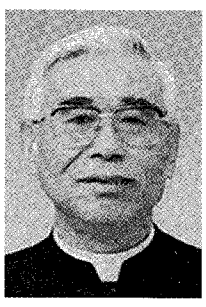
教区の将来を担う人材が今、各地で着実に動き始めています。胎動の時期はもうすぐ終わりを迎えます。皆さん、どうぞ若者の背中をそっと押してください。「コレはダメ」「目的が云々」なんておっしゃらず、チャレンジさせて下さい。ココロは若者の皆さんの知恵と、若者走り出そうとする勢いとを繋ぎ、活力ある新たな動きにしていきませんか。私もひとりの信者として、中高生会活動に携わるものとして中高生に負けぬよう勢いよく走っていこうと思っています。

（光丘教会学校リーダー）

若者の背中をそっと押して

訃報

ミカエル中濱一男神父急逝



5月16日午前3時頃、中濱一男神父が心筋梗塞のため帰天した。通夜は17日午後7時にカテドラル大名町教会にて、葬儀ミサ・告別式は5月18日午前11時より同教会で松永司教主司式により行われた。

葬儀ミサには長崎大司教区高見三明大司教を始め司祭団100余人、信徒600人位が参列した。司祭や信徒は、「中濱神父は正義感が強く、実直な方でした。何事にも真剣でした。教区の柱を失った」と異口同音に話していた。

中濱神父は2001年3月、当時の任地カトリック今村教会で心筋梗塞を起こし入院。退院後、教区事務局長を務めながら週3回人工透析を受けていた。この5月15日（聖霊降臨の主日）に行われた福岡教区の合同堅信式にあたって、事務局長として教区内の受堅者の把握や式典の手配など準備、当日の祝賀式の総司会など最後まで滞りなく式長を務めた。翌朝、中濱神父は司教館の居室で倒れていたのを発見され、心筋梗塞による死亡と診断された。

中濱神父は39年9月26日五島岐宿町に生まれる。65年3月マレラ枢機卿により司祭叙階、同年4月福岡小神学校副校長、67年4月サンスルピス大神学院教授、69年9月小神学校校長、72年3月光丘教会主任代行、後ローマに留学、帰国後サンスルピス大神学院教授、89年八代教会主任、92年今村教会主任、01年教区事務局長、02年浄水通教会主任司祭として勤めた。享年65歳。

みちくさ

「あんた晩飯はどうするとね？」。突然内線がなり、神父様の声。「いえ特に決めていませんが」「じゃあ、一緒に行こう」。時間になって入口に車を止めて待っていると「車はもうよか、タクシーをひらおう」「何が食べたいとね？」、と聞かれ「神父様、うどんは？」「じゃあうどん屋に行こう」▼タクシーをひろい、運転手さんに「○○うどん屋さんにお願いします」。近くのうどん屋さんにタクシーで行ったのは初めてで、神父様のまじめな顔と運転手さんのおどろいた顔が対称的だった、「あんたビールを飲みなさい」。このとき神父様の考えが分かりました。その日の昼食にビールが出され、神父様方は食事と一緒にビールを飲まれていました。私は車の運転があったので飲むことが出来ませんでした。神父様はそのことを忘れずにいてくださったのです。私にビールを飲ませるために、わざわざタクシーでうどん屋さんに▼ビールで乾杯し、2人でうどんを食べながら、神父様は笑顔でいろんなお話をされました。神学生時代、留学体験、司祭になってからなど、経験豊富な神父様。「勉強は好きじゃなかったけど、まあまじめにやったかな。はーはっはっ」と独特の笑い声、時間の経つのも忘れて神父様の話がはずむ。「今日はすまんね、すっかり私の独演会になって、はーはっはっ」「こちらこそご馳走になりました、おやすみなさい」「うん」と一言、手をあげられ部屋に戻られる姿はいつものまじめな中浜神父様。突然の訃報に、ついこの前の出来事が随分懐かしく思い出されました。

（P）

2004年福岡教区現勢

2004年12月31日現在

小教区名	在籍信徒数 男	在籍信徒数 女	在籍信徒数 合計	不明 計	死亡 計	転入 計	転出 計	洗礼 幼児	洗礼 成人	ミサ参加者 主日	ミサ参加者 復活	ミサ参加者 降誕祭	教会学校 幼小	教会学校 中学	教会学校 高校
糸島	181	211	392	45	2	10	0	2	2	110	180	200	35	0	0
今村	446	557	1,003	0	13	10	7	9	1	650	700	800	48	40	0
大楠	145	202	347	17	1	7	12	4	4	220	330	950	88	14	4
大牟田	104	193	297	0	4	6	3	1	6	100	150	200	38	7	10
小郡	184	201	385	48	0	7	13	1	2	100	250	350	19	7	0
久留米	478	795	1,273	351	7	32	20	11	14	400	650	850	128	19	0
古賀	402	501	903	19	10	19	15	3	8	260	502	525	49	51	19
笹丘	347	494	841	55	13	21	9	7	2	230	250	480	70	34	19
浄水通	180	308	488	131	2	2	15	1	1	140	250	440	6	5	29
大名町	676	1,038	1,714	72	8	53	37	15	21	505	805	2,505	45	18	4
高宮	140	233	373	22	6	14	21	3	9	150	250	350	44	13	14
茶山	217	259	476	4	2	4	29	0	1	215	320	265	6	7	0
西新	565	706	1,271	19	3	52	20	8	4	400	450	800	51	29	0
箱崎	111	191	302	9	0	15	8	4	5	70	200	250	20	0	0
光丘	568	663	1,231	3	2	16	19	3	9	240	287	558	23	11	9
二日市	289	392	681	9	5	6	7	3	9	250	380	580	47	23	0
本郷	324	365	689	11	9	5	4	2	2	350	550	655	16	13	0
吉塚	348	447	795	0	0	8	9	3	5	155	300	315	41	11	0
老司	274	308	582	11	2	11	18	2	0	120	260	500	45	5	0
小計	5,979	8,064	14,043	826	89	298	266	82	105	4,665	7,064	11,573	819	307	108
飯塚	105	140	245	0	0	0	0	4	4	70	170	190	10	0	0
黒崎	482	654	1,136	0	16	14	8	7	9	350	500	800	34	11	0
小倉	882	1,366	2,248	418	17	18	20	5	14	500	800	1,200	62	12	0
新田原	872	972	1,844	0	8	13	4	5	4	800	1,200	1,300	90	50	0
田川	59	91	150	26	4	0	3	0	1	30	60	60	4	0	0
天神町	119	173	292	31	4	1	0	1	1	70	120	200	13	7	0
戸畑	282	391	673	0	2	1	7	6	7	200	230	600	37	27	48
直方	100	104	204	6	1	5	0	0	0	40	80	100	22	2	0
水巻	350	440	790	0	3	5	5	1	0	150	350	400	39	20	0
門司	215	288	503	30	2	2	5	6	1	150	230	280	8	4	8
湯川	565	646	1,211	49	8	5	4	5	4	250	400	450	47	5	0
行橋	377	408	785	9	2	7	7	12	4	350	550	660	49	17	0
若松	111	162	273	0	4	1	0	3	2	70	120	150	17	8	5
小計	4,519	5,835	10,354	569	71	72	63	55	51	3,030	4,810	6,390	432	163	61
伊万里	119	151	270	18	3	1	0	2	0	79	198	201	27	6	0
鹿島	22	30	52	0	2	1	0	0	0	15	30	50	75	0	0
唐津	224	267	491	29	3	6	7	4	1	100	200	280	47	8	0
佐賀	238	405	643	112	18	7	20	5	16	110	300	280	24	19	25
多久	57	63	120	1	0	0	0	0	0	22	34	49	14	2	0
武雄	34	48	82	0	0	0	1	0	1	30	80	110	16	0	0
鳥栖	172	245	417	6	0	9	1	2	1	100	240	280	47	2	4
馬渡島	173	169	342	0	2	0	2	1	0	320	340	340	30	17	0
呼子	153	154	307	36	1	3	0	2	0	120	250	250	18	13	12
合計	1,192	1,532	2,724	202	29	27	31	16	19	896	1,672	1,840	298	67	41
荒尾	47	84	131	0	2	0	5	0	1	28			0	0	0
大江	127	194	321	1	1	0	2	3	3	130	250	300	16	10	0
帯山	126	176	302	22	4	0	7	5	1	80	120	160	7	3	0
菊池	31	63	94	0	1	1	2	1	16	30	50	100	0	0	0
健軍	135	206	341	0	4	15	11	4	2	120	180	200	34	7	3
崎津	96	131	227	3	3	0	0	0	0	70	150	150	8	9	0
島崎	138	210	348	0	4	2	4	1	4	220	300	325	15	0	0
玉名	47	74	121	4	0	0	0	1	0	45	100	100	0	0	0
手取	350	658	1,008	27	17	12	17	6	16	350	550	750	53	19	2
人吉	59	132	191	0	2	0	4	4	2	60	160	200	9	2	0
本渡	68	129	197	95	3	3	0	0	0	40	50	70	12	0	0
水俣	40	63	103	21	2	0	1	0	0	30	50	100	45	0	0
武蔵ケ丘	144	232	376	0	7	7	5	9	5	200	250	350	30	9	9
八代	49	106	155	24	1	9	0	4	6	65	100	170	0	0	0
合計	1,457	2,458	3,915	197	51	49	58	38	56	1,468	2,310	2,975	229	59	14
総計	13,147	17,889	31,036	1,794	240	446	418	191	231	10,059	15,856	22,778	1,778	596	224

連載(3)

ご聖体のいのちを生きる

聖霊降臨としてのご聖体の神秘

イエスはご復活の日の夕方、一緒に集まっている弟子たちに現れ、「あなたがたに平和があるように」と挨拶されました。そして「彼らに息を吹きかけて言われた。聖霊を受けなさい」（ヨハネ20・19、22）。

この息、聖霊の賜物は、新しい人間（創世記2・7）の始まりであり、教会の始まり（使徒言行録2）でもあります。ヨハネのこの箇所はルカの24章に対応しています。

イエスは、ご復活の日の夕方、弟子たちに現れ、彼らと共に食事をし、彼らの真ん中にいて、聖霊を与え、聖霊によって教会を一つに集め、生かしていることを明らかにされました。

感謝の祭儀を祝うたびに、わたしたちはイエスの死と復活を記念するだけではなく、その完成である聖霊降臨の神秘を繰返して生きるのです。

そのことは、感謝の祭儀の祈りの基本的構成要素の中に明らかに見えます。祈りの中心はご聖体の秘跡の制定です。

このできごとは、常に、エピクレシス（すなわち、聖霊の働きを求める祈り）をともないます。聖霊を呼び求めながら、まずパンとブドウ酒がキリストの御血と御体になるように祈り、次に、同じくイエスの弟子の集会の上に聖霊の働きを求めて、一つのブドウ酒の杯を飲み、キリストにおいてただ一つの体になり、一つの心に結ばれるように祈るのです。

東ヨーロッパ教会の神学が、聖霊の働きを求める祈りを強調してきたのにくらべて、西ヨーロッパの教会は、ご聖体の秘跡の制定を強調してこの箇所を読んできました。しかし、どちらの要素も感謝の祭儀の祈りの中心であり、本質的要因です。ですから、両方に注意をはらう必要があります。

イエスが、聖霊のはたらきによっておとめマリアの胎のなかで肉体を受けたように（ルカ1・35参照）、またペンテコステの日に聖霊がくだって教会が生まれてキリストの体となったように、感謝の祭儀を行うとき、み言葉が人となった神秘と教会の誕生の神秘はつづいていくのです。

ヨハネ・パウロ二世教皇が残した最後の回勅のタイトルは「感謝の祭儀から生まれる」です。それが教皇の遺言のようになりました。教会は、聖体祭儀の中で記念し、秘跡的に繰り返し新たになり、聖霊降臨をもって完結するキリストの復活と死の神秘を繰り返し生きるのです。

（F・ソットコルノラ神父＝真命山・諸宗教対話 霊性交流センター院長）

教区報創刊50年
第3代編集長が語る

渡辺隆義神父

「教区報をしてくれないか」と、当時編集長だった山田成章神父様に言われ、一瞬、「私にはできません」とお断りしようかと躊躇しました。小郡にいた頃です。前任の2人の編集長の巧みさにとても追随できないと思ったからです。しかし、幸いに笹丘教会の田町節子さん、大名町教会の深堀邦枝さんのご協力を取り付けることができました。しかも無報酬で引き受けてくださいました。後にお二人が教区報作りで費やした時間とエネルギーを考えたら、褒められたものではありませんでした。また、聖パウロ修道会と聖パウロ女子修道会の助けもありました。この場を借りてお礼申し上げます。

叱咤激励という言葉がありますが、読者の皆様からは激励よりも叱咤の方が多かったような気がします。文字であれ、言葉であれ、必ずしもこちらの意図が正確に伝わるとは限りません。いろいろな誤解を生じさせたり、読者や当事者に大変不愉快な思いをさせてしまったこともあります。改めて寛大なお許しをお願いします。

アメリカの小さな教会で主任司祭として働かせていただいている今、教区報が送られてくるのを楽しみにしています。今は、コンピューターを使って編集作業をしておられるようで、紙面のレイアウトがよりスマートになっています。当時はやっとワープロの時代でした。「時の話題」「みちくさ」「木かげ」「BOOK読みませんか」などのタイトルは編集員とアイデアを出し合って決めたものです。まだ、自分たちの歴史が続いているのを嬉しく思う反面、一面のコラム「みちくさ」は、私の後は毎月素晴らしい内容になっていますので、タイトルはそれ以前のものか何かに変えたほうがいいのでは、などと複雑な思いです。

福岡教区報が松永司教様と私ども教区民とのコミュニケーションの大切な道具として今後とも十分活用されますように祈っています。

サン・スルピス大神学院に新院長

牧山強美神父

今年4月に院長に就任したばかりの牧山強美神父（44）を訪問。新院長は、「神学校は多くの人々に支えられています。まずそのことに感謝申し上げます」と挨拶し抱負を語った。「神学校では何事もみんなで一緒につくり上げて行きたい。また神学校をもっと信徒の皆さんに利用していただきたい」と述べた。新院長は、61年長崎生まれ。88年司祭叙階。長崎教区司祭・スルピス会員。専攻は倫理神学。

尚、新体制を鑑み長崎大司教区の山脇守神父が3年前から、中村倫明神父が今年から養成スタッフとして常駐。現在の神学生は3教区17人。

助祭・司祭候補者認定式に教区神学生

5月18日、大神学院で行われた式で大勢の参加者の祈りの内に小倉教会出身の十時伸治神学生が認定を受けた。

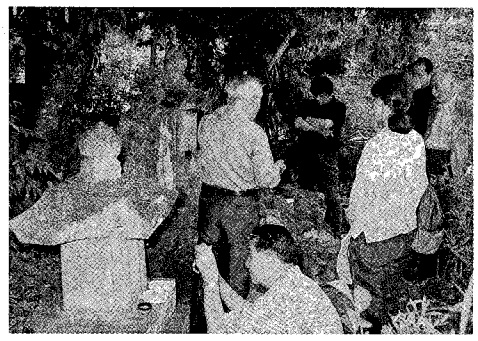
第8回土曜公開講座　宗教建築の見方
日　時：7月23日(土) 15：00～17：00
講　師：土田　充義（文化財保存工学研究室長）
PRAYER GROVE MUNAKATA
カトリック福岡黙想の家
聖堂／洋個室（洗面トイレ付）／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056 Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ 青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

殉教者加賀山隼人の列福を願って



5月5日、旧小笠原藩の殉教者加賀山隼人の史跡顕彰会が催され、大分教区の宮原良治司教、福岡教区殉教者顕彰推進担当司祭の深堀勝人神父ら総勢11人が田川郡香春町の陵墓や北九州の刑場跡などを顕彰した。

香春町浦松では獅子頭の天蓋に擬宝珠を載せ、石室の扉に十字架が浮き彫りになった2基の石塔の前で、地元で水神として大切にされてきた歴史や現状を酒井修氏（門司教会）が説明（写真）。墓石跡の同町鈴麦では、陵墓が移されたいきさつに触れた。

小倉・愛宕山の刑場跡では、江戸時代の地図で位置関係を確かめ、降り始めた雨の中で、「殉教者の列福を求める祈り」を全員で唱え、列福の実現を図る真の目的が福音宣教にあることを確認した。

尚、参列した宮原司教は大分・日出の加賀山半左衛門父子の顕彰の方途を探っている。

第44回 福岡教区クルシリヨ開催

想い黙の家

今年も福岡教区クルシリヨが5月3日から5日の3日間、福岡黙想の家で開催された。

44回目となる今年のクルシリヨより指導司祭が下町豊重神父（西新教会）から伊東成晃神父（門司教会）に替わり、高校生から70代まで、神学生2名を含む男女13名が参加したのである。

かつてキリストはパンを増やされた時、弟子たちに渡して配らせた（マタイ14・19）。教会は今この弟子たちの分配の任務を引き継ぎ、繰り返している。しかしこの恵みの分配はある時には迫害の憂き目にあい、またある時には神の恵みの豊かさを正しく理解できずに、人間的見方に溺れて傲慢になり、神の恵みから人々を遠ざけることもあったろう。

故ヨハネ・パウロ二世教皇は第三の千年紀に向かう教会のために「新しい福音宣教」を提唱し、神の恵み、すなわち「キリストにおけるいのちの新しさ」（救い主の使命11）を生涯生きていこう。聖体に対する信仰を新たにしましょう」と話された。

続いて11時より感謝のミサ

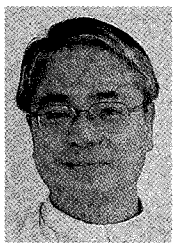
た。

参加者は、親子、兄弟姉妹のような年齢構成で、まるでひとつの家族のようだった。実際に最後は家族のような絆が感じられた。初日の初対面の時の硬い表情が最終日には全員が生き生きとして、笑顔に包まれ、聖霊に満たされているのを感じた。参加者の感想を聞くと、「他教会の人と知り合えて良かった」、「自分の信仰を見つめ直すことが出来た」、「祈りの力のすごさを感じた」など、皆一様に充実感や感動の言葉を語り、何人もの人が、「今までの人生で最高のゴールデンウイークになった」と話していた。尚、クルシリヨの内容は、指導司祭、講師による黙想・講話を中心として、カトリックの真髄を体験出来るように組み立てられている。

福岡教区修道女連盟05年度研修会と総会

4月29日福岡教区修道女連盟（会長シスター西田日出子：師イエズス修道女会）の2005年度研修会・総会がカテドラル大名町教会で開催された。松永久次郎司教の講話ではヨハネ・パウロⅡ世の使徒的書簡「主よ、一緒にお泊まりください」をテーマに「この書簡は、新しい教皇ベネディクト16世が下書きされたもので、04年10月から始まった聖体の年にあたって出された。聖体は貴重な宝、私たちはその宝をもっと理解しよう。この書簡の結びに『聖体の年がすべての人にとって、キリストがその教会に委ねられた比類なき富に気付くように成長する貴重な機会となりますように』と言葉を遺された。このごく平凡な、しかしきわめて大切で、貴重なものを私たちの宝物として、奉献生活しさ」を伝えることが教会の使命である。ここでいう「新しい」とは「今までにない何か」を意味するばかりでなく、人々のいのちを常に生気づける「新しさ」である。それは聖霊による「新しさ」ともいえよう。従って「新しい福音宣教」が効果的になされるためには、聖霊の導きの許に、現代社会の人々が「必要としているもの」を明確に読みとり、それに充分に具体的に応える方策と力を持つことである。旅する教会の使命は、現代社会の人々に聴き、その必要とするものに応えながら、聖霊と共に歩むことではないだろうか。（大山悟神父・聖スルピス会会員）

教会について思うこと 1



「旅する教会は、その性質上、宣教者である」（宣教活動2）。教会は「今」という時と「ここ」という場所に制約されながら、それらを超えて約束の地に向かい続ける旅人である。そこで教会が受ける、永遠の愛という泉から流れる神の恵みは、全被造物を救い、新たにするものであり、教会は「今」「ここで」この神の恵みを具体的に被造物に分配

…教会の使命…

するのである。

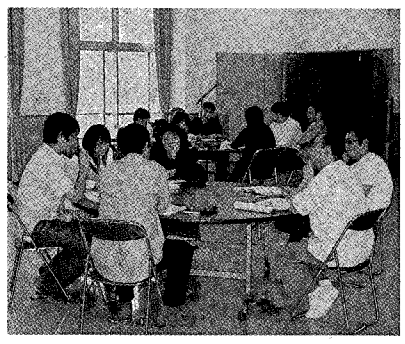
かつてキリストはパンを増やされた時、弟子たちに渡して配らせた（マタイ14・19）。教会は今この弟子たちの分配の任務を引き継ぎ、繰り返している。しかしこの恵みの分配はある時には迫害の憂き目にあい、またある時には神の恵みの豊かさを正しく理解できずに、人間的見方に溺れて傲慢になり、神の恵みから人々を遠ざけることもあったろう。

故ヨハネ・パウロ二世教皇は第三の千年紀に向かう教会のために「新しい福音宣教」を提唱し、神の恵み、すなわち「キリストにおけるいのちの新しさ」（救い主の使命11）

「あっちこっちミサ」準備でミサを学ぶ

青年

4月29日から5月1日にかけて「あっちこっちミサ準備会」が福岡教区の青年を中心に企画され、全国各地から約30人が参加した。今回のテーマは「ミサ」。イエズス会の萱場神父指導のもと、青年たちはミサについて考え、キリストとのつながりを深めていく。グループでの分かち合いでは熱心な意見も出され、キリストと自分たちその出会いを感謝し、ミサで奉納した。最後にそれらを劇や歌にして発表し、全体で楽しく分かち合った。このキャンプの最後には、会場となった新田原教会出身の山元眞神父（行橋・豊津教会主任司祭）の司祭叙階25周年を記念するミサと祝賀会が行われ、500名を超える信徒が参加した。山元神父はミサの中で、「司祭もまた羊の群れの中の一匹だと気づきました。私たちも共に主の御言葉と、御聖体の食卓を囲んで派遣されて行きます。キリストは食べられるものにまでなって私たちを生かしてくださいます」と語った。



ミサについて考えを深めた青年たちにとって25周年を迎えた司祭の姿はキリストとの出会いをあらためて感じさせるものとなった。

福岡教区女連盟05年度研修会と総会

が司教司式のもと約90人の修道女たちと共に捧げられた。

ミサ後に行われた総会では新旧役員の交代と挨拶が行われた。指導司祭青木悟（大名町教会）、会長西田日出子（師イエズス修道女会）、副会長高節美（福音の光修道会）、会計島田登志子（聖パウロ女子修道会）、書記長谷川光恵（援助修道会）、大山ヨシエ（ショファイユの幼きイエズス修道会）、監査コロンボ・ヴィッセリーナ（カノッサ修道会）となり出席者全員の承認を得、神への賛美と希望のうちに新しい年度の歩みを始めた。

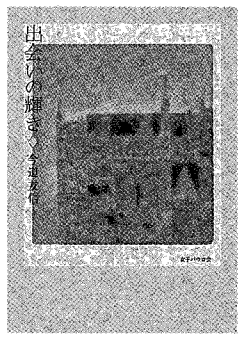
熊本カトリック女性の会

4月24日、熊本地区5つの小教区の女性が集い、第1回熊本地区婦人会総会が開催され、会則及び役員承認を得て「熊本カトリック女性の会」が設立された。指導司祭は川添猛神父（帯山教会）。会長に安部由子（手取教会）、副会長に旅井瑞代（武蔵丘教会）、高木和子（島崎教会）が選出された。尚、5月20日に開催された日本カトリック女性団体連盟栃木大会において「熊本カトリック女性の会」の加盟が正式に承認され、日カ連理事に平田悠貴子（手取教会）を選出した。

BOOK 読みは専科

★出会いの輝き

今道友信　著



「神の恵みとしての出会いの輝きを語ることは、恵みの神の存在を、襲いくる疑惑のなかで信じていくための一筋の道のように思われてなりません。」（まえがきより）

日本を代表する哲学者の生涯を導いた人との出会い、本との出会いの回想。

女子パウロ会　発行
税込価格　2205円

◇　◇　◇

★香部屋係のハンドブック

白浜満・齊藤賀壽子【共著】

ミサをはじめとする様々な典礼、道具、季節ごとの準備など、香部屋と典礼係に必要な事項をイラストを使って分かり易く解説。

香部屋に1冊あれば大変便利なハンドブック。また、聖体奉仕者や典礼奉仕者など、教会で結婚式や葬儀などに奉仕する方にも必読本。

教友社　発行
税込価格　1365円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服、聖器具、聖像
信心用品、ベール、
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

ご聖体の「いのち」を生きる

カトリック教会のカテキズム

日　時：2005年6月26日（日）15：00
場　所：カテドラル大名町教会
講　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参加費：1回　500円
主　催：福岡教区信仰教育委員会

熊本　神学講座・聖書講座のご案内

◆第四期神学講座
⑤6月19日(日) 13：30～16：30
「宗教改革」
石井健吾神父（聖アントニオ神学院）
♣聖書講座
6月18日(土)／7月2日(土)
「ヨハネによる福音書」を引続き読みます。
＊原則、第1・第3土曜日　14時～16時
＊2005年9月17日まで全15回
講師：全回通して中村彰神父（健軍教会主任）
場所：手取カトリック教会
主催：熊本地区信徒使徒職協議会神学講座実行委員会
問合せ先：手取教会　☎096-352-3030

2005年度北九州地区聖書講座

★年間テーマ：いのちへのまなざし
日　時：6月26日(日) 14時～16時
テーマ：聖書からのメッセージ②
場　所：カトリック小倉教会
講　師：山元　眞　神父（行橋教会主任）
参加費：500円
主　催：北九州地区信徒協・聖書部会
連絡先：☎093-293-4981　松尾
※今年度は、先に日本カトリック司教団が出した「いのちへのまなざし」を1年間かけて読むことになりました。

アルフォンス・デーケン神父講演

日　時：7月2日（土）13：00～17：00
テーマ：癒しとユーモア…よきケアの時代に向けて
講　師：A.デーケン神父（東京・生と死を考える会名誉会長）
牛尾恭輔九州がんセンター副院長
場　所：ももちパレス大ホール（地下鉄藤崎駅1分）
参加費：1000円（当日券1500円）
主　催：福岡ホスピスの会設立7周年記念委員会
問合せ：☎092-874-6321 FAX874-6322（小林・深堀）
※チケットは大名町教会のセントポールでも販売中。

案内版　会合と催し　6月のこよみ

福岡黙想の家ご案内　6月

◇4日(土)～5日(日)　サレジオ協力者会黙想
◇9日(木)　ミカエル会
◇11日(土)～12日(日)　明治学園宗教科職員研修会
◇12日(日)～13日(月)　オブレート会・福岡　黙想
◇12日(日)　御受難会新司祭初ミサ（山内神父・松本神父）
◇14日(火)～16日(木)　S.J.四校合同職員研修会
◇14日(火)　祈りの日／11時ミサ（新司祭参加）
◇19日(日)～20日(月)　聖母カテキスタ会黙想
◇26日(日)　ロザリオを学ぶ会／14時（来住神父）
［問合先］御受難会福岡黙想の家
☎0940・32・3222　FAX32・3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

年間テーマ：ご聖体の秘儀を深めて
※祈りの集い（毎月第2木曜日）
※6月9日(木) 10時～15時
内容：ご聖体は一致の秘儀
※7月14日(木) 10時～15時
内容：ご聖体は永遠の生命の宴
指導：Sr.マリアとFr.フランコ
問合せ先：真命山諸宗教対話・霊性交流センター
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186
E-mail shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時：6月18日・7月2日　10時～12時（第1、第3土）
場所：カテドラル大名町カトリック教会小聖堂
※基本的に第1・第3土曜。変更になる場合もあります。

オルガンコンサート

日　時：6月15日(水) 19時から
場　所：カトリック大牟田教会聖堂
入場料：無料
問合せ：☎0944-52-4871（大牟田教会）
演奏者：アメデオ・アローマ氏
※1987年福岡教区カテドラルの柿落としでパイプオルガンを演奏。

5日(日)　年間第10主日
大名町教会聖体の年黙想　ミサと講話
9日(木)　召命祈願ミサ（大神学院17：15）
11日(土)　聖バルナバ使徒
12日(日)　年間第11主日
全国修道女研修会（サン・スルピス大神学院）
18日(土)　第16回召命祈願徹夜祈祷会（カテドラル19時）
19日(日)　年間第12主日
21日(火)　福岡教区全司祭研修会（～23日）
†ドミニコ深堀仙右衛門司教［1985年第3代教区長］
†トマス平田好［1938年門司港教会］
24日(金)　洗礼者聖ヨハネの誕生
26日(日)　年間第13主日
聖ペトロ使徒座への献金日
†S.マルチノ［1990年鹿島教会］
28日(火)　聖イレネオ司教殉教者
29日(水)　聖ペトロ・聖パウロ使徒

7月
3日(日)　年間第14主日
†フランシスコX.平田正喜［1994年老司教会］
4日(月)　†J.B.パスカレル［1988年飯塚教会］
5日(火)　†F.ハンター［2000年手取教会］
ゴチックは司教日程

FAX番号変更知らせ

カトリック飯塚教会：0948-25-4092→**0948-25-3558**
カトリック鳥栖教会：0942-82-2282→**0942-82-2374**

◆福岡

■福岡祈りの集い
［日時］毎週月曜11時～12時30分［場所］カトリック大名町教会［内容］聖霊による祈り［問合先］☎092・522・5139ブラザー床嶋

■召命祈願ミサ
［日時］6月9日（木）19時半［場所］サン・スルピス大神学院［主催］福岡召命を共に祈る会・大神学校

■第39回福岡典礼聖歌研修会
［日時］6月12日（日）13時から［場所］カトリック大楠教会［テーマ］マリア賛歌［講師］深堀純氏［持参するもの］典礼聖歌集・カトリック聖歌集［参加費］感謝献金［問合せ先］☎092・541・3730松山敦子

■召命を共に祈る集い
［日時］6月16日（木）14時30分［場所］召命の家［指導］浦川務神父（召命担当）

■ユリアナ会
［日時］6月23日（木）14時から16時［内容］「認知症（老年痴呆・老年精神医学）」［場所］福岡黙想の家［講師］小宮豊精神科医師（小宮クリニック院長）［参加費］無料［問合せ先］☎0940・38・8915（11時～16時／月～土）世話係☎0940・33・2731吉永

■在世フランシスコ会集会
［日時］6月26日（日）14時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］戸村悦男神父［問合先］☎092・843・5831岩崎

■スピリチュアルケア福岡一日研修会
［日時］7月18日（月）9時半から16時半［場所］サンパウロ福岡センター（福岡市中央区赤坂）［テーマ］第11回チーム医療の中でのスピリチュアルケアの実践［講師］W・キッペス神父［参加費］4000円［問合先］☎092・32・4873井口憲一郎

◆北九州

■小倉祈りの会
［日時］6月24日（金）13時半から15時［指導］ガブリエル神父（御受難会）［場所］小倉教会信徒会館2階［内容］「みことば」を味わう・賛美と感謝の祈り［連絡先］☎093・921・2280安藤

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］6月8日（水）10時～11時半［場所］佐賀カトリック会館［内容］共に祈る「次回」6月22日（水）10時～12時はミサと祈り：毎月第2水と第4水曜日。どうぞご参加下さい。［問合先］☎0952・72・7536吉田

◆熊本

■侍者の集い
［日時］7月18日（月）10時から15時［場所］カトリック健軍教会［対象］侍者と指導者［内容］研修、レクレーション、ミサ［持ってくる物］聖書、弁当、水筒

聖心のウルスラ宣教女修道会から

北イタリア・ドルミテのすばらしい景色、フォロリ山の麓に「オルソリーナの家」はあります。黙想、研修、休養のため、ご家族で、グループでご利用できます。

短期滞在、長期滞在も可能です。利用希望の方、関心をお持ちの方は、聖心のウルスラ宣教女修道会（福岡市南区）のSr.富山までご連絡下さい。

講演会ごあんない

日　時：7月16日(土) 14時から
場　所：カテドラル大名ク教会
テーマ：第二バチカン公会議による参加型の教会
講　師：レナード・スウィドラーさん（米国フィラデルフィアのテンプル大学宗教学・諸宗教対話専門）
通訳者：Sr.弘田しずえ（メルセス会）
問合せ：☎092-621-6211（青柳）

〈福岡ユースカトリックキャンプ〉開催

FYCC 3
＜テーマ＞『いっただっきま～す…?!』
＜日　時＞2005年7月29日(金)～7月31日(日)
＜場　所＞サン・スルピス大神学校
＜対　象＞中学生・高校生
＜HP＞http://goodshepherds.net/fycc/
＜問　合＞092-741-3687（大名町教会：寺浜神父）
＜メール＞fycc3@goodshepherds.net
＜主　催＞FYCC3準備委員会（福岡地区青年）

編集後記

5月には諸々の事があった。悲しい事、喜ばしい事。それらを記事にして編集する中で、起こった事が再現されていく。出来たものが読者によく伝わるようにしたいと思う。しかし、時には「偏集」になったり、「変集」になったりすることもある。読者の寛容さに委ねることにしよう。現在は9人で行っているが、記事がないと前に進まない。早めの投稿を是非お願いしたい。それから、投稿できる人も紹介していただきたい。6月号はどうにか出来たが、7月号のことをもう考えている。読者の助けを必要としている教区報。そして欠けてはならない教区報。今後ともご協力を強くお願いするものです。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（1F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（2F）十字架、ロザリオ、ご像、CD、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後6時　定休日：木曜日
〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-14-26
電話　092-721-2032　FAX　092-739-3930

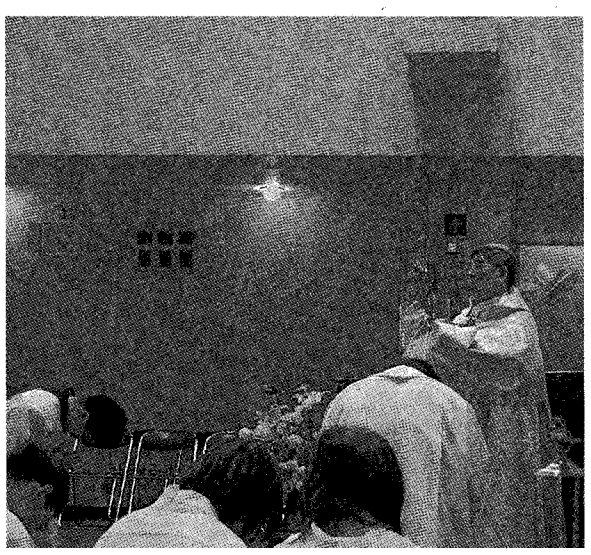
ご聖体は最高の宝・最高の記念

教区各地で「聖体の年」記念行事

福岡教区の小教区内外で、聖体に対する祈りはもちろん、賛美式、行列などが催されている。教区長松永久次郎司教は、前教皇の定めた「聖体の年」を尊い大切なものとして受け止め、聖体の神秘をいろいろな機会に強く言及している。教区民は教皇・司教の意図を反映し、主の人類に対する愛に応えるためのご聖体の年と定めてくださいすためにも、祈りと形あるものによってそれを行っている。

本紙には、福岡地区の大名町教会、福岡サン・スルピス大神学院、北九州地区の新田原教会、熊本地区の島崎教会で行われた「聖体行列」と「聖体賛美式」を記載し、参加者の喜びを伝えることにする。

「聖体の年」を記念して黙想会　大名町


松永司教を迎え大名町教会で行われた「聖体の年」黙想会

6月5日、大名町教会では松永久次郎司教を迎えて小教区「聖体の年黙想会」を行った。司教司式によるミサがあり、その後司教講話が行われた。司教は、「ヨハネ・パウロ二世は今年の10月までをご聖体の年と定めてくださいました。このご聖体は教会がイエス・キリストからいただいた一番大切な宝であり、私たちはいつもアーメン（はい）と応えていかなければなりません」と話した。引き続き聖体賛美式が行われ、聖体の恵みに感謝する祈りが捧げられた。参加者の一人は、「20年ぶりに賛美式にあずかり、ラテン語の歌も懐かしかった」と喜びの声が聞かれた。

大神学校みどりの中の聖体行列

5月29日、福岡サン・スルピス大神学院では「聖体の年」を記念して、聖体行列と聖体賛美式が行われた。

今回は、聖体顕示の後に聖体を捧持した司式者が侍者を伴い、参加者と共に校舎前の庭を聖歌を歌いながら行列した。その後聖堂に戻り、聖体による祝福で式は終了した。

大神学院では通常、毎日曜日の夕方に聖体賛美式を行っているが、今回は特別に聖体行列を行い、信徒の参加もあった。一連の典礼が参加者の心の高鳴りを誘った。

神学校の美しいみどりの並木を通って聖堂へ進むご聖体

故ヨハネ・パウロ２世教皇が制定した「聖体の年」

前教皇ヨハネ・パウロ２世は、「聖体はキリストが教会に遺された最大の宝物です。私たちはこの聖体を大切にして歩まなければならない」と勧めた。

現教皇ベネデイクト16世は、前教皇の意思を継ぎ、この「聖体の年」を尊いものとしていくように述べた。

また、教区長松永久次郎司教は「聖体の年」を定めた前教皇の思いを反映し、教区民に対し、聖体の神秘は主イエスの犠牲、現存、会食による交わりであると述べ、「キリストがパンとぶどう酒で示される聖体の中に現存しておられることを礼拝するように」と勧めている。聖体の年は今年の10月のノドスまで続く。９月・10月には教区内でも記念行事が企画される予定。

カトリック福岡教区報
松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

７月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】他者の感受性を大切にする

【布教の意向】洗礼を受けた人はみな‥

社会の変革に取組む人たち

【日本の教会の意向】差別のない社会をめざして

時の話題

坂田久美子

5月7日、母の日祝典祭を教会聖堂で行うことが出来ました。この日は園児たちがお母さんと一緒に聖歌を歌い、聖書の朗読・共同祈願など母と子が心を合わせて祈る日でもあります。

司式してくださる教会の神父様の前に、聖体拝領の時の様にお母さん方が進み行かれます。神父様は一人ひとりのお母さんの頭に手をおかれ按手してくださいます。お母さんの胸に抱かれている赤ちゃんも、ヨチヨチ歩きのお子さんも、妊婦のお母さんも、そしてお腹の赤ちゃんまでも祝福を受けておられます。自分のお母さんが平和で優しい顔で恵みを受けておられるその姿を園児たちは祭壇の近くで正座してじいーっと見守っています。お母さんたちの幸せそうなその表情を心に深く刻み込んだ園児たちは祭壇の近くで正座して「いのちのひみつ」によると、「記憶は受精の瞬間から存在し、神経組織の成長と共に発達し続ける。また胎児は受精の瞬間から両親の愛情を感知する能力があり、しかもその愛情関係が神経組織を発達させる」とあります。その延長線上にある幼児期も、発達の源は愛情溢れる親子の関係にあると思います。母と子が祝典祭を通して司祭と共に神様に感謝と願いの祈りをおささげして神様に愛されている喜びを分かち合う事は、カトリック幼稚園として子供たちにできる最高の贈り物でもありました。聖霊の恵みに頼りながら、今後も保育実践の価値を高めていきたいと思います。

鳥栖カトリック幼稚園園長

按手のお恵みをいただかれた園児のお母さん

モンタナーロ博士の著書日祝典祭となりました。とても素晴らしい母の婦のお母さんも、そしてお腹

小教区創立75周年記念で聖体行列

カトリック新田原教会

今年、小教区創立75周年を迎える新田原教会では、一年間の全ての行事を「創立75周年記念の行事」と銘打って実施している。折りしも今年は「聖体の年」ということで、恒例の小教区聖体大会を盛大に挙行した。

5月29日聖母月最終の日曜日、風薫る五月晴れのもと、十字架を先頭に侍者と子どもたち、ローソク持ち侍者と花撒きの少女に囲まれた聖体に続いて信者が教会の前庭から道会の山内堅治神父の共同司式ミサが行われた。

40回目の聖体行列

カトリック島崎教会

5月29日聖体の祝日に、島崎教会では恒例の聖体行列が午前11時から主日ミサに引き続き行われた。今年も熊本市内各地から司祭・修道女・信徒約２００名が参加。天候にも恵まれ、行列の足取りにもゆとりが見えた。

行列は教会の聖堂を出て、北側のマリアの宣教者フランシスコ修道院の聖堂までの約一キロの行程で行われる。この間、ロザリオの祈りと聖歌を交互に唱和し、一般公道を約３００メートル程進み、修道院の裏門に着く。この敷地内には待労院老人ホームなどがあり、各施設の正面では入所している高齢者のため、聖体の祝福を行った。そのたびに子どもたちの手で紫陽花の花びらがあたり一面に撒かれた。続いて行列は修道院の聖堂に着き、聖体賛美式が捧げられた。

教会を出て市街地を行くご聖体

毎年、聖体の主日のミサの「行きましょう、主の平和のうちに」という派遣の言葉で始まるこの聖体行列は、島崎教会設立以来40数年間に亘って行われてきたものである。

日曜日の静かな昼下がり、世界の平和を祈り続ける行列の声は公道の澄みきった青空に広く響き渡っていた。

みちくさ

公園に行くと、様々な光景を目にする。体操をしているご老人、走っている若者、トランペットを吹いている人、大声をはりあげて発声の練習をしている人▼けれども同じ場所にいるのに心の有り様は違う。もし、彼らの心にキリストが住んでおられるならと思う。人生の歩き方、走り方、鳴らし方、表現の仕方が違っていてもキリストがいてくださるならキリストが指導してくださる。「もっとこうしたらいいよ」▼「神の声」が聞こえる。心に訴えかけてくる。それを逃してはならない。自分で蓋（ふた）をしてはならない。心に挿入された真珠、神の声、神のみ言葉を取り出そう▼ある人が感情的にこう言った。「神の言葉で人が暮らしていけるか」。これは教会に近づかない人を心配して、「神のみ言葉に耳を傾けるように」と促した人がもらった答えである。あまりに金銭にこだわり、欲に走る時、神のみ言葉はよく聞こえない。いや、聞くまいと思っている。悲しい事実である。豊かさを得るためにも、魂の行方を示す神の指導に耳を傾けたい。「人はパンだけで生きるのではない。神の口から出る一つひとつの言葉で生きる」（マタイ４・４）。人の命は魂と肉体で成っているもの。魂は肉体の主。この不滅の魂を養い、育てるものの第一は魂の創造主である神の言葉である。それは書にされたもの（聖書）、伝えられたもの（聖伝）、心に響くもの（良心）、そして人を通していただくものがある。どこからか聞こえてくる神の声・言葉に従っていこうか。（S）

召命祈願
「働き手を送ってください」と懇談会・徹夜の祈祷会・巡礼

5月25日、サン・スルピス大神学院で司牧懇談会が行われた。懇談会は大神学院の養成者と神学生の実習を受け入れている教会の主任司祭、神学生との意見交換の場である。

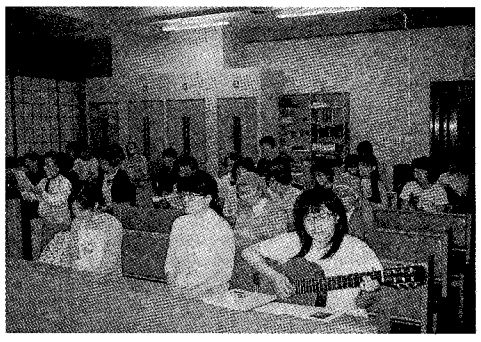
「司牧実習は神学生にとって重大な養成ポイントです。これからも小教区と神学校が協力していくことができるようにご指導よろしくお願いします」と牧山強美院長は挨拶した。

懇談会ではまず神学生が各々の報告をし、続いて各主任司祭から「信徒との関わりは神様との関わりにつながるもの」、「教会のプラスとマイナスの部分をよく見つめ、出身教区と実習先の教区を比較検討して、将来に役立ててほしい」、また要理教育においては「子どもの様子をよく見、決して自己満足に終わらない」ことなど、様々な視点からの示唆・助言が述べられた。

このような司祭、神学生の間で意見が交わされることの意義深さを誰もが実感した。

最後はお互いに善き牧者となることができるよう、師である牧者キリストに祈りを捧げ、司牧懇談会を終了した。

第16回召命祈願徹夜祈祷会開催



6月18日（土）19時のミサから19日（日）朝7時のミサまで、カテドラル大名町教会で召命祈願徹夜祈祷会が行われた。主催は「召命をともに祈る会」（教区召命担当司祭浦川務神父）で、今年で16回目となる。今回は延べ75人が参加した。祈祷会は18日、イエズス会の萱場基神父司式のミサから始まり、その後聖体を顕示して聖体礼拝がスタートした。一時間毎に各修道会や青年会が担当した。午前4時からは、何日も前から工夫をし準備してきた青年たちの聖書朗読、歌を織り込んだロザリオの祈りが響いた。19日早朝7時のミサは松永司教主司式で捧げられた。司教は「召命は天の御父に関わることで、神様の計らいのなかで召命の恵みが与えられるのです。だから私たちは祈りを捧げるのです。」と話し、召命祈願のミサを締めくくった。

大切さを切に訴え、豊かな実りが与えられるように励まし、神の恵みのうちに祈祷会は終了した。

参加者は「福岡教区に召命の恵みがあるように、徹夜でお祈りを捧げました」、「眠かったが担当の時間に祈りを捧げることができたのは嬉しい」と語っていた。

「召命」を願って巡礼した地区婦人会の参加者

5月30日（月）、召命を祈願して山口のザビエル聖堂へ巡礼した福岡地区婦人会。

連載(4)
ご聖体のいのちを生きる
過ぎ越しの神秘

ご聖体は「秘跡」です。秘跡とは「神の働きを表すしるし」です。だから、キリストのからだであるご聖体には、ご聖体というしるしが指し示す意味があります。その意味は何か。まず、「しるし」を理解するために、「しるし」がおかれた「場」を考察しましょう。最後の晩餐の時、イエスがご自分の身体とご自分の血を与えてくださった時のあの所作の「場」を福音記者たちはよく記憶しています。それは過ぎ越しの食事の時でした（ルカ22・1、7～14参照）。だから第二バチカン公会議の典礼憲章はご聖体の秘跡を「過ぎ越しのうたげ」と表現しています（典礼憲章47）。ご聖体の基本的意味は「過ぎ越しの神秘」です。では、「過ぎ越しの神秘」、「過ぎ越しのうたげ」とは何でしょう。

ヘブライ人たちはエジプトで、囚われの身分から開放されました。そして歴史の中に現れた神の不思議な助けによって先祖の地に導かれました。この大きな出来事は、「パスカ（＝主の過ぎ越し）」として知られています。エジプトを脱出したとき、ヘブライ人たちは特殊な食事をしました。それは冬が去り、それまで羊を牧した土地を離れて夏を過ごすところへ向かうときに牧者たちが食する儀式的な晩餐です。それは、おそらくかれらの先祖である牧者（アブラハム、イサク、ヤコブ）たちが行った古いしきたりの儀式で、その儀式の中で犠牲の子羊を食べて、新しい牧場に向かう旅路の途中で危険にあわないように神の導きを祈りました。ヘブライ人たちはエジプトで囚われの身であった長い時代にも、自分たちのアイデンティティーとしてこのような春の儀式をしるしとして守りつづけたのです。この儀式は春の第一の満月の夜に行われました。その夜、ヘブライ人たちは不思議なことを体験しました。神ご自身が牧者のようになり、かれらを奴隷にした土地エジプトから新しい牧場・「約束の地」にむかって導き出しました。ですから、ヘブライ人たちは神を「われらの牧者」と呼ぶのです（詩篇23）。

ヘブライ人たちは、エジプトからの脱出のあと、春の第一満月の夜、子羊と種なしパンを主食として晩餐を祝い、救いの歴史的できごとと、かれらが神の民として生まれたことを記念します（出エジプト12）。

イエスはその夜、過ぎ越しの晩餐を祝い、ご自分の体とご自分の血を「新しいいけにえの子羊」、「新しい種なしパン」、「新しい過ぎ越しのしるし」として弟子たちに残しました。

この過ぎ越しはイスラエルの国民だけではなく、全人類のためです＝罪と死の奴隷からの解放、神の国である約束の地に向かう歩みです。

イエスの「よき牧者」「真の牧者」という姿には（ヨハネ10）、過ぎ越しの強い香りがあります。そのため、主日の読書としてイエスの復活の話がつづいたあと、復活節第4主日では、イエスの面影を「よき牧者」と表しています。

（F・ソットコルノラ神父＝真命山・諸宗教対話 霊性交流センター院長）

おじゃまします。学校訪問
～カトリック学校は今～
(3) 久留米信愛女学院訪問記
http://www.kurume-shinai.ac.jp

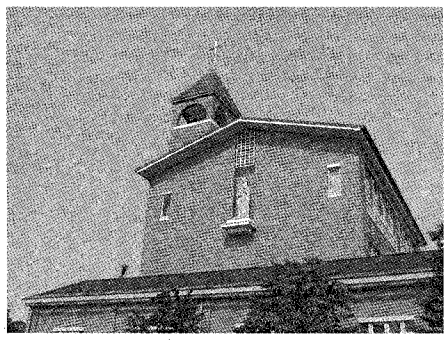
第3回の学校訪問は、久留米市御井町にある「久留米信愛女学院」を訪問しました。

1961年、当時の久留米市からの「次世代を担う若者の心の教育、将来母親となる女子の人間教育を行う学校開設」の要請に応えて、久留米信愛女学院高等学校が幼きイエズス修道会によって開設されて以来、1968年の短大開学に至るまで、現在、幼稚園、中学校、高等学校、短期大学が同一キャンパスにある総合ミッションスクールである。

今回は、中学・高等学校（校長＝シスター横田君代）に取材をさせていただきました。

Q 貴校がカトリックの学校として目指すところ、いわゆるミッション（使命）とするところはどのようなことでしょうか？

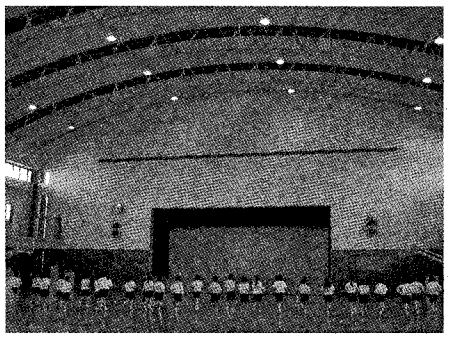
A まずは、生徒一人ひとりを大切にし、キリストの価値観をしっかりと伝えていくことですね。さらに生命を産み育む女性として、命の尊さをしっかりと理解し、大切にする人間を育成するということです。特に今後は、キリスト教的価値観を持った医者および医療従事者を養成していくことに力を入れていきたいと思っています。



Q キリスト教的価値観とありましたが、具体的にどのような活動を通して伝えていこうとされていますか？

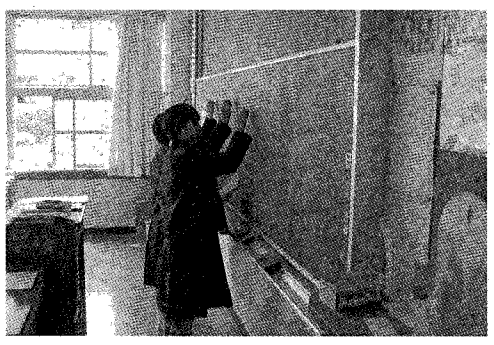
A 学校行事としては、聖母月の聖母を讃える式を始め、クリスマスの学院総合ミサ、キャンドルサービス、久留米の街を聖歌を合唱しながら巡るキャロリングなど、さまざまな形でキリストの精神を伝えています。

またボランティア活動も積極的に行っています。あしなが学生募金や赤い羽根共同募金などの各種募金活動をはじめ、老人ホームや病院、養護施設などへの訪問や交流など、年間20回を超える活動をしています。全校生徒に呼びかけるほか、ボランティア同好会（イミタチオ・マリエ）などを通して、誰もが最低でも年に一度はどれかに参加するようにしています。



Q 久留米信愛女学院の教育の実現した形の一つとして学院の目指す卒業生像というものがあると思いますがそれはどのようなものでしょうか？

A 一言でいえば、神から与えられた尊い生命を大切にする女性ということになるでしょうか。たとえば、国立療養所菊池恵楓園を訪問し、園で生活される方々とのふれあい経験から、生きることの厳しさと素晴らしさを学び、卒業後は看護師を目指して学んでいる卒業生がいます。また、仕事だけでなく、家庭を持って子育てをするにしても、命の尊さを子供に伝えていくことを親の大切な役割として、卒業生は心に留めていくことでしょう。



【所感】

豊かな自然に囲まれた広大な敷地の中に、幼稚園、中学校、高等学校、短期大学があり、学院の園児、生徒、学生が共用できるチャペルや図書館や体育館など、充実した施設に恵まれていました。そのため、中学生や高校生が幼稚園児の面倒を見るなどといった異年齢間の交流も垣間見られるとのことでした。

授業風景も整然としており、慌ただしさを感じさせないゆったりとした雰囲気の中で、伸び伸びと学習している姿が印象的でした。

取材・執筆
泰星中学高等学校
宗教部長　里見康介
入試広報　吉竹孝介
2005年5月13日取材

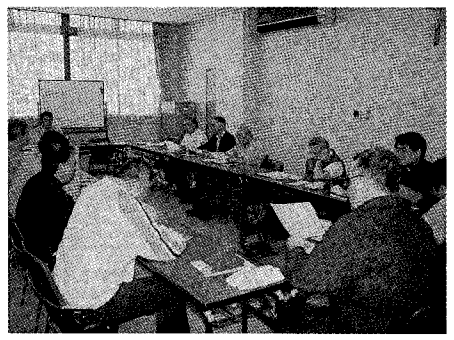
第8回土曜公開講座　宗教建築の見方
日　時：7月23日(土) 15：00～17：00
講　師：土田　充義（文化財保存工学研究室長）
カトリック福岡黙想の家
PRAYER GROVE MUNAKATA
聖堂／洋個室（洗面トイレ付）／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056　Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

福岡地区司祭の集まりで「共同司牧」を語る



2カ月に一度開かれる「福岡地区司祭の集まり」が6月6日（月）に行われた。

もともと、地区の小教区の状況把握とその発展を旨として行われているものであり、今回で13回を迎える。

これまで行われてきた集いは、教区司祭の集まりだけであった。しかし、今回から地区内で働く司祭全員を対象に、修道会、宣教会の司祭も加わることになったのである。

集いの内容は、各教会の情報交換と共通問題の話し合い。例えば、「司祭と信徒の関わり」について討議されたりする。

今回は、「共同司牧」について話された。司祭・修道者の召命減少と司祭の高齢化、司祭の数の不足が問題化される中で、今後はどのような教会司牧が考えられるのかが主な検討課題であった。途中、東京教区で働き、この4月から福岡地区で働くようになった一人の司祭の共同司牧経験が話され、皆の興味を誘った。

共同司牧には実際的な困難さが多く伴うが、希望的な側面もあるということである。司祭同志が共同で行うことの意義を認識し、意見を交わしながら、信徒の気持ちもよく配慮していくことが先への一歩になろう。とはいえ、教区ではまだ何も具体的に決まっているわけではない。今後とも続けられるこの司祭の集いが実りあるものとなるように祈りたいものである。

教会について思うこと 2

人間が人間本性を十全に働かせるところには愛があり、交わりがあり、一致がある。反面、「欲」を生の原動力とする人間は互いに競い争う存在でもある。人間は本性的に愛し一致する力をもち、その力を発揮することで今を生きる力を得るが、同時に分裂と不和という闇の力により、種々の関わりを困難にし、生きる力を弱める一面をも内に持っている。進歩という視点から物事を見るとき、人間社会から比較や競争、争いをなくすことは不可能であり、これらの比較・競争の原理を完全に破棄することは望ましいことではないようにも思える。

教会は「父と子と聖霊の一致に基づいて一つに集められた（聖なる）民」であり（教会憲章4）、「キリストにおけるいわば秘跡、すなわち神との親密な交わと全人類一致のしるしであり、道具である」。（1）従って、「教会がしるしであり道具である」限り、人類の聖化と救いのためにはたらく使命を持つ。

教会はいつの時代にも、種々の問題に直面する人間と共に歩んできた。暴力、犯罪、戦争、差別、人権、生命、自由、平等、家庭、人間関係などにまつわる種々の問題は、いつの時代にも時と共に形を変え人間の前に横たわり、人間の品位を危機にさらしてきた。教会は世を助け、全人類の救いを目指し（現代世界45）、痛みに直面する人間と共に歩んできた。教会は今後も、世の聖化と救いのため、すなわちすべての人が神の霊に支えられて、お互いに赦しあい、愛し、一致するように、その使命を果たし続けるだろう。

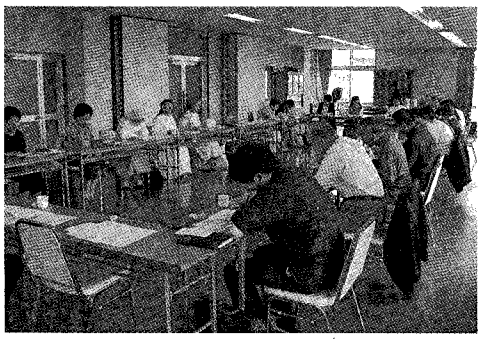
教会は神によって呼び集められた、キリストを信じる人々の聖なる共同体ではあるが、同時に悔い改めと刷新、清めを必要とする人々からなる共同体でもある。教会が、この世の聖化と救いという使命を果たすためには、教会自体がまず、愛と一致そして平和の共同体でなければならない。交わりと一致の福音は外に向けてなされるだけでなく、内に向けてもなされ続けるべきである。いわば教会内の福音化である。

わたしたちは常に自分の弱さを認めつつ、繰り返し、心から「教会の信仰を顧み、おことば通り、教会に平和と一致をお与えください」と祈り続けたいものである。

（大山悟神父・聖スルピス会会員）

…教会の課題…

カトリック福岡司教区幼児教育連盟園長会



現在教区内にあるカトリック幼児教育連盟（代表＝松井忠之神父）に属する施設は幼稚園44・保育園9で53施設を数える。もちろん経営母体は学校法人、宗教法人、社会福祉法人のいずれかである。6月14日（火）、2年に一度の連盟研修大会に向けて園長会がカトリック福岡司教館で行われた（＝写真）。

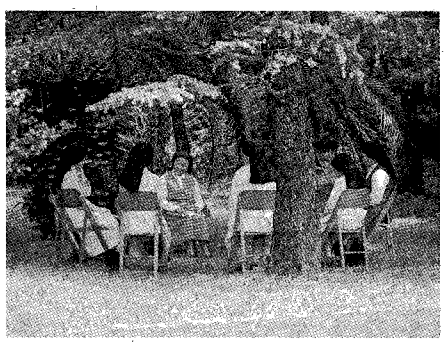
研修大会の趣旨は、カトリック福岡教区長の指導を仰ぎながら、各園の連携を強め、親睦・交流の場を高揚し、カトリックの精神に則った教育・保育事業に福音の実りをもたらすことにおいている。従って、研修大会の講師の選択、スケジュールには余念が無い。今回は8月17日（水）から18日（木）の一泊2日で、熊本県南関にあるホテルセキアにて行われる予定である。

講師にはシスター渡辺和子（ナミュール・ノートルダム修道女会）と西経一神父（神言会）を招くことになっている。研修大会には、各園の園長を始め、教職員が（例年350人から400人）集う。

幼稚園・保育園の教育・保育がもたらす福音宣教の実りは大きい。園児や保護者に神の本意が伝わり、キリストの愛を各人の生きるテーマに出来るよう促す園の理念が全うされるように願うところである。そのための共感・共有とその発展に一役を担うのが連盟の研修大会なのである。

過去、台風に見まわれたりしたことがあったが、24回目を数える今回の研修大会が無事に迎えられ、有意義に行われることを祈るものである。

全国修道女　九州地区研修会開催



6月12日（日）、全国修道女連盟九州地区研修会がサン・スルピス大神学院で開催された。講師はパリミッション会のオリビエ・シェガレ師。

「グローバル化の世界、今修道女であること・・・」と「イエスを伝える共同体～画一化から多様性～」という二つのテーマのもと約110人が参加した。

シェガレ師は、日本で30年間若者と共に歩んで経験した時代の変化を分析し、今こそ女子修道会は内部の刷新だけでなく時代の変化を意識して、グローバル化の過程に誕生しつつある新秩序に対しての理解を深め、世界のニーズに、特に若い人の要求に応えていかないかぎり取り残される危険がある事を強調し、姉妹共同体は真の福音を伝えなければならないと説いた。

講話に続いて、感謝のミサが捧げられ、新しい時代の変化に目覚めた対応を目指しながら、具体的な場でそれぞれの修道会のカリスマを生き、多様性の一致を目指していけるように神の豊な恵みを祈り、新たな派遣を受けて研修は終了した。

「他地区に学ぶ」をテーマに信徒協例会

福岡地区信徒使徒職協議会（会長＝山崎昌典）は1971年に発足した。教会が世界にその扉を大きく開くきっかけとなった第2バチカン公会議の数年後である。その時に作られた信徒協の会則には、「本会の目的は福岡地区内の信徒の使徒職活動を推進し、特に宣教活動を円滑に行わせること」とある。福岡地区には現在20の小教区があり、信徒協にはその代表者と地区婦人会、カナの会、レジオマリエなどの各種団体の代表者が集まり会議を催す。年に数回の会議でお互いの連絡・連携を深めるように努める他、信徒養成のための研修会を年に一回開催している。福岡地区の信徒協発足から30数年経つが、信徒協の目的からはまだ遠いのが現状である。今年3月にも、「福岡地区信徒使徒職のこれからの歩み」を視野に置き、まず、信徒の意識改革の必要性を思って昨年から代表者の研修会を催している。

今年のテーマは「他の地区に学ぶ」。5月22日（日）熊本、佐賀、北九州地区の信徒協会を招き、活動内容を聞く機会を設けた。他の地区の活動を初めて聞いた参加者の多くは大変刺激を受けたようである

ご聖体の「いのち」を生きる

カトリック教会のカテキズム

日　時：2005年7月24日(日) 15：00
場　所：カテドラル大名町教会
講　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参加費：1回　500円
　※次回9月25日(日)　8月は休会
主　催：福岡教区信仰教育委員会

熊本　神学講座・聖書講座のご案内

◆第四期神学講座
⑤7月17日(日) 13：30～16：30
「人間の生命尊重と責任」
　松本信愛神父（大阪教区立英知大教授）
※8月はお休みです。
♣聖書講座
7月16日(土)／9月3日／9月17日(最終回)
「ヨハネによる福音書」を引続き読みます。
＊原則、第1・第3土曜日　14時～16時
＊2005年9月17日まで全15回
講師：全回通して中村彰神父（健軍教会主任）
場所：カトリック手取教会
主催：熊本地区信徒使徒職協議会神学講座実行委員会
問合せ先：手取教会　☎096-352-3030

2005年度北九州地区聖書講座

★年間テーマ：いのちへのまなざし
日　時：9月11日(日) 14時～16時
テーマ：揺らぐ家族
場　所：カトリック戸畑教会
講　師：牧山強美神父（大神学院院長）
参加費：500円
主　催：北九州地区信徒協・聖書部会
連絡先：☎093-293-4981　松尾
※日本カトリック司教団が出した「いのちへのまなざし」を1年間かけて読んでいます。

〈福岡ユースカトリックキャンプ〉開催

<テーマ>『いっただっきま～す...？！』
<日　時>2005年7月29日(金)～7月31日(日)
<場　所>サン・スルピス大神学校
<対　象>中学生・高校生
<H　P>http://goodshepherds.net/fycc/
<問　合>092－741-3687（寺浜神父）
<メール>fycc3@goodshepherds.net
<主　催>FYCC3準備委員会(福岡地区青年)
FYCC 3

案内版　会合と催し

福岡黙想の家ご案内　7月

◇8日(金)　むなかた和善の聖書
◇9日(土)～10日(日)　山口・島根信徒養成研修会
◇16日(土)～18日(月)　マリッジエンカウンター日本企画
◇23日(土)　土曜公開講座『宗教建築の見方』
◇28日(木)　ユリアナの会『心の病・学習と相談会』
8月
◇7月31日(日)～8月6日(土)　サレジオ会黙想
◇9日(火)～16日(火)　幼きイエズス修道会黙想
◇19日(金)～21日(日)　信望愛学園・幼稚園職員黙想会
[問合先] 御受難会福岡黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

年間テーマ：ご聖体の秘儀を深めて
※祈りの集い（毎月第2木曜日）
※7月14日(木) 10時～15時
内容：ご聖体は永遠の生命の宴
※9月22日(木) 10時～15時
内容：ご聖体・神の愛の啓示
指導：Sr.マリアとFr.フランコ
※8月はお休みです。
問合せ先：真命山諸宗教対話・霊性交流センター
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186
E-mail shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時：7月16日・8月6日　10時～12時（第1、第3土）
場所：カトリック大名町教会小聖堂
※基本的に第1・第3土曜。変更になる場合もあります。

7月のこよみ

3日(日)　年間第14主日
　†フランシスコX.平田正喜［1994年老司教会］
4日(月)　†J.B.パスカレル［1988年飯塚教会］
5日(火)　†F.ハンター［2000年手取教会］
6日(水)　†R.オゴルマン［1982年水俣教会］
10日(日)　年間第15主日
15日(金)　聖ボナベントゥラ
16日(土)　カルメル山の聖母／福岡教区創立記念日（1927）
17日(日)　年間第16主日
20日(水)　†ヤコブ平田勇［1980年西新教会］
　†W.シュルツ［1987年吉塚教会］
22日(金)　マグダラの聖マリア
24日(日)　年間第17主日
25日(月)　聖ヤコブ使徒
　†J.ラグレブ［1982年門司天使園園長］
　†J.ブルトン［1957年呼子教会］
26日(火)　聖ヨアキム・聖アンナ
27日(水)　†L.ルリエ［1970年聖小崎育児園園長］
29日(金)　聖マルタ　†T.グローガン［2004年美野島教会］
31日(日)　年間第18主日
　†ヨハネ平田惣五郎［1989年司教館］
8月
4日(木)　聖マリア・ビアンネ／†M.ボンカズ［1991年田川教会］
6日(土)　主の変容／日本カトリック平和旬間（～15日）
7日(日)　年間第19主日／平和を祈る集い（カテドラル13時）

新規電話番号・FAX番号知らせ

カトリック田川教会：☎とFAX 0947－44－2250

日本カトリック平和旬間 福岡地区「平和を祈る集い」

日時：2005年8月7日(日) 13：00～16：00
会場：カテドラル大名町教会
第一部　講演会　13：00～14：20
テーマ：和解と平和
講　師：Sr.ベアトリス・アイヒテン（米国修道女連盟次期会長）
第二部　平和祈願ミサ　14：45
テーマ：民族・宗教の違いを越えた平和を願って
主司式：松永久次郎司教
※例年のようにミサは国際ミサになります。日頃、韓国語・スペイン語・英語・タガログ語・日本語で祈っている皆が一つになって平和を祈る一時にしましょう。

◆福岡

■福岡祈りの集い
[日時] 毎週月曜11時～12時30分 [場所] カトリック大名町教会 [内容] 聖霊による祈り [問合先] ☎080・1737・1630 ブラザー床嶋

■福岡ホスピスの会勉強会
[日時] 7月10日(日) 14時から16時 [場所] カトリック大名町教会 [内容] セカンド・オピニオン [講師] 杉町圭蔵師（九州中央病院院長）[参加費] 700円 [問合せ] ☎092・874・6321事務所

■福岡地区婦人会　ボランティア講演会
[日時] 7月14日(木) 10時から [場所] カトリック大楠教会 [テーマ] ボランティアの現場から [講師] 小宮豊医師（小宮クリニック院長・美野島司牧センター医療奉仕医師）[参加費] 無料 [主催] カトリック福岡教区福岡地区婦人会 [問合せ先] ☎092・921・4532山口紀子

■召命を共に祈る集い
[日時] 7月21日(木) 14時30分 [場所] 召命の家 [指導] 浦川務神父（教区召命担当）

■ユリアナ会
[日時] 7月28日(木) 14時から16時 [内容]「不安神経症」[場所] 福岡黙想の家 [講師] 小宮豊精神科医師（小宮クリニック院長）[参加費] 無料 [問合せ先] ☎0940・38・8915（11時～16時／月～土）世話係☎0940・33・2731吉永

■在世フランシスコ会集会
[日時] 7月24日(日) 14時 [場所] 高宮フランシスコ会修道院在世会集会所 [内容] アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習 [指導] 戸村悦男神父 [問合先] ☎092・831・5831岩崎 [次回] 9月25日・8月休会

■スピリチュアルケア福岡　一日研修会
[日時] 7月18日(月) 9時半から [場所] サンパウロ福岡センター（福岡市中央区赤坂）[テーマ] 第11回チーム医療の中でのスピリチュアルケアの実践 [講師] W・キッペス神父 [参加費] 4000円 [問合せ先] ☎0942・32・4873井口憲一郎

◆北九州

■小倉祈りの会
[日時] 7月22日(金) 13時半から15時 [指導] ガブリエル神父（御受難会）[場所] 小倉教会信徒会館2階 [内容]「ことば」を味わう・賛美と感謝の祈り [連絡先] ☎093・921・2280安藤

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
[日時] 7月13日(水) 10時半から11時半 [場所] 佐賀カトリック会館 [内容] 共に祈る [次回] 7月27日(水) 10時～12時はミサと祈り：毎月第2と第4水曜日。どうぞご参加下さい。[問合先] ☎0952・72・7536吉田

◆熊本

■侍者の集い
[日時] 7月18日(月) 10時から15時 [場所] カトリック健軍教会 [対象] 侍者と指導者 [内容] 研修、レクレーション、ミサ [持参する物] 聖書、弁当、水筒 [問合せ] ☎096・368・2825健軍教会中村彰神父

召命学校開校予告

日時：8月17日(水)から19日(金)
場所：召命の家
対象：小・中学生男子
主催：教区召命担当

ペトロ神父のテレフォンサービス福岡局開局しました。

カプチン会のペトロ神父の話が日本語と英語で聞ける「祈りの園テレフォンサービス福岡」が開局しました。
☎0940・33・3750
話は3分、24時間聞けます。

講演会ごあんない

日　時：7月16日(土) 14時から
場　所：カテドラル大名町教会
テーマ：第二バチカン公会議による参加型の教会
講　師：レナード・スウィドラ氏（米国フィラデルフィアのテンプル大学宗教学・諸宗教対話専門）
問合せ：☎092-621-6211（青柳）
　☎092-883-1269（目良）

編集後記

夏だから暑いのか、暑いから夏なのかよく分からない。少年時代の夏休みには、雨が降っても監視人を呼んで泳いでいたものだ。おかげでカッパのようになった。編集するにも今の状況をよく判断し、よりよい方向へ導いていくださる聖霊においでいただき、文字がすいすいと流れていくようにしたいものである。でも、カッパのようにできるのはよいが、大切な部分が抜けることのないように。
　ーお詫びと訂正ー
先月号の編集後記に「編集は9人でしている」と書いてありましたが、「3人でしている」の間違いです。訂正し、お詫び致します。しかし、毎月発送の手伝いをしてくださっている有志婦人方を加えると9人にはなるのかな。いつもありがとうございます。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL　0942－77－3199
代表者　ペトロ平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（1F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（2F）十字架、ロザリオ、ご像、CD、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後6時　定休日：木曜日
〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-14-26
電話　092-721-2032　FAX　092-739-3930

カトリック福岡教区報
松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

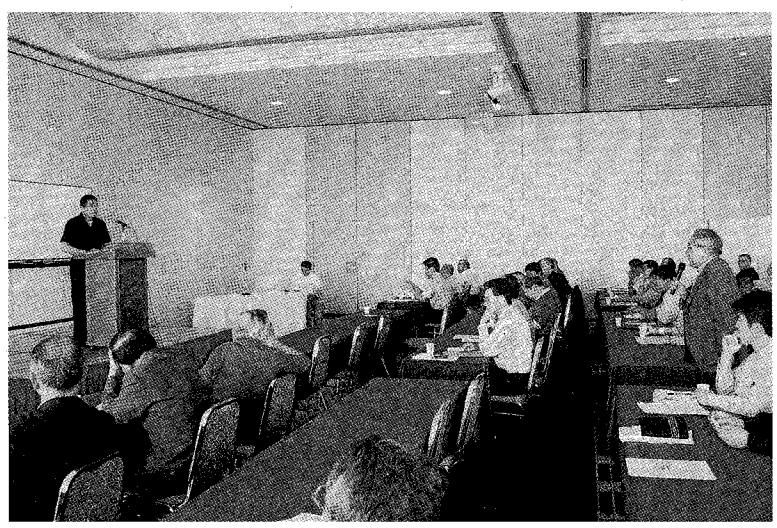
聖母被昇天

カテドラル大聖堂のステンドグラスから

「共同宣教司牧」をテーマに教区全司祭研修会

これからの福岡教区を検証・考察

6月21日から3日間、教区内全司祭の研修会が唐津市内のホテルを会場に行われた。今回のテーマ「共同宣教司牧」は司祭評議会で、今後の福岡教区の司牧・宣教を検討するという議題から出たものである。研修会ではまず、現在「共同宣教・司牧」を推進している京都教区の取り組みの成果を聞こうと、講師に京都教区長大塚喜直司教を招いた。45人の司祭が参加し意見を交し合った。



大塚司教の講話のあと、白熱した質疑応答が行われた。

大塚司教は講話の中でこれまでの京都教区での取組みについて、前教区長田中健一司教の意を受け継ぎ、第二バチカン公会議後の日本の教会の福音宣教のあり方を振返り、日本の教会が活気を失った現状から脱皮し、教会がキリストから受けた使命をより効果的に果たすために、「共同宣教司牧」に取り組んでいる、と語った。

現在、京都教区内には大小57小教区があるが、司祭の数は34人と、小教区数に対して、司祭が圧倒的に不足している状況がある。京都教区の導入した「共同宣教司牧」とは、教区内の京都府、奈良県、滋賀県、三重県の四府県を教区宣教司牧評議会のもとに5つの協議会に分け、地区ごとに全部で14のブロックに編成し、各ブロックに複数の担当司祭と協力司祭が任命される。現在の福岡教区の小教区ごとに主任司祭を置く制度とはかなり異なるものである。

今回の研修会では、大塚司教による「共同宣教司牧」についての3回の講話があり、各講話後に5~6人の小グループで分かち合いが行われた。各司祭が講話についての自分の意見や考えを述べ、最終日にはそれらの意見をまとめた各グループからの発表と質疑応答が行われた。

これからの福岡教区を熱心に語り合った。

福岡教区では、「共同宣教司牧」を今後導入していくかどうかではなく、他教区の取り組みを参考に今後の教区内の課題として捉えている。各司祭からは、「司祭の共同生活とは異なるイメージである」とか、「京都教区と福岡教区の現状や組織が違いすぎている。切迫した問題ではない」、「福岡教区ではもっと別の取り組みができるのでは？」、「現状として福岡教区では司祭がそこまで不足していないので時期尚早である」という意見や、「ブロック制だけでも導入を！」「福岡教区での司祭召命への具体的な取り組みが必要だ」、「新しい組織を作るとするなら、司祭・信徒の意識改革、霊性の高揚、司祭・信徒、司祭同志、信徒同志の話し合いが必要」など、否定的、肯定的な考えが様々に出ていた。

福岡教区では、「共同宣教司牧」をただちに導入ということではないが、京都教区の大塚司教の話を基に、今後の教区の歩みを考察する良い機会ではなかったろうか。

8月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】世界青年の日

【布教の意向】永遠の都で養成される者の霊的充実

【日本の教会の意向】平和への願いをこめて

時の話題

ANNA LU

初めて日本に着いた時、日本の人たちを見て驚きました。女性は毎日着物を羽織り、男性は忍者のように這ったり、飛んだりするものだとばかり想像していたからです。ところが私の抱いていた「日本人」のイメージは遠い過去のお話でしかなかったのです。

私の日本人に対する一般的なイメージをお話したいと思います。まず、伝統的なものと流行の最先端が並存していると思います。また、心が温かく、ひけらかしたり自慢したりといったことをしない人々です。そして、行動がワンパターンかと思えば想像力豊かだったり、さらには時代の最先端を追い求める一方で、過去にも強いこだわりをもっていると思います。

私はいつも、この国の豊かな文化と驚くようなすばらしい歴史に魅かれています。最も興味を引かれるのは、バラエティー豊かな食べ物でしょう。さまざまな料理をトライするうちに、体重が数キロ増えてしまいました。同じような経験をした外国人は私だけではないと思います。おわりに、日本に住む外国人として言えるのは、ここは「乳と蜜の流れる地」ではないかもしれませんが、「安息の地」であることは確かだ、ということです。

（アンナ・ルウさん＝カトリック大名町教会信徒）

日本をどう思ってるか？

WHAT DO I THINK OF JAPAN?

When I first arrived, I was surprised that the Japanese people, especially the women did not wear kimonos everyday after all and the men were not like those Samurais or crawling and leaping ninjas that I imagined them to be. That image I had is now ancient history.

Generally, I think the people are conservative yet fashionable. Warm and yet not showy or demonstrative. Predictable yet imaginative. Futuristic but tend to dwell on the past.

Japan's rich culture and amazing history never ceases to fascinate me.

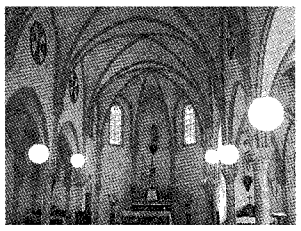
What interests me most is the variety of cuisine - I gained several kilos/pounds trying them all and I'm sure it's not just me.

So, as a foreigner living here, it may not be a land of milk and honey but, it is a haven.

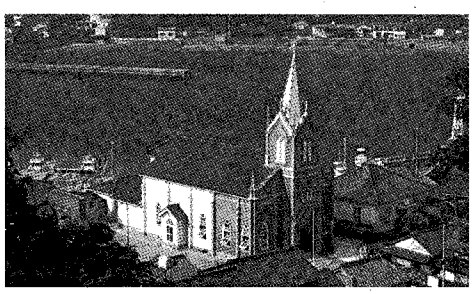
ANNA LU

信仰の歴史を伝える崎津教会が新装

天草



輝くような聖堂内部



美しい入江に建つ教会は、すべての人の港

熊本県天草下島にある崎津教会（主任：牧山美好神父）では、昨年夏以来、聖堂の内部・外部の大規模修復が行われ、今年6月中旬にその工事が終了した。

鉄川与助氏設計により、1934年に献堂されたゴチック風の重厚な造り。この聖堂は天草のシンボル的存在で、毎年各地から多くの巡礼者、観光客が訪れている。

聖堂は入り口側4分の1が鉄筋コンクリート造り、残り4分の3が木造の変則的な構造。海に隣接しているため地盤は塩水に侵食され、強風時には海水の飛沫が吹き付ける。

建立から70年の歳月を経て、過酷な立地条件もあいまって鉄筋の腐食が進み、そのためコンクリート部の至る所に亀裂がみられた。鐘楼屋根や木造外壁からの漏水、白蟻の害も深刻な状態であった。

崎津教会の信徒数は現在20人。修復に際して、小教区では3年計画で積み立てを行っているが、信徒の力だけで工事費用全額を賄うことは難しく、修復計画は大きな壁に直面していた。そのころ、報道機関等を通じて教会の窮状が広く伝わるところとなり、日本全国から次々に支援の声があがり、多くの寄付が寄せられた。教会に巡礼や観光で訪れた人々も献金に協力してくれた。地元天草の観光協会も独自に寄付を呼びかけ支援した。

今回、修復実行委員会の代表をつとめた信徒会長の山下富士夫氏は、70年前の献堂当時を知る信徒の一人で、修復を終えた聖堂を見つめる目は、親がわが子へ向けるまなざしそのものであった。「全国から、たくさんの方々にご支援いただき、次の世代に渡す立派な聖堂に修復できました」と溢れる感謝の思いを語っている。

崎津教会では6月28日に工事の完成とたくさんの方々の支援に対して感謝のミサが喜びのうちに行われた。

みちくさ

お盆。死者を懇（ねんご）ろに弔うことをよしとする頃。合わせて、聖母マリアのように私たちも死の直後、天に迎えられたいと祈ることは大切である▼役所に行った。受け付けには行列ができていた。並んだがなかなか前に進まない。中には雑誌を見ながら並んでいる人もいれば、待ち長いのかぶつぶつ言っている人もいる。ある人が素通りして受付に、「そっちのミスだからちゃんと処理しなさいよ」とどなっている。また、長く待てないで時計を見てつぶやきながら帰る人、いろいろである。私のすぐ前には小学生の男の子。と思ったら、お母さんがやって来た。「ぼく、ありがとう。助かったよ。これ買ってきた」とアイスクリームを手渡した。「そうか、彼は母親の代わりに並んでいたんだ」と納得。それから立って待つこと約一時間。忍耐の限度である。私も代わってもらいたかった▼「審判の時」にもこんな風に並ぶのだろうか。受付は主の弟子たち。受付けてもらうまでにどのようにして待とうか。ただじーっとして待つのか。「早くして！」といらいらしながらか。遅いのをいいことに、うるさく言いながらか。せめて霊的な本など読んでいれば少しは価値ある待ち方ができるのでは。とはいえ、受け付けてもらうのを他の人に代わってもらうことはできない▼いつ来るか判らない後の世の受付のために心の準備だけは怠らないようにしたい。申請書には生きて来た事の記入漏れはないだろうか。もちろん、正しい判断と処置をしてくださる主イエスにおいては全てが明らかではあるが。

（S）

個人情報保護法と教会名簿

カトリック新聞6月12日号から

個人情報保護法の制定によって、教会の名簿作成のことも気がかりである。福岡教区報編集部では、カトリック新聞社より許可をもらい、カトリック新聞（第3815号・2005年6月12日付き）より抜粋したものを載せることにした。これが福岡教区全体のために少しでも役立つことを望むものである。

ことし4月1日から「個人情報保護法」が施行された。企業の会員名簿流出などが問題になる中、教会の信者名簿はこれまでどおりでいいのか？　何か対応する必要はあるのか？　カトリック東京国際センターの顧問弁護士で、信徒の佐藤貴夫氏に聞いた。

個人情報保護法の条文を読むと、「個人情報取扱事業者」は、個人情報の利用目的を特定し、それを相手に知らせ、安全に管理しなければならないと書いてある。一方で、「雑則」として、報道機関や研究機関とならび、宗教活動の目的で個人情報を取り扱う宗教団体は、この法律から適用除外される、とも書かれている。

「この法律自体は、個人に関する情報についてどんなものでも規定しているか、というとそうでもないんです。5千件を超える取扱業者が規制対象ですし、個人情報といってもデータベースになっているなど検索がかけられるものを事業に使っている取扱業者が対象です。教会の場合には、さほど心配する必要はないんだろうと思います」

また佐藤弁護士はこの法律ができた背景に、個人のデータがきちんと管理されているかどうかに関心が高まっていることを挙げる。「こういうご時世ですから、個人情報の管理に関しては厳正にやる必要がある。少なくとも違う目的に使われてしまうのはまずいですね」。やはり気を付けなければならないようだ。

「昔はのんきでしたよね、名簿の入っているパソコンに誰でも触れたとか。年に一度くらいちゃんと住所と電話番号が入った名簿をくれました」。その名簿にも、教会の仲間を知り結束を強める上で意義があったと言う。こうした利点とのかねあいは少し難しそうだ。

「もし教会名簿が（出回っている他の名簿の）出所らしいということになり、狭い教会の中で『誰から渡ったんだ』ということになるとイヤな思いをしますよね。そういうことのないように気を付けた方がいいかなということですね」

連載(5)　ご聖体のいのちを生きる

契約の血

過ぎ越しの核心は神とその民の間の契約です。ヘブライ人は、エジプトを脱出したあと荒野をさまよい、ちょうど一年後、シナイ山のふもとにたどり着きました。そこは神がはじめてモーセに出現したところでした。

そこで神は、まずしい逃亡奴隷をご自分の民とし、かれらと契約を結ばれたのです。『モーセは主の言葉をすべて書き記し、朝早く起きて山のふもとに祭壇を築き、十二の石の柱をイスラエルの部族のために建てた。彼はイスラエルの人々の若者を遣わし…和解の献げ物を…捧げさせた。モーセは血の半分を取って鉢に入れて、残りの半分を祭壇に振りかけると、契約の書を取り、民に読んで聞かせた。彼らが「わたしたちは主が語られたことをすべて行い、守ります」と言うと、モーセは血を取り、民に振りかけて言った。「見よ、これは主がこれらの言葉に基づいてあなたたちと結ばれた契約の血である。』（出エジプト24、4―8）

イエスは最後の晩餐のとき「新しい過ぎ越し」の秘跡を定めてご自身のからだを「新しい子羊」として与えました。また食事を終えたのち、杯も同じようにして言われました。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。（ルカ22―20）

イエスは新しい契約の仲介者として、新しい掟を神から伝えられた。ヨハネは最後の晩餐の夜のできごとを思い起こしながら、イエスの言葉をつぎのように書いています。「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」（ヨハネ13、34）

次の日、十字架上で、人間性と神性を持つイエスは契約しるしとしてご自身のおん血を流して、人間と神を永遠に結びあわせたのです。

ミサは二つの部分に分かれています。第一部は「ことばの祭儀」です。そこでは、神のみ言葉、特に全律法と預言者のかなめである（マタイ22、40）「新しい掟」を守ることを約束します。

いまは、もう使いませんが「血判」という言葉があります。自分の血で文書、誓約、契約の印を押すことです。それは強烈な表現であり、雄弁であり、強い責任を感じさせます。ミサの中で行われるキリストのおん血による血判で、わたしたちはキリスト者として、新しい契約である愛の掟を生き抜く責任があることを強く感じます。「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」（ヨハネ13、34）

（F・ソットコルノラ神父＝真命山・諸宗教対話・霊性交流センター長）

2005　ふくおか　キリスト教学校フェア

日　時：8月6日(土)
12：00～16：30
会　場：カトリック大名町教会
参加校：久留米信愛女学院・泰星学園・海星女学園・福岡雙葉学園・明光学園など全9校

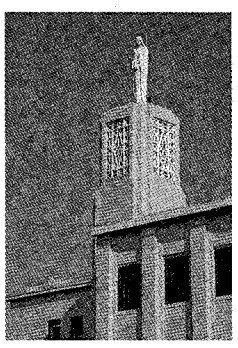
◆基調講演　13：00～14：45
「心と夢を育てる
…キリスト教学校の目指すもの…」
山岡三治氏（上智大学副学長）
◆参加校生徒による学校紹介　15：00
「私たちの学校紹介」「音楽の調べ」

おじゃまします。学校訪問

～カトリック学校は今～

(4) 海星女子学院高等学校

http://members.jcom.home.ne.jp/kaisei-t01/



福岡海星女子学院は、イタリアのローマに本部を置く「マリアの宣教者フランシスコ修道会」がその母体である。1898年に来日、熊本に修道院を創設。現在、全国各地で教育・社会福祉・医療事業に貢献している。

福岡海星女子学院高等学校は、現在休校中の中学校と共に1964年開設された。

1952年からすでに高宮に設立されていた「マリア幼稚園」もこの年移転し、老司の丘に豊かな教育の場が広がっている。

今回は、この福岡市南区老司の池の畔に佇む静かな学舎、福岡海星女子学院を訪ねてみました。

Q まずは、御校がカトリックのミッションスクールとして目指すものを教えてください。

A　建学の精神にも謳っていますように、カトリックの精神に基づき、知的・情的・意志的に調和した円満な人格、使命達成にふさわしい教養と責任感を持った人物を育成することですね。

特に高等学校においては、聖母マリアを模範として、生徒一人一人が小さなマリアを自覚し、命を育むものとして生命の尊さを大切にする生き方を培ってほしいと思います。

また、「社会から必要とされる女性になりたい」という生徒の声にもあるように、他者のために働き、尽くしていくという姿勢も、本校の目指すところです。

Q カトリック精神とありましたが、生徒に対してそうした意識付けをしていく具体的な取り組みとしてはどのようなことが挙げられますか？

A　月に一度の宗教朝礼や各クラスのホームルームでは、宗教委員会の生徒が主体となって、生徒自身が考えた祈りや共同祈願から始めていきます。また、「聖母月の集い」や「クリスマスミサ」など折々の宗教行事を通して、静かに自分を見つめる時が持てるようにしています。特に高校3年生が3年間の学院生活を振り返る「静修会」では、自分を取り巻くすべての存在への感謝の言葉が自然とあふれ出すようです。

校内に多い木陰は、楽しい交わりの場

所感　福岡海星女子学院高等学校には、幼稚園・小学校が同じ敷地内に併設されている。また隣に老司教会もあり、広々とした敷地と自然に恵まれた環境である。教師も信者の教員に限らず、学院全体として宗教教育を大切にしている様子が見て取れ、毎日の始めと終わりの祈りの習慣など、随所に宗教的雰囲気があふれている印象を受けた。また、とても家庭的であたたかく、教師と生徒の絆の深さを感じることができた。

取材・執筆
泰星中学高等学校
宗教部長　里見康介
入試広報　吉竹孝介
7月13日　取材

Q そのほかに、学校としての独自の取り組みや特徴がありましたらお願いします。

A　まず、生徒数が少ないので一人一人をしっかりとフォローし、大切に扱っています。コースとしては、進学コースの他に、国際社会で貢献する女性を育成するために留学コースを設けました。今の高校1年生が4期生にあたります。このコースの生徒は入学後、英語強化カリキュラムを経て、10月より約10ヶ月間オーストラリアへ留学。留学中の単位も認定されるので、3年間で卒業が可能となっています。帰国後は国内の大学受験はもとより海外の大学への進学もできるようになります。

また、地球規模で「人間の尊厳」や「福祉」を考えることを目的とした国際福祉コースを今年度から新設しました。カリキュラムに組み込まれたボランティア活動のほか、海外でのボランティア活動や福祉見学などを行っていくという新しい試みです。

第8回土曜公開講座　テーマ　宗教建築のかたち
日　時：9月10日(土) 15：00～17：00
講　師：土田充義 氏（鹿児島大学名誉教授）
PRAYER GROVE MUNAKATA
カトリック福岡黙想の家
聖堂／洋個室（洗面トイレ付）／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155　福岡県宗像市名残1056　Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

女子跣足カルメル修道会で終生誓願式

6月29日（水）、使徒聖ペトロ・聖パウロの祭日にカルメル山の聖母修道院にて松永久次郎司教司式ミサの中で、シスターご復活のマグダレナ鬼塚智子（東京出身）の終生誓願式が荘厳に行われた。

福岡カルメル会が福岡市西区今宿に移転して初めての終生誓願式であった。この誓願式のために東京などから参列した家族や親族、出身教会からの人々、友人等は、一つの心で熱い祈りと汗と涙で主への賛美を捧げた。

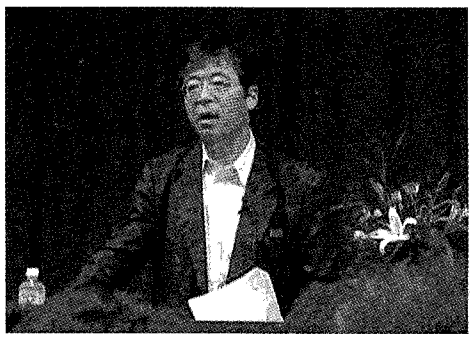
小さな聖堂の中央の床に伏したシスター鬼塚のための連願は、練習を重ねて式に臨んだ若い志願者、修練者たちにとっても、諸聖人と天使たちとの時空を超えた永遠性のなかでの大合唱となり、自らの召命の道への確信を強める時となった。

一方、独り娘を神と教会に捧げる母親の毅然とした姿は皆に感動を与え、松永司教は「自らを神に捧げることの報いは必ず与えられます」とねぎらいの言葉をかけた。

3月の福岡玄海沖大地震で修道院は大きな被害を受けたが、この誓願式の前に、遠近の恩人、友人、家族、大名町教会からの援助金で修復が滞りなく終わった。霊的にも物的にも神は必要な分を憐れんでくださることを実感した

福岡司教区にとって、誓願式に臨んだシスター鬼塚を含め、全生涯を捧げるカルメル修道会の存在意義は大きい。司祭召命、神学生養成のための力となっている修道会々員一同、今回の誓願式は神への奉献の決意を新たにするものとなった。

福岡地区婦人会がボランティア研修会



7月14日（木）、大名町教会で、福岡地区婦人会主催のボランティア研修会が行われた。会員をはじめ75人が参加した。

今回の講師は小宮豊医師（小宮クリニック院長）。小宮氏は日頃の自身の体験を通して「ボランティアの現場から」というテーマで語った。

小宮医師は毎月2回、美野島司牧センターでホームレスの人々の健康相談奉仕を長年に亘り行っている。また、ホームレス自立支援の「衣類バンク」、「すまいの会」、「おにぎりの会」などNPOの立ち上げにも夫婦で関わった立場から「現在、不況の影響で働くことの出来ないホームレスが年々増加しているが、実際に現場で支援にあたる者と行政との間に認識や対応で大きな差があり、このことがホームレス問題の一つとなっている。また福岡市、北九州市、久留米市などの都市間でもその対応に格差があり、充分な支援ができているとは言えない」と説明した。

講演の後半、小宮氏とともに支援活動を行っている夫人の小宮真理子氏（音楽療法師）からボランティア活動を通して知り合った弱い立場の人々との出会いや現場での体験などの実例が話された。最後に小宮氏は「人間が完全ではないように、社会も不完全です。その中で自分のできることを果たしていくだけです。全ての人が同じ時間を共有している。神様のもとでは皆が同じです」と力強く語った。

参加者からは「実際の現場の状況を知ることができた」、「私たちも何かできることがあるのでは…」という声が聞かれた。

戦後60年 平和メッセージ 「非暴力による平和への道」

～今こそ預言者としての役割を～

日本カトリック司教団は1981年の教皇ヨハネ・パウロ二世の広島での「平和アピール」を受けて、翌年から「カトリック平和旬間」（8月6日～15日）を制定し、特にこの期間、世界平和を祈り、平和の決意を行動に移すように呼びかけている。今年は「非暴力による平和への道」と題して、一人ひとりが平和のメッセンジャーとして行動することを促している。本紙ではその抜粋を載せている。

日本の教会の兄弟姉妹とすべての善意ある人々へ

《はじめに》

戦後50年に司教団はメッセージ『平和への決意』を発表しました。それから十年を経て、平和への呼びかけにもかかわらず、世界は未だに様々な暴力の連鎖から抜け出せないでいます。わたしたちは今こそ預言者としての役割、すなわち、「時のしるしを読み解き、神のメッセージを伝える」という役割を果たさなければならない時であると自覚するものです。

《人間の尊厳》

平和の前提は、まず「人間の尊厳」にあります。わたしたちは、聖書の教えによって、人間の尊厳は人間社会がつくりだしたものではなく、神によって与えられたものであり、誰も侵してはならない普遍的な権利であると信じます。このことが必要ではないでしょうか。

《富の公正な分配と環境保全》

現在、国家間の経済格差は一向に縮まらないばかりか、むしろ広がっており、さらに富める国でも貧しい国でも、国内での貧富の差が広がってきています。日本も例外ではありません。貧困は、生活苦だけではなく、人の移動とそれに伴う家族の離散、さらには人身・薬物・臓器の売買のような人間の尊厳を踏みにじる問題を生み出しています。

また多くの紛争や暴力は、資源をめぐって起きており、地球環境保全が平和構築へむけて取り組むべき重要な課題であると認識されています。限りある資源を有効に使い、みなで公平に分配し、持続可能な方法で資源を管理し、最貧国の債務問題に取り組むことにより、紛争問題の解決に寄与することができるのです。この貧困をなくし、地球環境を守るという課題は、世界の政府、企業、団体、市民の連帯なくして効果を期待することはできません。

《非暴力を貫いて連帯を》

教皇ヨハネ・パウロ二世は、聖パウロの教えに従って、平和は悪が善によって打ち負かされるときにのみもたらされる辛抱強い闘いの成果であることを明らかにしています。軍備と武力行使によってではなく、非暴力を貫き対話によって平和を築く歩みだけが「悪に対して悪をもって報いるという悪循環から抜け出す唯一の道」なのです。この非暴力の精神は憲法第9条の中で、国際紛争を解決する手段としての戦争の放棄、および戦力の不保持という形で掲げられています。

暴力の連鎖から抜け出せない現代にあって、この非暴力の精神と実践を積極的に広め、世界の人々と共有することにおいて新しい連帯を築き、平和のために力を尽くしていきましょう。

《むすび》

平和の使徒として国々を歴訪し、預言者としての役割を果たした前教皇の意志を継ぎ、わたしたちもそれぞれの場で、新教皇ベネディクト16世と心を一つにし、平和のために貢献していこうではありませんか。

……

2005年カトリック平和旬間に

（このメッセージの全文は各小教区に配布されています。）

召命学校 2005

テーマ 僕たちは神様から選ばれた

日時：8月17日（水）15時集合 8月19日（金）13時解散
対象：小学4年生～中学3年生の男子
参加費：1000円／人
人数：30名まで
場所：召命の家
締切り：8月7日（日）
担当：浦川務神父

持ってくるもの：
ロザリオ・洗面具・着替え・バスタオル・上履き・健康保険証の写し

＊今年も、召命学校を開校します。小教区に配布している用紙に記入して申込をお願いします。

福岡教区聖体奉仕者任命式

＊昨年の9月に始まった「聖体奉仕者養成講座」が、この7月に終了。9月25日に、福岡教区として最初の奉仕者100人が誕生することになりました。

日時：9月25日（日）14時
場所：カテドラル大名町教会
主催：聖体奉仕者養成実行委員会

聖体奉仕者は、司祭数の減少などで司牧に支障をきたさないように、聖体拝領に多くの時間がかかるようなミサの中での聖体授与の奉仕。また、病気の人や独り暮しの高齢者の方へご聖体を運ぶなど、主任司祭の要請と指導の下で教会奉仕者として働きます。任期は3年、必要に応じて更新を行うことができます。

BOOK 読みは専科

★手間ひまかける 気を入れる …家族が家族であるために…

遠藤順子ほか著

小さい者のいのちを守ることから始めて、だれにとっても大切な家庭を崩壊から救い再建するために「円ブリオ基金センター」の運動に情熱をかける著者の豊かな人生経験から迸る味わい深い言葉。

女子パウロ会　発行
税込価格　2205円

◇　◇　◇

★老病ニモマケズ 老年期の病とどう向き合うか

浅野浩著

医学的な考えでは老年は65歳以上としている。日本人の平均寿命では65歳の人は男性は17年、女性は22年余命があるわけで、その時期が老年期ということになります。この時期をどうすれば健やかに過ごせるか、経験を基に、共に考えてみたいと思います。

サンパウロ　発行
税込価格　1260円

夏休業日

サンパウロ
8月13・14・15日

セントポール FUKUOKA
8月15・16・17日

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

ご聖体の「いのち」を生きる

福岡黙想の家ご案内　8・9月

◇7月31日(日)～6日(土)　サレジオ会黙想
◇9日(火)～16日(火)　幼きイエズス修道会黙想
◇19日(金)～21日(日)　信望愛学園・幼稚園職員黙想会
◇28日(日)～9月2日(金)　オブレート会黙想

9月

◇10日(土)～11日(日)　聖母カテキスタ会黙想
◇12日(月)～17日(土)　御受難修道会黙想会
◇22日(木)　紫苑・COM相談会
◇25日(日)～26日(月)　九州アシュラム

[問合先] 御受難会福岡黙想の家
☎0940・32・3222　FAX 32・3385

カトリック教会のカテキズム

日　時：2005年9月18日(日) 15：00
場　所：カテドラル大名町教会
講　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参加費：1回　500円
＊8月はお休み。　9月は第3日曜日です。

熊本　神学講座・聖書講座のご案内

◆第四期神学講座
⑧9月18日(日) 13：30～16：30
「キリスト者の祈り」
川添猛神父（帯山教会主任）

♣聖書講座
9月3日／9月17日（最終回）
「ヨハネによる福音書」を読みます。
講　師：全回通して中村彰神父(健軍教会主任)
場　所：カトリック手取教会
主　催：熊本地区信徒協神学講座実行委員会
問合先：手取教会　☎096-352-3030

2005年度北九州地区聖書講座

★年間テーマ：いのちへのまなざし
日　時：9月11日(日) 14時～16時
テーマ：揺らぐ家族
場　所：カトリック戸畑教会
講　師：牧山強美神父（大神学院院長）
参加費：500円
主　催：北九州地区信徒協・聖書部会
連絡先：☎093-293-4981　松尾

福岡地区信徒研修会

テーマ：キリスト者としてのこれからの歩み
…新しい福音宣教をともに生きる…
日　時：9月19日(月) 9：50～16：00
場　所：カテドラル大名町教会
講　師：吉村信夫氏
（大阪教区生涯養成委員会代表）
参加費：1000円（昼食は各自）
対　象：信徒・修道者・司祭　どなたでも参加できます。　お待ちしています。
問合せ：☎092-327-0986（山崎昌典）
☎092-883-1269（目良豊）
主　催：福岡地区信徒使徒職協議会

案内版　9月のこよみ　会合と催し　8月のこよみ

9月のこよみ

3日(土)　聖グレゴリオ1世教皇
4日(日)　年間第23主日
筑後地区スポーツ大会（カトリック二日市教会9時）
8日(木)　聖マリアの誕生
10日(土)　日本205福者殉教者
†J.バーク［2000年崎津教会］
†N.ロッキー［1999年佐賀教会］
11日(日)　年間第24主日
水巻教会創立50周年記念式典
12日(月)　マリアのみ名
†A.セトアイン［2003年イエズス会修道院］
13日(火)　司祭評議会（司教館10時半）
15日(木)　悲しみの聖母
18日(日)　年間第25主日
田川教会創立50周年記念式典
19日(月)　福岡地区信徒研修会　敬老の日
21日(水)　聖マタイ使徒福音記者
23日(金)　†J.バイヨ［2004年光丘教会］　秋分の日
25日(日)　年間第26主日
世界難民移住移動者の日（献金日）
聖体奉仕者任命式（カテドラル14時）
28日(水)　聖トマス西と15殉教者
29日(木)　聖ミカエル・聖ガブリエル・聖ラファエル大天使
ゴチックは司教日程

8月のこよみ

6日(土)　主の変容／日本カトリック平和旬間（～15日）
7日(日)　年間第19主日
平和を祈る集い（カテドラル13時）
†J.P.ラベル［2004年大神学院］
13日(土)　教区墓地開放日（～15日）
14日(日)　年間第20主日
15日(月)　聖母の被昇天
教区和田墓地ミサ（和田墓地14時）
17日(水)　召命学校2005（～19日／召命の家）
18日(木)　†ミカエル堤要吉［2002年浄水通教会］
20日(土)　†L.デシャンブ［2001年八王寺本部］
†D.グリフィン［2001年玉名教会］
21日(日)　年間第21主日
24日(水)　聖バルトロマイ使徒
26日(金)　福岡地区婦人会感謝ミサ（カテドラル10時）
27日(土)　聖モニカ
28日(日)　年間第22主日
呼子教会堅信式
29日(月)　洗礼者聖ヨハネの殉教
ゴチックは司教日程

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

年間テーマ：
ご聖体の秘儀を深めて
※祈りの集い（毎月第2木曜日）
※9月22日(木) 10時～15時
内容：ご聖体・神の愛の啓示
指導：Sr.マリアとFr.フランコ
問合せ先：真命山諸宗教対話・霊性交流センター
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186
E-mail shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時：8月、9月とも第1と第3土曜日の10時～12時
場所：カトリック大名町教会小聖堂
※基本的に第1・第3土曜。変更になる場合もあります。

福岡

■福岡祈りの集い
[日時] 毎週月曜11時～12時30分 [場所] カトリック大名町教会 [内容] 聖霊による祈り [問合先] ☎080・1737・6130 ブラザー床嶋

■福岡地区婦人会感謝ミサ
[日時] 8月26日(金) 10時から [場所] カトリック大名町教会 [内容] 感謝ミサと追悼式 [司式] 松永久次郎司教 [参加費] 無料 [主催] カトリック福岡教区福岡地区婦人会 [問合せ先] ☎092・921・4532山口紀子

■結婚準備セミナー
[日時] 9月7日(水)から10月1日(土)までの毎週水曜日と土曜日全8回19時～21時30分 [場所] カトリック大名町教会 [参加費] カップルで14000円 [問合せ先] ☎FAX 092・541・6207 552・5022カトリック・ファミリーセンター

■福岡ホスピスの会勉強会
[日時] 9月11日(日) 14時から16時 [場所] カトリック大名町教会 [内容] こころの風邪 [講師] 中河原史子氏（臨床心理師） [参加費] 700円 [問合せ] ☎092・874・6321事務所

■召命を共に祈る集い
[日時] 9月15日(木) 14時30分 [場所] 召命の家 [指導] 浦川務神父（教区召命担当）

■紫苑（シオン）・COM
[ユリアナ会が改名しました。]
[日時] 9月22日(木) 14時から16時 [内容] 「ADHD注意欠陥多動性障害」 [場所] 福岡黙想の家 [講師] 小宮豊精神科医師（小宮クリニック院長） [参加費] 無料 [問合せ] ☎0940・38・8915（11時～16時／月～土）☎090・33・2731吉永

■在世フランシスコ会集会
[日時] 9月25日(日) 14時 [場所] 高宮フランシスコ会修道院在世会集会所 [内容] アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習 [指導] 戸村悦夫神父 [問合先] ☎092・843・5831岩崎 [次回] 10月30日・8月休会

■カトリック看護協会黙想会
[日時] 9月25日(日) 13時 [場所] 久留米聖マリア病院2階ホール [テーマ] 病人を世話する人の霊性 [指導] 中村彰神父（顧問司祭） [詳細] http://katokan.boo.jp

北九州

■小倉祈りの会
[日時] 8月26日(金) 13時半から15時 [指導] ガブリエル神父（御受難会） [場所] 小倉教会信徒会館2階 [内容] 「みことば」を味わう・賛美と感謝の祈り [次回] 9月16日(金) [連絡先] ☎093・921・2280安藤

■黒崎教会虹の会講演会
[日時] 10月2日(日) 11時から [場所] カトリック黒崎教会 [テーマ] キリスト教は、行動、生きざまよりも、教えよりも、実践である。 [講師] アンセルモ・マタイス先生（イエズス会司祭・聖母女学院短大学長） [参加費] 無料 [問合せ先] ☎0940・32・9774有吉 [主催] 黒崎教会虹の会

佐賀

■佐賀祈りの集い
[日時] 8月24日(水) 10時～12時ミサと祈りがあります。 [日時] 9月14日(水) 10時～11時30分 [場所] 佐賀カトリック会館 [内容] 共に祈る [日時] 9月28日(水) 10時～12時はミサと祈り：毎月第2水曜日。どうぞご参加下さい。 [問合先] ☎0952・72・7536吉田

熊本

■結婚準備セミナー
[日時] 9月5日(月)から10月3日(月)までの毎週月曜日と火曜日全8回19時～21時30分 [場所] カトリック手取教会 [参加費] カップルで14000円 [問合せ先] ☎096・352・3030手取教会　安部

■子どもの信仰教育講演会
[日時] 9月11日(日) 14時から15時 [場所] カトリック手取教会 [テーマ] 子どもの信仰教育について [講師] 深堀敏司教 [対象] 教会学校保護者、担当者 [講演後] 教会学校担当者の集い [問合せ] ☎096・368・2825健軍教会中村彰神父

神秘の国トルコ巡礼10日間

日　程：2006年2月15日～24日
旅行代金：249,800円
同行司祭：中村彰神父
第1次募集締切り：8月31日
問合せ：Fr.中村彰
☎096-368-2825
FAX 096-368-1046

第11回　聖霊による刷新九州大会

テーマ：聖霊に燃えて、主に仕えよ
お話し：裏辻洋二神父（イエズス会）
日時：10月8日(土) 15時～10日(月) 15時まで
会場：アークホテル熊本
定員：先着100名
会費：31,000円（宿泊共）
申込み締切り：8月31日（当日消印）
問合せ先：☎・FAX 096-352-1515（カトリック手取教会）
主催：聖霊による刷新九州大会実行委員会事務局

編集後記

暑中お見舞い申し上げます。今月号の一面にお載せした「時の話題」は大名町教会所属信徒のアンナ・ルウ（フィリピン）さんに英文で寄稿してもらいました。翻訳は同教会信徒の深堀洋子さんにお願いしました。紙面をお借りして感謝申し上げます。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（1F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（2F）十字架、ロザリオ、ご像、CD、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後6時　定休日：木曜日
〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-14-26
電話　092-721-2032　FAX　092-739-3930

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

10月の意向

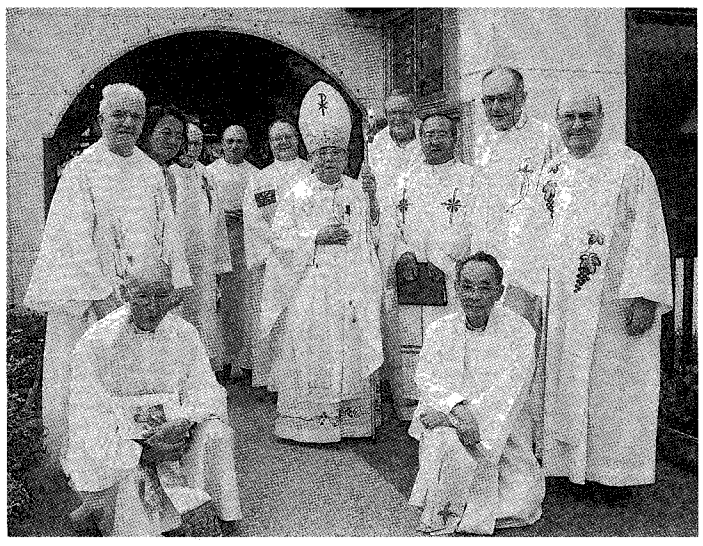
教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】世間での信仰による証し
【布教の意向】宣教事業に対する祈りと経済的援助
【日本の教会の意向】広報活動

水巻教会が創立50周年を祝う

1955 これからの成長も願って記念樹やタイムカプセル 2005

9月11日、絶えざる御助けの聖母に捧げられた水巻教会（主任：F・ハーン神父）が創立50周年を祝った。当日は天気にも恵まれ、松永司教をはじめ、歴代主任神父、近隣教会の神父、大勢の信徒が参集し、記念のミサと式典が行われた。50年前、炭坑町だったこの地に長崎から約60人の信者が移住、180人の小教区が誕生し、現在、780人の小教区へと成長し、この日を喜びのうちにを迎えた。


お祝いに駆けつけた歴代の主任司祭と近隣の司祭たち

水巻教会は、当時芦屋にあった米軍駐留地の従軍司祭が兵隊から募った寄付で、土地・建物を購入する支援を受けた。当時のオルガンや聖器、家具類も米軍の家族有志から寄贈されている。

初代主任司祭パスカレル神父と信徒によって、終戦後10年目の1955年8月28日に献堂式が行われている。その後ベリオン神父が主任を務めた1993年に聖堂と信徒会館が新設された。

1年前に創立50周年実行委員会が発足し、記念式典では教区長を招き、歴代の主任神父と共にミサを行うこと、更に喜びを外に向けようとの考えから、ペルーの子どもたちへ援助資金を送ろうという計画を立てた。また現主任司祭のハーン神父の希望もあり、受洗者が増えることを願って洗礼盤を置くことも提案された。そのいずれもが見事に実現した。そして50年の過去を思い出として残しておく記念誌も製作した。加えて、これからの水巻教会の成長を見守ってほしいという気持ちから記念樹が植えられた。また次の75周年を目指すしるしとして、様々なメッセージやプレゼントが、タイムカプセルに入れられた。これまで、バザー、コンサート、募金活動を通して集めた資金も予想以上に集まった。教会の50年を歩んでくるために信徒は司祭とともに大変頑張ってきた。この年を今まで通りに信仰を強くして、神により頼みながら歩んでいくことを旨とすることを誓った記念日であった。

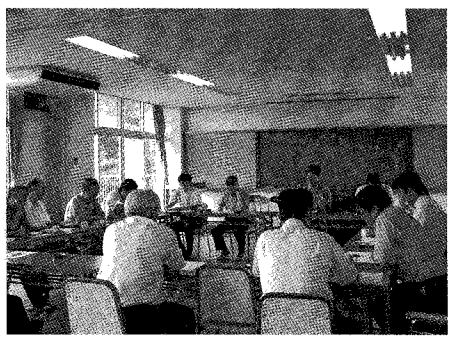
教会代表者が記念式典で、「この世に永遠は無いですが、75歳、100歳と水巻教会が、イエス・キリストにしっこく食らい付いていける様な、強い信仰の信徒集団に成れる事を願っています」と述べたのが印象的であった。

福岡教区28名の殉教者の列福を求めて
列福祈願ミサ

大分県日出の殉教者
バルタッサル加賀山半左衛門親子とともに

★日時：2005年10月16日（日）午後2時
★司式：ヨセフ松永久次郎司教と司祭団
★会場：カテドラル大名町教会聖堂
★主催：福岡教区殉教者ディエゴ加賀山隼人ほか二十七名顕彰奉仕会

2005年度第1回司祭評議会



9月13日（火）、司祭評議会が開催された。来年度にわたる行事計画の検討や各委員会の報告などが行われた。

第一回目となる「聖体奉仕者任命」を受けて、聖体奉仕者養成実行委員会からは、奉仕者は教区が発行した「聖体奉仕者のしおり」を遵守し、具体的な奉仕については主任司祭の指導のもと各小教会の状況に合わせて行われる事が確認された。

青年担当司祭からは、WYDケルン大会に北九州・福岡地区から11人の青年が参加しカトリックの力強さを体験したことの報告を受けた。また今回、教区として司祭は同行できなかったが、今後参加する青年に援助などを考えられないかなどの提案が出された。

教区行事日程を確認

1．福岡教区内28名殉教者列福祈願ミサ
　2005年10月16日／2006年10月15日
2．教区墓地ミサ
　2005年11月13日／2006年8月15日
3．司祭新年の集い
　2006年1月11日　浄水通教会11時
4．司祭評議会
　2006年2月7日／2006年9月12日
5．松永司教霊名祝い
　2006年3月7日　浄水通教会11時
6．聖香油ミサ
　2006年4月11日　カテドラル15時
7．教区全司祭研修会
　2006年6月20日～22日

尚、聖霊降臨の日に行われてきた「教区合同堅信式」は取りやめとなり、今後は各小教区ごとに授けられることとなった。また、平和旬間行事も教区行事でなく各地区で行う。

時の話題

川原廣太

この夏WYDケルン大会に、日本巡礼団（総勢三百人）の一員として参加しました。WYDについての私の理解は、半年前、世界中から青年が集い教皇様司式のミサに与るといった漠然としたものでしたが、準備会に参加するたびにそれは変わっていき、WYDに対する期待が大きくなっていきました。そして実際、その期待は実感と変わりました。確かに、慣れない集団行動、寝袋での就寝、予想に反した寒さ、食事の確保など、決して容易ではありませんでした。だからこそ分かった事も沢山あります。その中の一つが、「分かち合い」の素晴らしさです。食事の確保ができなかった時、皆で持っている食料を出し合い分け合って食べました。そして皆の空腹が満たされた時、目の前にはまだ食料が残っていたのです。まさに「五つのパン」を体験した瞬間でした。また教皇ミサでの平和の挨拶では、手を取り合い、抱き合うことで世界中の人と平和を分かち合うことができました。同時に、これだけ国を越え多くの人が平和を分かち合うことができるのに、未だ神様の望む争いのない世界を実現できないことに憤りを感じ、悔し涙を流したことも忘れられません。WYDを終えた世界中の青年達は元の場所に帰っていきましたが、イエス様を見て、いろいろな言葉で述べ伝えようとした弟子たちと同じように、このWYDでの経験を誰かに伝えたい気持ちに溢れていて、そのために派遣されたのだと思っています。ぜひ機会があれば私たちWYD参加者に話しかけてみてください。喜んでこの旅を分ち合います。

（笹丘教会信徒）

WYD（ワールドユースデイ）に参加して

墓地ミサ納骨式に600人
和田墓地

故中浜神父様の納骨の祈りを捧げる

8月15日、聖母被昇天の祭日に和田墓地納骨堂で松永久次郎司教主司式により、亡くなった方々の追悼ミサと納骨式が行われ、約550人が参列した。司教は説教で、「こうして集まって亡くなった人のために祈ることはとても大切なこと。神により頼む者の信仰の表れである。死者の魂と復活の場所を思い、常々ここで祈ることを重んじるように」と諭した。追悼式では教区司祭で5月16日に帰天された中浜一男神父と5名の方の納骨も行われた。

訃報 F・ザベリオ牧山重光神父様急逝

牧山重光神父

フランシスコ・ザビエル牧山重光神父様は9月7日門司港教会司祭館で心臓疾患のため帰天。享年75歳。1930年1月2日佐賀県の馬渡島生まれ。1954年3月21日馬渡島教会で司祭叙階。小神学校校長補佐、9教会の主任を経て95年から門司港教会の管理者。

司祭異動

8月1日付け▽浄水通教会主任・教区事務局長代行＝田中重治（小倉教会・天神町教会共同司牧司祭）
8月21日付け▽天神町教会小教区管理者＝森山信三（戸畑教会主任兼務）▽小倉教会主任＝平田敬（小倉教会・天神町教会共同司牧司祭）

ふちくさ

バスで小さな旅をした。自衛隊の大きな駐屯地があった。バスがその正門の前を通過する時、ふと大きな門の中に目をやると広場が見え、中央にポールが建ち、四方に渡されたロープにたくさんの黄色いハンカチがはためいているのが見えた。仲間達の手で付けられたのだろうか。両親、妻、子どもたちの「無事であって！」という叫びも聞こえそうだった。旅から帰って、見たTVのニュースが「自衛隊員サマワに出発」と報じていた▲今年も「平和を祈る集い」があちこちで開催された。夏休み中の子どもたちも毎夏、学校に集められ「平和授業」を受ける。その度に戦争の悲惨さを映像や写真を通して見せられ、話を聞かされた子どものころを思い出す。恐くて、いやだった。戦争はいやだ、いけないという考えは植え付けられたように思う。アメリカでは9・11以降、教会などで戦争の是非を考える集会が開かれたりするようになったそうだが、原爆は戦争を終わらせる良い手段だったと多くは語られている、と聞いた▲ある記録を見ると、2001年9月7日の国連決議は、9月21日を「国際平和の日」と決定している。まさに9・11の直前である。世界のどこかで紛争が、戦争が行われている今、9月21日この一日だけでも一人ひとりが心掛けて仲良くする日にできないだろうか▲災害の多い夏だった。災害に遭われた方々の立ち直りも祈りたい。同時に、サマワそしてイラクの人々の悲惨な状況が自分の心の中で遠くならないようにしたい。彼らにいま必要なものをお与えください。

（K）

2005年夏、教区の若者が燃えていた！
中・高生のための企画そして世界への参加

最後の感謝ミサ「神さまありがとう」

私は今年、初めてFYCCに参加しました。最初はとても緊張していましたが、一日目のオリエンテーションですぐに友達ができました。班のリーダーやみんなが明るくて一緒にいると笑いが絶えませんでした。数々の冒険やクイズを班で協力して乗り越え、自分の考えや気持ちを分かち合いました。夜は外に出て空を眺めたり、歌を歌ったり、毎日のめまぐるしい学校生活から離れ、ゆったりした気持ちになりました。それから、ユポイというダンスを踊ったこと。班で自分たちが学んだことを劇にするため、どうするかを考えたりしたこと。振り返ってみると。毎日がとても充実していて、その一瞬一瞬が私にとって大事な思い出です。中でも一番うれしかったことは、新しい友達との出会いです。本当に何もかもが楽しかった。FYCC3のテーマ「いっただっきま～す…?!」のように、私はたくさんのすばらしい体験、お恵みをいただきました。

このFYCC3の思い出は私の宝物になりました。来年は高3になりますが絶対にFYCCに参加したいです。同じ信仰を共有しあえる仲間と過ごすひとときは格別でした。

（大名町教会信徒明光学園高校2年森恃さんの感想から）

FYCCのリーダー達がWYDを体験

7月29日から2泊3日のFYCC3を企画運営した福岡地区の青年の内6人が8月8日から25日までの日程でドイツで開催されたワールドユースに参加した。世界中のカトリックの若者達とのふれ合い、日本全国から参加した250人の若者と支援した司教や司祭たちとの分ち合いやカテケジスの学び、大勢の中で受けたゆるしの秘跡、そして迎えた教皇ベネディクト16世とのミサは、これからの日本の教会の継承者である信徒として大きな財産となるのではないだろうか。教会は、もっと若者を信頼し、期待したい。

ハードスケジュールの中の一息、ライン川下り

連載(6)
ご聖体のいのちを生きる
キリストの犠牲にあずかって

最後の晩餐の時イエス様は「パンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えられた。」イエス様が行われた動作の中で、唱えられた祈りを強調すれば、ミサのことを「感謝の祭儀(eucharistia)」と言います。ただし、使徒言行録によると、初代教会は「パンを裂くこと」と言う表現を使っていました。イエス様は　パンを割って(裂いて)お与えになると、ご自分の死を示されました。だから、弟子たちに言われました「これはあなたがたのために渡される、私の体である」と。又、ぶどう酒の杯を渡して言われました「これは私の血の杯。あなた方とすべての人のために流される…契約の血である」と。つまり、ご自分の命を捧げて死ぬことを象徴して、「パンを取って、割って、お与えになりました。」

現在は、「犠牲」とか、「いけにえ」という言葉をあまり好んで使いませんが、実際にイエス様は、ご自分をいけにえとして捧げました。すなわち、イエス様が神様に捧げられたのは、ほかのものではなくて、ご自分の命でした。

「人の子は…多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである」(マルコ10・45。ヘブライ9・23―10・10を参照)　聖パウロはその第一のコリントの信者に送った手紙の中で(11・27)はっきりとこう書いています。「あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです」。

ミサは、キリストの死を告げ知らせるだけではなく、その神秘にあずかるということです。言い換えたら、キリストの死にあずかって、その死を世に告げ知らせるのです。

第二バチカン公会議の典礼憲章の中でミサは次のとおり説明されています。「われらの救い主は、ひき渡されたその夜、最後の晩さんにおいて、御からだと御血による聖体の犠牲を制定された。それは、十字架の犠牲を主の再臨まで世々に永続させ、しかも、愛する花嫁である教会に、ご自分の死と復活の記念祭儀を託すためであった。」(47)その結果、ミサにあずかるのは、次のような事です。「したがって、教会は、キリスト信者がこの信仰の秘義に無関係な、あるいは無言の傍観者として列席するのではなく、……ただ司祭の手を通してばかりでなく、信者も司祭とともに汚れなきいけにえを奉献して、自分自身をささげることを学ぶのである。」(48)

イエス様の死は滅びではなく、死に負けたのでもありません。「わたしは命を、再び受けるために、捨てる。それゆえ、父はわたしを愛してくださる。だれもわたしから命を奪い取ることはできない。わたしは自分でそれを捨てる。わたしは命を捨てることもでき、それを再び受けることもできる。これは、わたしが父から受けた掟である。」(ヨハネ10、17・18)　死によって、死に勝たれたキリストはその死をとおして神の愛を表されたのです。キリストの死は愛の勝利、神様の愛の最高の公現です。

ミサにあずかる事は、キリストとともに、キリストと同じように、自分を捧げて、キリストの愛の勝利にあずかるということです。これ以上に人間が神の子として、またイエス様の弟子として、完全になることはありません。だから、入信式、つまりキリストに結ばれることを表す秘跡の中で、聖体にあずかること(初聖体)は最高のことであります。

F・ソットコルノラ神父＝真命山・諸宗教対話・霊性交流センター長）

今回は、熊本県八代市にある八代白百合学園高等学校を取材していただきました。取材ではSr.谷口校長、Sr.窪田に大変お世話になりました。

Q　カトリック学校として貴校が目指すものはどういうところでしょうか？

A　言葉ではなかなか言い表せないものがあります。ただ、他者を思いやる心や人を赦すこと、優しい言葉づかいなど、お互いの関わり合いの中でキリストの心を伝えていき、社会に出てから花開くように、そのためのきっかけを与えられればと思っています。

Q　学校として力を入れている取り組みや特徴を教えてください。

A　高1から高3まで合わせても260名という少人数なので、とにかく生徒一人ひとりをしっかりと見守り、それぞれの生徒の持っているいいところをより多く見つけていくようにしています。少人数の割には部活動が盛んで、剣道、テニス、バドミントン、吹奏楽、箏曲、写真など全国大会レベルのクラブが多く、いずれも全国優勝や日本代表に選ばれるなど、輝かしい成績を残しています。日頃の練習などの疲れから、要理の勉強の時間はもてませんが、その分教員は朝から夜遅くまで一緒に過ごし、その交流の中でキリストの精神、心の持ち方を伝えていくようにしています。ですから在学中に洗礼を受ける生徒はほとんどいませんが、卒業してから戻ってきて洗礼を受けたり、在学中にしてもらったことを社会に出てから人にしてあげられるような大人に成長してくれています。

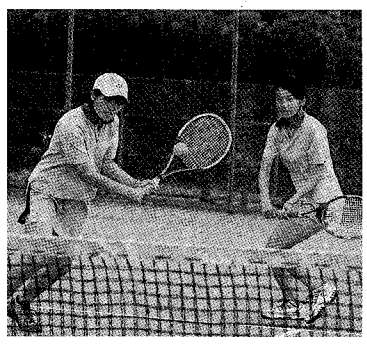
Q　地域や保護者とのつながりが強いと聞いていますが？

A　まず学校行事などに対する保護者の協力の熱心さは相当のものがあります。学校全体が家庭的な雰囲気を持っていることもありますが、バザーや体育祭などでは保護者も一緒に活動し、その協力は娘さんが卒業しても続くほど熱意のあるものです。また、市の行事への協力や公開コンサートなども積極的に行っています。親・子・孫・曾孫と代々白百合に入学する家庭も多いなど、地域との繋がりはしっかりと根付いているように思います。

Q　生徒たちの様子はいかがですか？

A　少人数であるが故に人の絆の大切さ、ありがたさが実感できるのだと思います。「多様性への寛容な受け入れ」を目指していて、学校へ出て来るのが難しい子なども、みんなでいたわって受け入れることができています。生徒同士、先生に対していじめなどもなく、先生達もしっかりと受けとめてくれています（出張などで数日不在で帰って来ると、生徒達は「お帰りなさい！」と声をかけてくれる）。

学校が家庭のようで、親がうらやむほど教師は生徒のことを知っていたりもします。卒業生もしょっちゅう学校に帰ってきますし、家族のようにいつまでもつながっている学校なのでしょう。一人ひとりが夢を持ち、自分の能力に気づき、自信を持つ。そうすることによって、よそでは大勢の中で埋もれてしまう子が、ここではキラキラ光ることができるんです。



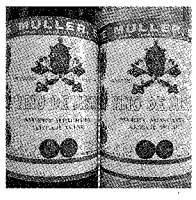
【所感】　校舎に入ってすぐに、先生と生徒のいきいきとした姿が目に入り、「東京などの白百合とは全くタイプが違いますよ」という校長先生の言葉に納得。また、「これがもともとの白百合です」といわれる言葉も、生徒と生活を共にし、生徒一人ひとりに家族のように愛情を傾けている姿からよく理解できました。先生達も皆同じ方向を向いており、ミッションスクールとはこうあるべきではないかと羨ましく感じました。

「『学校とは人の集まり。そのよさは中にいる人で決まるんです。』と卒業生に言われました。教会と同じですね。」と嬉しそうに話す校長先生の言葉が印象的でした。

取材・執筆
泰星中学高等学校
宗教部長　里見康介
入試広報　吉竹孝介
2005年9月13日取材

おじゃまします。学校訪問
～カトリック学校は今～
(5)八代白百合学園高等学校
http://homepage2nifty.com/yatsushiroshirayuri/index.htm

第15回　むなかたてんてんまつり
日　時：10月10日(体育の日)　9：00～17：00
講　師：佐藤初女特別講演会／・朝一番のおいしいにおい
10:30　第一部：講演　　12:30　第二部：おむすび実演
PRAYER GROVE MUNAKATA
カトリック福岡黙想の家
聖堂／洋個室（洗面トイレ付）／冷暖房／浴室シャワー室／障害者用トイレ／エレベーター
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155　福岡県宗像市名残1056　Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑(SOU-EN)
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

日本カトリック平和旬間 各地で平和ミサ

「共に平和を…」熱く語るSr.ベアトリス

8月7日、「戦争を知らない世代に真の平和を意識する機会を作ろう」をスローガンに、小倉教会で「北九州平和の集い」が北九州地区信徒使徒職協議会主催で行われ、約500人が参加した。第一部の講演会では、講師の長崎教区の石司真由美さんが、祖母から聞いた戦争と原爆の恐さ、醜さ、そして平和の大切さをアピールした。第2部では、平和祈願ミサが9人の司祭の共同司式で行われた。

天気に恵まれた会場の小倉教会中庭には、展示・出店に多くの人が溢れ、収益は生活困窮者や難民の子どもたちの医療・学費に充てられた。主催側は皆の準備と努力によって、平和旬間の取り組みが5年目にして地に付いてきたことを実感していると語っている。

尚、福岡地区でも同日、講演会と平和祈願ミサが行われた。講演会の講師はシスターベアトリス・アイヒテン（米国修道女連盟会長）、通訳をシスター引田しずえ（ベリス・メルセス宣教修道女会）が勤めた。続いてのミサでも説教の部分を同講師が話し、アメリカと日本の修道女連盟がそれぞれの平和への願いを合同で一冊の「平和への誓い」として作成した意義を語った。

「日本のピース9を、世界中の修道会で世界のピース9にして…」という参加者の声にシスターベアトリスは大きく頷いていた。

熱戦！筑後地区スポーツ大会で運動会

「かわいい天使たち」ちょっと怖いかな？

9月4日午前9時、二日市教会にて松永司教司式ミサで始まり、続いて開会式、準備体操の後、競技が開始された。

「かわいい天使たち」（幼児競技）、「ペトロの網引き」、「シメオンとアンナ」（お年寄り参加競技）、「聖者の行進」（ムカデ競争）と、今まで行われていた「ソフトボール球技」に代わって、全員参加型競技になった。初めての試みにもかかわらず、各競技は事前の準備が充分なされていたせいか、順調に進行し、グランドには活気がみなぎっていた。また、競技の判定にも幅を持たせ臨機応変、ほほえましく好評であった。午後から台風の影響で小雨が降り出したが、一部競技を入れ換えて続行。

午後の部、「天国への願い」（玉入れ）では神父と子どもたちが一生懸命逃げ回る籠の後を追う姿に喝采が上がった。教会対抗「筑後の嵐」（小・中学生障害物リレー）ではテントから応援の声が飛び交う熱戦となった。最後に全員参加のフォークダンス」で終了。

子どもの部では今村教会、総合で大牟田教会が優勝の栄冠を獲得した。

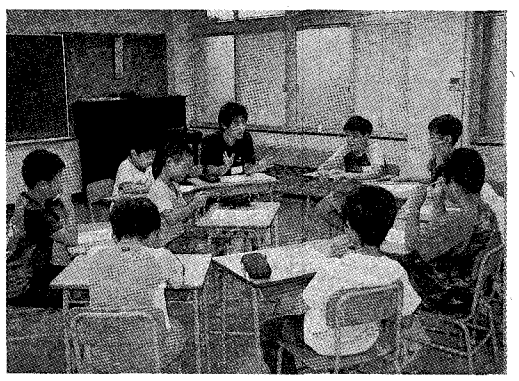
最後に、川上惣一神父から10月30日の今村教会で行われる筑後地区聖体行列への参加の呼びかけがあり、再会を誓った。全員で参加し、全員で応援した今回の運動会は充分その成果を収めたに違いない。和気藹々の内に全競技を無事に終えることができたことを神に感謝した。

パパ様や神父様方も「ありがとうございました」

福岡地区婦人会主催聖モニカ祭が8月26日（金）、カテドラル大名町教会で行われた。今年はモニカの祝日が土曜日であったため前日に移しての開催となり、松永司教の司式のもと、感謝ミサと、追悼式が捧げられた。司教は説教の中で、「聖モニカがその子アウグスティヌスのために祈ったように、わが子を想う母親の祈りには特別の力があり、そこには神様のお恵みがゆたかに与えられます」と話した。

福岡地区婦人会は聖モニカを保護の聖人とし、毎年無事に奉仕できることへの感謝と、同時にこの1年間に亡くなった方々のためにこの集いを行っている。今年は特に前教皇ヨハネ・パウロ2世をはじめ、5人の司祭を含む122人の方の永遠の安息を願って祈りが捧げられた。

『僕たちは神様から選ばれた』と召命学校



今年も例年通り8月17日から19日の期間、福岡召命の家にて召命学校が行われた。

今年の参加者は40名で、昨年よりも多くの子どもたちが参加した。

今年の召命学校は「僕たちは神様から選ばれた」というテーマに沿って行われ、5班に分けられた各班の子どもたちは、それぞれの班で深めた聖書の場面を参考に寸劇という形で発表しあった。劇での発表ということもあり、各班の子どもたちは緊張していたが、そんな中であっても一生懸命にセリフを思い出して発表する子どもたちの姿に喜びを感じずにはいられなかった。きっと神さまもこのような子どもたちの姿を見て喜んでおられた事だろう。

各班が劇を発表するにあたり、参考にした聖書の箇所は、旧約・新約を問わず神さまが人々に直接関わられた場面、そして非常に有名な場面でもあるので、寸劇によってその箇所を深めた事で子ども達にとっては神さまを再確認できる良い機会になったのではないかと思う。3日目には松永司教様司式によるミサが捧げられ、その中で司教は子ども達の前で「言わばみなさんは恵まれています。司祭・修道者の召命が少ない現代だからこそ、神さまの呼び掛けに応える良い機会が与えられているのです」と話された。

召命学校が参加してくれた子どもたち一人ひとりにとって日々の生活の中で召命を考える絶好のきっかけになればという強い思いを持って、これからも召命学校を企画していきたい。来年の召命学校にも多くの子どもたちに参加して欲しい。

教会について思うこと 3

教会と聖性

教会は「キリストの光によってすべての人を照らす」ために福音宣教を行う（救い主の使命90）。すべての人の存在とその歩むべき真理の道が、キリストの光によって照らされ、神に造られたいのちとして生きるものとなるよう支えるのが、教会の宣教活動である。教会はすべての人が神と本性的に関わり、聖なる者となるよう（教会憲章40）使命を果たす。

一言でいえば教会の使命は福音化、世の聖化であり、人々の「聖性に向かう旅」に同伴することである。ただこのような世の福音化、聖化、聖性などという表現は、上から下への一方的な威圧的働きかけとして受け取られる場合もある。「神を知らない人に、神を教えてあげる」、「罪人を回心させる」というような感覚を持つ場合、いつしか他の人を罪人や悪人と見なして見下げている自分がある。

キリストの光は弱い人、病気の人、闇の中にある人、罪から抜け出せない人びとを照らす光である。人間が本来、本性的に持っている神に向かい、神と共に歩める力を引き出し、育て、強める神の憐れみの温かさである。「聖性は地上の社会においても、より人間らしい生活条件の促進に貢献する。」（教会憲章40）

キリストの愛に包まれ、キリストの足跡に従い、その姿に似たものとなり、神の御心のままに、隣人への愛と奉仕をできるようになることこそが聖性の豊かな実りである。

さて、現代は神なき時代となりつつある。神が科学的、学的視点で考えられ、もの現象の外でとらえられている。その結果、神は単なる理念的存在になったり、またオカルト的なものとなっている。神が超越でありながらかつ内在する存在者、生ける人々と関わり、その生を支える存在者であるという感覚が薄らいでいる。私たちは今、神に対する信仰の確信を持ち続け得るか、あるいはこの確信から離れていくか、その岐路に立たされている。神に対する信仰の確信を持つためにも、今、ここで私たちの命、生を支え生かす存在者を、自分の存在全体を通して感じ取ることが必要となる。私たちがいのちの源としての神を感じるのは、私たちが属する教会共同体が「聖である」時ではないだろうか。言い換えれば「聖なる共同体」を造ることが、今の教会の重要な課題の一つであろう。

（大山悟神父＝聖スルピス会会員）

BOOK 読みま専科

★子どものサインが読めますか

☆子育て考現学☆

汲見稔幸著

子どもの現実を、豊富な経験と広い視野、あたたかなまなざしで読み解き、ひきこもりや少子化、少年犯罪、学校教育など深く洞察しつつ、元気の出る子育の具体的なヒントを提供する、37編のやさしいお話。月刊「あけぼの」誌に好評連載中。

女子パウロ会　発行

税込価格　1365円

◇　◇　◇

★カリタスジャパンと世界

武力なき国際ネットワーク構築のために

菊地功著

カリタスジャパンが「戦後60年にあたる・平和キャンペーンの年」記念事業として、カリタスジャパン担当の菊地功司教様の労作を出版しました。日本の戦後を歴史とともに生きたカリタスジャパンの国際協調の証としての国際援助を通して、支援者と共に「平和を改めて考える」そして祈りたい、と出版にあたって語っています。

サンパウロ　発行

税込価格　1050円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

ご聖体の「いのち」を生きる

カトリック教会のカテキズム

日　時：2005年10月23日(日) 15：00
場　所：カテドラル大名町教会
講　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参加費：１回　５００円
＊次回、11月27日

2005年度北九州地区聖書講座

★年間テーマ：いのちへのまなざし
日　時：11月６日(日) 14時～16時30分
テーマ：生と死の諸問題（１）
場　所：カトリック戸畑教会
講　師：W．キッペス神父
（臨床パストラルケア教育研修センター）
参加費：５００円
主　催：北九州地区信徒協・聖書部会
連絡先：☎ 093-293-4981　松尾隆

知っとお～？　ミサ

日時：10月22日(土)　14：00
場所：カトリック大名町教会
講師：山元眞神父（行橋教会主任司祭）
主催：NWM・あっちこっちミサプロジェクト

スポーツフェスティバル

日　時：11月23日(水) 13時～16時
（雨天時は別プログラム）
場　所：サン・スルピス大神学院
対　象：福岡教区内の中学生・高校生
参加費：400円（保険料含む）
主　催：地区青年・高校生
問合せ・連絡先：
渋谷　聖（光丘教会）
寺浜神父（大名町）
092-741-3687
アドレス　fsf1123@yahoo.co.jp

日本カトリック信徒宣教者会企画 《カンボジアの若者に協力を!》

日　時：10月28日(金) 17：30開場
場　所：カトリック大名町教会
内　容：内戦で絶えていた伝統舞踏を若い世代が受け継いだカンボジアダンス。貧しい子ども達の生活支援のためです。
入場料：前売1000円／当日1500円
取扱い：セント・ポール（大名町教会１階）

映画と講演会お知らせ

日　　時：11月６日(日) 14：00～17：00
場　　所：カテドラル大名町教会
第１部：映画　NAGASAKI・1945
～アンゼラスの鐘～
第２部：講演会「いま、イラクの子どもたちは」
講師：斉藤みち子医師
入場料：小学～高校　800円／大学以上1200円
問合せ先：☎ 092-621-6211　青柳行信

案内版　会合と催し

福岡黙想の家ご案内　10月

◇５日(水)　黙想の家見学会
◇10日(月)　第15回むなかたてんてんまつり
特別講演会／佐藤初女「朝一番のおいしいにおい」
◇12日(水)　ミカエル会
◇15日(土)～16日(日)　祈りの学校／来住神父
◇17日(月)～21日(金)　福岡教区邦人司祭黙想会
◇23日(日)～29日(土)　サレジオ会黙想
◇27日(木)　『心の病・学習＆相談会』
◇30日(日)　北九州レジオマリエ
＊クリスマスに向け、地域の方とリサイクル・キャンドルを作るため使用済みのローソクを集めています。(担当：間瀬雅夫)
［問合先］御受難会福岡黙想の家
☎ 0940・32・3222　FAX 32・3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

年間テーマ：ご聖体の秘儀を深めて
※祈りの集い（毎月第２木曜日）
※10月13日(木) 10時～15時
内容：ご聖体は過ぎ越しの秘跡
指導：Sr.マリアとFr.フランコ
問合せ先：真命山諸宗教対話・霊性交流センター
☎ 0968・85・3100
FAX 0968・85・3186
E-mail shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時：10月15日、11月５日第１と第３土曜日10時～12時
場所：カトリック大名町教会小聖堂
※基本的に第１・第３土曜。変更になる場合もあります。

10月のこよみ

2日(日)　年間第27主日
新田原教会創立75周年記念式典
3日(月)　†K.オマホニ［2003年荒尾教会］
4日(火)　アシジの聖フランシスコ
7日(金)　ロザリオの聖母
8日(土)　明治学園文化祭（～９日）
9日(日)　年間第28主日
10日(月)　祈りの森むなかたてんてんまつり　体育の日
13日(木)　召命祈願ミサ（大神学院19：15）
16日(日)　年間第29主日
教区28名殉教者列福祈願ミサ（カテドラル14時）
†徳山登［2000年門司港教会］
17日(月)　教区邦人司祭黙想会（～21日宗像黙想の家）
18日(火)　聖ルカ福音記者
19日(水)　十字架の聖パウロ
22日(土)　熊本信愛女学院華秋祭
23日(日)　年間第30主日　世界宣教の日
福岡地区カテキズム勉強会（カテドラル15時）
27日(木)　†A.キニュ［2004年天神町教会］
28日(金)　聖シモン・聖ユダ使徒
30日(日)　年間第31主日
筑後地区聖体行列（今村教会）

11月
1日(火)　諸聖人
2日(水)　死者の日
3日(木)　召命の集い（大神学校）

ゴチックは司教日程
※司祭の命日は2000年以降からお載せしています。

◆福岡

■福岡祈りの集い
［日時］毎週月曜11時～12時30分［場所］カトリック大名町教会［内容］聖霊による祈り［問合先］☎080・1737・6130　ブラザー床嶋

■召命祈願ミサ
［日時］10月６日(木) 19時15分［場所］サン・スルピス大神学校［指導］鳥瀬文武神父（長崎・出津教会主任）

■召命を共に祈る集い
［日時］10月13日(木) 14時30分［場所］召命の家［指導］浦川務神父（教区召命担当）

■紫苑（シオン）・COM
［ユリアナ会が改名しました。］
［日時］10月27日(木) 14時から16時［内容］「更年期障害」［場所］福岡黙想の家［講師］小宮豊精神科医師（小宮クリニック院長）［参加費］無料［問合せ先］☎0940・38・8915（11時～16時／月～土）☎0940・33・2731吉永

■在世フランシスコ会集会
［日時］10月30日(日) 14時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］戸村悦夫神父［問合先］☎092・843・5831岩崎

バザーお知らせ

10月23日(日)
＊西新教会
＊南粕屋教会
＊小倉教会
10月30日(日)
＊大楠教会
＊大名町教会
待ってます！

■福岡典礼聖歌研修会
［日時］11月６日(日) 13時から15時30分［場所］カトリック光丘教会［テーマ］待降節・答唱詩編［講師］深堀純（大名町教会信徒）［参加費］自由献金［問合せ］☎092・541・3730松山

■カナの会
［日時］11月23日(祝) ９時30分受付16時30分閉会［場所］カテドラル大名町教会［内容］ミサ・レクレーション・二人でお話［指導］青木悟神父・吉川信雄さん［対象者］20才以上の独身男女［参加費］2000円（昼食代含む）［締切日］11月13日［申込み・問合せ］☎090・4347・3319前野良子

■松浦悟郎司教講演会
［日時］11月23日(水) 13時30分から16時［場所］カトリック久留米教会［テーマ］「今、平和を選ぶとき」［参加費］500円［主催］憲法九条を世界の宝に・ピース９の会ーイザヤ書２・４［連絡先］☎092・944・1044井手

◆北九州

■小倉祈りの会
［日時］10月28日(金) 13時半から15時［指導］ガブリエル神父（御受難会）［場所］小倉教会信徒会館２階［内容］「みことば」を味わう・賛美と感謝の祈り［連絡先］☎093・921・2280安藤

■テゼによる黙想と祈り
［日時］11月27日(日) ９時から［内容］待降節の準備［プログラム］第１部９時から第２部14時「ミサと黙想」・第２部「ブラザーロジェを偲んで」［場所］カトリック小倉教会［指導］植松功氏［問合せ先］☎090・7386・3201内藤／090・2505・8667福吉

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］10月12日(水) 10時～11時30分［場所］佐賀カトリック会館［内容］共に祈る［日時］10月26日(水) 10時～12時はミサと祈り：毎月第２水と第４水曜日。どうぞご参加下さい。［問合先］☎0952・72・7536吉田

召命の集い2005

テーマ
『輝かそう！！イエスの光☆』

日時：11月３日(木) 文化の日9：30
場所：福岡サン・スルピス大神学院

8：30	受付開始
9：30	開会式（歌練習）
10：15	召命祈願ミサ
12：20	観劇
13：20	子ども　レクリエーション 大　人　講演
14：30	全体集合　作品表彰式
15：00	閉会式

＊教会学校の子ども達の作品を募集しています。多数送ってください。
締きり日：10月23日必着です。
問合せ先：092-864-4203（野濱達也）

ペトロ・カスイ岐部祭案内

日程：10月23日(日)
10時30分　記念講演　Sr.片岡瑠美子
12時　列福祈願ミサ
場所：東国東郡岐部神父記念公園
主催：カトリック大分教区
☎097-532-3397

編集後記

今回の編集は２ヶ月ぶりである。多くの方々が支援してくれている教区報のことを考えると、それに応えなければという気持ちが高まってくる。同時に、９月号を休んだことを申し訳なく思う。10月号を出すことができたが、２ヶ月分の記事で溢れ、限られた紙面上、割愛させていただいたものもある。陳謝致します。これからもどうぞ、教区報を愛してくださいますように。皆様の霊肉のご健康をロザリオに乗せて祈ります。

COSMOS
スポーツ用品・ＯＡ・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木 67 － 3
ＴＥＬ　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川３丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（１F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（２F）十字架、ロザリオ、ご像、ＣＤ、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後６時　定休日：木曜日
〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-14-26
電話　092-721-2032　FAX　092-739-3930

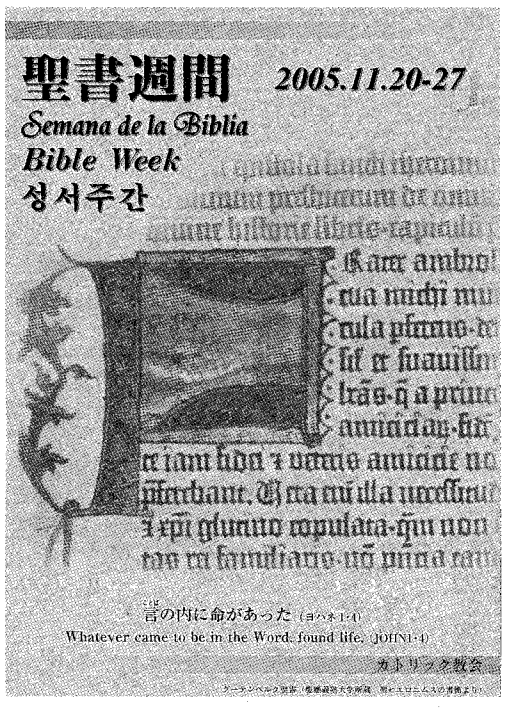
カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

11月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

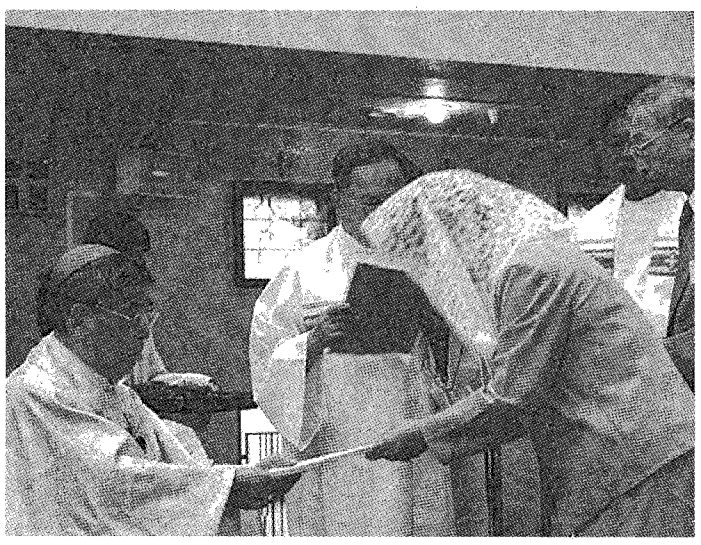
【一般の意向】生活の普通の状態の中での夫婦の聖化
【布教の意向】宣教地域での司祭の永続的養成
【日本の教会の意向】神のみことばに親しむ



第一回 福岡教区聖体奉仕者任命式

任命書を手に101人が「身の引き締る思いです」と

9月25日（日）、カテドラル大名町教会で、第1回目の聖体奉仕者任命式が行われ、松永久次郎司教から一人ひとりに任命書が手渡された。任命を受けたのは教区内27の小教区と7修道会の101人。昨年2月に第1回の「養成講座実行委員会（牧山勝美神父担当）」が開かれ、同年9月から全6回の講座が行われてきた。


松永久次郎司教から任命書を手渡される奉仕者

福岡教区司祭評議会では教区内の司祭の高齢化に伴う司祭の減少、病気不在などで、各小教区で聖体奉仕者を任命したり、養成していたことなどから、一律に教区で養成を行うことが採択された。2004年3月には養成講座の概要や担当者を決定、5月に講座の案内が小教区と修道院に送付された。8月中には主任司祭や修道院長から推薦を受けた受講者104人が揃い、2004年9月から2005年7月まで、「キリストの教会と信徒の役割」、「キリストとの交わり」、「キリストの体への奉仕」など計6回の講座が行われて来た。

任命書とともに「奉仕を行うときに着けてください」と木の十字架が各自にわたされた。松永司教は任命式の中で「一層キリストに親しみ、聖体奉仕者として相応しい者になり続けてください」と諭した。

新田原教会75周年を800人で祝う

喜びと感謝のうちにたくさんのものが奉納された

2005年10月2日（日）、新田原教会（主任＝竹森勇神父）は、創立75周年を祝った。

1926年にこの地に進出したトラピスト修道院の修道者の親族・知人、そして五島などから次第に移住してきた人たちが加わって1930年に小教区として産声をあげ、今年75周年を迎えた。この間、パリ外国宣教会を始め、聖母訪問修道女会、宮崎カリタス修道女会、及び隣接する新田原聖母病院の多大なる協力があった。この祝いの年、信徒数は1900人を数えるまでになった。

当日、松永久次郎司教、平田三郎司教、近隣の司祭、修道者、当教会出身の司祭及び修道者、地域の人々、信徒など約800名を迎えて行われた記念ミサと式典、祝賀会など、喜びを皆で分かち合った。

まず、宮崎カリタス修道女会シスターで結成された聖歌隊「スモールクワイヤー」によるコンサートで開幕し、感謝の記念ミサが行われ、静養中の平田三郎司教も車椅子で司式を行った。

田川教会は創立50年を祝う

記念ミサ後、新しい出発を心に記念撮影

9月18日に田川教会（主任＝杉原寛信神父）は、松永久次郎司教、歴代主任司祭、近隣教会の司祭、信徒を迎え、喜びの創立50周年を祝った。

田川教会は小さな教会だが、その中で、この一年、「一人一役」「小さな奉仕」の心をもって、出来ることから始めようと「準備委員会」を立ち上げ、多くの集まりをもった。

祈りと小さな犠牲が教会と各家庭で奨励された。当教会に近い直方教会の信徒も田川教会のために心を合わせて祈りを捧げてくれたことが大きな励ましとなった。祝賀式典では、この50年間の歴代の主任司祭たちの熱意ある宣教司牧の姿が偲ばれ、神からの多大なる恵みが感じられる記念の時となった。また、直方教会の子どもたちの歌のプレゼントが喜びに花を添えた。

続いて教会広場で松永司教、竹森主任司祭、聖母訪問修道女会総長シスター渡辺による樽酒の鏡開きの後、新田原聖母病院の大北泰夫院長の乾杯で祝賀会が行われた。

尚、新田原教会では、一年間の教会行事をすべて『創立75周年記念の年行事』と銘打って取り組み、特別行事として、小教区のルーツを訪ねての五島巡礼を始め、フランスのルルド巡礼なども企画・実行してきたことも付記しなければならない。

田川教会は、小さくとも家庭的な共同体として神の愛を伝えていくことができるよう一致協力して歩んでいくことを決意した。

時の話題

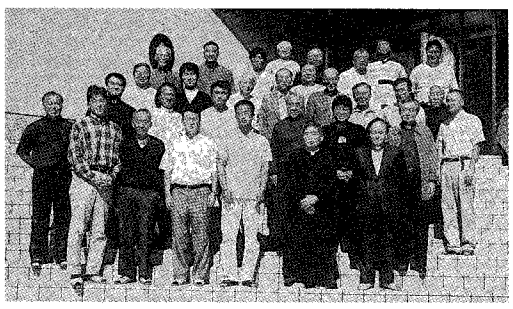
石橋貴昭

マザー・テレサの祈り「主よ、わたしをお使いください」の歌で、福岡教区聖体奉仕者任命式のミサが閉じられました。歌い終えた私は長い緊張から解放され、すがすがしい気分が訪れた途端に、これは大変なことと身の引き締まる思いに駆られました。それは50年余り前の洗礼を受けた当時の私の心の状態がそっくり蘇ったようでした。初心を忘れるなという警句がありますが、人間の弱さから信心生活も長い時が経つと惰性に流されて低下し、からだの健康管理同様、ドック入りが必要なようです。そんな思いで昨年9月から始まった福岡教区第一回聖体奉仕者養成講座に参加させていただきました。毎回百名に及ぶ程の信徒の方々の熱心さに勇気づけられました。第二バチカン公会議以来40年余り経過した今日、カトリック教会の典礼刷新によって自国のことばによる聖書朗読、典礼聖歌、共同祈願など、信徒の典礼奉仕が定着し、次第に洗練されたものになりつつあると私たちは感じています。そして今、典礼の核心、聖体授与の奉仕が加えられました。この聖体奉仕は聖職者ではない信徒の自然な感情として、一種の戸惑いを覚えますが、そこに一層の堅い信仰が求められると思います。司教様は、私たち一人ひとりを確認され、聖体奉仕者任命書を手渡してくださいました。誠に感動的でした。荷の重さを噛み締めながら、マザー・テレサに倣い、「主よ、お望みなら私を道具としてお使いください」と祈るのみです。

（笹丘教会信徒）

聖体奉仕者の任命を受けて

邦人司祭黙想会 ／3年ぶりの健康診断も



邦人司祭の黙想会が10月17日から21日まで、福岡黙想の家で行われた。指導司祭は御受難会の来住英俊神父。

キリストが神でありながらこの世に来た理由の問いかけから始まった。講話の中で、あらゆる階層の人々と分け隔てなく接触し、神の方へ心を向けさせることをよしとして行動されたキリストの心を司祭たちは自分のあるべき心とし、回りにいる積極的に動く人々のみならず、隠れている人や消極的な人々にも目を向け、信仰生活を考慮し、共に父なる神の招きに応えていけるようにする必要があることなど、司祭の根本的在り方を、講師自身の体験などを交えながら静かに、しかし力強く語った。

キリストの姿を常に追い求め、キリストの心を大事に生き続けることを再認識した参加者は、牧者の声に応える羊のような純粋な気持ちになれたことを神に感謝し、これからの司牧と宣教に熱意をもって関わっていくことを誓った。また、活動の中で、全ての関わる人にキリストの眼差しを注ぐことが出来るように、そして安心して関わる人たちがついてくることが出来るようにとその恵みを祈った。

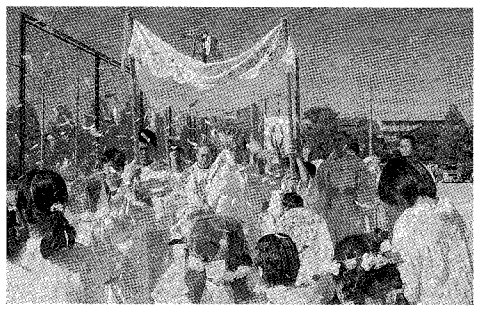
黙想会の2日目には、希望者に健康診断が行われ、各自健康管理についてのアドバイスを受けた。

みちくさ

今年はとても暑い夏だったが、時は過ぎて行くもの、もう11月、朝夕は寒さを感じる程である。大自然も秋に備えて、その営みを始めている。わたしたちはぼんやりしていることもあるが、神様にはそんなことはない。静かにその務めを果たしておられるのである。わたしたちも、焦らず急がずその日の務めを果たして行きたいものである◆10月に続くのは11月、死者の月である。死者の月と云うと永遠の命のことを考えるように導かれる。信仰ある者としては当然でもあろう。◆ところで、来世の命のことを考えると、是非天国に行きたいと思う。しかしこの世に慣れているせいか、この世に親しい人が多く残っているせいか、まだしばらくは、この世に残っていたい気持ちがする。お別れの日は1日でも遅いことを願うのである。そして結局、「天国には是非行きたいが、しかしできるだけ遅く」という奇妙なことになってしまうのである。天国の幸福のことを考えてみれば、そしてこの世がそれなりに苦しいところであることを思えば、奇妙な結論であるけれども、大抵の人がそういう考えに落ち着くようである◆これは、「命と云うものは本来、生きるに値するもの」であるということと、そして、「それをより価値あるものにして行かねばならない」ということではなかろうか。このわたしたちの世界にも善いことが確かにあり、改善すべきところも沢山見いだされるからである◆時の流れも気候の移り替わりも、わたしたちに一つの人生の哲学を教えているかのようであり、面白いと思う。

（M）

熊本の聖体大会
580人が参加して

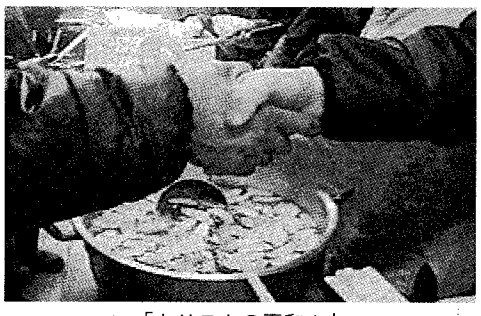

ご聖体を迎えて花をまく子どもたち

10月で閉幕する聖体の年の行事として、10月16日、熊本マリスト学園グランドにおいて熊本地区主催の「聖体大会」が行われ約580人が参加した。第1部では本大会のテーマ「キリストのいのちのパン」のもと、深堀敏司教と11人の司祭団の共同司式によってミサが捧げられた。説教の中で川添猛神父は、「ご聖体への信仰がますます深まるように、イエス様がどのような救い主であったかを思い起こしましょう」と話した。その後、奉納ではパンとぶどう酒、献金の他に、10周年を迎えた永久聖体礼拝参加者名簿や秋の収穫物である米や魚、果物などが捧げられた。

第二部で聖体行列と聖体賛美式が行われ、聖体による祝福が与えられて、参加者はそれぞれの場に派遣された。

美野島司牧センター の「聖体の年」

美野島司牧センターでは、どんな人にもイエスがパンを与えてくださることを思い、「命を守ること」をテーマに、聖体の年を過ごしてきた。路上生活をしている人たちとともにおられる主イエスを迎える気持ちで彼らを迎えてきた。主イエスが生きる力を与えるために彼らを迎えてくださったということができるだろう。「私の兄弟であるこの最も小さなものの一人にしたのは、私にしてくれたことなのである」（マタイ25・40）という主イエスのみ言葉が常に思い出されるのである。


「キリストの平和！」

毎週火曜日に路上生活している人たちが200人から250人ほどが集まり、美野島教会の聖堂の真ん中で一緒に食事を分かち合ってきた。集まる人たちは体だけではなく、心の食事をも求めて来る。心の食事というのは、日常の生活の辛さ、大変さから一時的に離れて、仲間たちと語り合いながら、一服して、生きる力を得ることを意味する。司牧センターのコース神父はこう語る。「この集まりは日曜日に捧げる信者共同体のミサと繋がるものがある。ミサの中では、聖体のイエスをいただく時、体の元気と心の元気を受ける。そして社会の中で、カトリック信者として生きる力をいただくと感じる。この集まりはそのミサと同じ様であると感じる」と。

ご聖体はイエス様と私たち、また私たち同士の交わりです。

連載(7) ご聖体のいのちを生きる
神の小羊の勝利

ミサの中でとても大事なところは、司祭が、イエス様の動作を繰り返してパンを裂くことです。この動作はイエス様の死を表す意味深い動作です。この動作をもって、イエス様は御自分の死を予言してこう言われました。「食べなさい。これは、あなた方のために渡される私の体である。」このイエス様の言葉はイエス様が、死を迎えて、御自分の命を私たちのために捧げると言う事を表しています。なお、ミサの中で司祭は、イエス様の代理としてこの動作を行う時、集会は「神の小羊」と歌います。「小羊」は聖書の中で、神に捧げられたいけにえのシンボルです。

ヨハネの福音の中で、イエス様は最初に現れる時、「神の小羊」として紹介されています。（ヨハネ1、29・35）そして、イエス様は十字架の上に命を捧げられた時、ヨハネは過越の時屠られた小羊について命じられているとおり「その骨は一つも砕かれない」と言う予言は実現された事を強調しました。「兵士たちが来て、イエスと一緒に十字架につけられた最初の男と、もう一人の男との足を折った。イエスのところに来てみると、既に死んでおられたので、その足は折らなかった。」（ヨハネ19、32・33）

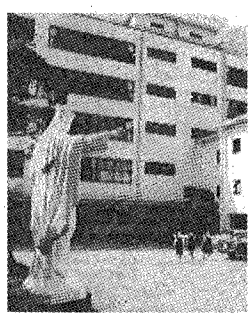
黙示録の4・5章には、神の小羊の勝利が書かれています。この神秘的なシンボルをもって、黙示録の中で、ミサのことが説明されています。「またわたしは、玉座に座っておられる方の右の手に巻物があるのを見た。表にも裏にも字が書いてあり、七つの封印で封じられていた。また、一人の力強い天使が、『封印を解いて、この巻物を開くのにふさわしい者はだれか』と大声で告げるのを見た。この巻物を開くにも、見るにも、ふさわしい者がだれも見当たらなかったので、わたしは激しく泣いていた。すると、長老の一人がわたしに言った。『泣くな。見よ。ユダ族から出た獅子、ダビデのひこばえが勝利を得たので、七つの封印を開いて、その巻物を開くことができる。』わたしはまた、玉座と四つの生き物の間、長老達の間に、屠られたような子羊が立っているのを見た。子羊は進み出て、玉座に座っておられる方の右の手から、巻物を受け取った。巻物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老は、おのおの、竪琴と、香のいっぱい入った金の鉢とを手に持って、子羊の前にひれ伏した。そして、彼らは新しい歌をうたった。

『あなたは、巻物を受け取り、その封印を開くのにふさわしい方です。あなたは、屠られて、あらゆる種族と言葉の違う民、あらゆる民族と国民の中から、御自分の血で、神のために人々を贖われ、彼らをわたしたちの神に仕える王、また、祭司となさったからです。彼らは地上を統治します。』」（黙示録5、1・2、4・6a、7・8a、9・10）

ミサの中で司祭はパンを裂いて、いけにえとしてのイエス様の死を表す時、教会は、昔から、小羊の勝利を、つまり神の愛の勝利をたたえて、歌います。「神の小羊…神の小羊…神の小羊…」キリストの死は神様の愛の最高の場です。イエス様の弟子たちはミサの中でそれを祝い、体験し、宣言するのです。

F・ソットコルノラ神父＝真命山・諸宗教対話・霊性交流センター長）

おじゃまします。学校訪問
～カトリック学校は今～
(6) 熊本信愛女学院高等学校
http://www.kumamoto-shin-ai.ed.jp/


生徒を見守るマリア像

今回は熊本市の北部にある熊本信愛女学院高等学校を訪問させていただきました。

1900年、メール・フランソワ・ドゥ・ボルジア修道女によって、熊本まい瑰（かい）女学校という名前で熊本信愛女学院は創立され、1947年に中学校が創設されています。この度、取材に応えてくださったのはSr.二平京子校長とSr.田川先生です。ありがとうございました。

Q　まず、カトリックの学校（ミッションスクール）としての目指すところ、目的とはどのようなものでしょうか？

A　ひと言で言えば、「愛と奉仕の精神を伝えること」に尽きます。信愛教育の柱は、一人ひとりを大切にし、その生徒の能力を伸ばし、自己形成を促していくものですが、やはりキリストの教えに根ざした愛の精神で、社会貢献への自覚と態度を創り上げていくことにあります。

Q　そのための具体的な取り組みとしては、どのようなことを行っていますか？

A　やはり、その最たるものは様々なボランティア活動でしょう。カトリック研究部をはじめ、積極的にボランティアに参加できるための委員会を設けて、全校的に行っています。

聖心病院で食事の介助などを、定期的・継続的に実施したり、幼稚園の小さい子ども達との交流など身近な活動の他、カンボジアを中心とする国際ボランティアのシステムもあります。

Q　カンボジアの支援についても、もう少し詳しく教えていただけますか？

A　同じ修道会のシスターが活動しているカンボジアの貧しい地域で、衛生教育の手伝いや食事配給の手伝いを行っています。毎回3～4人の生徒が現地を訪問しており、今年でもう5回目になります。

カンボジアの子ども達（地雷の被害を受けた子など）との出会いを通し、生徒は、それまでに持っていた価値観を大きく変えられるという体験をします。ある生徒は、「人間の本当の幸せとは何だろう？物の豊かさでないことが分かりました。」と言い、また、ある生徒は、「あんなに彼らは一生懸命生きている。いつしかまた、その彼らと会うのに今の自分では恥ずかしい」と思い、自分自身の生き方を変えていきたいという思いで募金や救援物資を集めます。

今回(10月22日)は、文化祭（テーマ：国境の壁をぶちこわせ）の収益をカンボジアの活動へ寄付すると共に、カンボジアの高校生10名と引率者3名を招待して交流を行いました。

こうした体験を通し、進路を選ぶ際、NGO活動を選んだり、看護師になるために大学に通ったりする生徒も出てきています。

カンボジアでの交流会

おいしいですか？聖心病院でボランティア

ていくきっかけをつかみました。

体験を終えた生徒たちは学校に戻った後、全校生徒に報告発表を行い、それを聞いた生徒たちは少しでも彼らの力になりたいという思いで募金や救援物資を集めます。

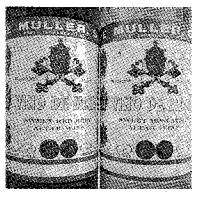
今回(10月22日)は、文化祭（テーマ：国境の壁をぶちこわせ）の収益をカンボジアの活動へ寄付すると共に、カンボジアの高校生10名と引率者3名を招待して交流を行いました。

こうした体験を通し、進路を選ぶ際、NGO活動を選んだり、看護師になるために大学に通ったりする生徒も出てきています。

【所感】　まず、にこやかな笑顔と挨拶に迎えられ、元気な学校という印象を受けました。クラブ活動が盛んで、陸上・バレー・新体操など国体レベルの部活動がいくつもあると聞きましたが、それだけでなく、シスター方のいきいきとした姿が、生徒達に元気を与えている学校だと印象を強く持ちました。

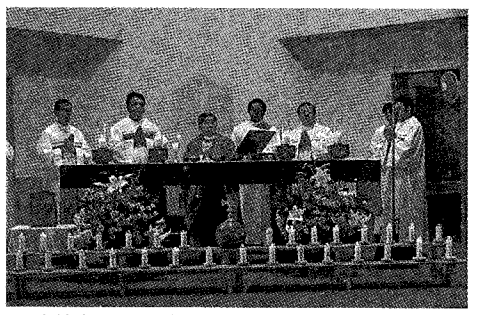
取材・執筆
2005年10月18日
泰星中学高等学校
宗教部長　里見康介
入試広報　吉竹孝介

第6回土曜公開講座
生きているヨーロッパ中世都市を訪ねて
…ローテンブルク・プロヴェン・カルカッソンヌ…
[日時] 11月26日(土) 15時～17時
[講師] 河井田研朗（福岡大学名誉教授）　＊入場無料
カトリック福岡黙想の家
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056　Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm
PRAYER GROVE MUNAKATA

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ　青木 彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

殉教者加賀山隼人一族30人の列福を祈願


殉教者30人の名前を印したローソクを前に

10月16日、大名町教会で松永久次郎司教主司式による「殉教者列福祈願ミサ」が厳粛に執り行われた。今年は、福岡教区殉教者28名とともに大分の日出（ひじ）の殉教者バルタッサル加賀山半左衛門親子（ディエゴ加賀山隼人と同義の理由で、同年同日に殉教した従兄弟である）の列福を願いながらのミサであった。

司教は説教で殉教者を紹介し、「殉教者の列福を祈ることは、殉教者を慰めることであり、その生き方を模倣する恵みをいただくことである。神への忠実をまもり、信仰を熱くすることにつながるこの集いと祈りを大切にすることを約束しよう」と話した。大分から尻枝穀神父（大分教会主任）もミサに加わった。

新しい福音宣教を目指して　福岡地区信徒協

グループで分かち合った提案を発表

福岡地区信徒使徒職協議会（会長＝山崎昌典氏）主催の2005年度研修会が、9月19日、「キリスト者としてのこれからの歩み…新しい福音宣教を考える」をテーマに大名町教会で開催された。講演会を中心とした例年と違い、講師の吉村信夫氏（大阪生涯養成委員会代表）の指導のもとに、地区内20教会と修道院より参加した115人が積極的に関わるプログラムで行われた。

午前中、「召された道…洗礼以来の歩みを振り返る」をテーマに小グループで分ち合って互いに信仰の歩みを聞き合い、午後は「開かれた共同体になるために」をテーマに、教会の仲間から地域の人たちに至るまで、どのように福音の喜びを伝えていけばいいのか、参加者全員が自由に話し合い、すぐにでも着手できそうな具体的な提案も数多く提示された。

難民移住移動者委員会長崎教会管区大会

現状の報告を行う谷大二司教

9月17日（土）、日本司教団難民移住移動者委員会（担当＝谷大二司教）主催の、「日本において信仰を生きる」というテーマのもと、九州管区外国籍カトリック信徒の集いが、大名町教会にて行われ、フィリピンの人々を中心に約150人が参加した。

熊本で信徒宣教者として働いているフィリピン女性のアルバ・ビンさんは「今日、九州各地から集まった外国人は、ほんの一握りにしか過ぎないが、参加できたことをとても感謝している。それは、分かち合う場に居て、新しい友達ができ、決して一人ではないということを実感したから。また自分たちにとって外国である日本で、直面している事柄にチャレンジ出来る勇気をもらった。」と集いの感想を話した。日本人と結婚したフィリピン出身の妻にとって、大きなチャレンジは夫とともに教会に行くということである。多くの日本人の夫は教会に行かないだけでなく、子どもに洗礼を授けることも賛成しない。フィリピンで洗礼を受け、日本で育つ子どもの多くは、母親は日本語で子どもなどを教えることができない。しかし、母親たちは希望と信仰を絶対失わない。主イエスに信頼してチャレンジに勝ち得るために絶えず祈っている。日本において子どもの信仰をどう守り、育てていけるのか考える必要がある。

ケルン大会参加者が各地で報告会　WYD

大名町教会での報告会で質問に答えるWYD参加者

今年のワールドユースデー（WYD）に参加した青年たちが、呼びかけを受けた教会で報告会を行っている。10月16日は小倉教会、23日は大名町教会でミサの後に行い、それぞれ30～40人が参加した。

「WYDに参加した人、行きたくても行くことが出来なかった人、様々な形で支援してくださった多くの人と、経験してきたたくさんの気持ちを共有したい」と、たくさんの写真を日時ごとに模造紙に並べ、パソコンでスライド（ビデオ）を作成し、出来るだけ分かりやすく説明が出来るようにと工夫されていた。

大名町教会での報告会でも参加者が熱心に聞き入った。質疑応答で、「参加前とその後では、何か変化がありましたか？」「これからの決意を聞かせてください。」「言葉の分からないミサはどんなでしたか？」など、参加した子どもたちからも次々と質問が出されていた。

「私たちはWYDに参加するだけでなく、そこで教皇様とともにいただいた神様からのお恵みをたくさんの人々と共有することが使命だと思っています」という青年の決意が聞かれた。

次の報告会は11月6日に糸島教会で、11月20日に笹丘教会で行われる。

長崎教会管区司祭たちが親睦ソフトボール大会

長崎教会管区のナインが集合して

9月27日、司祭親睦ソフトボール大会が長崎市の柿泊グランドで行われた。今回は、長崎大司教区で例年行われている大会に招待を受け福岡、大分、鹿児島、広島教区の連合チームが参加し長崎教会管区司祭団の大会となり熱戦が繰り広げられた。

試合はA・B両リーグに分かれ、長崎大司教区長の高見三明大司教、大分教区長の宮原良治司教も出場し、会場は大いに盛り上がった。Aリーグでは連合チームは三位に終わったが、Bリーグでは竹森神父率いる福岡ジャイアンツが見事に優勝。今回初めて行われた教区を越えた交流において、互いが語り合い健闘を称え合ったことの意義は大きい。司祭たちは来年の再戦を誓い合った。

教会について思うこと 4

信徒の召命と司祭の召命

「あなたたちもぶどう園に行きなさい」（マタイ20・4）。この呼びかけはすべてのキリスト者にむけられたものであり、キリストはすべての人が教会のため、そして世界のために働くように招いている。

教会の中でも、社会生活の最前線に立ち、「現世的なことがらに従事し、それらを神に従って秩序づけていくことで、神の国を追求する」信徒の役割は重要である。

教会が人間社会に生命を与える源となりえるのはこの信徒によってである。信徒は社会の中にあって、キリストの福音に生きながら、人のいのちは神に与えられ、その神の霊により支えられ、生かされていることをあかしする。キリスト者は誰もが「何を話すにせよ、行うにせよ、すべて主イエスの名によって行い、イエスによって、父である神に感謝」（コロサイ3・17）する者たちである。したがって信徒は毎日の社会生活にあって、常にキリストの霊に生かされながら、聖化され、聖性に生き、聖性をあかしする責任がある。この聖性へのキリストに委託されているという信仰的確信と威厳をもって人々に接するべきである。また信徒は司祭から教会の種々の霊的善、特に神の言葉を秘跡の助けを受ける権利を持ち、自分の必要と望みを自由と信頼をもって、牧者に表明することができる（教会憲章37参照）。司祭と信徒の召命を均等化したり混同することはできないが、司祭と信徒それぞれが、お互いの召命を尊重しあいながら、「互いに愛しあいなさい」（ヨハネ13・34）というキリストの言葉がこの世界で実現するように協働するのである。

（大山悟神父＝聖スルピス会会員）

召命は、愛の完全さへの召命である。信徒の聖性への召命がより力強いものとなるためにも、役務的祭司職の聖なる奉仕の権能によって、支えられ、育まれ、導かれることは必要である。叙階の秘跡の力によって、司祭は、最高永遠の司祭であるキリストにかたどられ、頭であり、牧者であるキリストの代理者として行動するものとなり、神の民の聖化のために奉仕する者である。司祭はキリストにおける父として信徒に対して心を配り、信徒の霊的生活を養い支える。司祭はすべての人の罪を赦し、和解させ、霊的に生かす聖なる奉仕の権能を

BOOK 読みは専科

★まりあのこもりうた
文　中村倫明
絵　千田たかみち

クリスマス、マリアさまの子守唄でイエスさまの誕生をお祝いしましょう。

赤ちゃんのイエスさまを抱っこして歌えるよう、巻末に楽譜とCDがついています。

女子パウロ会　発行
税込価格　1365円

◇　◇　◇

★心を描き続けて
絵手紙の世界
絵・文　佐藤ちえ子

カトリック信者である著者は1979年にリウマチを発症し、以後長い闘病生活に入り、その中である出会いを通して絵手紙を書き始める。難病と闘いながら、短くなりわずかしか動かなくなった指で「わたしの生きる望み」として日記の代りに懸命に描き続けた絵手紙。沢山の出会いに心からの感謝の気持ちを込めて描いた絵手紙が一冊の本に。

発行　ちえ子の夢・プロジェクト
☎092・861・9354
税込価格　1470円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092−761−8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092−711−0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811−7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092−526−9176

ご聖体の「いのち」を生きる

カトリック教会のカテキズム

日　時：2005年11月27日(日) 15：00
場　所：カテドラル大名町教会
講　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参加費：1回　５００円
＊次回、2006年１月22日

2005年度北九州地区聖書講座

★年間テーマ：いのちへのまなざし
日　時：11月６日(日) 14時～16時30分
テーマ：生と死の諸問題（１）
場　所：カトリック戸畑教会
講　師：W.キッペス神父
（臨床パストラルケア教育研修センター）
参加費：５００円
主　催：北九州地区信徒協・聖書部会
連絡先：☎093-293-4981　松尾隆
＊次回：2006年１月29日　小倉教会

スポーツフェスティバル

日　時：11月23日(水) 13時～16時
（雨天時は別プログラム）
場　所：サン・スルピス大神学院
対　象：福岡教区内の中学生・高校生
参加費：400円（保険料含む）
主　催：地区青年・高校生
問合せ・連絡先：
渋谷聖（光丘教会）
寺浜神父（大名町）
☎092-741-3687
アドレス　fsf1123@yahoo.co.jp
＊参加希望者は、申込が必要ですから、所属の教会の神父様に申込んでください。

紫苑.COM　１Day学習会【スピリチュアルケアとは】

日　時：11月24日(木) 9:50受付／16:00終了
場　所：福岡黙想の家（宗像市名残）
内　容：家族の体験談／当事者の体験談
鈴木忠一神父・小宮豊医師のお話
参加費：無料（会場で資料代募金）
お弁当：４００円（締きり日　11月15日）
申込み先：☎0940-33-2731　吉永昌子

第58回 福岡市民クリスマス

日　時：2005年12月12日(月)
開場：18時～閉会：20時30分予定
場　所：福岡市民会館（福岡市中央区天神5-1）
プログラム：
メッセージ：日本福音ルーテル博多教会
合奏と合唱：福岡音楽学院のリコーダ合奏と合唱
その他、金管バンドや在日大韓基督教会聖歌隊
入場料：無料（献金をお願いします。）
主　催：2005年度福岡市民クリスマス実行委員会
＊市民クリスマスはカトリックとプロテスタント諸教派のエキメニカルな宣教活動です。

案内版

死者の月　会合と催し　11月のこよみ

福岡黙想の家ご案内　11月

◇９日(水)　ミカエル会
◇11日(金)　むなかた和善の聖書
◇12日(土)～13日(日)　山口・島根地区信徒養成研修会
◇14日(月)　来住神父の月曜勉強会
◇17日(日)　ルヴァンヌーボー祈りの集い
◇22日(火)～23日(水)　聖母カテキスタ会黙想
◇24日(木)　一日学習会　Dr.小宮（主催：紫苑.COM）
◇26日(土)　土曜公開講座（講師：河井田研郎）
◇28日(月)　来住神父の月曜勉強会
◇28日(月)～30日(水)　御受難修道会共同体の日
＊使用済みのローソクを集めています。(担当：間瀬雅夫)

[問合先] 御受難会福岡黙想の家
☎0940・32・3222　FAX 32・3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

年間テーマ：
ご聖体の秘儀を深めて
※祈りの集い（毎月第２木曜日）
※11月10日(木) 10時～15時
内容：ご聖体は神との契約の秘跡
指導：Sr.マリアとFr.フランコ
問合せ先：真命山諸宗教対話・霊性交流センター
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186
E-mail shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時：11月19日、12月３日　第１と第３土曜日10時～12時
場所：カトリック大名町教会小聖堂
※基本的に第１・第３土曜。変更になる場合もあります。

11月のこよみ

1日(火)　諸聖人
2日(水)　死者の日
3日(木)　召命の集い（大神学校）
6日(日)　年間第32主日
水巻教会公式訪問・堅信式
9日(水)　ラテラン教会献堂記念日
10日(木)　†P.フォード［1997年菊地教会］
13日(日)　年間第33主日
笹丘教会公式訪問・堅信式
和田墓地ミサ（14時）
14日(月)　†中田藤太郎［1999年高宮教会］
20日(日)　王であるキリスト
黒崎教会公式訪問・堅信式
21日(月)　聖マリアの奉献
22日(火)　聖セシリアおとめ殉教者
大神学院祭（大神学院10時30分）
†P.ポール［1996年御受難会］
23日(水)　†B.シュルツ［1996年吉塚教会］　勤労感謝の日
27日(日)　待降節第１主日
行橋教会創立50周年記念式典
福岡地区カテキズム勉強会（カテドラル15時）
†M.C.ハイメ［2003年トラピスチン］
30日(水)　聖アンデレ使徒
12月
3日(土)　聖フランシスコ・ザビエル
4日(日)　待降節第２主日　宣教地司祭育成の日
ゴチックは司教日程
※司祭の命日は1990年以降からお載せしています。

福岡

■福岡祈りの集い
［日時］毎週月曜11時～12時30分［場所］カトリック大名町教会［内容］聖霊による祈り［問合先］☎０８０・１７３７・６１３０　ブラザー床嶋

■ＪＣＮＡ福岡支部定例会
［日時］11月13日（日）14時30分［場所］熊本みこころ病院［内容］伝達事項・みことばのわかちあい・現場からの声［問合せ先］☎０９４２・３５・３３２２（内線２４６９　安元）http/katokan.boo.jp

■福岡ホスピスの会
［日時］11月13日（日）14時から［場所］カトリック大名町教会４階［内容］在宅介護者を抱える家族…家族のストレスとケア…［講師］野島一彦教授（九州大学大学院臨床心理・箱崎教会信徒）［参加費］会員無料・一般参加７００円［問合せ］☎０９２・８７４・６３２１（宗教など不問）

■召命を共に祈る集い
［日時］11月17日（木）［内容］花岡山殉教地巡礼［集合場所］久留米教会10時［指導］浦川務神父（教区召命担当）

■松浦悟郎司教講演会
［日時］11月23日（水）13時30分から16時［場所］カトリック久留米教会［内容］ミサと講演会［講師］松浦悟郎司教（大阪教区）［テーマ］今、平和を選ぶとき［参加費］５００円［主催］憲法九条を世界の宝に・ピース９の会…イザヤ書２・４［連絡先］☎０９４２・４７・１０４４井手順子

■グレゴリオ聖歌ミサ
［日時］11月24日（木）11時［場所］聖クララ寮聖堂（福岡市南区塩原）［内容］レクイエム（死者ミサ）［問合せ先］☎０９６・３８０・５６８６堺

■在世フランシスコ会集会
［日時］11月27日（日）14時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］戸村悦夫神父［問合先］☎０９２・８４３・５８３１岩崎

SE・CO一日黙想会

日　時：11月23日(水)
場　所：篠栗の聖心の祈りの家
（聖心のウルスラ宣教女修道会）
指　導：萱場基神父
（イエズス会司祭・泰星学園教諭）
参加費：３００円（おやつ代　当日）
申込・問合せ先：
☎092・581・6838　龍 優子
〆きり：11月15日

佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］11月16日（水）10時～11時30分［場所］佐賀カトリック会館［内容］共に祈る
［日時］11月30日（水）10時～12時はミサと祈り：毎月第２水曜日と第４水曜日。どうぞご参加下さい。［問合先］☎０９５２・７２・７５３６吉田

北九州

■小倉祈りの会
［日時］11月25日（金）13時半から15時［指導］ガブリエル神父（御受難会）［場所］小倉教会信徒会館２階［内容］「みことば」を味わう・賛美と感謝の祈り［連絡先］☎０９３・９２１・２２８０安藤

■黙想と祈りの集い
…テゼのうたを歌いながら…
［日時］11月27日（日）９時から［内容］第１部９時「ミサと黙想」・第２部14時「いのちの深呼吸」［場所］カトリック小倉教会［指導］植松功氏
［問合せ先］☎０９０・７３８６・３２０１内藤／０９０・２５０５・８６６７福吉

クリスマス きっとあなたと…　第34回　出会いの集い

日　時：11月23日(祝日) 9：30受付
場　所：カテドラル大名町教会
ミ　サ：青木悟神父（大名町教会主任）
インストラクター：
吉川信雄氏（光丘教会）
対象者：20才以上の独身男女
参加費：２０００円（昼食代含む）
申込み締きり：11月13日(日)

プログラム
10：00　ミサ
11：00　レクレーション
13：00　二人でお話し合い
16：30　閉会

問合せ先：090-4347-3319（前野）
＊原則、各教会のカナの会担当者に申込んでください。

シンポ　ハンセン病とカトリック

日　時：11月19日(日) 14時～17時
場　所：カトリック手取教会（熊本市）
テーマ：出直し熊本判決から見えてきたもの
主　催：日本カトリック部落問題委員会
協　賛：熊本地区信徒使徒職協議会
問合せ先：☎093-622-1289 瀬下（黒崎教会）
＊人間愛を説くカトリック教会はハンセン病問題に正面から向き合って来たろうか？

編集後記

死者の月。ある教皇様が定めになった、死者を思い・祈る慣わしの月。けれど死者自身は帰天する時を待ってはくれない。神はいつでも人をご自分のもとにお呼びになるのである。良き準備をしておかなければ。教区報もある月だけ発刊するわけにはいかない。各地区にあるいろんな事柄を収集し、記事にして載せる準備を絶やさない。機転（きてん）を利かして喜んでもらえる紙面にしないと。読者の寄稿と祈りをお願い致します。もちろん、亡くなった方々のためにもお祈りください。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川３丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（1F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（2F）十字架、ロザリオ、ご像、CD、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後６時　定休日：木曜日
〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-14-26
電話　092-721-2032　FAX　092-739-3930

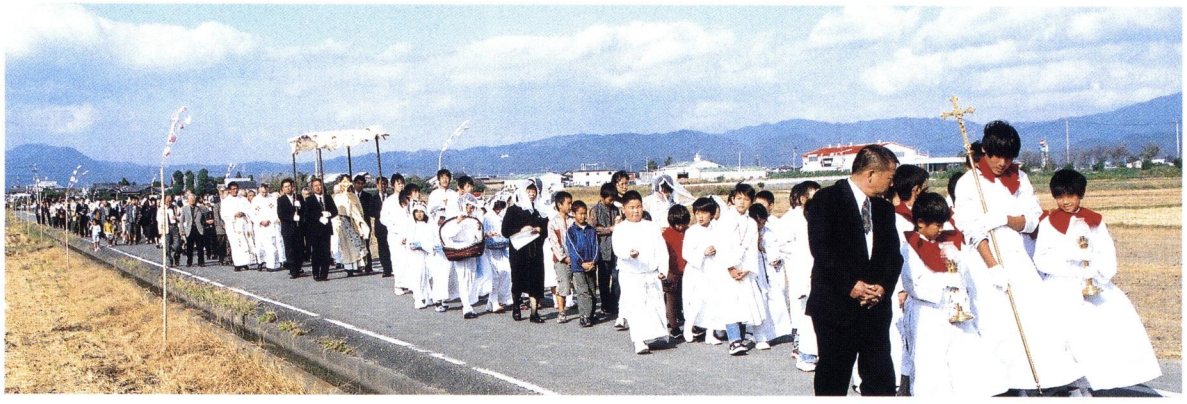
カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

秋の筑後路にご聖体を賛美する祈りの行列

筑後地区7教会が合同で「聖体の年」を祝って400人

稲刈りを終え、冬支度に入る10月30日。今村教会で、信仰の中心であるミサと、聖体行列・賛美式が厳かに執り行われた。当日は好天に恵まれ、筑後地区7つの小教区から参集した信徒が聖体の年閉幕の行事の恵みに与った。



筑後地区では聖体の年の閉幕を記念して、10月30日（日）地区内7小教区合同の聖体大会を今村教会で行った。

この聖体行列は例年今村教会で行われているオラショ祭りだが、今年は前教皇ヨハネ・パウロ2世が昨年10月に定めた「聖体の年」を記念し、先に地区内の今村、大牟田、小郡、久留米、二日市、本郷、鳥栖のそれぞれの小教会において、一年をかけて聖体の年を記念する行事を行って来た。各小教区では祭壇上に聖体を安置し、聖体礼拝、沈黙の聖時間を過ごし、聖書朗読や教会の祈りがとなえられ、聖体賛美式を行った。その締めくくりとして、10月30日筑後地区合同の聖体大会を今村教会で行ったのである。

当日はまず岩永義人神父（今村教会主任）と4人の司祭の共同司式によるミサが行われ、その後、先導の女の子たちが花を撒くなかを、聖堂から聖体行列が始まった。天蓋のなかで浦川務神父（久留米教会主任）によって捧持された聖体に続き、全員でロザリオの祈りを唱えながら、稲刈りの終わった田園の道、約2キロを行列した。

行列後は再び聖堂に戻り、松永久次郎司教司式の聖体賛美式が行われ、聖体による祝福を受け聖体の年の閉幕が告げられた。

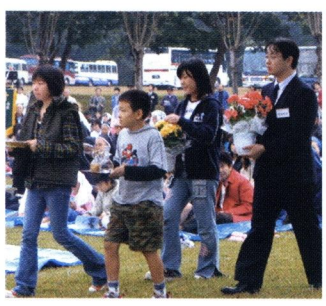
太刀洗地区は、かつてキリスト教迫害の時期に、その迫害を逃れてキリシタンたちが隠れていた場所であり、それを記念して毎年この時期にオラシオ（祈り）祭りが行われている。

今回、筑後地区では自分たちの信仰の原点である聖体をこのキリシタンたちの地でともに深く黙想し、みことばと聖体を世に伝えていくものとして、地区一体となって互いに決意を新たにしようとする思いがこの行事となった。

12月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】創造主の計画による人間の尊厳
【布教の意向】神の探求と主との出会い
【日本の教会の意向】キリストの平和と光を



キリストと共に歩む決心も奉納します

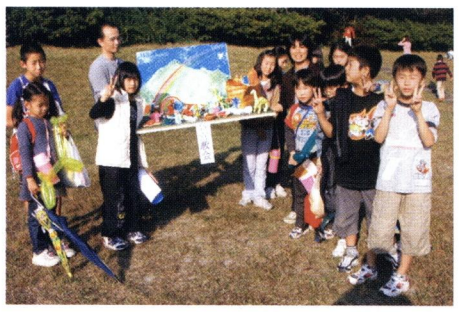
☆輝かそう…イエスの光☆ 召命の集い

11月3日、今年も「召命の集い」がサン・スルピス大神学院（院長＝牧山強美神父）で行われ、九州各地から約1

400人が集った。今年のテーマは「輝かそう…イエスの光☆」。大神学生がこのテーマで作曲した歌でミサが始まり、松永久次郎司教司式のもと、司祭・修道者の召命を願い、祈りが捧げられた。

午前中は曇り空で時折雨がパラついていたが、午後からは秋晴れとなり、大神学院の緑の芝生で行われる神学生の劇やレクリエーションに集まった子どもたちの楽しい笑い声が響いていた。大聖堂では中村倫明神父（長崎教区司祭）による召命の講演が行われ、こちらも大きな笑い声が響いていた。

今回、召命の集いの新しい取り組みとして、今までなかった中高生対象のレクレーションが神学生と青年たちとの共同で行われ、約30人の中高生が参加し大いに盛り上がった。また、司祭養成の一環として現在行われている東京カトリック神学院との助祭の合同研修で、東京神学院から7人の助祭たちも参加し、はじめての召命の集いを体験し、「自分たちのところにはない大きな行事です」。「九州の召命に対する熱心な祈りを知ることができました」などの感想が聞かれた。

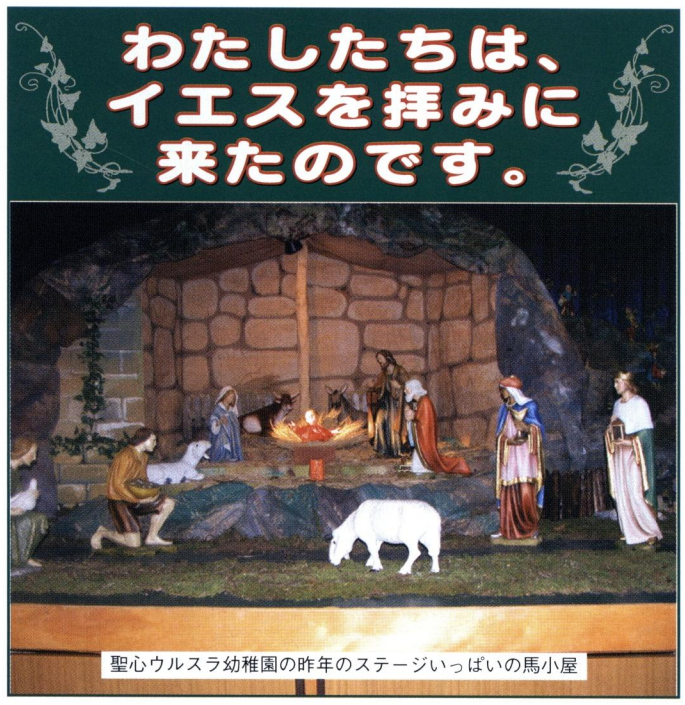


作品展で優勝した高宮教会学校の作品とうれしい皆さん

召命の集い実行委員長
野浜達也神学生（長崎教区：中町教会所属）から

2005年召命の集いに1

400人という多くの方々に参加していただき、司祭・修道者の召命のためにともに祈りを捧げることができました。準備した神学生の数は決して多いとはいえませんが、皆さまの祈りと協力によって大成功のうちに召命の集いを終えることができました。松永司教様をはじめ、神父様、修道者の皆さん、そして当日は朝早くから交通整理のためにご協力くださった福岡地区の信徒使徒職協議会の皆さんに心から感謝いたします。そしてたくさんの青年たちの協力で今回はじめての中高生レクレーションを実施することができました。本当にありがとうございました。これからも私たちが皆さんとともに召命の道を歩んで行くことができるように引き続きお祈り・ご指導よろしくお願いいたします。



聖心ウルスラ幼稚園の昨年のステージいっぱいの馬小屋

時の話題

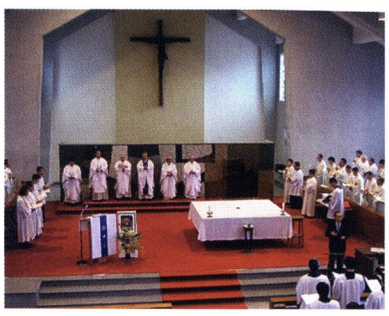
Br.牧山忠治

エルサレムから、パレスチナ自治区が支配しているベツレヘムまで約10キロの道のり、車で30分位かかります。イスラエルの車では自治区に入れないので、途中で自治区のプレートをつけた車に乗り換えていかなければなりません。赤茶けたユダの荒野を見ながら、羊飼いが羊とのんびりと歩く姿はイエスの時代からあまり変わらない光景かも知れません。この羊飼いたちの先祖が主の使いから「救い主がお生まれになったこと」を知らされた人たちでしょう。現在のベツレヘムの人口は3万人位で、教会・修道院の鐘楼などが町全体に安らぎを与えています。市内はあまり活気がありません。治安の関係で訪れる人が少ないのでしょうか。イエスのご誕生を記念する大きな建物は十字軍時代に改修されたものらしく、まるで要塞のように見えます。入り口は人が腰をかがめてやっと通れるくらいのものです。今日の教会は、かつての宗派間の対立によって、三つの宗派の勢力分野に分かれているとのことです。ギリシャ正教は祭壇右側、左側はアルメニア教会、隣接してあるのが聖カタリナ教会でカトリックが管理しています。この教会はバジリカ方式という古い建築様式だったそうです。祭壇の下が聖なる場所、キリストご誕生の場所とされています。お生まれになった場所には、銀の星型がはめ込まれています。聖カタリナ教会はクリスマスの夜のミサが毎年前世界にテレビ中継される教会としても有名です。今年も多くの人が集まり、主のご誕生をお祝いすることでしょう。

（聖パウロ会福岡修道院長）

聖ベツレヘムの馬小屋を訪ねて

大神学院祭 叙階25周年の山元眞神父が説教



60人余りの司祭が参集しての感謝ミサ

11月22日、福岡サン・スルピス大神学院で、聖母の奉献を祝う大神学院祭が行われた。ミサではそれぞれ節目の年を迎えた司祭の祝い、またこの一年間に亡くなった司祭のためにも祈りが捧げられた。福岡教区では50周年を迎えた畠山七郎神父、25周年を山元眞神父、10周年を伊東成晃神父が祝った。ミサの説教を担当した山元神父は「この25年間を振り返り、神様が自分を司祭として選び、導いてくださったことに感謝したい」と語った。

みちくさ

事故で植物状態となった人がいた。家族の者は延命装置をつけた彼を看病した。ルルドの水で額や手を拭いてあげた。病院に集まっては、「もし彼が亡くなったら残ったものはどうなるの」などと、本人の意識はないものと決めつけ、枕元で平気で財産の用途などを口走っていた。何ヶ月か経った頃、彼の心電図の動きが平常な人と変わらないようになっている。図らずも、生命のエネルギーが脈々と高まってきたのである。そしてついに目を開け、口を開いた。医者は、「私はあと数ヶ月の命だと言いました。けれどこんなになって、奇跡のようです」と自分の診断を撤回した。本人も横たわっている間、「もうだめだ」と思っていたという。そう思っていたのだ。しかし、体は動かずとも意思は働いていたのである。当然、枕元で話されていたことは記憶されていたのである。この話はあるシスターから聞いたことだから真実味はある。ルルドの水が功を奏したのであろうか▼科学で解決できないことは多くある。科学は事実を人が理解できるように説明すべく苦闘する。しかるに、神は時々科学では追いつけないものを人に与えて、ご自分の存在を示される▼ルルドの水の本家マリア様も神から人知を越える恵みをいただき、聖霊によってイエス様をお産みになった。「主の誕生」。信じる人にとっては、これ以上の恵みはない。主は永遠の延命装置をもっておられ、私たちともに今を生きてくださる。そして耳元でささやかれ、今を生きることを意識させてくださる。私たちの心電図は大丈夫？。

（S）

福岡地区のカトリック青年が、中高生に呼びかけて大神学校でスポーツ大会

神学校のグラウンドに全員集合

福岡地区青年主催による中高生対象のスポーツ大会「FSF（福岡スポーツフェスティバル）」が、11月23日福岡サン・スルピス大神学院グラウンドで行われた。秋のここちよい天気の中、県内の中高生40人が参加し、青年たちが企画した様々なレクリエーションに汗を流した。

青年たちの企画は毎年夏に開催されているFYCC（福岡ユースカトリックキャンプ）やBBQ（バーベキュウ）大会をはじめ、青年ならではのアイデアと発想が盛りだくさん。今回は顔見知りの仲間たちに加え、更なる参加を求めて、青年たちと中高生たちが小教区などで参加を呼びかけた。

また今回初の試みとして、今まで参加者だった高校生を、スタッフとして企画の段階から参加させ、参加者の中高生の立場になって意見を聞き、新しいアイデアを加えた。青年たちの次世代を養成しようという熱い気持ちが表れている。

青年たちは現在、「教会に青年が来ない、中高生になると教会から離れてしまう」という意見や懸念に対して、「教会は神さまがみんなを呼び集めてくれる場所であり自分たちの本当の活動の場である、神さまから自分たちに託された役割が教会にたくさんある」という純粋な気持ちを持っている。

早く！早く！どこまで続くの？

車座になって作戦会議

自分たちの次世代である中高生のために、神と教会の大切さ、自分たちが出来ることのすべてを伝えようとする力強い存在となっている。

連載(8)　ご聖体のいのちを生きる
全世界のいのちのために〝裂かれたパン〟

御聖体の年の締めくくりとして、今年の10月3日から23日まで、ローマで、シノドス（世界代表司教会議）が行われました。そのテーマは「教会の命とその使命の源である御聖体」でした。10月9日、総会が始まった一週間後、教皇ベネディクト16世は、ローマに集まって来た巡礼者たちに、日曜日の昼の祈りの時話しかけて「この総会の結びは、新たにされた福音宣教でありますように」という希望を表しました。教会の使命、と福音宣教は同じことです。（ラテン語でも、英語でも、同じ言葉で、MISSIOと言います！）

実際に、第二バチカン公会議の典礼憲章に書いてあるとおり、「典礼は教会の活動が目指す頂点であり、同時に教会のあらゆる力が流れ出る源泉である。それは、使徒的な働き（福音宣教）が目指すところは、すべての人が信仰と洗礼によって神の子となり、一つに集まって教会の中で神をたたえ、（御聖体の）犠牲にあずかって主の晩さんを食するようになることだからである。……また、聖体祭儀によって行われる、主と人々の契約の更新は、信者をキリストの迫る愛にかりたてて燃やすのである。」（10）ですから、教会のキリストの福音を述べ伝える力や喜びは御聖体の神秘から出るのです。

日本語の奉献文の御聖体制定の言葉の中で出てくるキリストの言葉、「みな、これを取って、食べなさい」、また「みな、これを受けて、飲みなさい」を聞くと、いつも、イエス様をまだ知らない、その結果御聖体の神秘も知らない、沢山の人々のことを思い出させられます。その時、ミサにあずかることができる恵みをいただいている私たちはイエス様が話されたあのたとえを思い起こさねばなりません。

「ある人が盛大な宴会を催そうとして、大勢の人々を招き、宴会の時刻になったので、僕を送り、招いておいた人々に、『もう用意ができましたから、おいでください』と言わせた。」招かれていた人々は次々に断ったので、主人は、あきらめないで、僕たちに言った。『急いで町の広場や路地へ出て行き、貧しい人、体の不自由な人、目の見えない人、足の不自由な人をここに連れて来なさい。』やがて、僕が、『御主人様、仰せのとおりにいたしましたが、まだ席があります』と言うと、主人は言った。『通りや小道に出て行き、無理にでも人々を連れて来て、この家をいっぱいにしてくれ』」（ルカ14、16－23）

御聖体は御子、神の子羊、の婚礼の盛大な宴会です（黙19、7）。すべての人はその恵みと喜びに招かれています。知らない人々に、知っている私たちはこのいい知らせ、福音、を伝えなければなりません。シノドスの終わりの日は世界の福音宣教の日曜日でした。それは偶然ではありませんでした。今年の福音宣教の日のためにメッセージを準備されたヨハネ・パウロ二世はそのメッセージのテーマとして次のように書いていました。「教会の使命は、世のいのちのため裂かれたパンを世界に」つまり、御聖体の神秘をすべての人に伝え、この恵みをすべての人と分かちあうということです。

クリスマスの時キリスト者が祝う神が人となられた神秘は、すべての人のための救いのよい知らせです！

F・ソットコルノラ神父＝真命山・諸宗教対話・霊性交流センター長）

おじゃまします。学校訪問
～カトリック学校は今～
(7) 熊本マリスト学園
http://www.marist.ed.jp/index2.html

Q　まず熊本マリスト学園がカトリックの学校（ミッションスクール）としての目指すところ、目的とするところを教えてください。

A　熊本マリスト学園は、昭和36年の設立以来「信・望・愛」を校訓とする中高一貫の男子校として、広い視野と社会にでて貢献する人物を育ててきました。その姿勢は、平成12年に男女共学校として新たにスタートしてからも続いていますが、新しい時代の流れに沿う新たな伝統を創り上げる必要も感じています。そのために「頭と心と体を鍛える」を教育方針として、ハイレベルな学習だけにとどまらず、生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばすことを目標としています。

特に医学・歯学系に進む生徒が多く、卒業生総数7000余名のうち1000有余名が医師・歯科医師として活躍しています。その道を志望する生徒たちに、人間の尊厳や敬愛・奉仕の心を大切にするキリスト教の精神がしっかりと根付いていくことを望んでいます。

Q　キリスト教精神の教育としての学校の具体的にどのような取り組みをなさっていますか？

A　現在、創立母体であるマリスト教育修道士会は経営に携わっていないため、直接的にキリスト教を指導するという機会は少ないのですが、それでもミッションスクールとしての学校の方向性を模索しています。中1から高2まで週に1時間宗教の授業が組まれているほか、宗教行事などは教区司祭などの協力を得て行っています。また、毎朝の祈りとして、宗教的な話を3～4分間、放送しています。

Q　学校としての特徴などを教えてください。

A　6カ年一貫の教育プログラムもさることながら、クラブ活動との両立にも力を入れています。空手部、ハンドボール部、テニス部、ソフトテニス部、サッカー部など、九州大会ないしは全国大会にまで名前を連ねるというようなレベルの高さを誇っています。特に空手部は中学・高校共に全国大会に出場しています。

また、マリスト学園には、遠方からの生徒を受け入れるための寮（男子寮が二つ、女子寮が一つ）があり、180人の生徒が生活しています（過去には寮生が8割を占めていた時代もありましたが、現在は2割程度になっています）。寮生の減少で、余裕ができた寮内に設置された自習室は、午後8時まで全校生徒に解放されており、高校3年生を中心に多くの生徒が利用し、静寂の中で黙々と勉強しています。

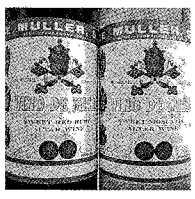
【所感】　男女共学になって6年目で、これから新しい伝統を作り上げていかなければならないという武井先生の言葉にあったように、ミッションスクールとしての学校づくりの中にどのように宗教的なものが取り入れられていくのか楽しみである。教会同様、学校現場で司祭・修道士が減少していく中で、熊本マリスト学園が新しいミッションスクールのあり方を示してくれることに期待したい。

取材・執筆
2005年10月18日
泰星中学高等学校
宗教部長　里見康介
入試広報　吉竹孝介

熊本マリスト学園は創立40年の歴史を持つカトリック校で、全員が大学進学を目指す進学校です。また、マリスト学園は男子校でしたが、昨今の社会状況や21世紀を迎えるにあたり新生マリストということを考慮し「男女共学校」として6年前、新しく出発いたしました。

今回の取材にお答え頂いたのは、武井信先生です。

募集中
来住英俊神父の待降節黙想会
①12月10日(土)～11日(日)
②12月17日(土)～18日(日)
鈴木忠一神父の年末年始黙想会
12月31日(土)23時～2006年1月5日(木)朝
PRAYER GROVE MUNAKATA
カトリック福岡黙想の家
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155 福岡県宗像市名残1056　Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑〔SOU-EN〕
カトリックのご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
〒810－0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

死者の月に各地の墓地や殉教地でミサ

死者ミサと7人の納骨式

和田墓地

11月13日（日）の午後2時、曇り空の下で松永久次郎司教主司式の死者のためのミサが行われた。参列者が各方面からおよそ250人集まった。説教で田中重治神父（教区事務局代行）は、「死は悲しいもの、特に親しい人との別れは悲しいもの。記憶にある限り祈って交わることにしよう。また、特に墓地でこのようにして関係者を偲び祈ることは大切である。神は彼らを御許に呼び寄せられたが、神と共に私たちを見守ってくれているという事実を忘れず、感謝と願いを捧げていこう。こうして死者との交わりを豊かにいくことで、合間見える時には喜び合うことができるのだから」と諭した。聖変化の時に光が差し込み、祭壇のカリスを照らし出していたのが印象的であった。尚、拝領祈願の後に、故牧山重光神父を含む7人が納骨堂に安置された。

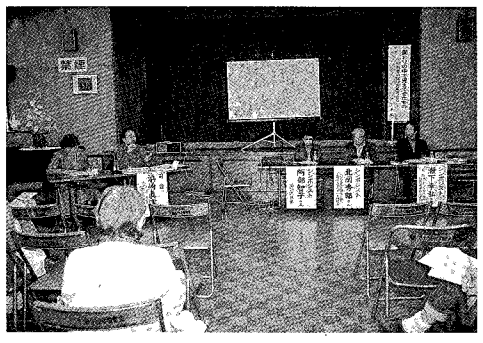
殉教記念祭に他宗派や長崎からも参加者

佐賀不動山

佐賀県嬉野町のキリシタン史跡では毎年11月の第2日曜日に、佐賀地区信徒協主催による「殉教祈念祭」が行われている。現在、嬉野町の肝入による10ヶ所に石碑が建てられ、その由来を記した案内板が掲示されている。

今年で16回目の開催となり、今回の「子すて谷」史跡は嬉野茶の段々畑の斜面にあり、参加者の70人はほとんどが農道でミサに与るかたちとなった。また今年からは殉教者の大半が隣の長崎県大村市や彼杵地区での迫害を逃れて来た人達だったという経緯も踏まえ、長崎教区にも参加を呼びかけ、20人が参加した。さらに、バプテスト教会からも牧師をはじめ、数名の関係者が参加した。祈念祭に与った嬉野町長は「これからも盛大に企画され、殉教者達への篤い尊敬が養われて行くようにと祈りたい」と語った。

部落問題委員会が熊本でシンポジューム



今回のシンポジウムは、11月19日（土）日本カトリック部落問題委員会主催で行われた。「出直し・・・熊本判決から見えてきたもの」をテーマに、70人以上が参加した。

菊池恵風園の阿部智子氏、ハンセン病国賠償訴訟を支援する会事務局長の北岡秀雄氏、黒崎教会の瀬下幸弘氏の3人が発題者として話をした。

安部氏は、「何故ハンセン病への差別は続くのか」と自身の体験をもとに話した。病気が発症した途端に、いたわるより、汚らわしい、隠してしまおうという立場においやられたこと。『療養所』という名の『終身刑務所』に収容された思いであったこと。園内では、男女ともに不妊の体にさせられたことなどを話した。そして、差別は人々の心に残るように植え付けられてしまった。差別が教えられ、語られ続けていたのではないかと語った。

北岡氏は「昔から続けてきた差別」と「意識的に作られた差別」の二つの問題があり、熊本地裁判決は、その人為的に作られた差別を断罪したことを話した。そして、差別がどのように作り出されてきたのかをスライドを使って説明し、医学的に隔離する必要がないのに、隔離する必要が優先されたことを話した。

瀬下氏は「宗教者のあり方を考える」ことを発題。黒崎教会が菊池恵風園を訪問し、キリスト者として感じてきたことを話し、これからの教会の課題について意見を述べた。

参加者たちは翌日は菊池恵風園内のカトリック信徒と交流し、午後からは安部氏の案内で施設内を見学し、今回のシンポジウムは終了した。

黒崎教会の虹の会が第1回講演会を開催

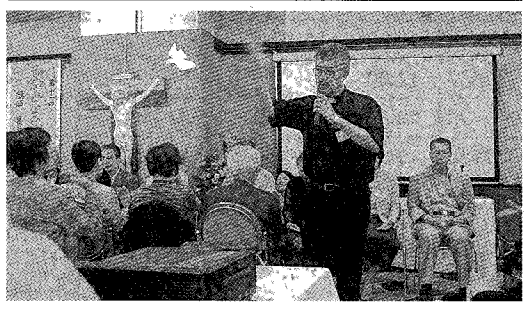
10月2日、黒崎教会の「虹の会」主催の講演会が同教会で行われ約80人が参加した。虹の会は2005年7月に「関わりを通してイエスに出会おう」と、分かち合いのグループとして立ち上げられ、今回第1回目の講演会を企画。

講師はイエズス会のアンセルモ・マタイオス神父。「キリスト教は、教えよりも行動、生きざま、実践である」というテーマのもとに進められた。マタイオス神父は、神、お袋、親父との出会いについて話し、「マザーテレサ」のビデオも使われた。後半の分かち合いでは20人が参加し、各人が自分の言葉で語り、他の参加者の言葉を聞き、それを互いに分かち合った。

「キリスト者は生きざま…」とアンセルモ神父

参加者からは、「出会いはおもみであるということがわかってよかった」。「講師が普段の生活の中で直面する事柄を話してくれてとても分かりやすかった」。「神さま、両親、マザーテレサとの出会いが、自分自身のことと思えた」。「またこういう場を作ってほしい」など多くの感想があがっていた。

聖霊刷新全国大会



第11回聖霊による刷新九州大会が、10月8～10日の3日間、熊本市のアークホテルで開催された。テーマは「聖霊に燃えて、主に仕えよ」。講師にはイエズス会の裏辻洋二神父。日本全国から司祭7人を含む約150人が参加し、聖霊による賛美を力強く捧げた。最終日には松永久次郎司教による派遣のミサが行われ、参加者は感謝のうちに互いの場へ派遣されていった。

教会について思うこと 5

「教会は救いを固有の目的として追求し、神の生命を人間に与えるだけでなく、ある意味でこの生命が反射させる光を全世界に投げかける」（現代世界40）。教会は神による救いをすべての人に伝える使命が与えられている。救いとは人が神のいのちに参与すること、すなわち神の霊に生かされ、聖なるものとなることである。聖霊に動かされる聖なる人は心をつくし、霊をつくし、精神をつくして神を愛する人であり、お互いに愛し合うことのできる人である（マタイ22、37－40）。ところで、人間には神に向かう本性的傾向と同時に、神から離れ、神を否定し、自分が神に代わり、種々の存在秩序を破壊し、分裂をもたらし、他者を否定する罪の力に動かされる弱さをも持っている。神は人間をこの罪の支配から救うことを望む。「父のみ心は、子をみて信じる人には皆、永遠のいのちがあり、わたしがその人を終わりの日に復活させることである」（ヨハネ6、40）。人間を神の永遠のいのちに参与させるという神の御心は、キリストの派遣を通して歴史の中に具体化されていく。キリストは人間と共にとどまり、罪がもたらす苦しみと十字架を共に担い、歩まれた。キリストは人間に、神は重荷を負う者と共にいることを示され、神秘を通して、受肉、死、復活の人間のいのちの領域を永遠にまで広げられた。この御父と御子による人間の救いは、聖霊で、今に生きる私たちとりの内で具体化されている。神による救いのキリストを信じキリストにつながる人々の集まりである聖なる教会を通して具体化されていく。キリストは「教会によって、すべての人に真理と恩恵を与える」（教会8）のである。しかし教会が担っているこの「人間の救い」という使命を具体的にしていくのは、その構成員であるキリスト者一人ひとりである。教会との関わりの中で生かされるキリスト者一人一人が、神による救いを自分自身の内に、そして自分を通して他人に広げていくのである。神はわたしたちを創造し、存在を与え、生かす。これが神の愛である。神から愛の力をいただく私たちも、お互いに肯定しあい、支え合い、助けあう喜びに生きたいものである。（大山悟神父＝聖スルピス会会員）

教会とすくい

BOOK 読みは専科

★子どもたちへの手紙

教皇ヨハネ・パウロ二世　書簡

本書は、1994年の「家庭の年」において発表された書簡で、子どもたちにクリスマスやイエスの子ども時代について話されながら信仰上の励ましを与え、前教皇様の子どもに対する愛情が深く感じられる内容です。教会学校などでも役立てられればと思います。世界中の戦争や貧困、犯罪などの犠牲になっている子どもたちのことを思う機会にもなればと思います。

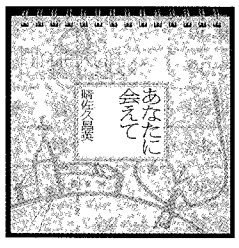
カトリック中央協議会発行

税込価格　840円

◇　◇　◇

★あなたに合えて

晴佐久昌英　著



短い言葉でそっと語り、心に触れてやさしく響く日めくり。あなたの側において日々の糧にしてください。

女子パウロ会　発行

税込価格　840円

年末年始休業のお知らせ

セント・ポール FUKUOKA
＊12月29日～1月4日まで

サンパウロ福岡センター
＊12月28日～1月4日まで

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811－7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092－526－9176

ご聖体の「いのち」を生きる

カトリック教会のカテキズム

日　時：2006年１月22日（日）15：00
場　所：カテドラル大名町教会
講　師：櫻井尚明神父（糸島教会主任）
参加費：１回　５００円

2005年度 北九州地区聖書講座

★年間テーマ：いのちへのまなざし
日　時：2006年１月29日（日）14時から
テーマ：生と死の諸問題（２）
場　所：カトリック小倉教会
講　師：松本信愛神父（英知大学教授）
参加費：５００円
主　催：北九州地区信徒協・聖書部会
連絡先：☎093-293-4981　松尾隆

第58回 福岡市民クリスマス

日　時：2005年12月12日（月）　開場：18時～
場　所：福岡市民会館（福岡市中央区天神5-1）
プログラム：
メッセージ：長岡立一郎牧師
（日本福音ルーテル博多教会）
合奏と合唱：福岡音楽学院のリコーダ合奏と合唱
その他、金管バンドや在日大韓基督教会聖歌隊
入場料：無　料（献金をお願いします。）
主　催：2005年度福岡市民クリスマス実行委員会
＊市民クリスマスはカトリックとプロテスタント諸教派のエキメニカルな宣教活動です。

第18回 むなかた市民クリスマス

日　時：12月16日（金）18：30開演
場　所：宗像ユリックスハーモニーホール
テーマ：「きょう、救い主はお生れになった」
メッセージ：鈴木忠一神父（黙想の家院長）
出　演：本田路津子
宗像フィルハーモニー管弦楽団
＆宗像メサイア合唱団
入場料：５００円
主　催：宗像市民クリスマス実行委員会
問合せ先：☎ 0940-33-5423　橋本

福岡地区結婚準備セミナーについて

この度、福岡地区の「結婚準備セミナー」を「カテドラル大名町教会結婚準備セミナー実行委員会」で主催することになりました。プログラムは毎週１回、全５回。５回目は挙式する教会の司祭から受講します。

プログラム
①わたしたちはカップル
②愛を育てる家庭経済
③尊いいのちと家族計画
④二人の道の価値観
⑤福音のメッセージ（挙式をする教会で）

2006年度１回目
日　時：１月14日（土）から２月４日（土）まで
毎土曜日19時～21時
場　所：カテドラル大名町教会
対　象：婚約者・結婚を前提に交際している人
参加費：１カップル10,000円（一人受講は6,000円）

案内版　会合と催し　12月のこよみ

福岡黙想の家ご案内　12月

◇２日（金）～４日（日）　ユースフルライフ・カウンセリング
◇７日（水）　ミカエル会
◇10日（土）～11日（日）　待降節の黙想会①／来住神父
◇11日（日）～12日（月）　オブレート会・福岡　黙想
◇17日（土）～18日（日）　待降節の黙想会②／来住神父
◇24日（土）　ご近所の方と捧げるミサ19：00～
夜半のミサ23：00～聖時間／00：00～ミサ
◇25日（日）　主の降誕のミサ11：00～
◇26日（月）～28日（水）　イエズス会黙想
◇28日（水）～31日（土）　援助修道会研修会
◇31日（土）～2006年１月５日（木）　年末年始黙想会／鈴木神父

［問合先］御受難会福岡黙想の家
☎ 0940・32・3222　FAX 32・3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

年間テーマ：
ご聖体の秘儀を深めて
※祈りの集い（毎月第２木曜日）
※12月８日（木）10時～15時
内容：ご聖体は教会と世界の完成
指導：Sr.マリアとFr.フランコ
問合せ先：真命山諸宗教対話・霊性交流センター
☎ 0968・85・3100
FAX 0968・85・3186
E-mail shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時：12月17日、１月７日　第１と第３土曜日 10時～12時
場所：カトリック大名町教会小聖堂
※基本的に第１・第３土曜。変更になる場合もあります。

3日（土）	聖フランシスコ・ザビエル
4日（日）	待降節第２主日　宣教地司祭育成の日
5日（月）	†F. サルディ［1997年武雄教会］
7日（水）	†P. シーヒー［1999年本渡教会］
8日（木）	無原罪の聖マリア 召命祈願ミサ（大神学校19：15）
11日（日）	待降節第３主日
12日（月）	†M. コーフィールド［2001年島崎教会］
13日（火）	聖ルチアおとめ殉教者
14日（水）	十字架の聖ヨハネ †J. モラハン［2002年水俣教会］
17日（土）	†M. コニリー［1990年島崎教会］
18日（日）	待降節第４主日
23日（金）	天皇誕生日
24日（土）	降誕祭夜半のミサ（カテドラル20：30）
25日（日）	主の降誕（クリスマス）
26日（月）	聖ステファノ殉教者
27日（火）	聖ヨハネ使徒福音記者
28日（水）	幼子殉教者
30日（金）	聖家族
31日（土）	大晦日
2006年１月	
1日（日）	神の母聖マリア 世界平和の日ミサ（カテドラル10：00）
2日（月）	†牧山藤房［1993年司教館］
4日（水）	†E. モーゼ［1998年八王寺本部］

ゴチックは司教日程
※司祭の命日は1900年以降からお載せしています。

◆福岡

■福岡祈りの集い
［日時］毎週月曜11時～12時30分［場所］カトリック大名町教会［内容］聖霊による祈り［問合先］☎080・1737・6130　ブラザー床嶋

■召命祈願ミサ
［日時］12月８日（木）19時15分［場所］サン・スルピス大神学校聖堂［問合せ先］浦川務神父（久留米教会主任）

■召命を共に祈る集い
［日時］12月15日（木）［内容］花岡山殉教地巡礼［集合場所］久留米教会10時［指導］浦川務神父（教区召命担当）

■在世フランシスコ会集会
［日時］12月18日（日）14時［場所］高宮フランシスコ会修道院在世会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］戸村悦夫神父［問合先］☎092・843・5831岩崎

■福岡ホスピスの会
［日時］2006年1月8日（日）14時から［場所］カトリック大名町教会４階［内容］介護保健はどう変わる［講師］福岡市保健局［参加費］会員無料・一般参加700円［問合せ］☎092・874・6321（宗教など不問）

◆北九州

■小倉祈りの会
［日時］12月16日（金）13時半から15時［指導］ガブリエル神父（御受難会）［場所］小倉教会信徒会館２階［内容］「みことば」を味わう・賛美と感謝の祈り［連絡先］☎093・921・2280安藤

■紫苑（シオン）・COM
［日時］2006年1月26日（木）14時から16時［内容］様々な「心身症」［場所］福岡黙想の家２階会議室［講師］小宮豊精神科医師（小宮クリニック院長）［参加費］無料［問合せ先］☎0940・38・8915（11時～16時／月～土）☎0940・33・2731吉永

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］12月14日（水）10時～11時30分［場所］佐賀カトリック会館［内容］共に祈る［日時］12月28日（水）10時～12時はミサと祈り・毎月第２水曜日。どうぞご参加下さい。［問合先］☎0952・72・7536吉田

◆熊本

■結婚準備セミナー
［日時］2006年1月23日（月）から2月14日（火）までの毎週月曜日と火曜日全８回19時～21時30分［場所］カトリック手取教会［参加費］カップルで14000円［問合せ先］☎096・352・3030手取教会　安部

2005年降誕祭夜半のミサと大晦日のミサ時間

教会	降誕夜半	大晦日
福岡地区		
糸島	20:00	
今村	20:00	
大楠	20:00	
大牟田	20:00	19:00
小郡	20:00	0:00
久留米	19:00	19:00
	22:00	0:00
古賀	19:00	23:00
	0:00	0:00
笹丘	18:00	
	20:30	
浄水通	19:00	
大名町	18:00	10:00
	20:30	23:30
	23:00	
能古島	25日 15:00	
高宮	19:30	19:00
茶山	20:30	
西新	19:00	19:00
箱崎	19:00	19:00
光丘	20:00	0:00
二日市	18:30	
本郷	18:30	19:30
	21:00	

教会	降誕夜半	大晦日
吉塚	19:30	19:30
南粕屋	19:30	
老司	19:30	0:15
美野島	19:30	スペイン語
北九州地区		
飯塚	19:30	
黒崎	19:00	0:15
	22:00	
小倉	17:40	
	21:00	
新田原	20:00	0:00
田川	18:00	
天神町	22:00	
戸畑	17:30	0:00
	20:00	
直方	19:00	0:00
水巻	19:30	0:00
	0:00	
門司	19:30	
湯川	19:30	0:00
行橋	19:00	
豊津	22:30	0:00
若松	18:30	
佐賀地区		
伊万里	20:00	

教会	降誕夜半	大晦日
鹿島		
唐津	19:30	19:00
佐賀	19:30	
多久	20:00	
武雄		
鳥栖	20:00	19:00
馬渡島	19:00	
呼子	20:00	
熊本地区		
荒尾		
大江	19:00	
帯山	20:00	
菊池		
健軍	19:30	
崎津	21:00	23:30
島崎		
玉名	18:00	
手取	19:00	0:00
	22:00	
人吉		
本渡	19:30	
水俣		
武蔵ケ丘	19:30	0:00
八代	19:00	

編集後記

クリスマスの時期。街を彩るツリーやサンタクロース、それに賑やかな音楽。通る人もうきうきした気分である。世界で祝われるキリストの誕生。うれしい何かが待っているような予感さえする。きっと新しい何かが与えられて心も幸せになる。クリスチャンは自分の生涯の中心人物を迎える。よく準備してその方を迎えよう。教区報にもよりよい光が差し込みますように。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川３丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

サンパウロ
聖パウロ修道会
・・・九州で最大規模のキリスト教専門店・・・
書籍販売（1F）聖書、祈祷書、典礼書、絵本など・・
用品販売（2F）十字架、ロザリオ、ご像、CD、ビデオなど・・
営業時間：午前10時～午後6時　定休日：木曜日
〒810-0042　福岡市中央区赤坂1-14-26
電話　092-721-2032　FAX　092-739-3930